

土木工事施工管理基準

この土木工事施工管理基準(以下、「管理基準」とする。)は、土木工事共通仕様書 [H24.4]、第1編1-1-26「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

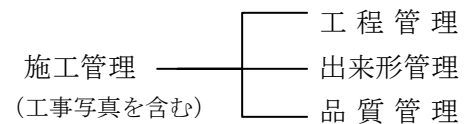
1. 目的

この管理基準は、土木工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2. 適用

この管理基準は、静岡市建設局、都市局及び経済局農林水産部並びに上下水道局が発注する土木工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督員と協議の上、施工管理を行うものとする。

3. 構成



4. 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定(試験)等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定(試験)等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

5. 管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理(ネットワーク、バーチャート方式など)を行うものとする。但し、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

静岡市土木工事施工管理基準

この静岡市土木工事施工管理基準(以下、「管理基準」とする。)は、静岡市土木工事共通仕様書、第1編1-1-26「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

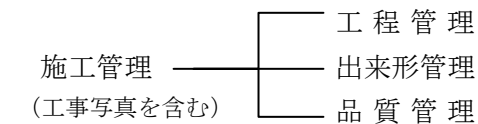
1. 目的

この管理基準は、土木工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2. 適用

この管理基準は、静岡市建設局、都市局及び経済局並びに上下水道局が発注する土木工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督員と協議の上、施工管理を行うものとする。

3. 構成



4. 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定(試験)等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定(試験)等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

5. 管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理(ネットワーク、バーチャート方式など)を行うものとする。ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

(2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した**出来形成果表又は出来形図**を作成し管理するものとする。

(3) 品質管理

受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

この品質管理基準の適用は、**下記に掲げる工種（イ）、（ロ）の条件に該当する工事を除き**、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。

（イ）路盤

維持工事等の小規模なもの（施工面積が300㎡以下のもの）

（ロ）アスファルト舗装

維持工事等の小規模なもの（施工面積が300㎡以下のもの）

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. その他

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

8. 適用除外

工事内容等により、本規格を適用することが、不適当な場合は、特記仕様書に示し適用除外とする。

(2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した**出来形管理表及び出来形管理図表**を作成し管理するものとする。

なお、測定基準において測定箇所数「〇〇につき1ヶ所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数測定するものとする。

(3) 品質管理

受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

この品質管理基準の適用は、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. その他**(1) 工事写真**

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

(2) 情報化施工

10,000㎡以上の土工の出来形管理については、「情報化施工技術の使用原則化について」（平成25年3月15日付け国官技第291号、国総公第133号）及び「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定によるものとする。

8. 適用除外

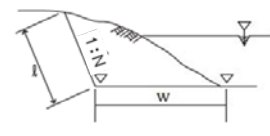
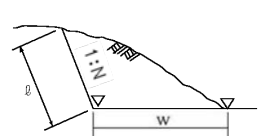
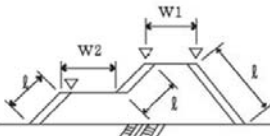
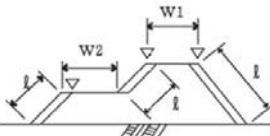
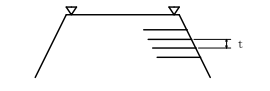
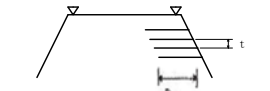
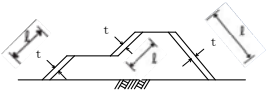
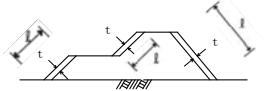
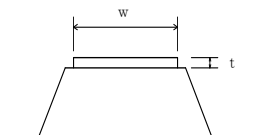
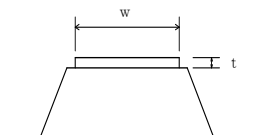
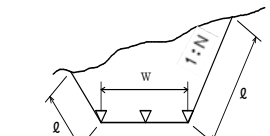
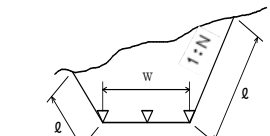
工事内容等により、本規格を適用することが、不適当な場合は、特記仕様書に示し適用除外とする。

旧

新

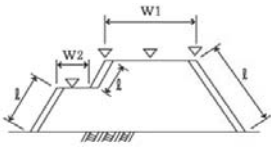
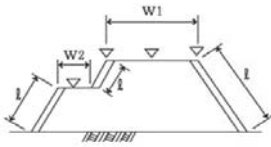
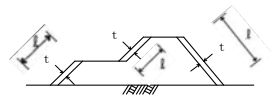
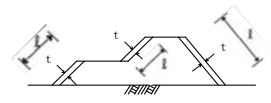
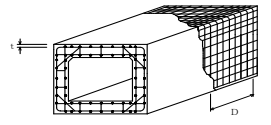
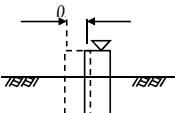
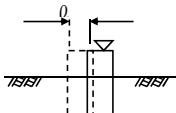
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。			1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は掘削部の両端で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の見点毎。基準高は掘削部の両端で測定。		
						法長ℓ	ℓ < 5 m										-200	法長-4%			
							ℓ ≥ 5 m														
						幅	w										-100				
						勾 配 N											-0.5分				
延 長 L		-100	1施工箇所毎																		
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基 準 高 ▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は各法肩で測定。			1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3		盛土工	基 準 高 ▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の見点毎。基準高は各法肩で測定。		
						法長ℓ	ℓ < 5 m										-100	法長-2%			
							ℓ ≥ 5 m														
						幅 w ₁ , w ₂											-100				
						勾 配 N											-0.5分				
延 長 L		-100	1施工箇所毎																		
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚 さ t											-50				
						控 え 長 さ											設計値以上				
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
						法長ℓ	ℓ < 5 m										-100	法長-2%			
							ℓ ≥ 5 m														
						勾 配 N											-0.5分				
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚 さ t	t < 15cm -25 t ≥ 15cm -50	幅は、施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。			1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚 さ t	t < 15cm -25 t ≥ 15cm -50	幅は、施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは、施工延長200mにつき1ヶ所、200m以下は2ヶ所、中央で測定。		
						幅	w										-100				
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。			1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の見点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						法長ℓ	ℓ < 5 m										-200	法長-4%			
							ℓ ≥ 5 m														
						幅	w										-100				
						勾 配 N											-0.5分				
延 長 L		-100	1施工箇所毎																		

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 4	路体盛土工 路床盛土工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 	1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 4	路体盛土工 路床盛土工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。 		
					法長ℓ	ℓ < 5m							-100	ℓ < 5m		-100	
						ℓ ≥ 5m							法長-2%	ℓ ≥ 5m		法長-2%	
					幅	w ₁ , w ₂							-100	幅		w ₁ , w ₂	-100
					勾配 N								-0.5分	勾配 N			-0.5分
延長 L		-100	延長 L		-100												
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5	法面整形工 (盛土部)	厚さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。 	1 共通編	2 土工	4 道路土工	5	法面整形工 (盛土部)	厚さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。 		
					法長ℓ	ℓ < 5m							-100	ℓ < 5m		-100	
						ℓ ≥ 5m							法長-2%	ℓ ≥ 5m		法長-2%	
勾配 N		-0.5分	勾配 N		-0.5分												
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4	組立て	平均間隔 d	±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径 	1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4	組立て	平均間隔 d	±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶり、コンクリート標準示方書（設計編13.2）参照。但し、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編 6.6）による。 注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編2-18-2床版工を適用する。 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」も併せて適用する。		
					かぶり t	±φかつ 最小かぶり以上							かぶり t	±φかつ 最小かぶり以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (可とう鋼矢板)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1ヶ所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 		
					根入長	設計値以上							根入長	設計値以上			
					変位 ℓ	100							変位 ℓ	100			
					傾斜	1%							傾斜	1%			
					延長	L < 10m							-20	延長		L < 10m	-20
L ≥ 10m L < 100m	-50	L ≥ 10m L < 100m	-50														
	L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100												
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5	縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長 L	-200	1箇所/1施工箇所	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5	縁石工 (縁石・アスカーブ)	延長 L	-200	1箇所/1基		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6	小型標識工	設置高さ H	設計値以上	1箇所/1基 基礎1基毎	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6	小型標識工	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基 基礎1基毎		
					基礎	幅 w (D)							-30	基礎		幅 w (D)	-30
						高さ h							-30			高さ h	-30
						根入れ長							設計値以上			根入れ長	設計値以上

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎 幅 w 高さ h パイプ取付高 H	-30 -30 +30 -20	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。 1箇所/1施工箇所			3	2	3	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎 幅 w 高さ h パイプ取付高 H	-30 -30 +30 -20	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。 1箇所/1施工箇所		
3	2	3	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎 幅 w 高さ h ビーム取付高 H	-30 -30 +30 -20	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。 1箇所/1施工箇所			3	2	3	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎 幅 w 高さ h ビーム取付高 H	-30 -30 +30 -20	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。 1箇所/1施工箇所		
3	2	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎 幅 w 高さ h 延長 L ケーブル取付高 H	-30 -30 -100 +30 -20	1箇所/1基礎毎 1箇所/1施工箇所			3	2	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎 幅 w 高さ h 延長 L ケーブル取付高 H	-30 -30 -100 +30 -20	1基礎毎 1箇所/1施工箇所		
3	2	3	9		区画線工	厚さ t (溶融式のみ) 幅 w	設計値以上 設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。			3	2	3	9		区画線工	厚さ t (溶融式のみ) 幅 w	設計値以上 設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
3	2	3	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合、2箇所測定。			3	2	3	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合、2箇所測定。		
3	2	3	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧II-74 「表-II.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。			3	2	3	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋防食便覧II-82 「表-II.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系毎の塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		
3	2	3	12	1	プレテンション桁製作工(購入工) (けた橋)	桁長 L (m) 断面の外形寸法 橋桁のそり δ ₁ 横方向の曲がり δ ₂	±L/1000 ±5 ±8 ±10	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。			3	2	3	12	1	プレテンション桁製作工(購入工) (けた橋)	桁長 L (m) 断面の外形寸法 橋桁のそり δ ₁ 横方向の曲がり δ ₂	±L/1000 ±5 ±8 ±10	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 横方向の曲がりは最大値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。		



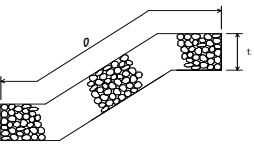
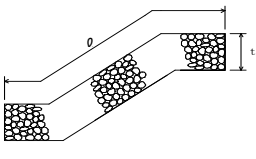
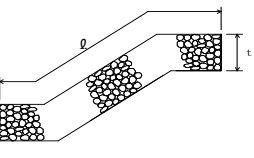
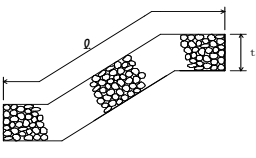
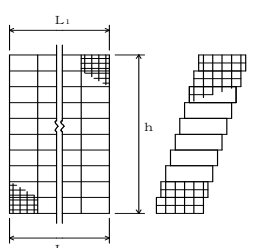
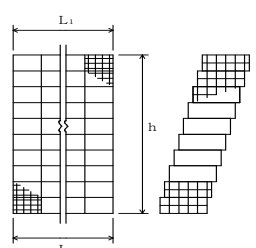
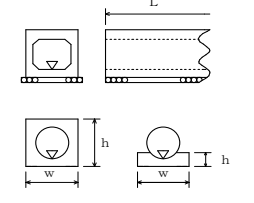
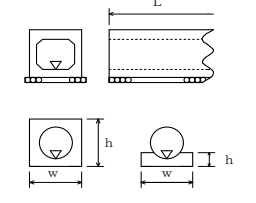
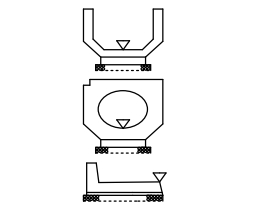
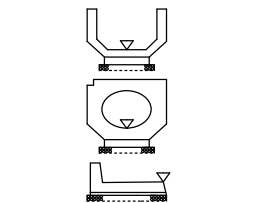
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	12	2	プレテンション桁製作工(購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。			3	2	3	12	2	プレテンション桁製作工(購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 横方向の曲がりは最大値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。		
						断面の外形寸法	±5														
						橋 桁 の そ り δ ₁	±8														
						横方向の曲がり δ ₂	±10														
3	2	3	13	1	ポストテンション桁製作工	幅 (上) w ₁	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3箇所 とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ：支間長 (m)			3	2	3	13	1	ポストテンション桁製作工	幅 (上) w ₁	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3ヶ所 とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ：支間長 (m)		
						幅 (下) w ₂	±5														
						高 さ h	+10 -5														
						桁 長 ℓ 支 間 長	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内														
						横方向最大タワミ	0.8ℓ														
3	2	3	14	1	プレキャストセグメント桁製作工(購入工)	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所所で測定。			3	2	3	14	1	プレキャストセグメント桁製作工(購入工)	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所所で測定。		
						断面の外形寸法 (mm)	—														
3	2	3	14	2	プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ 支 間 長	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3箇所 とする。 ℓ：支間長 (m)			3	2	3	14	2	プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ 支 間 長	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 ℓ：支間長 (m)		
						横方向最大タワミ	0.8ℓ														
3	2	3	15	1	P Cホロースラブ製作工	基 準 高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、 1 径間当たり 2箇所 (支点付近)で、 1 箇所当たり両端と中央部の 3点 、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の 3箇所 。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-1-8-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)			3	2	3	15	1	P Cホロースラブ製作工	基 準 高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、 1 径間当たり 2ヶ所 (支点付近)で、 1 箇所当たり両端と中央部の 3点 、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の 3ヶ所 。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-18-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
						幅 w ₁ , w ₂	-5 ~ +30														
						厚 さ t	-10 ~ +20														
						桁 長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内														
3	2	3	16	1	P C箱桁製作工	基 準 高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、 1 径間当たり 2箇所 (支点付近)で、 1 箇所当たり両端と中央部の 3点 、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の 3箇所 。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-1-8-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)			3	2	3	16	1	P C箱桁製作工	基 準 高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、 1 径間当たり 2ヶ所 (支点付近)で、 1 箇所当たり両端と中央部の 3点 、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の 3ヶ所 。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-18-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
						幅 (上) w ₁	-5 ~ +30														
						幅 (下) w ₂	-5 ~ +30														
						内 空 幅 w ₃	±5														
						高 さ h ₁	+10 -5														
						内空高さ h ₂	+10 -5														
						桁 長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内														
3	2	3	16	2	P C押し箱桁製作工	幅 (上) w ₁	-5 ~ +30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3箇所 とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-1-8-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)			3	2	3	16	2	P C押し箱桁製作工	幅 (上) w ₁	-5 ~ +30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3ヶ所 とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 2-18-2 床版工に準ずる。 ℓ：桁長 (m)		
						幅 (下) w ₂	-5 ~ +30														
						内 空 幅 w ₃	±5														
						高 さ h ₁	+10 -5														
						内空高さ h ₂	+10 -5														
						桁 長 ℓ	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) か つ - 30mm以内														

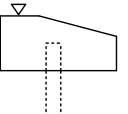
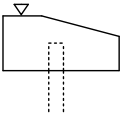
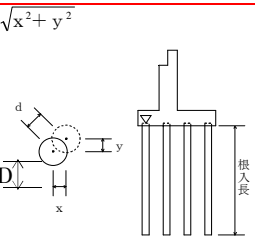
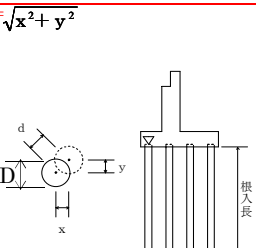
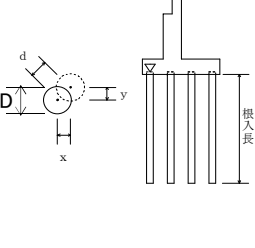
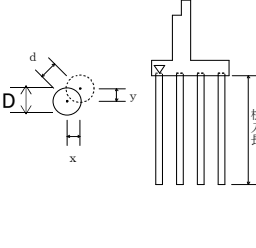
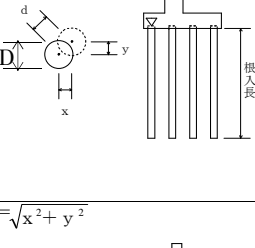
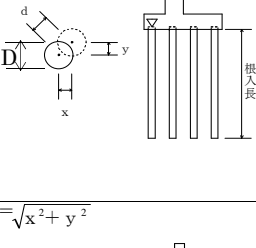
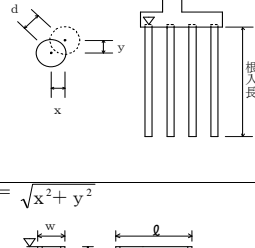
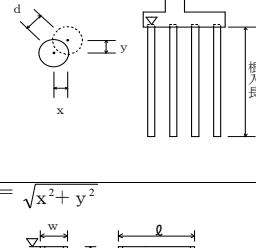
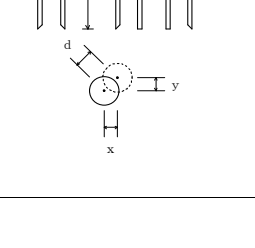
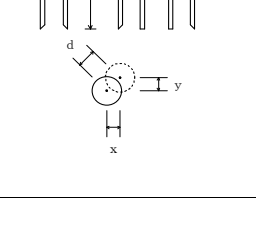
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
3 2 3 26 1	土木 一般 共通 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高▽	±500	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 2 3 26 1	土木 一般 共通 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高▽	±500	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
		法長ℓ	-200						法長ℓ	-200					
		延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m						-20 -50 -50 -100	延長				L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100
3 2 3 26 2	土木 一般 共通 多自然型護岸工 (かごマット)	法長ℓ	ℓ<3m ℓ≥3m	-50 -100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 2 3 26 2	土木 一般 共通 多自然型護岸工 (かごマット)	法長ℓ	ℓ<3m ℓ≥3m	-50 -100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
		厚さ t	-0.2 t	厚さ t						-0.2 t					
		延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100						延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100			
3 2 3 27 1	土木 一般 共通 羽口工 (じゃかご)	法長ℓ	ℓ<3m ℓ≥3m	-50 -100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 2 3 27 1	土木 一般 共通 羽口工 (じゃかご)	法長ℓ	ℓ<3m ℓ≥3m	-50 -100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
		厚さ t	-50	厚さ t						-50					
		延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100						延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100			
3 2 3 27 2	土木 一般 共通 羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高さ h	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 2 3 27 2	土木 一般 共通 羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高さ h	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
		延長 L1、L2	L<10m L≥10m L<100m L≥100m						-20 -50 -50 -100	延長 L1、L2				L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100
3 2 3 28	土木 一般 共通 プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。			3 2 3 28	土木 一般 共通 プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。				
		※幅 w	-50						※幅 w	-50					
		※高さ h	-30						※高さ h	-30					
		延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m						-20 -50 -50 -100	延長				L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100
3 2 3 29 1	土木 一般 共通 側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			3 2 3 29 1	土木 一般 共通 側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
		延長	L<10m L≥10m L<100m L≥100m						-20 -50 -50 -100	延長				L<10m L≥10m L<100m L≥100m	-20 -50 -50 -100

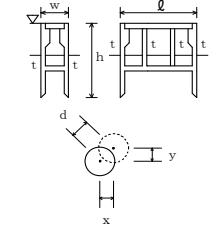
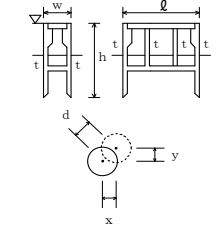
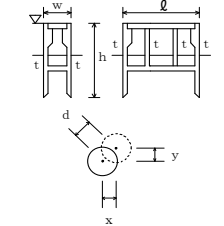
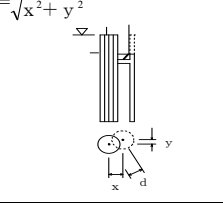
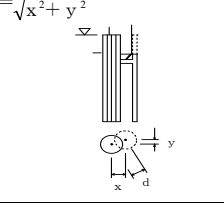
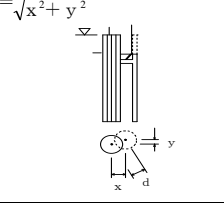
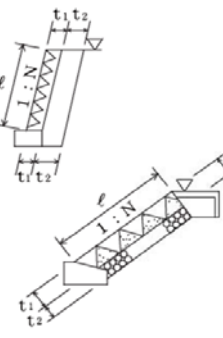
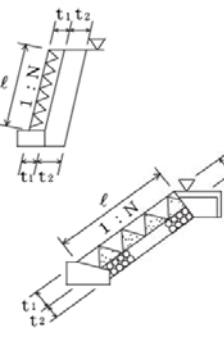
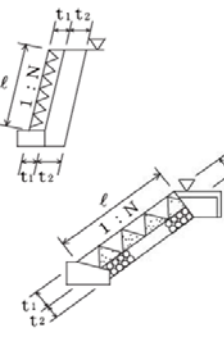
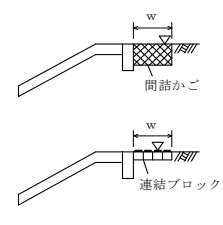
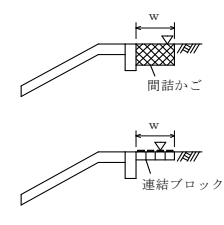
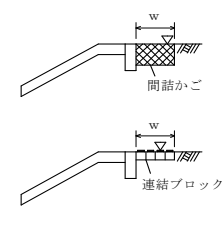
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 2 4 3 2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎			3 2 4 3 2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎			
		延 長	L < 10m						-20	L < 10m				-20
			L ≥ 10m L < 100m						-50					L ≥ 10m L < 100m
L ≥ 100m	-100	L ≥ 100m	-100											
3 2 4 4 1	既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 2 4 4 1	既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
		根 入 長	設計値以上						根 入 長	設計値以上				
		偏 心 量 d	D/4以内かつ100以内						偏 心 量 d	D/4以内かつ100以内				
		傾 斜	1/100以内						傾 斜	1/100以内				
3 2 4 4 2	既製杭工 （鋼管ソイルセメント杭）	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 2 4 4 2	既製杭工 （鋼管ソイルセメント杭）	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
		根 入 長	設計値以上						根 入 長	設計値以上				
		偏 心 量 d	100以内						偏 心 量 d	100以内				
		傾 斜	1/100以内						傾 斜	1/100以内				
3 2 4 5	場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 2 4 5	場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
		根 入 長	設計値以上						根 入 長	設計値以上				
		偏 心 量 d	100以内						偏 心 量 d	100以内				
		傾 斜	1/100以内						傾 斜	1/100以内				
3 2 4 6	深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 2 4 6	深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
		根 入 長	設計値以上						根 入 長	設計値以上				
		偏 心 量 d	150以内						偏 心 量 d	150以内				
		傾 斜	1/50以内						傾 斜	1/50以内				
3 2 4 7	オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		3 2 4 7	オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロット毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
		ケーソンの長さℓ	-50						ケーソンの長さℓ	-50				
		ケーソンの幅 w	-50						ケーソンの幅 w	-50				
		ケーソンの高さ h	-100						ケーソンの高さ h	-100				
		ケーソンの壁厚 t	-20						ケーソンの壁厚 t	-20				
		偏 心 量 d	300以内						偏 心 量 d	300以内				

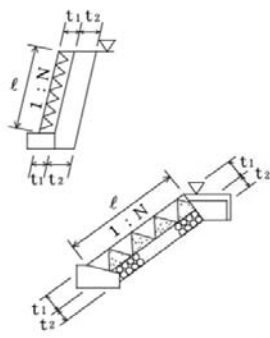
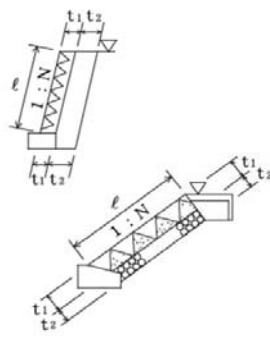
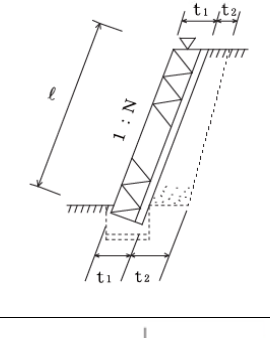
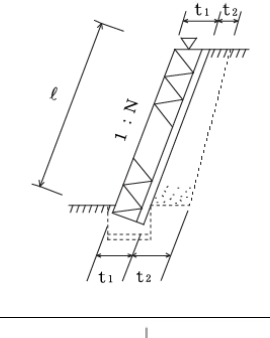
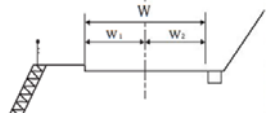
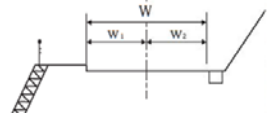
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロット毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロット毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さℓ	-50									ケーソンの長さℓ	-50													
						ケーソンの幅 w	-50									ケーソンの幅 w	-50													
						ケーソンの高さ h	-100									ケーソンの高さ h	-100													
						ケーソンの壁厚 t	-20									ケーソンの壁厚 t	-20													
						偏 心 量 d	300以内									偏 心 量 d	300以内													
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基準高▽	±100	基準高は、全数を測定。偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基準高▽	±100	基準高は、全数を測定。偏心量は、1基毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基準高▽	±100	基準高は、全数を測定。偏心量は、1基毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上									根 入 長	設計値以上													
						偏 心 量 d	300以内									偏 心 量 d	300以内													
3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。		3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。		3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。		
						法長ℓ	ℓ < 3m									-50	法長ℓ									ℓ < 3m	-50			
							ℓ ≥ 3m									-100										法長ℓ	ℓ ≥ 3m			-100
						厚さ（ブロック積張） t ₁	-50									厚さ（ブロック積張） t ₁	-50													
						厚さ（裏込） t ₂	-50									厚さ（裏込） t ₂	-50													
						勾 配 N	-0.5分									勾 配 N	-0.5分													
						延 長	L < 10m									-20	延 長									L < 10m	-20			
							L ≥ 10m L < 100m									-50										延 長	L ≥ 10m L < 100m			-50
							L ≥ 100m									-100											延 長			L ≥ 100m
						3	2									5	3									2				コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)
法 長 ℓ	-100	法 長 ℓ	-100																											
勾 配 N	-0.5分	勾 配 N	-0.5分																											
延 長 L1、L2	L < 10m	-20	延 長 L1、L2	L < 10m	-20																									
	L ≥ 10m L < 100m	-50		延 長 L1、L2	L ≥ 10m L < 100m			-50																						
	L ≥ 100m	-100			延 長 L1、L2			L ≥ 100m	-100																					
3	2	5	3	3		コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
					幅 w		-100	幅 w									-100													
					延 長		L < 10m	-20									延 長	L < 10m									-20			
							L ≥ 10m L < 100m	-50										延 長									L ≥ 10m L < 100m	-50		
							L ≥ 100m	-100																			延 長	L ≥ 100m		

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																					
3	2	5	4		緑化ブロック工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			3	2	5	4		緑化ブロック工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。																							
							法長ℓ											ℓ<3m				-50																				
																		ℓ≥3m				-100																				
							厚さ（ブロック）t ₁															-50																				
																		厚さ（裏込）t ₂				-50																				
							勾配N															-0.5分																				
																		延長				L<10m	-20																			
							L≥10m L<100m															-50																				
							L≥100m															-100																				
							3											2				5	5		石積（張）工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			3	2	5	5		石積（張）工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。			
																											法長ℓ											ℓ<3m				-50
																																						ℓ≥3m				-100
厚さ（石積・張）t ₁		-50																																								
	厚さ（裏込）t ₂	-50																																								
勾配N		-0.5分																																								
	延長	L<10m	-20																																							
L≥10m L<100m		-50																																								
L≥100m		-100																																								
3	2	6			幅	w		-25	幅は、延長40mごとに、1箇所の割とし測定する。		着前測量を実施し既設構造物（下層路盤等）の高さを確認すること。	3	2	6			幅		w	-25	幅は、延長40m毎に、1ヶ所の割とし測定する。																	着前測量を実施し既設構造物（下層路盤等）の高さを確認すること。				
						延長		L<10m											-20																							
								L≥10m L<100m											-50																							
							L≥100m	-100																																		

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		測定値の												個々の測定値 (X)		測定値の				
							中規模以上	小規模以下	平均 \bar{X}_n												中規模以上	小規模以下	平均 \bar{X}_n				
3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコアー以 外の方法→水系による管理をする ことができる。	3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、基準高は、道路中心線及びそ の端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個 とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
						厚 さ	-45	-45	\bar{X}_3	-6									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10	$\bar{X}_7 \sim$	-15					
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																	
3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。		3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個 とし、掘起こして測定。			
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6									$\bar{X}_7 \sim$	-8							
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																	
3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個とし掘起こしもしくはコアー により測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコアー以 外の方法→水系による管理をする ことができる。	3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と し掘起こしもしくはコアーにより測 定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6									$\bar{X}_7 \sim$	-8							
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																	
3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3	-3	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3	-3	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4									$\bar{X}_7 \sim$	-5							
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20																	
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアーを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコアー以 外の方法→水系による管理をする ことが出来る。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアーを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2									$\bar{X}_7 \sim$	-3							
						幅	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10																	
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-7	\bar{X}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアーを採取して測定。	平坦性について ・カーブの多い道路、および測定線 の全線→測線が100m未満の場合 は省略することが出来る。 ・測定方法、測定箇所については、 舗装調査・試験法便覧による。	3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-7	\bar{X}_3	-1	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアーを採取して測定。	平坦性について ・カーブの多い道路、および一測線 が100m未満の場合は省略すること が出来 る。 ・測定方法、測定箇所については、 舗装調査・試験法便覧による。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2									$\bar{X}_7 \sim$	-2							
						幅	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10																	
					平坦性	—		3mプロファイル ター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下																			

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		測定値の												個々の測定値 (X)		測定値の				
							中規模以上	小規模以下	平均 \bar{X}_n												中規模以上	小規模以下	平均 \bar{X}_n				
3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2000 ㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1 個とする。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来る。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、基準高は、道路中心線及びそ の端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2000 ㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個 とする。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来る。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
						厚 さ	-45	-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10									\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10					
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20									$\bar{X}_7 \sim$	-15	$\bar{X}_3 \sim$	-20					
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごと に1個とする。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2000 ㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個 とする。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6	$\bar{X}_7 \sim$	-8					
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20									$\bar{X}_7 \sim$	-8	$\bar{X}_3 \sim$	-20					
3	2	6	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2000㎡を超える場合は、1,000㎡ごと に1個とする。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2000 ㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個 とする。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6	$\bar{X}_7 \sim$	-8					
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20									$\bar{X}_7 \sim$	-8	$\bar{X}_3 \sim$	-20					
3	2	6	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3	-3	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3	-3	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアを採取して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-4	$\bar{X}_7 \sim$	-5					
						幅	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20									$\bar{X}_7 \sim$	-5	$\bar{X}_3 \sim$	-20					
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアを採取して測定。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。 平坦性について ・カーブの多い道路、および測定線 の全線→一測線が100m未満の場合 は省略することができる。 ・測定方法、測定箇所については、 舗装調査・試験法便覧による。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアを採取して測定。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来る。 平坦性について ・カーブの多い道路、および一測線 が100m未満の場合は省略すること が出来。 ・測定方法、測定箇所については、 舗装調査・試験法便覧による。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2	$\bar{X}_7 \sim$	-3					
						幅	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10									$\bar{X}_7 \sim$	-3	$\bar{X}_3 \sim$	-10					
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-7	\bar{X}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起し及びコア以 外の方法→水糸による管理をする ことができる。	3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-7	\bar{X}_3	-1	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000 ㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個と しコアを採取して測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水糸による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎 の面積とする。		
									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2									$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2	$\bar{X}_7 \sim$	-2					
						幅	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10									$\bar{X}_7 \sim$	-2	$\bar{X}_3 \sim$	-10					
					平坦性	—	—	3mプロファイル ター (σ)2.4mm以 下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下																			

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
							個々の測定値 (X)		測定値の 平均 \bar{X}_n											個々の測定値 (X)		測定値の 平均 \bar{X}_n				
							中規模 以上	小規模 以下												中規模 以上	小規模 以下					
3	土木	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ 毎に1個とし、掘起こして測定。	※工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所 の面積とする。			
					厚 さ	-45	$\bar{X}_3 \sim -6$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -10$ $\bar{X}_7 \sim -15$																			
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
					厚 さ	-25	-30	$\bar{X}_3 \sim -5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -6$ $\bar{X}_7 \sim -8$																		
3	土木	2	6	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。	3	土木	2	6	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ 毎に1個とし、掘起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床 版等に損傷を与える恐れのある場 合は、他の方法によることが出来 る。			
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
					厚 さ	-25	-30	$\bar{X}_3 \sim -5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -6$ $\bar{X}_7 \sim -8$																		
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
3	土木	2	6	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝 青)安定処理工)	厚 さ	-25	-30	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ご とに1個とし掘起こしもしくはコア により測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝 青)安定処理工)	厚 さ	-25	-30	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎 に1個とし掘起こしもしくはコア により測定する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。			
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
					厚 さ	-9	-12	$\bar{X}_3 \sim -1$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -2$ $\bar{X}_7 \sim -3$																		
					幅	-25	$\bar{X}_3 \sim -10$																			
3	土木	2	6	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層)	厚 さ	-9	-12	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡ご とに1個としコアを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層)	厚 さ	-9	-12	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎 に1個としコアを採取して測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。			
					幅	-25	$\bar{X}_3 \sim -10$																			
					厚 さ	-10	$\bar{X}_3 \sim -2.5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -3$ $\bar{X}_7 \sim -3.5$																			
					幅	-25	$\bar{X}_3 \sim -10$																			
3	土木	2	6	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版 工)	厚 さ	-10	$\bar{X}_3 \sim -2.5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -3$ $\bar{X}_7 \sim -3.5$	厚さは、各車線の中心付近で型枠掘 付後各車線100m毎に水系又はレベ ルにより1測線当たり横断方向に3 箇所以上測定、幅は、延長40m毎に 1箇所の割で測定、平坦性は各車線 毎に版縁から1mの線上、全延長と する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版 工)	厚 さ	-10	$\bar{X}_3 \sim -2.5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -3$ $\bar{X}_7 \sim -3.5$	厚さは、各車線の中心付近で型枠掘 付後各車線100m毎に水系又はレベ ルにより1測線当たり横断方向に3ヶ 所以上測定、幅は、延長40m毎に 1箇所の割で測定、平坦性は各車線 毎に版縁から1mの線上、全延長と する。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所 の面積とする。			
					平坦性	-	コンクリート の硬化後 3mプロフィル メーターによ り機械舗設の 場合 (σ)2.4mm以 下 人力舗設の場 合 (σ)3mm以下																			
					目地段差	±2																				
					平坦性	-	コンクリート の硬化後 3mプロフィル メーターによ り機械舗設の 場合 (σ)2.4mm以 下 人力舗設の場 合 (σ)3mm以下																			
3	土木	2	6	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版 工) 下層路盤工	基準高▽	±30	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の 割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版 工) 下層路盤工	基準高▽	±30	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、基準高は、道路中心線及び その端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ 毎に1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所 の面積とする。			
					厚 さ	-45	$\bar{X}_3 \sim -6$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -10$ $\bar{X}_7 \sim -15$																			
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
					厚 さ	-25	-30	$\bar{X}_3 \sim -5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -6$ $\bar{X}_7 \sim -8$																		
3	土木	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版 工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	幅は延長40mごとに、1箇所の割と し、厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を掘起こし及びコア以外 の方法→水系による管理をす ることができる。	3	土木	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版 工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、 厚さは2,000㎡までは3個とし、 2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ 毎に1個とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工関係共 通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上 とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満 とする。 なお、施工面積300㎡未満において は厚さ管理を水系による管理とす ることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所 の面積とする。			
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			
					厚 さ	-25	-30	$\bar{X}_3 \sim -5$ $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6 \sim -6$ $\bar{X}_7 \sim -8$																		
					幅	-50	$\bar{X}_3 \sim -20$																			

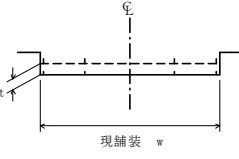
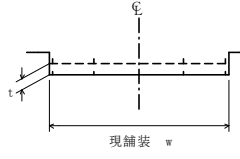
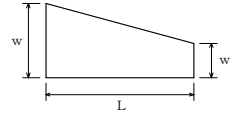
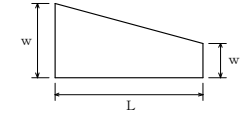
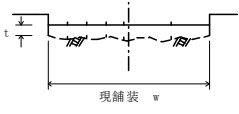
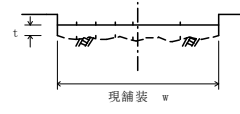
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		測定値の 平均 \bar{X}_n											個々の測定値 (X)		測定値の 平均 \bar{X}_n			
							中規模 以上	小規模 以下												中規模 以上	小規模 以下				
3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3 -5 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -6 $\bar{X}_7 \sim$ -8	幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡ごと に1個とし掘起こしもしくは コアーにより測定する。	*工事規模の考え方(舗装工 関係共通) 中規模工事：施工面積2,000 ㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000 ㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満 においては厚さ管理を掘起こし 及びコアー以外の方法→水系 による管理をすることができる。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により 床版等に損傷を与える恐れ のある場合は、他の方法によ ることが出来る。	3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3 -5 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -6 $\bar{X}_7 \sim$ -8	幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡毎に 1個とし掘起こしもしくは コアーにより測定する。	*工事規模の考え方(舗装工 関係共通) 中規模工事：施工面積2,000 ㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000 ㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満 においては厚さ管理を水系に よる管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施 工箇所毎の面積とする。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取によ り床版等に損傷を与える恐れ のある場合は、他の方法によ ることが出来る。		
					幅	-50		$\bar{X}_3 \sim$ -20																	
3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3 -3 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -4 $\bar{X}_7 \sim$ -5	幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアーを採取して 測定。		3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	\bar{X}_3 -3 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -4 $\bar{X}_7 \sim$ -5	幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡毎に 1個としコアーを採取して 測定。			
					幅	-50		$\bar{X}_3 \sim$ -20																	
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3 -1 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -2 $\bar{X}_7 \sim$ -3	幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡ごと に1個としコアーを採取して 測定。		3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	\bar{X}_3 -1 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -2 $\bar{X}_7 \sim$ -3	幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は1,000㎡毎に 1個としコアーを採取して 測定。			
					幅	-25		$\bar{X}_3 \sim$ -10																	
3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30		$\bar{X}_3 \sim$ ±15	基準高、幅は延長40mごとに、 1箇所の割とし、基準高は、道 路中心線及びその端部で測 定する。 厚さは2,000㎡までは3個 とし、2,000㎡を超える場 合は、1,000㎡ごとに1個 とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工 関係共通) 中規模工事：施工面積2,000 ㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000 ㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満 においては厚さ管理を掘起こし 及びコアー以外の方法→水系 による管理をすることができる。	3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±30		$\bar{X}_3 \sim$ ±15	基準高、幅は延長40m毎に、 1箇所の割とし、基準高は、道 路中心線及びその端部で測 定する。 厚さは2,000㎡までは3個 とし、2,000㎡を超える場 合は、1,000㎡毎に1個 とし、掘起こして測定。	*工事規模の考え方(舗装工 関係共通) 中規模工事：施工面積2,000 ㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000 ㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満 においては厚さ管理を水系に よる管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施 工箇所毎の面積とする。		
					厚さ	-45		\bar{X}_3 -6 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -10 $\bar{X}_7 \sim$ -15																	
					幅	-50		$\bar{X}_3 \sim$ -20																	
3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3 -5 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -6 $\bar{X}_7 \sim$ -8	幅は延長40mごとに、1箇所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は、1,000㎡ご とに1個とし、掘起こして 測定。		3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	\bar{X}_3 -5 $\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$ -6 $\bar{X}_7 \sim$ -8	幅は延長40m毎に、1ヶ所 の割とし、厚さは2,000㎡ま では3個とし、2,000㎡を 超える場合は、1,000㎡毎 に1個とし、掘起こして測 定。			
					幅	-50		$\bar{X}_3 \sim$ -20																	

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X _n)							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X _n)			
3 2 6 15	路面切削工	厚 さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によること が出来る。			3 2 6 15	路面切削工	厚 さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は延長80m毎に1ヶ所の割合とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によること が出来る。		
		幅 w	-25	—						幅 w	-25	—			
3 2 6 16	舗装打換え工	路盤工	幅 w	-50	各層毎1箇所/1施工箇所			3 2 6 16	舗装打換え工	路盤工	幅 w	-50	各層毎1ヶ所/1施工箇所		
			延長 L	-100							延長 L	-100			
			厚さ t	該当工種							厚さ t	該当工種			
		舗設工	幅 w	-25						舗設工	幅 w	-25			
			延長 L	-100							延長 L	-100			
			厚さ t	該当工種							厚さ t	該当工種			
3 2 6 17	オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1箇所の割合とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。			3 2 6 17	オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/1施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。				
		幅 w	-25						幅 w	-25					
		延 長 L	-100						延 長 L	-100					
		平坦性	—						平坦性	—					

平坦性について
 ・カーブの多い道路、および一測線が100m未満の場合は省略することができる。
 ・測定方法、測定箇所については、舗装調査・試験法便覧による。

単位：mm

単位：mm

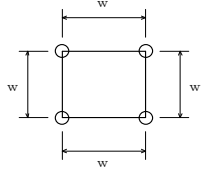
編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 2 7 2	土木 一般 改良 路床安定処理工	基準高▽	±50	延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に1箇所 ¹ の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。			3 2 7 2	土木 一般 改良 路床安定処理工	基準高▽	±50	延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に1ヶ所 ¹ の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
		施工厚さ t	-50										
		幅 w	-100										
		延長 L	-200										
3 2 7 3	土木 一般 改良 置換工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所 ¹ 、延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所 ² 。 厚さは中心線及び端部で測定。			3 2 7 3	土木 一般 改良 置換工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所 ¹ 、延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所 ² 。 厚さは中心線及び端部で測定。		
		置換厚さ t	-50										
		幅 w	-100										
		延長 L	-200										
3 2 7 4	土木 一般 改良 表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 w.(L)は施工延長40mにつき1箇所 ¹ 、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所 ³ 。 (L)はセンターライン及び表裏法肩で行う。			3 2 7 4	土木 一般 改良 表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 w.(L)は施工延長40mにつき1ヶ所 ¹ 、80m以下のものは1施工箇所につき3ヶ所 ³ 。 (L)はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
		法長 ℓ	-500										
		天端幅 w	-300										
		天端延長 L	-500										
3 2 7 5	土木 一般 改良 バイルネット工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所 ¹ 。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。			3 2 7 5	土木 一般 改良 バイルネット工	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所 ¹ 。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
		厚さ t	-50										
		幅 w	-100										
		延長 L	-200										
3 2 7 6	土木 一般 改良 サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所 ¹ 。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。			3 2 7 6	土木 一般 改良 サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所 ¹ 。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		
		幅 w	-100										
		延長 L	-200										
3 2 7 7	土木 一般 改良 パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 8 締め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔w	±100	100本に1箇所 ¹ 。 100本以下は2箇所 ² 測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数 計器管理にかえることができる。			3 2 7 7	土木 一般 改良 パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 8 締め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔w	±100	100本に1ヶ所 ¹ 。 100本以下は2ヶ所 ² 測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数 計器管理にかえることができる。		
		杭径 D	設計値以上										
		打込長さ h	設計値以上										
		サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	—										

※余長は、適用除外

※余長は、適用除外

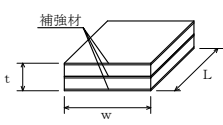
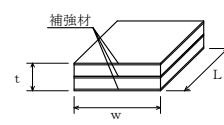
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。		
				位置・間隔 w	D/4以内		位置・間隔 w					D/4以内					
				杭 径 D	設計値以上		杭 径 D					設計値以上					
				深 度 ℓ	設計値以上		深 度 L					設計値以上	$L = \theta 1 - \theta 2$ $\theta 1$ は改良体先端深度 $\theta 2$ は改良体天端深度				
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高▽	±100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高▽	±100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)
					根 入 長	設計値以上	根 入 長							設計値以上			
					延 長 L	-200	1施工箇所毎							延 長 L	-200	1施工箇所毎	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さℓ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さℓ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)
					配置誤差 d	100	配置誤差 d							100			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。
					延長 L ₁ L ₂	-200	1施工箇所毎							延長 L ₁ L ₂	-200	1施工箇所毎	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)
					天 端 幅 w	-100	天 端 幅 w							-100			
					法 長 ℓ	-100	法 長 ℓ							-100			
					延 長 L	-200	1施工箇所毎							延 長 L	-200	1施工箇所毎	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)
					延 長 L	-200	1施工箇所毎							延 長 L	-200	1施工箇所毎	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工 (壁式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工 (壁式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。
					連壁の長さ ℓ	-50	連壁の長さ ℓ							-50			
					変 位	300	変 位							300			
					壁 体 長 L	-200	壁 体 長 L							-200			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	10		地中連続壁工 (柱列式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	10 仮 設 工	10		地中連続壁工 (柱列式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。
					連壁の長さ ℓ	-50	連壁の長さ ℓ							-50			
					変 位 d	D/4以内	変 位 d							D/4以内			
					壁 体 長 L	-200	壁 体 長 L							-200			
					壁 体 延 長 L	-200	1施工箇所毎							壁 体 延 長 L	-200	1施工箇所毎	

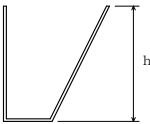
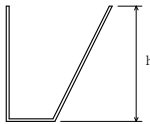
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																		
3	2	12	1	1	1	鋳造費（金属支承工）	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。		3	2	12	1	1	鋳造費（金属支承工）	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。																		
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ										≤1000mm	1以下																				
								センターボスを基準にした孔位置のずれ											>1000mm	1.5以下																			
								アンカーボルト用孔（鑄放し）	孔の直径									≤100mm	+3 -1																				
									>100mm									+4 -2																					
							孔の中心距離		JIS B 0403-95 CT13																														
							センターボス	ボスの直径	+0 -1																														
								ボスの高さ	+1 -0																														
							3	2	12									1	1	1			鋳造費（金属支承工）	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		3	2	12	1	1	鋳造費（金属支承工）	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。			
																								全移動量ℓ	ℓ≤300mm									±2					
																									ℓ>300mm									±ℓ/100					
																								組立高さH	上, 下面加工仕上げ									±3					
コンクリート構造用	H≤300mm	±3																																					
	H>300mm		(H/200+3) 小数点以下切り捨て																																				
普通寸法	鑄放し長さ寸法※1)、※2)		JIS B 0403-95 CT14																																				
	鑄放し肉厚寸法※1)		JIS B 0403-95 CT15																																				
	削り加工寸法		JIS B 0405-91 粗級																																				
	ガス切断寸法		JIS B 0417-79 B級																																				
3	2	12	1	2	1	鋳造費（大型ゴム支承工）				幅w長さL直徑D	w, L, D≤500	0~+5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差		3	2	12				1	2		鋳造費（大型ゴム支承工）	幅w長さL直徑D									w, L, D≤500	0~+5			製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差	
										500<w, L, D≤1500mm		0~+1%																											
							1500<w, L, D		0~+15																														
							厚さt	t≤20mm	±0.5																														
								20<t≤160	±2.5%																														
								160<t	±4																														
							平面度		1																														

旧

新

旧										新											
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	12	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長ℓ (m) ±3… ℓ≤10 ±4… ℓ>10			図面の寸法表示箇所にて測定。	3	2	12	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長ℓ (m) ±3… ℓ≤10 ±4… ℓ>10			図面の寸法表示箇所にて測定。
3	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	±2… h≤0.5 ±3… 0.5<h≤1.0 ±4… 1.0<h≤2.0			図面の寸法表示箇所にて測定。	3	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	±2… h≤0.5 ±3… 0.5<h≤1.0 ±4… 1.0<h≤2.0			図面の寸法表示箇所にて測定。
						外周長L (m)	±(10+L/10)										外周長L (m)	±(10+L/10)			

旧

新

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要																		
								鋼けた等	トラス・アーチ等											鋼桁等	トラス・アーチ等																				
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \dots\dots 2.0 < w$	主けた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表に替えることが できる。				3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \dots\dots 2.0 < w$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表に替えることが 出来る。																					
						腹板高 h (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $\pm 4 \dots\dots$	主けた 各支点及び各支間中央付近を測定。										鋼桁及びトラス等の部材の腹板	h / 250	h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)																					
						腹板間隔 b' (m)	$\pm 4 \dots\dots$ $\pm (3+w/2) \dots\dots$ $2.0 < w$	主けた 各支点及び各支間中央付近を測定。										箱けた及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150	b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)																					
						フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。										フランジの直角度 δ (mm)	w / 200																						
						部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。										鋼桁	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$																						
						トラス、アーチなど	$\pm 2 \dots \ell \leq 10$ $\pm 3 \dots \ell > 10$	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。										トラス、アーチなど	$\pm 2 \dots \ell \leq 10$ $\pm 3 \dots \ell > 10$																						
						圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長 (mm)										圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000																						
						※規格値のw, ℓに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲り δ」の規格値のh, b, w, ℓに代入する数値はmm単位の数値とする。																																			
						※規格値のw, ℓに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲り δ」の規格値のh, b, w, ℓに代入する数値はmm単位の数値とする。																																			
						3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)							全長 L (m)	$\pm (10+L/10)$	各けた毎に全数測定。				3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	全長 L (m)	$\pm (10+L/10)$	各桁毎に全数測定。									
支間長 Ln (m)	$\pm (10+Ln/10)$	各支点及び各支間中央付近を測定。										主けた、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \dots\dots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \dots\dots B > 2$																												
主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots\dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \dots\dots h > 5$	両端部及び中心部を測定。										主けた、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots\dots L \leq 100$ $25 \dots\dots L > 100$	最も外側の主けた又は主構について 支点及び支間中央の1点を測定。																											
主けた、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots\dots L \leq 100$ $25 \dots\dots L > 100$	最も外側の主けた又は主構について 支点及び支間中央の1点を測定。										主けた、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots\dots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots\dots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots\dots 80 < L \leq 200$	各主けたについて 10～12m間隔を測定。 L : 主けたの 支間長 (m)	各主構の各格点 を測定。 L : 主構の支間長 (m)																										
主けた、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots\dots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \dots\dots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \dots\dots 80 < L \leq 200$	各主けたについて 10～12m間隔を測定。 L : 主けたの 支間長 (m)	各主構の各格点 を測定。 L : 主構の支間長 (m)									主けた、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主けた (主構) 端を 測定。																											
主けた、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主けた (主構) 端を 測定。										主けた、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部 を測定。 h : 主けたの高 さ (mm)																											
主けた、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部 を測定。 h : 主けたの高 さ (mm)										現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	設計値 ± 5	主けた、主構の全継手数の1/2を 測定。 δ1, δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナ ス側については設計値以上とする。																											
現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	設計値 ± 5	主けた、主構の全継手数の1/2を 測定。 δ1, δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナ ス側については設計値以上とする。										※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主けた、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の 数値とする。																													
※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数 値とする。																																									

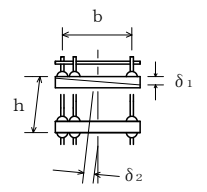
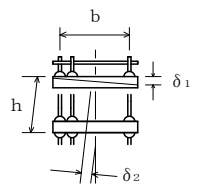
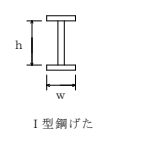
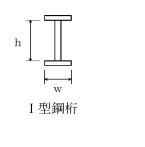
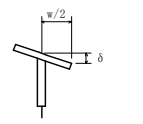
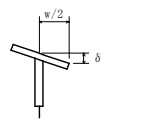
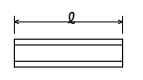
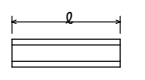
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
3 2 12 3 2	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 5 < w ≤ 1.0	主げた、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。			3 2 12 3 2	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 5 < w ≤ 1.0	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取 った部材の中央付近を測定。						
			腹板高 h (m)	±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w							腹板高 h (m)	±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w							
			部材精度	板の平面度 δ (mm)							鋼げた等の部材の腹板 h / 250	主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)					鋼桁等の腹板 h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)	
				箱げた等のフランジ鋼床版のデッキプレート b / 150							箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート b / 150								
			フランジの直角度 δ (mm)	w / 200							主要部材全数を測定。					フランジの直角度 δ (mm)	w / 200		
部材長 ℓ (m)	鋼げた ±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	部材長 ℓ (m)	鋼桁 ±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10																
※規格値のw, ℓに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。																			
3 2 12 3 3	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	桁製作工 (鋼製えん堤製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。			3 2 12 3 3	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	桁製作工 (鋼製えん堤製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。						
			堤 長 L	±30							堤 長 L	±30							
			堤 長 ℓ	±10							堤 長 ℓ	±10							
			堤 幅 W	±30							堤 幅 W	±30							
			堤 幅 w	±10							堤 幅 w	±10							
			高 さ H	±10							高 さ H	±10							
			ベースプレートの高さ	±10							ベースプレートの高さ	±10							
			本体の傾き	±H/500							本体の傾き	±H/500							
3 2 12 4	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	検査路製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所測定。		3 2 12 4	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	検査路製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所測定。					
部材			部材長ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	部材						部材長ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10							
3 2 12 5	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w (m)	0 ~ +30	製品全数を測定。			3 2 12 5	土木工事共通編 一般施工 工場製作工 共通	鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w (m)	0 ~ +30	製品全数を測定。				
			仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ1 (mm)	設計値 ±4							両端及び中央部付近を測定。		組合せる伸縮装置との高さの差 δ1 (mm)				設計値 ±4	
フィンガーの食い違い δ2 (mm)	±2	(実測値) δ2			フィンガーの食い違い δ2 (mm)	±2	(実測値) δ2												

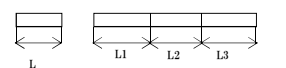
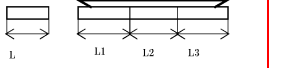
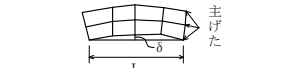
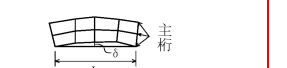
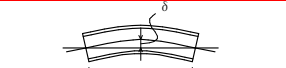
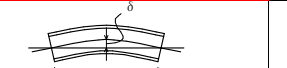
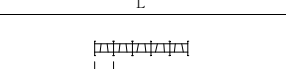
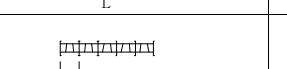
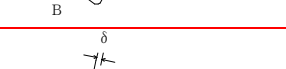
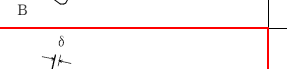
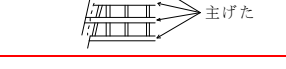
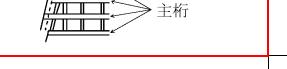
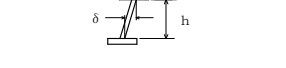
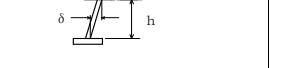
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要										
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	6	落橋防止装置製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	6	落橋防止装置製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。						
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	7	橋梁用防護柵製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	7	橋梁用防護柵製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。						
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	8	アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ ₁ (mm)	b/500	軸心上全数測定。 	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	8	アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ ₁ (mm)	b/500	軸心上全数測定。 						
						鉛直度 δ ₂ (mm)	h/500								鉛直度 δ ₂ (mm)	h/500							
						高さ h (mm)	±5								高さ h (mm)	±5							
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	9	プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w (m)	±2…w≤0.5 ±3…0.5<w≤1.0 ±4…1.0<w≤2.0 ±(3+w/2)…2.0<w	各支点及び各支間中央付近を測定。 	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	9	プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w (m)	±2…w≤0.5 ±3…0.5<w≤1.0 ±4…1.0<w≤2.0 ±(3+w/2)…2.0<w	各支点及び各支間中央付近を測定。 						
						腹板高 h (m)	±3…w≤0.5 ±4…0.5<w≤1.0 ±(3+w/2)…1.0<w≤2.0 ±(3+w/2)…2.0<w								腹板高 h (m)	±3…w≤0.5 ±4…0.5<w≤1.0 ±(3+w/2)…1.0<w≤2.0 ±(3+w/2)…2.0<w							
						フランジの直角 度 δ (mm)	w/200								フランジの直角 度 δ (mm)	w/200					フランジの直角 度 δ (mm)	w/200	
						部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10								部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10					部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	10	鋼製排水管製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。	3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	10	鋼製排水管製作工	部材	部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所にて測定。						

単位：mm

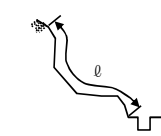
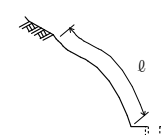
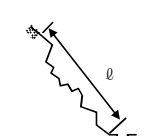
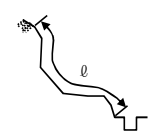
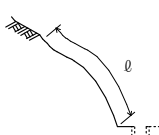
単位：mm

編 号	章 節	条 目	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 号	章 節	条 目	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	12	11	工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500㎡とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。			3	2	12	11	工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500㎡とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		
3	2	13		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全 長 L (m) 支間長 L _n (m)	±(20+L/5) ±(20+L _n /5)	各けた毎に全数測定。	単けたの場合 		3	2	13		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全 長 L (m) 支間長 L _n (m)	±(20+L/5) ±(20+L _n /5)	各桁毎に全数測定。	単けたの場合 	
					通 り δ (mm)	±(10+2L/5)	L：主けた・主構の支間長(m)								通 り δ (mm)	±(10+2L/5)	L：主桁・主構の支間長(m)		
					そ り δ (mm)	±(25+L/2)	主けた、主構を全数測定。 L：主けた・主構の支間長(m)								そ り δ (mm)	±(25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長(m)		
					※主けた、主構の中心間距離 B (m)	±4…… B≤2 ±(3+B/2)…B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。								※主桁、主構の中心間距離 B (m)	±4…… B≤2 ±(3+B/2)…B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
					※主けたの橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主けた（主構）端を測定。								※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
					※主けた、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主けたの両端部を測定。h：主けた・主構の高さ(mm)								※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。h：主桁・主構の高さ(mm)		
					※現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	設計値 ±5	主けた、主構の全継手数の1/2を測定。 δ ₁ , δ ₂ のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合、マイナス側については設計値以上とする。								※現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	設計値 ±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ ₁ , δ ₂ のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合、マイナス側については設計値以上とする。		
							※は仮組立検査を実施しない工事に適用。										※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
							※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主けた、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。										※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。		

単位：mm

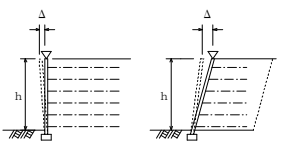
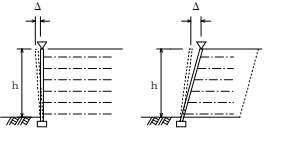
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																
3	2	13			架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工（固定） （移動） 架設桁架設（片持架設） （押し架設）	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。			3	2	13			架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工（固定） （移動） 架設桁架設（片持架設） （押し架設）	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。																																		
						桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。																																													
						そ り	—	主桁を全数測定。																																													
3	2	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土法長ℓ	ℓ < 5 m	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1箇所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1施工箇所 につき 2箇所 。		3	2	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	ℓ < 5 m	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1ヶ所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1施工箇所 につき 2ヶ所 。		3	2	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	ℓ < 5 m	-200																									
							ℓ ≥ 5 m	法長の-4%																																													
						盛土法長ℓ	ℓ < 5 m	-100									1施工箇所毎																																				
							ℓ ≥ 5 m	法長の-2%																																													
						延長	L < 10m	-20																																													
							L ≥ 10m L < 100m	-50																																													
							L ≥ 100m	-100																																													
						3	2	14										2									2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長ℓ	ℓ < 5 m	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1箇所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1施工箇所 につき 2箇所 。		3	2	14	2	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長ℓ	ℓ < 5 m	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1ヶ所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1施工箇所 につき 2ヶ所 。		3	2	14	2	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長ℓ	ℓ < 5 m	-200
																														ℓ ≥ 5 m	法長の-4%																						
																													厚さt	t < 5 cm	-10									1施工箇所毎													
																														t ≥ 5 cm	-20																						
延長	L < 10m	-20																																																			
	L ≥ 10m L < 100m	-50																																																			
	L ≥ 100m	-100																																																			
3	2	14	3	吹付工（仮設を含む） （コンクリート） （モルタル）	法長ℓ				ℓ < 3 m	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1箇所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1施工箇所 につき 2箇所 。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。		3	2	14	3	吹付工（仮設を含む） （コンクリート） （モルタル）		法長ℓ	ℓ < 5 m	-50	200㎡につき 1箇所 以上、200㎡以下は 2箇所 をせん孔により測定。		3	2	14			3	吹付工（仮設を含む） （コンクリート） （モルタル）	法長ℓ										ℓ < 5 m	-50											
									ℓ ≥ 3 m	-100																																											
					厚さt				t < 5 cm	-10									1施工箇所毎																																		
									t ≥ 5 cm	-20																																											
					延長	L < 10m	-20																																														
						L ≥ 10m L < 100m	-50																																														
						L ≥ 100m	-100																																														



単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要							
3	2	15	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3	2	15	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3	2	15	3					
						高さh	h < 3m									-50	高さh								h < 3m	-50		
							h ≥ 3m									-100									h ≥ 3m	-100		
						鉛直度△										±0.03hかつ±300以内	鉛直度△								±0.03hかつ±300以内			
						控え長さ										設計値以上	控え長さ								設計値以上			
						延長	L < 10m									-20	1施工箇所毎								延長	L < 10m	-20	1施工箇所毎
							L ≥ 10m									-50										L ≥ 10m	-50	
							L < 100m									-50										L < 100m	-50	
							L ≥ 100m									-100										L ≥ 100m	-100	
						3	2									15	4									井桁ブロック工	基準高▽	±50
法長ℓ	ℓ < 3m	-50	法長ℓ	ℓ < 3m	-50																							
	ℓ ≥ 3m	-100		ℓ ≥ 3m	-100																							
厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		-50	厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		-50																							
勾配 N		-0.5分	勾配 N		-0.5分																							
延長 L1、L2	L < 10m	-20	1施工箇所毎	延長 L1、L2	L < 10m			-20	1施工箇所毎																			
	L ≥ 10m	-50			L ≥ 10m			-50																				
	L < 100m	-50			L < 100m			-50																				
	L ≥ 100m	-100			L ≥ 100m			-100																				

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																																																
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	16 浚 渫 工	3 1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">基準高▽</td> <td rowspan="3">電気船</td> <td>200ps</td> <td>+200</td> <td>-800</td> </tr> <tr> <td>500ps</td> <td>+200</td> <td>-1000</td> </tr> <tr> <td>1000ps</td> <td>+200</td> <td>-1200</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ディーゼル船</td> <td>250ps</td> <td>+200</td> <td>-800</td> </tr> <tr> <td>420ps</td> <td>+200</td> <td>-1000</td> </tr> <tr> <td>600ps</td> <td>+200</td> <td>-1000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">幅</td> <td colspan="2"></td> <td>-200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">延長</td> <td colspan="2"></td> <td>-200</td> </tr> </table>	基準高▽	電気船	200ps	+200	-800	500ps	+200	-1000	1000ps	+200	-1200	ディーゼル船	250ps	+200	-800	420ps	+200	-1000	600ps	+200	-1000	幅				-200	延長				-200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	16 浚 渫 工	3 1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">基準高▽</td> <td rowspan="3">電気船</td> <td>200ps</td> <td>-800</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td>500ps</td> <td>-1000</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td>1000ps</td> <td>-1200</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ディーゼル船</td> <td>250ps</td> <td>-800</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td>420ps</td> <td>-1000</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td>600ps</td> <td>-1000</td> <td>+200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">幅</td> <td colspan="2"></td> <td>-200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">延長</td> <td colspan="2"></td> <td>-200</td> </tr> </table>	基準高▽	電気船	200ps	-800	+200	500ps	-1000	+200	1000ps	-1200	+200	ディーゼル船	250ps	-800	+200	420ps	-1000	+200	600ps	-1000	+200	幅				-200	延長				-200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。	
								基準高▽	電気船	200ps	+200	-800																																																																	
										500ps	+200	-1000																																																																	
							1000ps			+200	-1200																																																																		
							ディーゼル船		250ps	+200	-800																																																																		
									420ps	+200	-1000																																																																		
						600ps			+200	-1000																																																																			
幅				-200																																																																									
延長				-200																																																																									
基準高▽	電気船	200ps	-800	+200																																																																									
		500ps	-1000	+200																																																																									
		1000ps	-1200	+200																																																																									
	ディーゼル船	250ps	-800	+200																																																																									
		420ps	-1000	+200																																																																									
		600ps	-1000	+200																																																																									
幅				-200																																																																									
延長				-200																																																																									
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	16 浚 渫 工	3 2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船)	基準高▽	上限 +200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	16 浚 渫 工	3 2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基準高▽	+200以下	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。																																																													
					幅	-200								幅	-200																																																														
					延長	-200								延長	-200																																																														
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	18 床 版 工	2	床版工	基準高▽	±20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)	注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)」も併せて適用する。	3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工 共通	18 床 版 工	2	床版工	基準高▽	±20	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)																																																													
					幅 w	0~+30								幅 w	0~+30																																																														
					厚さ t	-10~+20								厚さ t	-10~+20																																																														
					鉄筋のかぶり	設計値以上								鉄筋のかぶり	設計値以上																																																														
					鉄筋の有効高さ	±10								鉄筋の有効高さ	±10																																																														
					鉄筋間隔	±20								鉄筋間隔	±20																																																														
上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10																																																																										

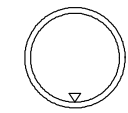
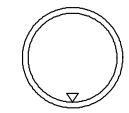
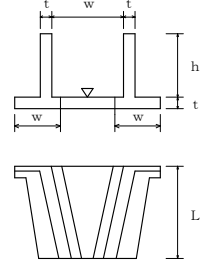
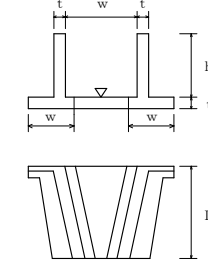
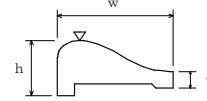
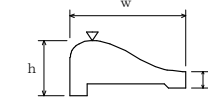
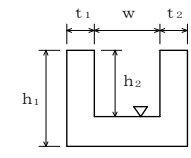
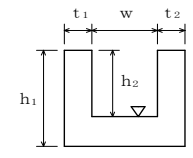
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河川編 1 築堤・護岸 1 適用		基準高 ▽	±50	基準高・河川幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1箇所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		基準高は護岸工の天端と計画堤防天端の高さが同じ場合は規格値を-0とする。法線は座標管理している場合は座標値とする。	6 河川編 1 築堤・護岸 1 適用		基準高 ▽	±50	基準高・河川幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき 1ヶ所 、延長40m（又は50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 。		基準高は護岸工の天端と計画堤防天端の高さが同じ場合は規格値を-0とする。法線は座標管理している場合は座標値とする。
		河川幅 W ₁ ~W ₄	-0、+200										
		延長	L < 10m						-20				
			L ≥ 10m L < 100m						-50				
			L ≥ 100m						-100				
6 河川編 1 築堤・護岸 7 法覆護岸工	4	護岸付属物工 (横帯コンクリート) (縦帯コンクリート) (小口止工) (巻コンクリート)	幅 w	-30	各格子間の中央部 1 箇所を測定。		6 河川編 1 築堤・護岸 7 法覆護岸工	4	護岸付属物工 (横帯コンクリート) (縦帯コンクリート) (小口止工) (巻コンクリート)	幅 w	-30	各格子間の中央部 1ヶ所 を測定。	
		高さ h	-30										
6 河川編 1 築堤・護岸 10 水制工	8	杭出し水制工	基準高 ▽	±50	1 組毎		6 河川編 1 築堤・護岸 10 水制工	8	杭出し水制工	基準高 ▽	±50	1 組毎	
			幅 w	±300									
			方向	±7°									
			延長 L	-200									
6 河川編 1 築堤・護岸 13 光ケーブル配管工	3	配管工	埋設深 t	0~+50	接続部（地上機器部）間毎に 1 箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		6 河川編 1 築堤・護岸 13 光ケーブル配管工	3	配管工	埋設深 t	0~+50	接続部（地上機器部）間毎に 1ヶ所 。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	
			延長	L < 10m						-20			
				L ≥ 10m L < 100m						-50			
				L ≥ 100m						-100			
6 河川編 1 築堤・護岸 13 光ケーブル配管工	4	ハンドホール工	基準高 ▽	±30	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		6 河川編 1 築堤・護岸 13 光ケーブル配管工	4	ハンドホール工	基準高 ▽	±30	1ヶ所 毎 ※は現場打部分のある場合	
			※厚さ t ₁ ~t ₅	-20									
			※幅 w ₁ , w ₂	-30									
			※高さ h ₁ , h ₂	-30									
6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 6 1	1	函渠工 (本体工)	基準高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 6 1	1	函渠工 (本体工)	基準高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。	
			厚さ t ₁ ~t ₆	-20									
			幅 w ₁ , w ₂	-30									
			内空幅 w ₃	-30									
			内空高 h ₁	±30									
			延長	L < 10m						-20			
				L ≥ 10m L < 20m						-50			
				L ≥ 20m						-100			
L													

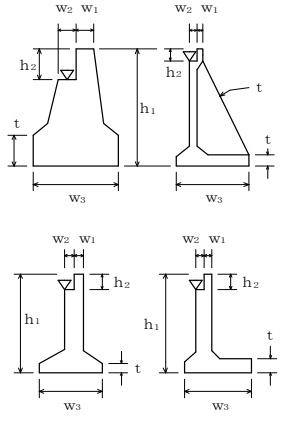
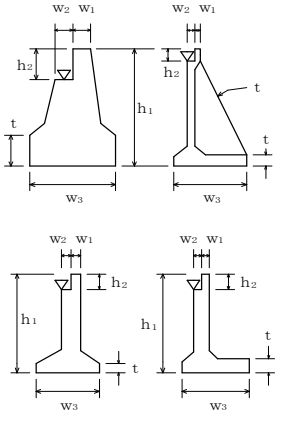
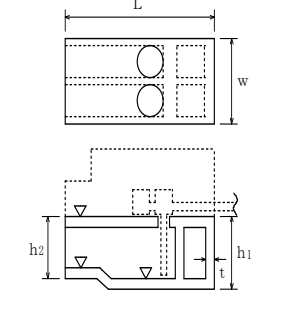
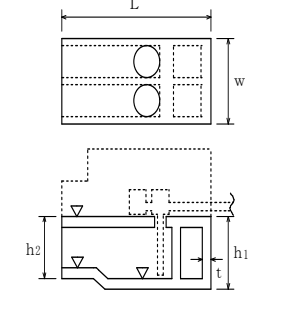
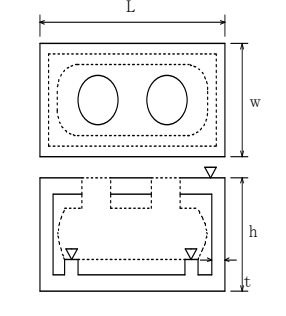
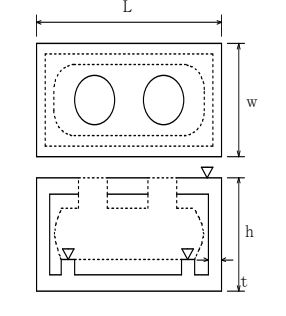
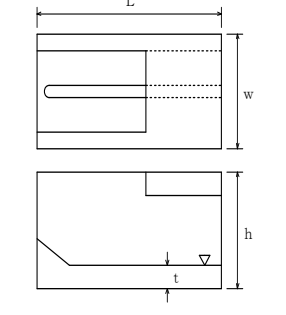
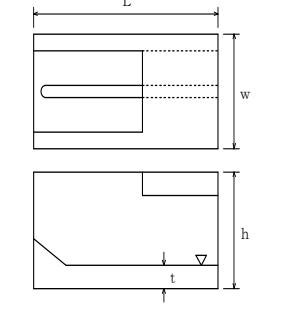
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 6 6 2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎			6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 6 6 2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎				
		延 長	L < 10m						-20	L < 10m				-20	
			L ≥ 10m						-50					L ≥ 10m	-50
			L < 20m						-100						L < 20m
L ≥ 20m	-100	L ≥ 20m	-100												
6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 7 8	翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			6 河川編 3 樋門・樋管 5 樋門・樋管 7 8	翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。				
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20					
		幅 w	-30						幅 w	-30					
		高 さ h	±30						高 さ h	±30					
		延 長 L	-50						延 長 L	-50					
6 河川編 4 水門 6 水門 7 8 9 10 11	床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			6 河川編 4 水門 6 水門 7 8 9 10 11	床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。				
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20					
		幅 w	-30						幅 w	-30					
		高 さ h	±30						高 さ h	±30					
		延 長 L	-50						延 長 L	-50					
6 河川編 5 堰 6 可動堰 13 14	開門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			6 河川編 5 堰 6 可動堰 13 14	開門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。				
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20					
		幅 w	-30						幅 w	-30					
		高 さ h	±30						高 さ h	±30					
		延 長 L	-50						延 長 L	-50					
6 河川編 5 堰 7 固定堰 8 9 10	堰本体内工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。			6 河川編 5 堰 7 固定堰 8 9 10	堰本体内工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。				
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20					
		幅 w	-30						幅 w	-30					
		高 さ h	±30						高 さ h	±30					
		堰 長 L	L < 20m						-50	L < 20m				-50	
			L ≥ 20m						-100					L ≥ 20m	-100
6 河川編 5 堰 8 魚道工 3	魚道本体内工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。(なお、製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による)			6 河川編 5 堰 8 魚道工 3	魚道本体内工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。(なお、製品使用の場合の製品寸法は、規格証明書等による)				
		厚 さ t ₁ , t ₂	-20						厚 さ t ₁ , t ₂	-20					
		幅 w	-30						幅 w	-30					
		高 さ h ₁ , h ₂	-30						高 さ h ₁ , h ₂	-30					
		延 長	L < 10m						-20	L < 10m				-20	
			L ≥ 10m						-50					L ≥ 10m	-50
			L < 100m						-100						L < 100m
L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100											

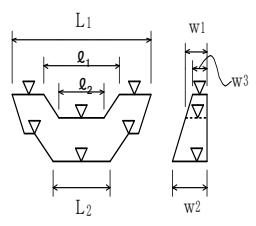
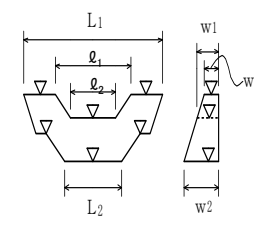
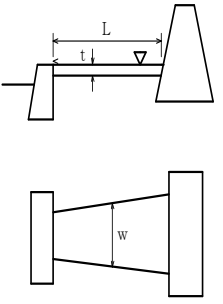
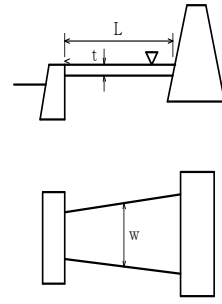
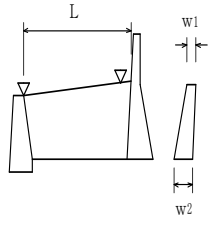
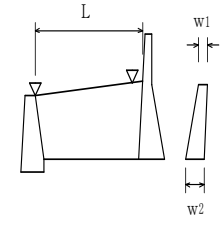
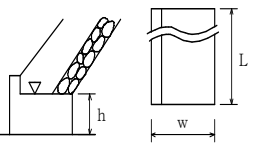
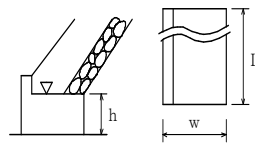
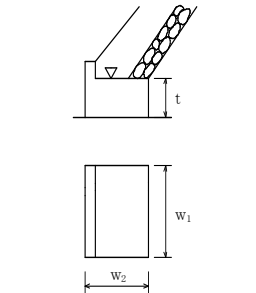
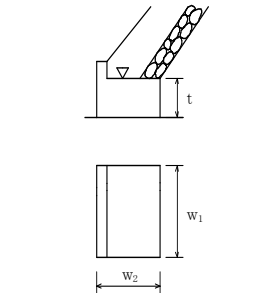
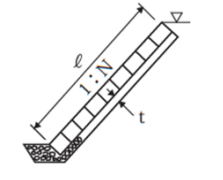
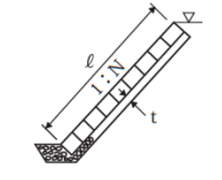
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河川編 5 堰 9 管理橋橋台工	管理橋橋台工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定。			6 河川編 5 堰 9 管理橋橋台工	管理橋橋台工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20			
		天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10						天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-10			
		天 端 幅 w ₂ (橋軸方向)	-10						天 端 幅 w ₂ (橋軸方向)	-10			
		敷 幅 w ₃ (橋軸方向)	-50						敷 幅 w ₃ (橋軸方向)	-50			
		高 さ h ₁	-50						高 さ h ₁	-50			
		胸壁の高さ h ₂	-30						胸壁の高さ h ₂	-30			
		天 端 長 l ₁	-50						天 端 長 l ₁	-50			
		敷 長 l ₂	-50						敷 長 l ₂	-50			
		胸壁間距離 l	±30						胸壁間距離 l	±30			
		支 点 長 及 び 中心線の変化	±50						支 点 長 及 び 中心線の変化	±50			
6 河川編 6 排水機場 4 機場本体内工	本体内工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。			6 河川編 6 排水機場 4 機場本体内工	本体内工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20			
		幅 w	-30						幅 w	-30			
		高 さ h ₁ , h ₂	±30						高 さ h ₁ , h ₂	±30			
		延 長 L	-50						延 長 L	-50			
6 河川編 6 排水機場 4 機場本体内工	燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。			6 河川編 6 排水機場 4 機場本体内工	燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20			
		幅 w	-30						幅 w	-30			
		高 さ h	±30						高 さ h	±30			
		延 長 L	-50						延 長 L	-50			
6 河川編 6 排水機場 5 沈砂池工	コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。			6 河川編 6 排水機場 5 沈砂池工	コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
		厚 さ t	-20						厚 さ t	-20			
		幅 w	-30						幅 w	-30			
		高 さ h	±30						高 さ h	±30			
		延 長 L	-50						延 長 L	-50			

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
6 河川編 7 床止め・床固め 4 床止め工 6	本體工 (床固め本體工)	基準高▽	±30	図面に表示してある箇所にて測定。			6 河川編 7 床止め・床固め 4 床止め工 6	本體工 (床固め本體工)	基準高▽	±30	図面に表示してある箇所にて測定。					
		天端幅 w ₁ , w ₃	-30						天端幅 w ₁ , w ₃	-30						
		堤幅 w ₂	-30						堤幅 w ₂	-30						
		堤長 L ₁ , L ₂	-100						堤長 L ₁ , L ₂	-100						
		水通し幅 l ₁ , l ₂	±50						水通し幅 l ₁ , l ₂	±50						
6 河川編 7 床止め・床固め 4 床止め工 8	水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。 厚さは目地及びその中間点にて測定。			6 河川編 7 床止め・床固め 4 床止め工 8	水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所にて測定。 厚さは目地及びその中間点にて測定。					
		厚さ t	-30						厚さ t	-30						
		幅 w	-100						幅 w	-100						
		延長 L	-100						延長 L	-100						
6 河川編 7 床止め・床固め 5 床固め工 6	側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。			6 河川編 7 床止め・床固め 5 床固め工 6	側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。					
		天端幅 w ₁	-30						天端幅 w ₁	-30						
		堤幅 w ₂	-30						堤幅 w ₂	-30						
		長さ L	-100						長さ L	-100						
7 河川海岸編 1 堤防・護岸 5 護岸基礎工 5	場所打コンクリート工	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			7 河川海岸編 1 堤防・護岸 5 護岸基礎工 5	場所打コンクリート工	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
		幅 w	-30						幅 w	-30						
		高さ h	-30						高さ h	-30						
		延長	L < 10m						-20	1施工箇所毎				延長	L < 10m	-20
			L ≥ 10m L < 100m						-50						L ≥ 10m L < 100m	-50
	L ≥ 100m	-100			L ≥ 100m	-100										
7 河川海岸編 1 堤防・護岸 5 護岸基礎工 6	海岸コンクリートブロック工	基準高▽	±50	ブロック個数40個につき1箇所の割で測定。基準高、延長は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			7 河川海岸編 1 堤防・護岸 5 護岸基礎工 6	海岸コンクリートブロック工	基準高▽	±50	ブロック個数40個につき1箇所の割で測定。基準高、延長は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
		ブロック厚 t	-20						ブロック厚 t	-20						
		ブロック縦幅 w ₁	-20						ブロック縦幅 w ₁	-20						
		ブロック横幅 w ₂	-20						ブロック横幅 w ₂	-20						
		延長	L < 10m						-20	1施工箇所毎				延長	L < 10m	-20
L ≥ 10m L < 100m	-50		L ≥ 10m L < 100m	-50												
	L ≥ 100m	-100			L ≥ 100m	-100										
7 河川海岸編 1 堤防・護岸 6 護岸工 4	海岸コンクリートブロック工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			7 河川海岸編 1 堤防・護岸 6 護岸工 4	海岸コンクリートブロック工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
		法長 l	l < 5m						-100	1施工箇所毎				法長 l	l < 5m	-100
			l ≥ 5m						l × (-2%)						l ≥ 5m	l × (-2%)
		厚さ t	-50						厚さ t	-50						
		勾配 N	-0.5分						勾配 N	-0.5分						
延長	L < 10m	-20	1施工箇所毎	延長	L < 10m	-20										
	L ≥ 10m L < 100m	-50			L ≥ 10m L < 100m	-50										
	L ≥ 100m	-100			L ≥ 100m	-100										

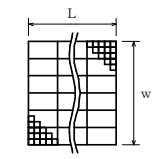
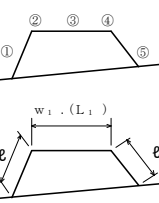
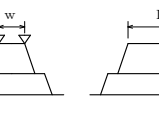
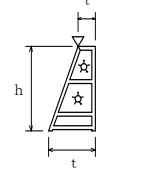
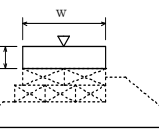
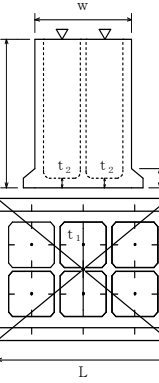
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	6 護岸 工	5	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2箇所。	7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	6 護岸 工	5	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。			
					法長ℓ	ℓ < 3m							-50	ℓ < 3m			-50	
						ℓ ≥ 3m							-100	ℓ ≥ 3m			-100	
					厚さ t	t < 100							-20	t < 100			-20	
						t ≥ 100							-30	t ≥ 100			-30	
					裏込材厚 t'	-50							裏込材厚 t'	-50				
					勾配 N	-0.5分							勾配 N	-0.5分				
延長	L < 10m	-20	延長	L < 10m	-20													
	L ≥ 10m L < 100m	-50		L ≥ 10m L < 100m	-50													
	L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100													
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	8 天端被 覆工	2	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2箇所。	7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	8 天端被 覆工	2	コンクリート被覆工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。			
					幅 w	-50							幅 w	-50				
					厚さ t	-10							厚さ t	-10				
					基礎厚 t'	-45							基礎厚 t'	-45				
					延長	L < 10m							-20	延長			L < 10m	-20
						L ≥ 10m L < 100m							-50				L ≥ 10m L < 100m	-50
						L ≥ 100m							-100				L ≥ 100m	-100
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	9 波返工	3	波返工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2箇所。	7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	9 波返工	3	波返工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。			
					幅 w ₁ , w ₂	-30							幅 w ₁ , w ₂	-30				
					高さ h < 3m h ₁ , h ₂ , h ₃	-50							高さ h < 3m h ₁ , h ₂ , h ₃	-50				
					高さ h ≥ 3m h ₁ , h ₂ , h ₃	-100							高さ h ≥ 3m h ₁ , h ₂ , h ₃	-100				
					延長	L < 10m							-20	延長			L < 10m	-20
						L ≥ 10m L < 100m							-50				L ≥ 10m L < 100m	-50
						L ≥ 100m							-100				L ≥ 100m	-100
7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工岬	4 突堤基礎 工	4	捨石工	本均し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・ 人工岬	4 突堤基礎 工	4	捨石工	本均し	±50	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。			
					表面均し	±100							表面均し	±100				
					荒均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ							±500	荒均し			異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500
						異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ							±300				異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300
					被覆均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ							±500	被覆均し			異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500
						異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ							±300				異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300
					法長 ℓ	-100							幅は施工延長40m（測点間隔25mの 場合は50m）につき1箇所、延長40 m（又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2箇所、延長はセンター ライン及び表裏法肩。	法長 ℓ			-100	
					天端幅 w ₁	-100								天端幅 w ₁			-100	
					天端延長 L ₁	-200								天端延長 L ₁			-200	

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要								
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎 工	5	吸出し防止工	幅 w	-300	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1箇所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2箇所 。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	4 突堤基礎 工	5	吸出し防止工	幅 w	-300	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1ヶ所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所 。						
					延長 L	-500							延長 L	-500							
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	2	捨石工	基準 高▽	異形ブロック据 付面（乱積）の 高さ	±500	施工延長10mにつき、 1 測点当たり 5点以上測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	2	捨石工	基準 高▽	異形ブロック据 付面（乱積）の 高さ	±500	施工延長10mにつき、 1 測点当たり 5点以上測定。				
					高▽	異形ブロック据 付面（乱積）以 外の高さ	±300							高▽	異形ブロック据 付面（乱積）以 外の高さ	±300					
					法 長 ℓ		-100							法 長 ℓ		-100					
					天 端 幅 w ₁		-100							天 端 幅 w ₁		-100					
					天 端 延長 L ₁		-200							天 端 延長 L ₁		-200					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	5	海岸コンクリートブ ロック工	基準 高▽	(層積) ブロック 規格26 t未満	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1箇所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2箇所 。延長は、センター ラインで行う。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	5	海岸コンクリートブ ロック工	基準 高▽	(層積) ブロック 規格26 t未満	±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1ヶ所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所 。延長は、センター ラインで行う。				
					高▽	(層積) ブロック 規格26 t以上	±500							高▽	(層積) ブロック 規格26 t以上	±500					
					高▽	(乱 積)	±ブロックの高 さの 1/2							高▽	(乱 積)	±ブロックの高 さの 1/2					
					天 端 幅 w		-ブロックの高 さの 1/2							天 端 幅 w		-ブロックの高 さの 1/2					
					天 端 延長 L		-ブロックの高 さの 1/2							天 端 延長 L		-ブロックの高 さの 1/2					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	9	石砕工	基準 高▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1箇所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2箇所 。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	9	石砕工	基準 高▽		±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1ヶ所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所 。				
					厚 さ t		-50							厚 さ t		-50					
					高 さ h	h < 3 m	-50							高 さ h	h < 3 m	-50					
					高 さ h	h ≥ 3 m	-100							高 さ h	h ≥ 3 m	-100					
					延 長 L		-200							延 長 L		-200					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	10	場所打コンクリート工	基準 高▽		±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1箇所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2箇所 。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	10	場所打コンクリート工	基準 高▽		±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき 1ヶ所 、延長40m （又は50m）以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所 。				
					幅 w		-30							幅 w		-30					
					高 さ h		-30							高 さ h		-30					
					延 長 L		-200							延 長 L		-200					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	バ ラ ス ト の 基 準 高 ▽	砕 石、砂	±100	各室中央部 1箇所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本体 工	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	バ ラ ス ト の 基 準 高 ▽	砕 石、砂	±100	各室中央部 1箇所		
							コンクリート	±50									コンクリート	±50			
						壁 厚 t ₁		±10								壁 厚 t ₁		±10			
						幅 w		+30, -10								幅 w		+30, -10			
						高 さ h ₁		+30, -10								高 さ h ₁		+30, -10			
						長 さ L		+30, -10								長 さ L		+30, -10			
						底版厚さ t ₂		+30, -10								底版厚さ t ₂		+30, -10			
						フーチング高さ h ₂		+30, -10								フーチング高さ h ₂		+30, -10			

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																																																																																																					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t未満 ±100	据付完了後、両端2箇所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t未満 ±100	据付完了後、両端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t未満 ±100	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準高▽ 陸上	±30	1室につき1箇所(中心)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準高▽ 水中	±50	1室につき1ヶ所(中心)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ t	±30	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	幅 w	±30	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	長さ L	±30																																																																				
					据付目地間隔 1'、2'	ケーソン重量 2000 t未満 100以下							据付完了後、天端2箇所	7 河川 海岸 編							2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工							11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック							厚さ t	±30							据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編							2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工							11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	幅 w	±30	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	11 3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	長さ L	±30																																																										
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 1	セルラー工 (セルラー工製作)	壁厚 t	±10	型枠取外し後全数	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 1	セルラー工 (セルラー工製作)			壁厚 t	±10	型枠取外し後全数	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工			12 1	セルラー工 (セルラー工製作)	幅 w	+20, -10	型枠取外し後全数	7 河川 海岸 編			2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 1	セルラー工 (セルラー工製作)	高さ h	+20, -10	型枠取外し後全数	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 1	セルラー工 (セルラー工製作)	長さ L	+20, -10																																																																																						
					7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬							5 突堤本 体工	12 2	セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する出入 1、2					±50	据付後ブロック1個に2箇所(各段毎)			7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬			5 突堤本 体工	12 2					セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する出入 1、2							±50	据付後ブロック1個に2ヶ所(各段毎)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 2	セルラー工 (セルラー工据付)	隣接ブロックとの間隔 1'、2'	50以下	据付後ブロック1個に2ヶ所(各段毎)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 2	セルラー工 (セルラー工据付)	隣接ブロックとの間隔 1'、2'	50以下																																																																							
																7 河川 海岸 編					2 突堤・人工 岬															5 突堤本 体工							12 3							セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準高▽ 陸上							±30	1室につき1箇所(中心)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準高▽ 水中	±50	1室につき1ヶ所(中心)	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ t	±30	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	幅 w	±30	据付完了後、天端2ヶ所	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	5 突堤本 体工	12 3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	長さ L	±30																																								
																																																			7 河川 海岸 編							2 突堤・人工 岬							6 根固め 工	2							捨石工	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ							±500	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。							7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	2	捨石工	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	2	捨石工	異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ	±300	施工延長10mにつき、1測点当たり 5点以上測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	2	捨石工	法長 ℓ	-100	幅は施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1ヶ所、延長40 m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所、延長はセンター ライン及び表裏法肩。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	2	捨石工	天端幅 w	-100	幅は施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1ヶ所、延長40 m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所、延長はセンター ライン及び表裏法肩。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	2	捨石工	天端延長 L	-200			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3	根固めブロック工	基準高▽ 層積	±300	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2箇所。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3	根固めブロック工	基準高▽ 乱積	±t/2	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。		7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3		根固めブロック工	厚さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3	根固めブロック工	幅 w ₁	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬		6 根固め 工	3	根固めブロック工	幅 w ₂	-t/2	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3	根固めブロック工	延長 L ₁			-200	1施工箇所毎	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	6 根固め 工	3																	根固めブロック工							延長 L ₂													-t/2																																				
					7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬							6 根固め 工	3									根固めブロック工	基準高▽ 層積							±300	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。								7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬								6 根固め 工			3																													根固めブロック工													基準高▽ 乱積	±t/2							施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。	7 河川 海岸 編							2 突堤・人工 岬	6 根固め 工							3	根固めブロック工							厚さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要																																																																																																																																												
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	基準高▽	層積 ±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	基準高▽	層積 ±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	基準高▽	層積 ±300	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	基準高▽	乱積 ±t/2	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	基準高▽	厚さ t -20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	幅 w ₁	層積 -20	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	幅 w ₂	乱積 -t/2	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	延長 L ₁	層積 -200	幅、厚さは40個につき1箇所測定。	7 河川 海岸 編	2 突堤・人工 岬	7 消波 工	3	消波ブロック工	延長 L ₂	乱積 -t/2	幅、厚さは40個につき1箇所測定。																																																																																		
					7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）							3 海域堤防基礎工	3							捨石工	基準高▽							本均し	±50							施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	7 河川 海岸 編							3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工							3	捨石工							基準高▽	本均し							±50	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	荒均し	異形ブロック付面(乱積)の 高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	荒均し	異形ブロック付面(乱積) 以外の高さ	±300	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	被覆均し	異形ブロック付面(乱積) の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	被覆均し	異形ブロック付面(乱積) 以外の高さ	±300	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。																																										
																													7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）																																3 海域堤防基礎工							3									捨石工	基準高▽	法長 ℓ								-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。	7 河川 海岸 編								3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3								捨石工	基準高▽	法長 ℓ		-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。	7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	天端幅 w ₁	-100	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。	7 河川 海岸 編	3 海域堤防（人工 リーフ、離岸堤、 潜堤）	3 海域堤防基礎工	3	捨石工	基準高▽	天端延長 L ₁	-200	幅は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。																						
																																																																																8 砂防 編								1 砂防えん堤																						3 工場製作工		4								鋼製えん堤仮設材製作工	部材								部材長 ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10		図面の寸法表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	3 工場製作工	4	鋼製えん堤仮設材製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所測定。												
																																																																																																																																	8 砂防 編	1 砂防えん堤									8 コンクリートえん堤 本体工	4		コンクリートえん堤本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	4	コンクリート堰堤本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所測定。
																																																																																																																																																8 砂防 編								1 砂防えん堤	
8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤 堤工	4	コンクリートえん堤堤工			水通し幅 ℓ ₁ , ℓ ₂	±50	図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工			4	コンクリート堰堤本体工	水通し幅 ℓ ₁ , ℓ ₂	±50	図面の表示箇所測定。																																																																																																																																						
					8 砂防 編	1 砂防えん堤		8 コンクリートえん堤 堤工					4	コンクリートえん堤堤工				堤長 L ₁ , L ₂		-100	図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	4	コンクリート堰堤本体工	堤長 L ₁ , L ₂	-100			図面の表示箇所測定。																																																																																																																										
																				8 砂防 編								1 砂防えん堤	8 コンクリート側壁工	6		コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	6	コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。																																																																																																														
																																		8 砂防 編								1 砂防えん堤		8 コンクリートえん堤 堤工	6	コンクリートえん堤堤工	幅 w ₁ , w ₂	-30	図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	6	コンクリート側壁工	幅 w ₁ , w ₂	-30	図面の表示箇所測定。																																																																																																
																																																8 砂防 編								1 砂防えん堤		8 コンクリートえん堤 堤工	6	コンクリートえん堤堤工	長さ L	-100	図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	6	コンクリート側壁工	長さ L	-100	図面の表示箇所測定。																																																																																		
																																																														8 砂防 編								1 砂防えん堤		8 コンクリート側壁工	6	コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	6	コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。																																																																				
8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤 堤工	8	水叩工			基準高▽		±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤			8 コンクリート 堰堤工	8	水叩工		基準高▽																																																									±30								基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。																																																																					
					8 砂防 編	1 砂防えん堤		8 コンクリートえん堤 堤工	8				水叩工	幅 w				-100			図面の表示箇所測定。	8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	8	水叩工	幅 w				-100																																													図面の表示箇所測定。																																																																													
																		8 砂防 編		1 砂防えん堤								8 コンクリートえん堤 堤工	8	水叩工	厚さ t	-30	図面の表示箇所測定。		8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	8	水叩工	厚さ t	-30		図面の表示箇所測定。																																																																																																														
																																8 砂防 編		1 砂防えん堤							8 コンクリートえん堤 堤工	8		水叩工	延長 L	-100	図面の表示箇所測定。		8 砂防 編	1 砂防えん堤	8 コンクリート 堰堤工	8	水叩工	延長 L	-100		図面の表示箇所測定。																																																																																																

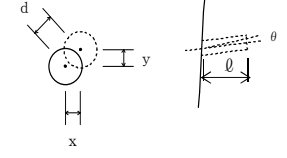
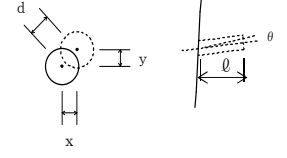
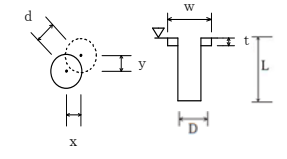
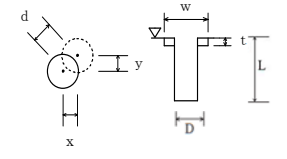
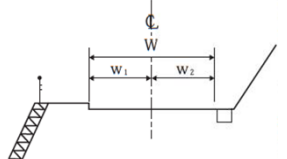
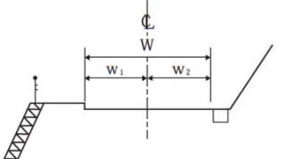
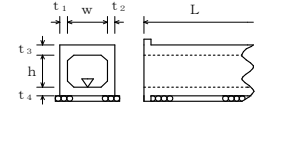
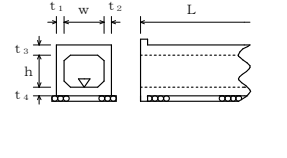
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工 (不透過型)	5 1	堤 高 ▽	±50	1. 図面の表示箇所にて測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工 (不透過型)	5 1	堤 高 ▽	±50	1. 図面の表示箇所にて測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。				
			長 さ l_1, l_2	±100						長 さ l_1, l_2	±100					
			幅 w_1, w_3	±50						幅 w_1, w_3	±50					
			下流側倒れ △	±0.02H ₁						下流側倒れ △	±0.02H ₁					
			袖 高 ▽	±50						袖 高 ▽	±50					
			幅 w_2	±50						幅 w_2	±50					
		下流側倒れ △	±0.02H ₂			下流側倒れ △	±0.02H ₂									
8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工 (透過型)	5 2	堤長L 格	±50	(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型		8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工 (透過型)	5 2	堤長L 格	±50	(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型				
			堤長 l 格・B・L	±10						堤長 l 格・B・L	±10					
			堤幅W 格	±30						堤幅W 格	±30					
			堤幅w 格・B・L	±10						堤幅w 格・A・B・L	±10					
			堤幅w A	±5						高さH 格・B・L	±10					
			高さH 格・B・L	±10						高さH A	±5					
			高さH A	±5												
8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鉄製えん堤工	6	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		8 砂防編 1 砂防えん堤	9 鉄製えん堤工	6	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。				
			長 さ L	±100						長 さ L	±100					
			幅 w_1, w_2	±50						幅 w_1, w_2	±50					
			下流側倒れ △	±0.02H						下流側倒れ △	±0.02H					
			高さ h	h < 3m -50 h ≥ 3m -100						高さ h	h < 3m -50 h ≥ 3m -100					
8 砂防編 2 流路	5 床固め工	8	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）		8 砂防編 2 流路	5 床固め工	8	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）				
			幅 w	-30						幅 w	-30					
			高さ h_1, h_2	-30						高さ h_1, h_2	-30					
			厚 さ t_1, t_2	-20						厚 さ t_1, t_2	-20					
			延 長	L < 10m						-20	延 長				L < 10m	-20
				L ≥ 10m						-50					L ≥ 10m	-50
L < 100m	-50	L < 100m		-50												
	L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100											
8 砂防編 3 斜面対策	6 山腹水路工	4	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）		8 砂防編 3 斜面対策	6 山腹水路工	4	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。（なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。）				
			厚 さ t_1, t_2	-20						厚 さ t_1, t_2	-20					
			幅 w	-30						幅 w	-30					
			幅 w_1, w_2	-50						幅 w_1, w_2	-50					
			高さ h_1, h_2	-30						高さ h_1, h_2	-30					
			深 さ h_3	-30						深 さ h_3	-30					
			延 長	L < 10m						-20	延 長				L < 10m	-20
				L ≥ 10m						-50					L ≥ 10m	-50
L < 100m	-50	L < 100m		-50												
L ≥ 100m	-100	L ≥ 100m		-100												

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
8 砂防編 3 斜面対策 7 地下水排除工 4	集排水ボーリング工	削孔深さ ℓ	設計値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$		8 砂防編 3 斜面対策 7 地下水排除工 4	集排水ボーリング工	削孔深さ ℓ	設計値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$			
		配置誤差 d	100						配置誤差 d	100					
		せん孔方向 θ	± 2.5 度						せん孔方向 θ	± 2.5 度					
8 砂防編 3 斜面対策 7 地下水排除工 5	集水井工	基準高 ∇	± 50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。 基準高、深さについては4箇所測定する。 径は中心線をとる直角2方向とし、上下の2箇所測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$		8 砂防編 3 斜面対策 7 地下水排除工 5	集水井工	基準高 ∇	± 50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。 基準高、深さについては4箇所測定する。 径は中心線をとる直角2方向とし、上下の2箇所測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$			
		偏心量 d	150						偏心量 d	150					
		長さ L	-100						長さ L	-100					
		巻立て幅 w	-50						巻立て幅 w	-50					
		巻立て厚さ t	-30						巻立て厚さ t	-30					
		径 D	-30						径 D	-30					
8 砂防編 3 斜面対策 9 抑止杭工 6	合成杭工	基準高 ∇	± 50	全数測定。			8 砂防編 3 斜面対策 9 抑止杭工 6	合成杭工	基準高 ∇	± 50	全数測定。				
		偏心量 d	D/4以内かつ100以内						偏心量 d	D/4以内かつ100以内					
		根入長	設計値以上						根入長	設計値以上					
10 道路編 1 道路改良 1 適用	道路改良	基準高	± 30	基礎高、幅は、延長40m（測点間隔25mの場合は50m）に、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。		道路中心線は座標管理の場合は座標値とする。	10 道路編 1 道路改良 1 適用	道路改良	基準高	± 30	基礎高、幅は、延長40m（測点間隔25mの場合は50m）に、1箇所の割とし、基準高は、道路中心線及びその端部で測定する。		道路中心線は座標管理の場合は座標値とする。		
		幅W、 w_1 、 w_2	-25						幅W、 w_1 、 w_2	-25					
		延長	L < 10m						-20	延長				L < 10m	-20
			L \geq 10m L < 100m						-50					L \geq 10m L < 100m	-50
			L \geq 100m						-100					L \geq 100m	-100
10 道路編 1 道路改良 3 工場製作工 2	遮音壁支柱製作工	部材 部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所測定。			10 道路編 1 道路改良 3 工場製作工 2	遮音壁支柱製作工	部材 部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所測定。				
10 道路編 1 道路改良 9 カルバート工 6	場所打函渠工	基準高 ∇	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所測定。			10 道路編 1 道路改良 9 カルバート工 6	場所打函渠工	基準高 ∇	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所測定。				
		厚さ $t_1 \sim t_4$	-20						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20					
		幅(内法) w	-30						幅(内法) w	-30					
		高さ h	± 30						高さ h	± 30					
		延長	L < 10m						-20	延長				L < 10m	-20
			L \geq 10m L < 100m						-50					L \geq 10m L < 100m	-50
			L \geq 100m						-100					L \geq 100m	-100

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4	落石防止網工	幅 w	-200	1 施工箇所毎	10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4	落石防止網工	幅 w	-200				
					延長 L	-100							延長 L	-100				
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5	落石防護柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5	落石防護柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					延長	L < 10m							-20	1 施工箇所毎		延長	L < 10m	-20
						L ≥ 10m L < 100m							-50				L ≥ 10m L < 100m	-50
						L ≥ 100m							-100				L ≥ 100m	-100
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6	防雪柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6	防雪柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					基礎	幅 w ₁ , w ₂							-30	基礎1基毎		基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
						高さ h							-30				高さ h	-30
					延長	L < 10m							-20	1 施工箇所毎		延長	L < 10m	-20
L ≥ 10m L < 100m	-50	L ≥ 10m L < 100m	-50															
		L ≥ 100m	-100			L ≥ 100m	-100											
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	7	雪崩予防柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	7	雪崩予防柵工	高さ h	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					基礎	幅 w ₁ , w ₂							-30	基礎1基毎		基礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
						高さ h							-30				高さ h	-30
					アンカー長	打込み ℓ							-10%	全数		アンカー長	打込み ℓ	-10%
						埋込み ℓ							-5%				埋込み ℓ	-5%
					延長	L < 10m							-20	1 施工箇所毎		延長	L < 10m	-20
L ≥ 10m L < 100m	-50	L ≥ 10m L < 100m	-50															
L ≥ 100m	-100	L ≥ 100m	-100															
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	4	遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	4	遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
					高さ h	-30							高さ h	-30				
					延長 L	-100							延長 L	-100				
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5	遮音壁本体工	支柱	間隔 w ₁ , w ₂	±15	施工延長5スパンにつき1箇所	10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5	遮音壁本体工	支柱	間隔 w ₁ , w ₂	±15	施工延長5スパンにつき1ヶ所	
						ずれ a	10								支柱	ずれ a		10
						ねじれ b-c	5									ねじれ b-c		5
						倒れ d	h × 0.5%									倒れ d		h × 0.5%
					高さ h	+30, -20	高さ h							+30, -20				
							延長 L							-100			延長 L	-100

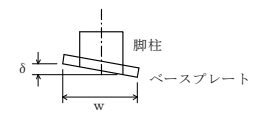
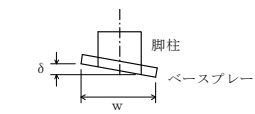
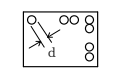
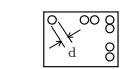
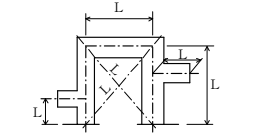
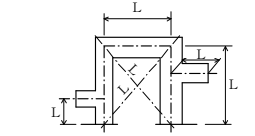
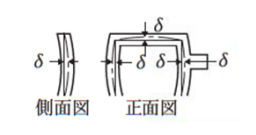
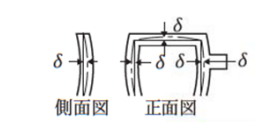
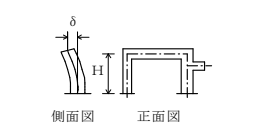
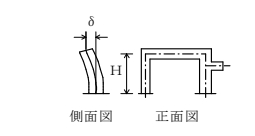
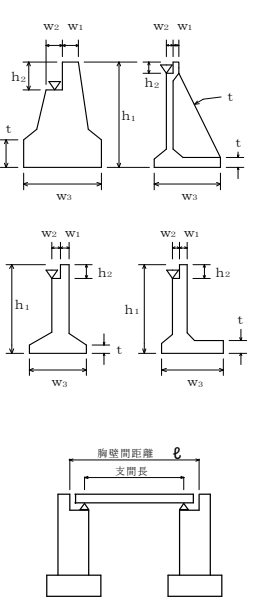
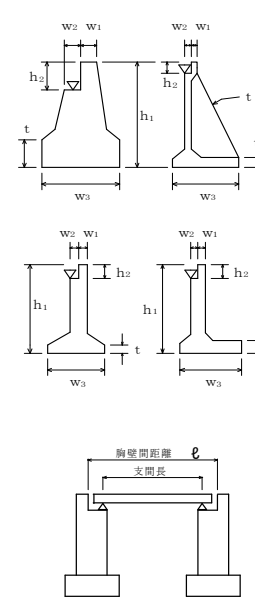
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
10 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			10 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
						延 長	L < 10m	-20									1箇所 / 1施工箇所	L < 10m	-20			1ヶ所 / 1施工箇所	
							L ≥ 10m	-50											L ≥ 10m			-50	
							L < 100m	-50														L < 100m	-50
	L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100																		
10 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20	1箇所 / 1踏掛版			10 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20	1ヶ所 / 1踏掛版				
						各 部 の 厚 さ	±20	1箇所 / 1踏掛版									各 部 の 厚 さ	±20	1ヶ所 / 1踏掛版				
						各 部 の 長 さ	±30	1箇所 / 1踏掛版									各 部 の 長 さ	±30	1ヶ所 / 1踏掛版				
						(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	±20									全数	(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ			±20	全数
						厚 さ	—										厚 さ	—					
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20									全数	(アンカーボルト)	中 心 の ず れ			±20	全数
						ア ン カ ー 長	±20	全数									ア ン カ ー 長	±20	全数				
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w ₁ , w ₂	-30	基礎1基毎			10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w ₁ , w ₂	-30	基礎1基毎				
						高 さ h	-30										高 さ h	-30					
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1箇所 / 1基			10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所 / 1基				
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50	接続部間毎に1箇所			10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50	接続部間毎に1ヶ所				
						延 長	L < 10m	-20									接続部間毎で全数	L < 10m	-20			接続部間毎で全数	
							L ≥ 10m	-50											L ≥ 10m			-50	
							L < 100m	-50														L < 100m	-50
	L ≥ 100m	-100		L ≥ 100m	-100																		
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30	1箇所毎 ※印は、現場打部分のある場合			10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※印は、現場打部分のある場合				
						※厚さ t ₁ ~t ₅	-20										※厚さ t ₁ ~t ₅	-20					
						※幅 w ₁ , w ₂	-30										※幅 w ₁ , w ₂	-30					
						※高さ h ₁ , h ₂	-30										※高さ h ₁ , h ₂	-30					
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所 / 1施工箇所			10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1ヶ所 / 1施工箇所				
						高 さ h	-30										高 さ h	-30					

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要										
10 道路 編	3 橋梁 下部	3 工場 製作 工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。			10 道路 編	3 橋梁 下部	3 工場 製作 工		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。											
							ベースプレート	孔の位置	± 2	全数を測定。										ベースプレート	孔の位置		± 2	全数を測定。							
								孔の径 d	$0 \sim 5$	全数を測定。											孔の径 d		$0 \sim 5$	全数を測定。							
							仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots L \leq 10m$ $\pm 10 \dots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10) \dots 20m < L$	両端部及び片持ばり部を測定。										仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)		$\pm 5 \dots L \leq 10m$ $\pm 10 \dots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10) \dots 20m < L$	両端部及び片持ばり部を測定。							
						はりのキャンパー及び柱の曲がり δ (mm)		$L/1,000$	各主構の各格点を測定。								はりのキャンパー及び柱の曲がり δ (mm)	$L/1,000$			各主構の各格点を測定。										
						柱の鉛直度 δ (mm)		$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)												柱の鉛直度 δ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)								
						10 道路 編	3 橋梁 下部	6 橋台 工	8		橋台躯体工						基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。			10 道路 編	3 橋梁 下部	6 橋台 工	8	橋台躯体工	基準高 ∇	± 20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
																	厚 さ t	-20													
																	天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10													
																	天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10													
																	敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50													
高 さ h_1	-50																														
胸壁の高さ h_2	-30																														
天 端 長 l_1	-50																														
敷 長 l_2	-50																														
胸壁間距離 l	± 30																														
支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50																														
支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	$+10 \sim -20$			支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値							計画高	$+10 \sim -20$																		
	平面位置	± 20				平面位置	± 20																								
	アンカーボルトの鉛直度	$1/50$ 以下				アンカーボルトの鉛直度	$1/50$ 以下																								

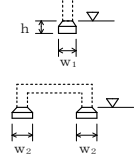
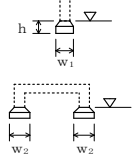
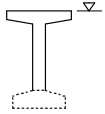
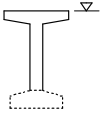
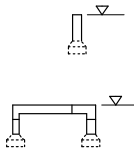
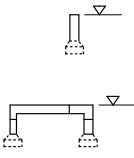
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
10	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。				10	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。			
						厚 さ t	-20											厚 さ t	-20				
						天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-20											天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	-20				
						敷 幅 w ₂ (橋軸方向)	-50											敷 幅 w ₂ (橋軸方向)	-50				
						高 さ h	-50											高 さ h	-50				
						天 端 長 l ₁	-50											天 端 長 l ₁	-50				
						敷 長 l ₂	-50											敷 長 l ₂	-50				
						橋脚中心間距離 ℓ	±30											橋脚中心間距離 ℓ	±30				
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50											支 間 長 及 び 中心線の変位	±50				
						支 承 部 アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	計 画 高											+10~-20	計 画 高				
平 面 位 置	±20	平 面 位 置	±20																				
アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下																				
10	3	7	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。			10	3	7	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。				
						厚 さ t	-20										厚 さ t	-20					
						天 端 幅 w ₁	-20										天 端 幅 w ₁	-20					
						敷 幅 w ₂	-20										敷 幅 w ₂	-20					
						高 さ h	-50										高 さ h	-50					
						長 さ ℓ	-20										長 さ ℓ	-20					
						橋脚中心間距離 ℓ	±30										橋脚中心間距離 ℓ	±30					
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50										支 間 長 及 び 中心線の変位	±50					
						支 承 部 アンカー ボルトの 箱抜き 規格値	計 画 高										+10~-20	計 画 高					+10~-20
							平 面 位 置										±20	平 面 位 置					±20
アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下																				
10	3	8	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			10	3	8	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
						幅 (橋軸方向) w	-50										幅 (橋軸方向) w	-50					
						高 さ h	-50										高 さ h	-50					
						長 さ ℓ	-50										長 さ ℓ	-50					

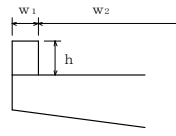
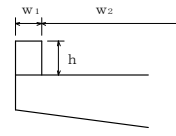
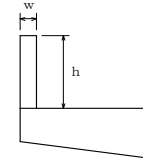
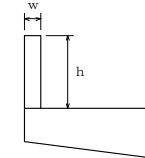
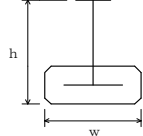
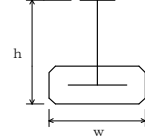
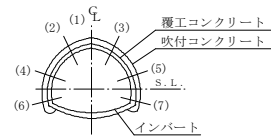
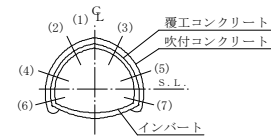
単位：mm

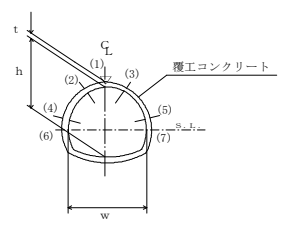
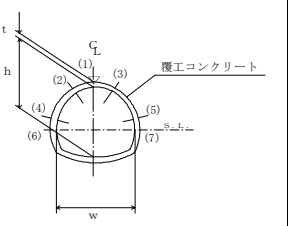
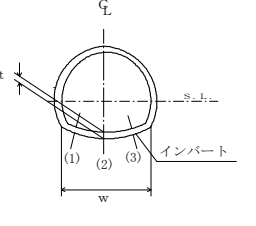
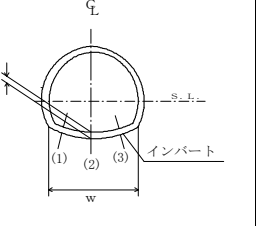
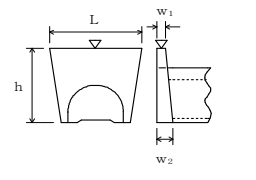
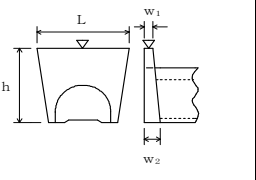
単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	9 2	橋脚フーチング工 (門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 	10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	9 2	橋脚フーチング工 (門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 		
					幅 w ₁ , w ₂	-50							幅 w ₁ , w ₂	-50			
					高さ h	-50							高さ h	-50			
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	10 1	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 	10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	10 1	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 		
					橋脚中心間距離 l	±30							橋脚中心間距離 l	±30			
					支間長及び中心線の変位	±50							支間長及び中心線の変位	±50			
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	10 2	橋脚架設工 (門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 	10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	10 2	橋脚架設工 (門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 		
					橋脚中心間距離 l	±30							橋脚中心間距離 l	±30			
					支間長及び中心線の変位	±50							支間長及び中心線の変位	±50			
10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	11	現場継手工	現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合	10 道路 編	3 橋梁 下部	8 鋼製 橋脚 工	11	現場継手工	現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		
10 道路 編	4 鋼橋 上部	3 工場 製作 工	9	橋梁用高欄製作工	部材 部材長 l (m)	±3……… l ≤ 10 ±4……… l > 10	図面の寸法表示箇所で測定。	10 道路 編	4 鋼橋 上部	3 工場 製作 工	9	橋梁用高欄製作工	部材 部材長 l (m)	±3……… l ≤ 10 ±4……… l > 10	図面の寸法表示箇所で測定。		
10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10 1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。	10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10 1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
					可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上							可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上			
					支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5							4+0.5 × (B-2)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)			コンクリート橋 ±5 鋼橋 4+0.5 × (B-2)
					水下平査度の 橋軸方向	1/100								水下平査度の 橋軸方向			1/100
					橋軸直角方向									橋軸直角方向			
					可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5								可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差			5
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上		可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上													
10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10 2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。	10 道路 編	4 鋼橋 上部	5 鋼橋 架設 工	10 2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		
					可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上							可動支承の移動可能量 注2)	設計移動量 +10以上			
					支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5							4+0.5 × (B-2)	支承中心間隔 (橋軸直角方向)			コンクリート橋 ±5 鋼橋 4+0.5 × (B-2)
					水支平査度の 橋軸方向	1/300								水支平査度の 橋軸方向			1/300
					橋軸直角方向									橋軸直角方向			
					可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5								可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差			5
可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上		可動支承の移動量 注3)	温度変化に伴う移動量計算値の 1/2以上													

単位：mm

単位：mm

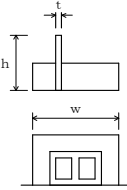
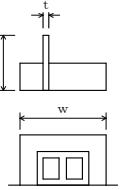
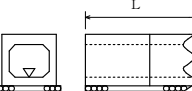
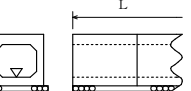
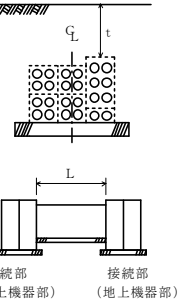
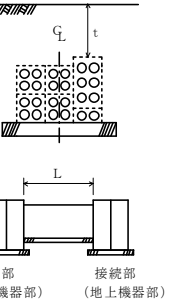
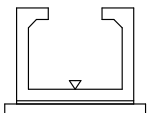
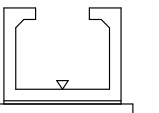
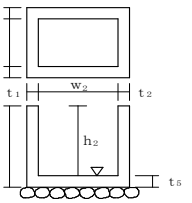
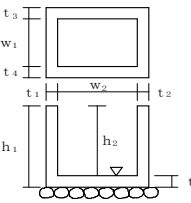
編 号	章 節	条 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 号	章 節	条 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	3	落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定			10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	3	落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定			
					アンカーボルト定着長	-20以内 かつ -1D以内									全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)	アンカーボルト定着長				-20以内 かつ -1D以内
10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	5	地覆工	地覆の幅 w_1	-10～+20	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	5	地覆工	地覆の幅 w_1	-10～+20	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。			
					地覆の高さ h	-10～+20									地覆の高さ h	-10～+20				
					有効幅員 w_2	0～+30									有効幅員 w_2	0～+30				
10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	6 橋梁用防護柵工	幅 w	-5～+10	1径間当たり両端と中央部の3箇所測定。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	6 橋梁用防護柵工	幅 w	-5～+10	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。					
				高 さ h	-20～+30								高 さ h	-20～+30						
10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	8	検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。			10 道路 編	4 鋼橋 上部	8 橋梁 付属 物工	8	検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。			
					高 さ	±4									高 さ	±4				
10 道路 編	5 コン クリ ート 橋上 部	6 プレ ビ ー ム 桁 橋 工	2	プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスト レッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中 央部の3箇所とする。 ϕ ：スパン長			10 道路 編	5 コン クリ ート 橋上 部	6 プレ ビ ー ム 桁 橋 工	2	プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスト レッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中 央部の3ヶ所とする。 ϕ ：スパン長			
					高 さ h	+10 -5									高 さ h	+10 -5				
					桁 長 ϕ スパン長	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots$ $\pm (\phi - 5)$ かつ -30mm以内									桁 長 ϕ スパン長	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots$ $\pm (\phi - 5)$ かつ -30mm以内				
					横方向最大タワミ	0.8 ϕ									横方向最大タワミ	0.8 ϕ				
10 道路 編	6 トン ネル (NATM)	4 支保 工	3	吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準 (構造編) にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。			10 道路 編	6 トン ネル (NATM)	4 支保 工	3	吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準 (構造編) にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。			
10 道路 編	6 トン ネル (NATM)	4 支保 工	4	ロックボルト工	位置間隔	—	施工延長40m毎に断面全数検測。			10 道路 編	6 トン ネル (NATM)	4 支保 工	4	ロックボルト工	位置間隔	—	施工延長40m毎に断面全数検測。			
					角 度	—									角 度	—				
					削 孔 深 さ	—									削 孔 深 さ	—				
					孔 径	—									孔 径	—				
					突 出 量	プレート下面から10cm以内									突 出 量	プレート下面から10cm以内				

旧							新														
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		道路中心線は座標管理の場合と値する。	10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	3	覆工コンクリート工	基準高▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)～(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		道路中心線は座標管理の場合と値する。	
						幅 w (全幅)	-50														
						高さ h (内法)	-50														
						厚 さ t	設計値以上														
						延 長 L	—														
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	5 覆 工	5	床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚 さ t	-30														
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	6 イン バ ート 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		道路中心線は座標管理の場合と値する。	10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	6 イン バ ート 工	4	インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		道路中心線は座標管理の場合と値する。	
						厚 さ t	設計値以上														
						延 長 L	—														
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基準高▽	±50	図面の主要寸法表示箇所にて測定。			10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	4	坑門本体工	基準高▽	±50	図面の主要寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w ₁ , w ₂	-30														
						高さ h	h < 3m									-50					
							h ≥ 3m									-100					
						延 長 L	-200														

旧					新																
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高▽ (拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		道路中心線は座標管理の座標値とする。	10 道路 編	6 トン ネル (N A T M)	8 坑 門 工	5	明り巻工	基準高▽ (拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		道路中心線は座標管理の座標値とする。	
						幅 w (全幅)	-50														
						高さ h (内法)	-50														
						厚 さ t	-20														
						延 長 L	—														
10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基準高▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所を測定。		10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2	現場打躯体工	基準高▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所を測定。				
						厚 さ t	-20														
						内 空 幅 w	-30														
						内 空 高 h	±30														
						ブロック長 L	-50														
10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所を測定。		10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4	カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所を測定。				
						幅 w	-20														
						長 さ L	-20														
10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。		10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。			
10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		10 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。			

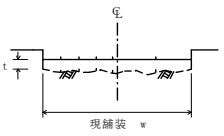
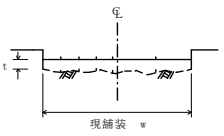
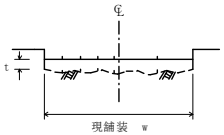
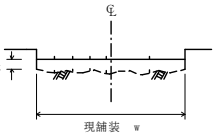
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所 で測定。			10 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打構 築工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所 で測定。		
						幅 w	±50														
						厚 さ t	-20														
10 道路 編	11 共同 溝	7 プレ キャスト 構築 工	2	プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1箇所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2箇所。ただし、基準高の 適用は据付後の段階検査時のみ適用 する。			10 道路 編	11 共同 溝	7 プレ キャスト 構築 工	2	プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合 は50m）につき1ヶ所、延長40m （又は50m）以下のものは1施工箇 所につき2ヶ所。ただし、基準高の 適用は据付後の段階検査時のみ適用 する。				
					延 長	L < 10m									-20	延長：1施工箇所毎					
						L ≥ 10m L < 100m									-50						
						L ≥ 100m									-100						
10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	2	管路工（管路部）	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1箇 所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】			10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	2	管路工（管路部）	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ 所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】				
					延 長	L < 10m									-20						
						L ≥ 10m L < 100m									-50						
						L ≥ 100m									-100						
10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	3	プレキャストボックス 工（特殊部）	基 準 高 ▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1箇 所。 1施工箇所毎			10 道路 編	12 電線 共同 溝	5 電線 共同 溝工	3	プレキャストボックス 工（特殊部）	基 準 高 ▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ 所。 1施工箇所毎				
					延 長	L < 10m									-20						
						L ≥ 10m L < 100m									-50						
						L ≥ 100m									-100						
10 道路 編	12 電線 共同 溝	6 付帯 設備 工	2	ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合			10 道路 編	12 電線 共同 溝	6 付帯 設備 工	2	ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合				
					※厚 さ t ₁ ～t ₅	-20															
					※幅 w ₁ , w ₂	-30															
					※高 さ h ₁ , h ₂	-30															

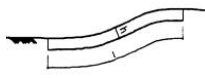
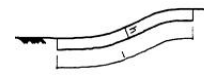
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X _n)											個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X _n)			
10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1箇所割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	5		切削オーバーレイ工			第3編2-6-15路面切削工、第3編2-6-17オーバーレイ工に準ずる。				
						幅 w	-25																
						延長 L	-100																
						平坦性	—										3m ² プロファイル (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下						
10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	7		路上再生工	厚さ t	-30	幅は延長40m毎に1箇所割で測定。 厚さは、2,000m ² までは3割とし、2,000m ² を超えたときは、1,000m ² 毎に1割とし掘起して測定。			10 道路 編	14 道路 維持	4 舗装 工	7	路上再生工	厚さ t	-30	幅は延長40m毎に1ヶ所割で測定。 厚さは、2,000m ² までは3割とし、2,000m ² を超えたときは、1,000m ² 毎に1割とし掘起して測定。		施工面積300m ² 未満においては厚さ管理を水糸による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は1施工箇所毎の面積とする。			
						幅 w	-50																
						延長 L	-100																
						路盤工																	

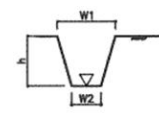
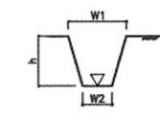
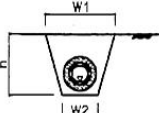
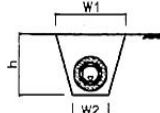
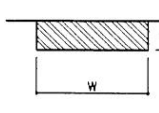
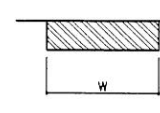
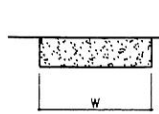
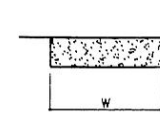
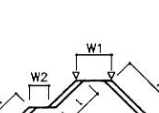
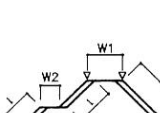
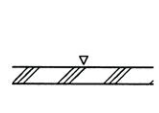
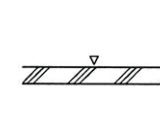
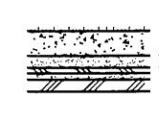
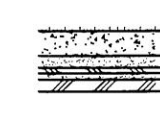


単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
11	公園編	1	3	2	表土保全工 (表土掘削)	法長ℓ	ℓ<5m -200 法長の -4%	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11	公園編	1	3	2	表土保全工 (表土掘削)	法長ℓ	ℓ<5m -200 法長の -4%	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 施工面積1,600㎡につき1箇所、面積1,600㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
11	公園編	1	3	4	掘削工 (掘削(土砂)) (掘削(軟岩)) (掘削(硬岩))			第1編2-3-2掘削工に準ずる。			11	公園編	1	3	4	掘削工 (掘削(土砂)) (掘削(軟岩)) (掘削(硬岩))			第1編2-3-2、2-4-2掘削工に準ずる。		
11	公園編	1	3	5	盛土工 (盛土(流用土)) (盛土(発生土)) (盛土(採取土)) (盛土(購入土))			第1編2-3-3盛土工に準ずる。			11	公園編	1	3	5	盛土工 (盛土(流用土)) (盛土(発生土)) (盛土(採取土)) (盛土(購入土))			第1編2-3-3盛土工に準ずる。		
11	公園編	1	3	6	路床盛土工 (路床(流用土)) (路床(発生土)) (路床(採取土)) (路床(購入土))			第1編2-4-3路床盛土工に準ずる。			11	公園編	1	3	6	路床盛土工 (路床(流用土)) (路床(発生土)) (路床(採取土)) (路床(購入土))			第1編2-4-3路床盛土および第1編2-4-4路床盛土工に準ずる。		
11	公園編	1	3	7	法面整形工 (法面整形(盛土部))			第1編2-4-5法面整形工(盛土部)に準ずる。			11	公園編	1	3	7	法面整形工 (法面整形(盛土部))			第1編2-4-5法面整形工(盛土部)に準ずる。		
11	公園編	1	3	8	路床安定処理工 (安定処理)			第3編2-7-2路床安定処理工に準ずる。			11	公園編	1	3	8	路床安定処理工 (安定処理)			第3編2-7-2路床安定処理工に準ずる。		
11	公園編	1	3	9	置換工 (置換)			第3編2-7-3置換工に準ずる。			11	公園編	1	3	9	置換工 (置換)			第3編2-7-3置換工に準ずる。		
11	公園編	1	3	10	サンドマット工 (サンドマット)			第3編2-7-6サンドマット工に準ずる。			11	公園編	1	3	10	サンドマット工 (サンドマット)			第3編2-7-6サンドマット工に準ずる。		
11	公園編	1	3	11	パーチカルドレーン工 (サンドドレーン) (袋詰め式サンドドレーン) (ペーパードレーン)			第3編2-7-7パーチカルドレーン工に準ずる。			11	公園編	1	3	11	パーチカルドレーン工 (パーチカルドレーン)			第3編2-7-7パーチカルドレーン工に準ずる。		

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要								
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	1	透水層工 (開渠排水)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	1	透水層工 (開渠排水)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。									
						幅W ₁ 、W ₂	-50											高さh	-30					延長L	-100	1施工箇所毎			
						幅W ₁ 、W ₂	-50											高さh	-30					延長L	-100	1施工箇所毎			
						幅W ₁ 、W ₂	-50											高さh	-30					延長L	-100	1施工箇所毎			
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	2	透水層工 (暗渠排水)	幅W ₁ 、W ₂	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	2	透水層工 (暗渠排水)	幅W ₁ 、W ₂	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						深さh	-30											延長	L < 10m					-20	L >= 10m L < 100 m	-50	L >= 100 m	-100	1施工箇所毎
						深さh	-30												L < 10m					-20	L >= 10m L < 100 m	-50	L >= 100 m	-100	1施工箇所毎
						深さh	-30												L < 10m					-20	L >= 10m L < 100 m	-50	L >= 100 m	-100	1施工箇所毎
深さh	-30	L < 10m	-20	L >= 10m L < 100 m	-50	L >= 100 m	-100	1施工箇所毎																					
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	4		土層改良工 (普通耕) (深耕) (混層耕) (心土破碎)	幅W	-100	耕耘タイプ毎につき1箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	4		土層改良工 (普通耕) (深耕) (混層耕) (心土破碎)	幅W	-100	耕耘タイプ毎につき1箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						深さh	-50											深さh	-50										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	5		土性改良土 (土性改良) (中和剤施用) (除塩) (施肥)	幅W	-100	施肥配合タイプあるいは除塩毎につき1箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	5		土性改良土 (土性改良) (中和剤施用) (除塩) (施肥)	幅W	-100	施肥配合タイプあるいは除塩毎につき1箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						深さh	-50											深さh	-50										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	6		表土盛土工 (盛土 (流用表土)) (盛土 (発生表土)) (盛土 (採取表土)) (盛土 (購入表土))	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法層で測定。又は、施工面積のほぼ中心と各法層で測定。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	6		表土盛土工 (盛土 (流用表土)) (盛土 (発生表土)) (盛土 (採取表土)) (盛土 (購入表土))	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。施工面積1,000㎡につき1箇所、面積1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法層で測定。又は、施工面積のほぼ中心と各法層で測定。									
						法長φ	φ < 5m											-100	φ >= 5m					法長の -2%	幅W ₁ 、W ₂	-100			
							φ < 5m											-100	φ >= 5m					法長の -2%		幅W ₁ 、W ₂	-100		
						幅W ₁ 、W ₂	-100											幅W ₁ 、W ₂	-100										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	1	人工地盤工 (押さえコンクリート)	基準高▽	設計値以上					11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	1	人工地盤工 (押さえコンクリート)	基準高▽	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						厚さt	設計値以上											厚さt	設計値以上										
						幅	-25											幅	-25										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	2	人工地盤工 (人工地盤排水層)	延長L	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	2	人工地盤工 (人工地盤排水層)	延長L	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						深さh	-30											深さh	-30										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	3	人工地盤工 (フィルター) (防根シート)	延長L	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	3	人工地盤工 (フィルター) (防根シート)	延長L	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
						延長L	-100											延長L	-100										
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	4	人工地盤工 (立排水浸透樹)	基準高▽	±30	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合。				11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	7	4	人工地盤工 (立排水浸透樹)	基準高▽	±30	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合。									
						※厚さ t ₁ ~t ₄	-20											※厚さ t ₁ ~t ₄	-20										
						※幅W ₁ 、W ₂	-30											※幅W ₁ 、W ₂	-30										
						※高さh	-30											※高さh	-30										

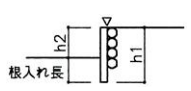
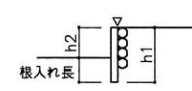
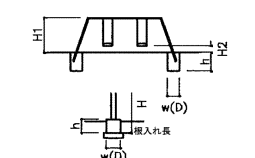
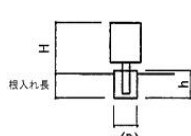
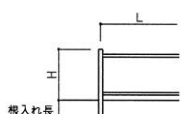
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
11	公園編	1	6	3	法面ネット工 (法面ネット)			第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。			11	公園編	1	6	3	法面ネット工 (法面ネット)			第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。			
11	公園編	1	6	4	1	植生工 (種子散布) (植生シート) (植生マット) (公園種子帯) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝) (人工張芝) (植生穴)		第3編2-14-2-1植生工(種子散布工)(張芝工)(筋芝工)(市松芝工)(植生シート工)(植生マット工)(植生筋工)(人工張芝工)(植生穴工)に準ずる。			11	公園編	1	6	4	1	植生工 (種子散布) (植生シート) (植生マット) (公園種子帯) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝) (人工張芝) (植生穴)			第3編2-14-2-1植生工(種子散布工)(張芝工)(筋芝工)(市松芝工)(植生シート工)(植生マット工)(植生筋工)(人工張芝工)(植生穴工)に準ずる。		
11	公園編	1	6	4	2	植生工 (客土吹付) (植生基材吹付)		第3編2-14-2-2植生工(植生基材吹付工)(客土吹付工)に準ずる。			11	公園編	1	6	4	2	植生工 (客土吹付) (植生基材吹付)			第3編2-14-2-2植生工(植生基材吹付工)(客土吹付工)に準ずる。		
11	公園編	1	6	5	1	法枠工 (現場打法枠) (現場吹付法枠)		第3編2-14-4-1法枠工(現場打法枠工)(現場吹付法枠工)に準ずる。			11	公園編	1	6	5	1	法枠工 (現場打法枠) (現場吹付法枠)			第3編2-14-4-1法枠工(現場打法枠工)(現場吹付法枠工)に準ずる。		
11	公園編	1	6	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠) (金属製法枠)		第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。			11	公園編	1	6	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠) (金属製法枠)			第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。		
11	公園編	1	6	6	編柵工 (編柵)	高さh	±30	1工箇所/1施工箇所			11	公園編	1	6	6	編柵工 (編柵)	高さh	±30	1ヶ所/1施工箇所			
					延長L	-100										延長L	-100					
11	公園編	1	6	7	1	かご工 (じゃかご)		第3編2-3-27-1羽口工(じゃかご)に準ずる。			11	公園編	1	6	7	1	かご工 (じゃかご)			第3編2-3-27-1羽口工(じゃかご)に準ずる。		
11	公園編	1	6	7	2	かご工 (ふとんかご)		第3編2-3-27-2羽口工(ふとんかご、かご枠)に準ずる。			11	公園編	1	6	7	2	かご工 (ふとんかご)			第3編2-3-27-2羽口工(ふとんかご、かご枠)に準ずる。		
11	公園編	1	7	2	軽量盛土工 (軽量盛土) (コンクリート床版) (基礎コンクリート) (壁体) (裏込碎石)			第1編2-4-3路体盛土工に準ずる。			11	公園編	1	7	2	軽量盛土工 (軽量盛土) (コンクリート床版) (基礎コンクリート) (壁体) (裏込碎石)			第1編2-4-3路体盛土工に準ずる。			
11	公園編	1	8	4	1	場所打擁壁工 (小型擁壁) (重力式擁壁) (もたれ式擁壁) (逆T型擁壁) (L型擁壁) (鉄筋) (裏込碎石) (止水板) (コンクリート) (型枠) (足場) (目地板) (水抜パイプ) (吸出し防止材)		第3編2-15-1現場打擁壁工に準ずる。			11	公園編	1	8	4	1	場所打擁壁工 (小型擁壁) (重力式擁壁) (もたれ式擁壁) (逆T型擁壁) (L型擁壁) (鉄筋) (裏込碎石) (止水板) (コンクリート) (型枠) (足場) (目地板) (水抜パイプ) (吸出し防止材)			第3編2-15-1現場打擁壁工に準ずる。		

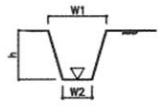
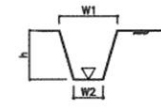
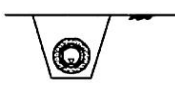

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
11 公園 編	1 基盤 整備	8 擁壁 工	9	土留め工 (土留め)	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 	11 公園 編	1 基盤 整備	8 擁壁 工	9	土留め工 (土留め)	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又 は50m) 以下のものは 1 施工箇所につ き 2ヶ所。 				
			高さ h	-50															
			根入れ長	設計値以上															
			延長L	-100	1 施工箇所毎														
11 公園 編	1 基盤 整備	9 公園 カル パート 工	4	場所打函渠工 (函渠) (鉄筋) (コンクリート) (型枠) (足場) (支保) (目地板) (止水板) (水抜パイプ)			第10編1-9-6場所打函渠工に準ずる。	11 公園 編	1 基盤 整備	9 公園 カル パート 工	4	場所打函渠工 (函渠) (鉄筋) (コンクリート) (型枠) (足場) (支保) (目地板) (止水板) (水抜パイプ)			第10編1-9-6場所打函渠工に準ずる。				
11 公園 編	1 基盤 整備	9 公園 カル パート 工	5	プレキャストカルパート工 (プレキャストカルパー ト)			第 3 編2-3-28プレキャストカルパート 工に準ずる。	11 公園 編	1 基盤 整備	9 公園 カル パート 工	5	プレキャストカルパート工 (プレキャストカルパー ト)			第3編2-3-28プレキャストカルパート 工に準ずる。				
11 公園 編	1 基盤 整備	10 公園 施設 等撤去 ・移設 工	3	1	移設工 (遊具移設)	第11編3-9-3遊具組立設置工に準ずる。		11 公園 編	1 基盤 整備	10 公園 施設 等撤去 ・移設 工	3	1	移設工 (遊具移設)	設置高さ H 1	±30	1ヶ所/1基			
			基礎	幅 w (D)	-30	基礎1基毎													
			高さ h	-30															
			根入れ長	設計値以上															
11 公園 編	1 基盤 整備	10 公園 施設 等撤去 ・移設 工	3	2	移設工 (小工作物移設)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基	11 公園 編	1 基盤 整備	10 公園 施設 等撤去 ・移設 工	3	2	移設工 (小工作物移設)	設置高 H	設計値以上	1ヶ所/1基		
			基礎	幅 w (D)	-30	基礎 1 基毎													
			高さ h	-30															
			根入れ長	設計値以上															
11 公園 編	2 植栽 工	3 植栽 工	10	1	樹木養生工 (防風ネット)	高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき 1 箇所。延長40m (又 は50m) 以下のものは 1 施工箇所につ き 2 箇所。 1 施工箇所毎	11 公園 編	2 植栽 工	3 植栽 工	10	1	樹木養生工 (防風ネット)	高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合 は50m) につき 1ヶ所。延長40m (又 は50m) 以下のものは 1 施工箇所につ き 2ヶ所。 1 施工箇所毎		
			延長 L	-100															
11 公園 編	2 植栽 工	3 植栽 工	10	7	樹木養生工 (養生柵)	設置高さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 施工箇所	11 公園 編	2 植栽 工	3 植栽 工	10	7	樹木養生工 (養生柵)	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1施工箇所		
			根入れ長	設計値以上															
			延長 L	-100															

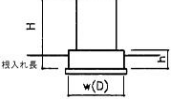
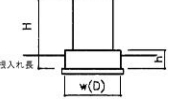
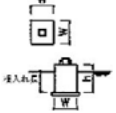
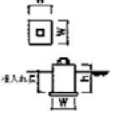
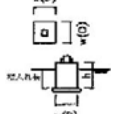
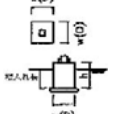
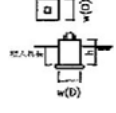
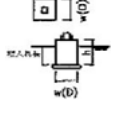
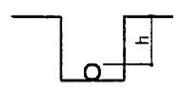
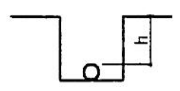
単位：mm

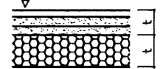
単位：mm

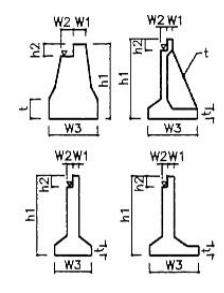
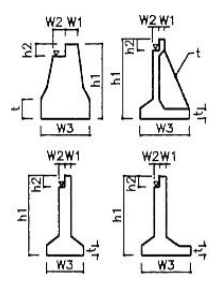

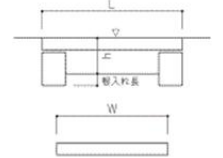
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	6	4	側溝工 (公園素掘側溝)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	6	4	側溝工 (公園素掘側溝)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。			
						幅W ₁ 、W ₂	-50																
						高さh	-30																
						延長L	-100																
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	6	5	側溝工 (側溝高さ調整)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所			11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	6	5	側溝工 (側溝高さ調整)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所				
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	7		管渠工 (コルゲートパイプ) (ヒューム管) (PC管) (陶管) (副管) (硬質塩化ビニール管)			第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に準ずる。			11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	7		管渠工 (コルゲートパイプ) (ヒューム管) (PC管) (陶管) (副管) (硬質塩化ビニール管)			第3編2-3-29-1側溝工(管渠)、 第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に 準ずる。				
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	8	1	集水樹・マンホール工 (街渠樹) (集水樹) (浸透樹) (プレキャスト街渠樹) (プレキャスト集水樹) (塩化ビニール製樹) (マンホール) (プレキャストマンホール) (公園マンホール) (浸透マンホール)			第3編2-3-30集水樹工に準ずる。			11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	8	1	集水樹・マンホール工 (街渠樹) (集水樹) (浸透樹) (プレキャスト街渠樹) (プレキャスト集水樹) (塩化ビニール製樹) (マンホール) (プレキャストマンホール) (公園マンホール) (浸透マンホール)			第3編2-3-30集水樹工に準ずる。				
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	8	2	集水樹・マンホール工 (樹高さ調整) (マンホール高さ調整)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所			11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	8	2	集水樹・マンホール工 (樹高さ調整) (マンホール高さ調整)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所				
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	9		地下排水工 (有孔ヒューム管) (有孔塩化ビニール管) (透水コンクリート管) (化学繊維管)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	9		地下排水工 (有孔ヒューム管) (有孔塩化ビニール管) (透水コンクリート管) (化学繊維管)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						延長	L < 10m											-20					
							L ≥ 10m L < 100m											-50					
							L ≥ 100m											-100					
11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	10		公園水路工 (場所打水路) (プレキャスト水路)			第3編2-3-29-2側溝工(場所打水路工)に準ずる。			11 公園 編	3 施設 整備	4 雨水 排水 整備 工	10		公園水路工 (場所打水路) (プレキャスト水路)			第3編2-3-29-2側溝工(現場打水路工)に準ずる。				
11 公園 編	3 施設 整備	5 汚水 排水 設備 工	4		管渠工 (コルゲートパイプ) (硬質塩化ビニール管) (ヒューム管) (PC管) (陶管) (副管)			第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に準ずる。			11 公園 編	3 施設 整備	5 汚水 排水 設備 工	4		管渠工 (コルゲートパイプ) (硬質塩化ビニール管) (ヒューム管) (PC管) (陶管) (副管)			第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に準ずる。				
11 公園 編	3 施設 整備	5 汚水 排水 設備 工	5		汚水樹・マンホール工 (汚水樹) (マンホール) (公園マンホール)			第3編2-3-30集水樹工に準ずる。			11 公園 編	3 施設 整備	5 汚水 排水 設備 工	5		汚水樹・マンホール工 (汚水樹) (マンホール) (公園マンホール)			第3編2-3-30集水樹工に準ずる。				

単位：mm

単位：mm

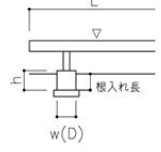
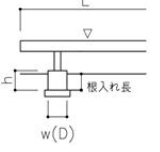
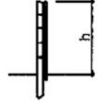
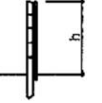
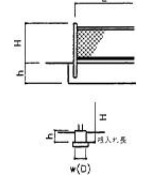
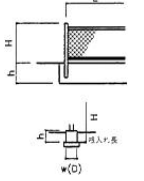
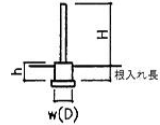
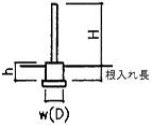
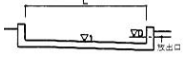
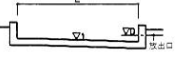
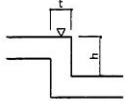
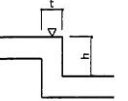
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
11	公園編	3	6	3	1	照明設備工 (ハンドホール)					11	公園編	3	6	3	1	照明設備工 (ハンドホール)								
11	公園編	3	6	3	2	照明設備工 (ハンドホール高さ調整)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所		11	公園編	3	6	3	2	照明設備工 (ハンドホール高さ調整)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所					
11	公園編	3	6	3	3	照明設備工 (引込柱)	設置高さH	±30	1箇所/1基		11	公園編	3	6	3	3	照明設備工 (引込柱) (分電盤)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基					
					基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎																	
						高さh	-30																		
11	公園編	3	6	3	4	照明設備工 (分電盤高さ調整)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所		11	公園編	3	6	3	4	照明設備工 (分電盤高さ調整)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所					
11	公園編	3	6	3	5	照明設備工 (照明灯基礎)	基礎	幅W	-30	1箇所/1施工箇所		11	公園編	3	6	3	5	照明設備工 (照明灯基礎)	基礎	幅W	-30	1ヶ所/1施工箇所			
						高さh	-30																		
						根入れ長	設計値以上																		
11	公園編	3	6	4	放送設備工 (スピーカー柱基礎)	基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎		11	公園編	3	6	4	放送設備工 (スピーカー柱基礎)	基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎					
						高さh	-30																		
						根入れ長	設計値以上																		
11	公園編	3	6	5	監視カメラ設置工 (監視カメラ基礎)	基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎		11	公園編	3	6	5	監視カメラ設置工 (監視カメラ基礎)	基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎					
						高さh	-30																		
						根入れ長	設計値以上																		
11	公園編	3	6	8	電線管路工 (電線管) (電線) (埋設シート)	深さh	-30	施工延長40m(測点箇所25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11	公園編	3	6	8	電線管路工 (電線管) (電線) (埋設シート)	深さh	-30	施工延長40m(測点箇所25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。						
					延長	L < 10m	-20	1施工箇所毎																	
						L ≥ 10m	-50																		
						L ≥ 100m	-100																		

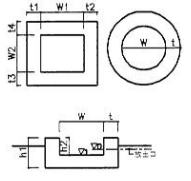
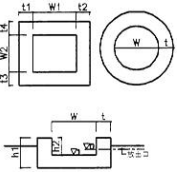
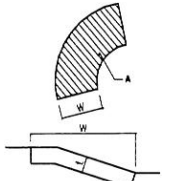
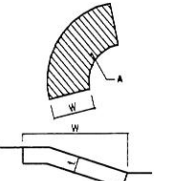
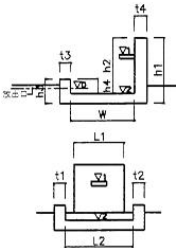
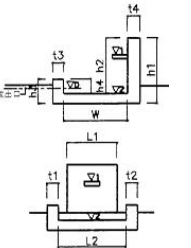
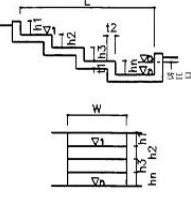
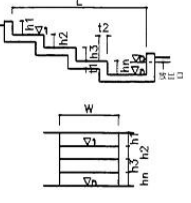
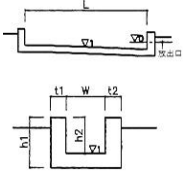
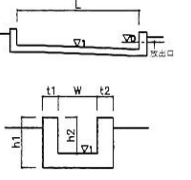
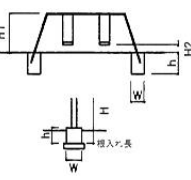
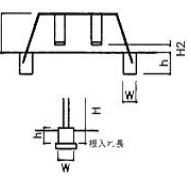
旧														新															
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘 要						
							個々の測定値 (X)												個々の測定値 (X)										
							中規模以上	小規模以下											中規模以上	小規模以下									
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	7	1	透水性舗装工 (路盤)		第3編2-6-10-1透水性舗装工 (路盤工) に準ずる。		11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	7	1	透水性舗装工 (路盤)	基準高▽ 厚さ t < 150 t ≥ 150	±50 -30 -40	- -10 -15	第3編2-6-10-1透水性舗装工 (路盤) に準ずる。					
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	7	2	透水性舗装工 (表層)		第3編2-6-10-2透水性舗装工 (表層工) に準ずる。		11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	7	2	透水性舗装工 (表層)	厚さ 幅	-9 -25	-9 -	第3編2-6-10-2透水性舗装工 (表層) に準ずる。					
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	8	9	10	11	12	13	路盤工		11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	8	9	10	11	12	13	路盤工		第11編3-7-5-1アスファルト舗装工 (下層路盤) に準ずる。	
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	14		石材系舗装工 (砂利舗装) (砕石舗装) (平石張り舗装) (ごろた石張舗装) (玉石張舗装) (野面平石張舗装) (修景割板石張舗装) (修景切板石張舗装) (割板石張舗装工) (小舗石張舗装) (切板石張舗装) (延段)	表層工 厚さ 幅	-10 -25	幅は、延長40m毎に1箇所の割合で測定。 厚さは、2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個を掘り起こしもしくはコアーを採取し、測定。 *工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水系による管理をすることができる。		11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	14		石材系舗装工 (砂利舗装) (砕石舗装) (平石張り舗装) (ごろた石張舗装) (玉石張舗装) (野面平石張舗装) (修景割板石張舗装) (修景切板石張舗装) (割板石張舗装工) (小舗石張舗装) (切板石張舗装) (延段)	表層工 厚さ 幅	-10 -25	幅は、延長40m毎に1箇所の割合で測定。 厚さは、2,000㎡までは3個とし、2000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個を掘り起こしもしくはコアーを採取し、測定。 *工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所毎の面積とする。					

旧										新																		
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要							
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	16	1	園路縁石工 (コンクリート縁石) (現場打縁石) (駒止めブロック) (舗装止め) (擬石縁石) (レンガ縁石) (木縁石) (見切材 (仕切材)) (石材縁石)			第3編2-3-5縁石工 (縁石・アスカープ) に準ずる。			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	16	1	園路縁石工 (コンクリート縁石) (現場打縁石) (駒止めブロック) (舗装止め) (擬石縁石) (レンガ縁石) (木縁石) (見切材 (仕切材)) (石材縁石) (縁石高さ調整)			第3編2-3-5縁石工 (縁石・アスカープ) に準ずる。			
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	16	2	園路縁石工 (縁石高さ調整)	基準高▽	±30	1 施工箇所毎																	
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	17		区画線工 (溶融式区画線) (ペイント式区画線) (区画線消去)			第3編2-3-9区画線工に準ずる。			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	17		区画線工 (溶融式区画線) (ペイント式区画線) (区画線消去)			第3編2-3-9区画線工に準ずる。			
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	18	1	階段工 (コンクリート階段) (コンクリートブロック階段) (丸木階段) (擬木階段) (石材階段)			第3編2-3-22階段工に準ずる。			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	18	1	階段工 (コンクリート階段) (コンクリートブロック階段) (丸木階段) (擬木階段) (石材階段)			第3編2-3-22階段工に準ずる。			
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	18	2	階段工 (階段高さ調整)	基準高▽	±30	1 箇所 / 1 施工箇所			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	18	2	階段工 (階段高さ調整)	基準高▽	±30	1ヶ所 / 1施工箇所			
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	19	1	公園橋工 (公園橋橋台) (石橋橋台) (木橋橋台)	基準高▽ 厚さ t 天端幅W ₁ (橋軸方向) 天端幅W ₂ (橋軸方向) 敷幅W ₃ (橋軸方向) 高さ h ₁ 胸壁の高さ h ₂ 天端長ℓ ₁ 敷 長ℓ ₂ 胸壁間距離ℓ 支点長及び 中心線の変化	±20 -20 -10 -10 -50 -50 -30 -50 -50 ±30 ±50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	19	1	公園橋工 (公園橋橋台) (石橋橋台) (木橋橋台)	基準高▽ 厚さ t 天端幅W ₁ (橋軸方向) 天端幅W ₂ (橋軸方向) 敷幅W ₃ (橋軸方向) 高さ h ₁ 胸壁の高さ h ₂ 天端長ℓ ₁ 敷 長ℓ ₂ 胸壁間距離ℓ 支点長及び 中心線の変化	±20 -20 -10 -10 -50 -50 -30 -50 -50 ±30 ±50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定			
11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	19	2	公園橋工 (公園橋設置) (ハッ橋) (石橋設置) (木橋設置) (浮き棧橋)	基準高▽ 高さ h 幅 W 延長 L 根入れ長	±30 ±30 -30 -30 設計値以上	1 箇所 / 1 施工箇所			11	公園編	3	施設整備	7	園路広場整備工	19	2	公園橋工 (公園橋設置) (ハッ橋) (石橋設置) (木橋設置) (浮き棧橋)	基準高▽ 高さ h 幅 W 延長 L 根入れ長	±30 ±30 -30 -30 設計値以上	1ヶ所 / 1施工箇所			

単位：mm

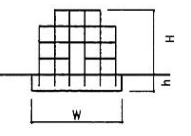
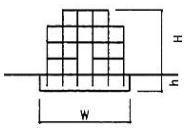
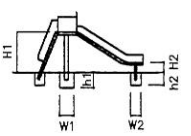
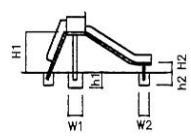
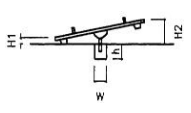
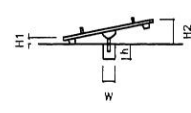
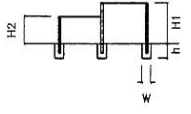
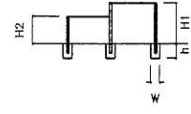
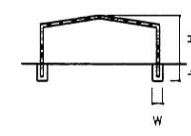
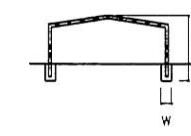
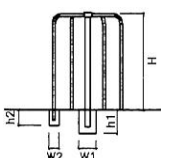
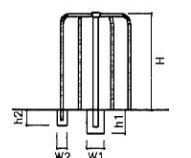
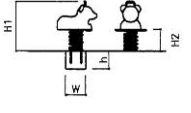
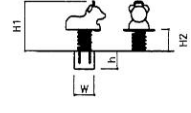
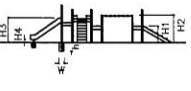
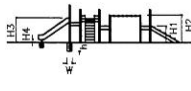
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
11	3	7	20		デッキ工 (デッキ基礎) (デッキ設置)	基準高▽	±30	1基毎			11	3	7	20		デッキ工 (デッキ基礎) (デッキ設置)	基準高▽	±30	1基毎		
						幅 w (D)	-30										幅 w (D)	-30			
						高さ h	-30										高さ h	-30			
						根入れ長	設計値以上										根入れ長	設計値以上			
						延長 L	-30										延長 L	-30			
11	3	7	23		植樹ブロック工 (植樹ブロック)			第3編2-3-5緑石工(緑石・アスカブ)に準ずる。			11	3	7	23		植樹ブロック工	基準高▽	±30	第3編2-3-5緑石工(緑石・アスカブ)に準ずる。		
																	幅 w (D)	-30			
																	高さ h	-30			
																	根入れ長	設計値以上			
																	延長 L	-30			
11	3	8	5		袖垣・垣根工 (袖垣) (垣根)	高さ h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11	3	8	5		袖垣・垣根工 (袖垣) (垣根)	高さ h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						延長 L	-100	1施工箇所毎									延長 L	-100	1施工箇所毎		
11	3	8	7		トレリス工 (トレリス) (緑化フェンス)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11	3	8	7		トレリス工 (トレリス) (緑化フェンス)	設置高さ H	±30	1箇所/1基		
						幅 w (D)	-30	基礎1基毎									幅 w (D)	-30	基礎1基毎		
						高さ h	-30										高さ h	-30			
						根入れ長	設計値以上										根入れ長	設計値以上			
						延長 L	-100	1箇所/1施工箇所									延長 L	-100	1箇所/1施工箇所		
11	3	8	8		モニュメント工 (モニュメント) (記念碑)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11	3	8	8		モニュメント工 (モニュメント) (記念碑)	基準高▽	±30	1箇所/1基		
						幅 w (D)	-30	基礎1基毎									幅 w (D)	-30	基礎1基毎		
						高さ h	-30										高さ h	-30			
						根入れ長	設計値以上										根入れ長	設計値以上			
						延長 L	-100	1箇所/1施工箇所									延長 L	-100	1箇所/1施工箇所		
11	3	8	9	1	小規模水景施工 (流れ)	基準高 ▽ ₀ 、▽ ₁	±30	1箇所/1施工箇所			11	3	8	9	1	小規模水景施工 (流れ)	基準高 ▽ ₀ 、▽ ₁	±30	1箇所/1施工箇所		
						厚さ t ₁ 、t ₂	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。									厚さ t ₁ 、t ₂	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						幅 W	-30										幅 W	-30			
						高さ h ₁ 、h ₂	-30										高さ h ₁ 、h ₂	-30			
						延長 L	-100										延長 L	-100			
11	3	8	9	2	小規模水景施工 (滝)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所			11	3	8	9	2	小規模水景施工 (滝)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所		
						厚さ t	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。									厚さ t	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。		
						幅 W	-30										幅 W	-30			
						高さ h	-30										高さ h	-30			

旧										新												
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	3	小規模水景施設工 (池)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1箇所/1施工箇所			11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	3	小規模水景施設工 (池)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20										厚さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅 W_1, W_2	-30										幅 W_1, W_2	-30				
						高さ h_1, h_2	-30										高さ h_1, h_2	-30				
11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	4	小規模水景施設工 (州浜)	厚さ t	-20	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	4	小規模水景施設工 (州浜)	厚さ t	-20	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						幅 W	-30										幅 W	-30				
						面積 A	設計値以上										面積 A	設計値以上				
11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	5	小規模水景施設工 (壁泉)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1箇所/1施工箇所			11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	5	小規模水景施設工 (壁泉)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20										厚さ $t_1 \sim t_4$	-20				
						幅 W	-30										幅 W	-30				
						高さ $h_1 \sim h_4$	-30										高さ $h_1 \sim h_4$	-30				
11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	6	小規模水景施設工 (カスケード)	基準高 $\nabla_0 \sim \nabla_n$	± 30	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	6	小規模水景施設工 (カスケード)	基準高 $\nabla_0 \sim \nabla_n$	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ t_1, t_2	-20										厚さ t_1, t_2	-20				
						幅 W	-30										幅 W	-30				
						高さ $h_1 \sim h_n$	-30										高さ $h_1 \sim h_n$	-30				
						長さ L	-30										長さ L	-30				
11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	7	小規模水景施設工 (カナル)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園 編	3 施設 整備	8 修景 施設 整備 工	9	7	小規模水景施設工 (カナル)	基準高 ∇_0, ∇_1	± 30	1ヶ所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			
						厚さ t_1, t_2	-20										厚さ t_1, t_2	-20				
						幅 W	-30										幅 W	-30				
						高さ h_1, h_2	-30										高さ h_1, h_2	-30				
						延長 L	-100										延長 L	-100				
11 公園 編	3 施設 整備	9 遊戯 施設 整備 工	3	1	遊具組立設置工 (プランコ)	設置高さ H_1, H_2	± 30	1箇所/1基			11 公園 編	3 施設 整備	9 遊戯 施設 整備 工	3	1	遊具組立設置工 (プランコ)	設置高さ H_1, H_2	± 30	1ヶ所/1基 基礎1基毎 ※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。			
						基礎	幅 W										-30	幅 W				-30
							高さ h										-30	高さ h				-30
							根入れ長										設計値以上	根入れ長				設計値以上

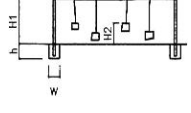
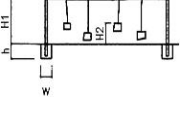
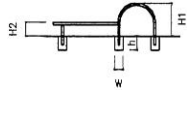
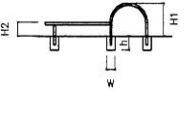
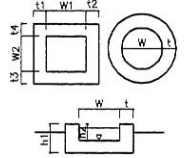
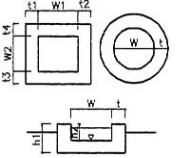
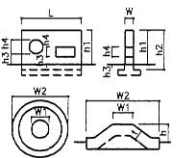
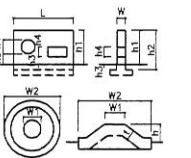
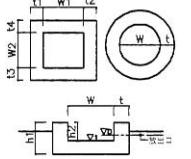
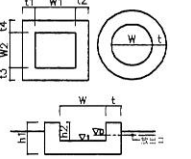
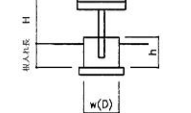
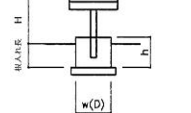
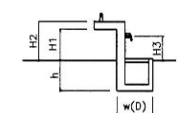
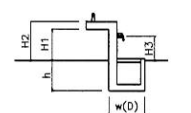
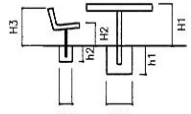
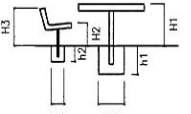
単位：mm

単位：mm

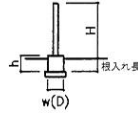
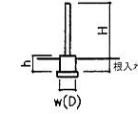
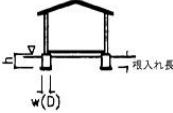
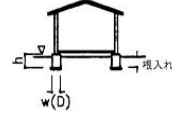
編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 2	遊具組立設置工 (ジャングルジム)	設置高さH	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 2	遊具組立設置工 (ジャングルジム)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 3	遊具組立設置工 (滑台)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 3	遊具組立設置工 (滑台)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W ₁ 、W ₂	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W ₁ 、W ₂			-30	基礎1基毎	
			高さh ₁ 、h ₂	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh ₁ 、h ₂		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 4	遊具組立設置工 (シーソー)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 4	遊具組立設置工 (シーソー)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 5	遊具組立設置工 (鉄棒)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 5	遊具組立設置工 (鉄棒)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 6	遊具組立設置工 (ラダー)	設置高さH	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 6	遊具組立設置工 (ラダー)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 7	遊具組立設置工 (はんだ登棒)	設置高さH	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 7	遊具組立設置工 (はんだ登棒)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W ₁ 、W ₂	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W ₁ 、W ₂			-30	基礎1基毎	
			高さh ₁ 、h ₂	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh ₁ 、h ₂		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 8	遊具組立設置工 (スプリング遊具)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 8	遊具組立設置工 (スプリング遊具)	設置高さH ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上
11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 9	遊具組立設置工 (複合遊具)	設置高さH ₁ ~H _n	±30	1箇所/1基			11 公園編 3 施設整備 9 遊戯施設整備 3 9	遊具組立設置工 (複合遊具)	設置高さH ₁ ~H _n	±30	1ヶ所/1基					
		基礎	幅W	-30					基礎1基毎	基礎1基毎	幅W			-30	基礎1基毎	
			高さh	-30					※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					高さh		-30
			根入れ長	設計値以上					根入れ長							設計値以上

単位：mm

単位：mm

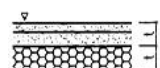
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	3	10	遊具組立設置工 (アスレチック遊具)	設置高さ H ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	3	10	遊具組立設置工 (アスレチック遊具)	設置高さ H ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅W	-30									基礎1基毎	基礎1基毎 ※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。	幅W			-30	基礎1基毎 ※監督員との協議による。
							高さh	-30									高さh					-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	3	11	遊具組立設置工 (健康遊具施設)	設置高さ H ₁ 、H ₂	±30	1箇所/1基			11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	3	11	遊具組立設置工 (健康遊具施設)	設置高さ H ₁ 、H ₂	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅W	-30									基礎1基毎	基礎1基毎 ※監督員との協議による。	幅W			-30	基礎1基毎 ※監督員との協議による。
							高さh	-30									高さh					-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	1	小規模現場打遊具工 (砂場)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	1	小規模現場打遊具工 (砂場)	基準高▽	±30	1ヶ所/1基				
						厚さ t ₁ ~t ₄	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。									厚さ t ₁ ~t ₄	-20					
							幅W ₁ 、W ₂											-30	幅W ₁ 、W ₂			-30	
																		高さh ₁ 、h ₂				-30	高さh ₁ 、h ₂
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	2	小規模現場打遊具工 (現場打遊具)	厚さ t	-20	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	2	小規模現場打遊具工 (現場打遊具)	厚さ t	-20	1ヶ所/1基				
						幅W ₁ 、W ₂	-30	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。									幅W ₁ 、W ₂	-30					
							高さh ₁ ~h ₄											±30	高さh ₁ ~h ₄			±30	
																		長さL				-30	長さL
11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	3	小規模現場打遊具工 (徒渉池)	基準高▽ ₀ 、▽ ₁	±30	1箇所/1施工箇所 ※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。			11 公園編	3 施設整備	9 遊戯施設整備	6	3	小規模現場打遊具工 (徒渉池)	基準高▽ ₀ 、▽ ₁	±30	1ヶ所/1施工箇所				
						厚さ t ₁ ~t ₄	-20	※標準図を持っている、又は単一断面の場合に適用する。									厚さ t ₁ ~t ₄	-20					
							幅W ₁ 、W ₂											-30	幅W ₁ 、W ₂			-30	
																		高さh ₁ 、h ₂				-30	高さh ₁ 、h ₂
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	3		時計台工 (時計台)	設置高さH	±30	1箇所/1基			11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	3		時計台工 (時計台)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅w(D)	-30									基礎1基毎	幅w(D)	-30				
							高さh	-30											高さh			-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	設計値以上
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	4		水飲み場工 (水飲み場)	設置高さ H ₁ ~H ₃	±30	1箇所/1基			11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	4		水飲み場工 (水飲み場)	設置高さ H ₁ ~H ₃	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅w(D)	-30									基礎1基毎	幅w(D)	-30				
							高さh	-30											高さh			-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	設計値以上
11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	6		ベンチ・テーブル工 (ベンチ) (縁台) (テーブル) (スツール) (野外卓)	設置高さ H ₁ ~H ₃	±30	1箇所/1基			11 公園編	3 施設整備	10 サービス施設整備	6		ベンチ・テーブル工 (ベンチ) (縁台) (テーブル) (スツール) (野外卓)	設置高さ H ₁ ~H ₃	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅 W ₁ 、W ₂	-30									基礎1基毎	幅 W ₁ 、W ₂	-30				
							高さ h ₁ 、h ₂	-30											高さ h ₁ 、h ₂			-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	設計値以上

旧										新													
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11 公園 編	3 施設 整備	10 サー ビス 施設 整備 工	8		炊事場工 (炊事場)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所			11 公園 編	3 施設 整備	10 サー ビス 施設 整備 工	8		炊事場工 (炊事場)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所				
						厚さ t ₁ , t ₂	-20										厚さ t ₁ , t ₂	-20					
						幅 W ₁ , W ₂	-30										幅 W ₁ , W ₂	-30					
						高さ H ₁ ~H ₃	-30										高さ H ₁ ~H ₃	-30					
						長さ L	-30										長さ L	-30					
11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	3		リサイクル施設工 (リサイクル施設基礎)	基準高▽	±30	1箇所/1基			11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	3	リサイクル施設工 (リサイクル施設基礎)	基準高▽	±30	1ヶ所/1基					
						基礎	幅 w (D)									-30	基礎1基毎				幅 w (D)	-30	
							高さ h									-30					高さ h	-30	
							根入れ長									設計値以上					根入れ長	設計値以上	
11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	5		ごみ施設工 (くず入れ) (吸殻入れ)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	5	ごみ施設工 (くず入れ) (吸殻入れ)	設置高さ H	±30	1ヶ所/1基					
						基礎	幅 w (D)									-30	基礎1基毎				幅 w (D)	-30	
							高さ h									-30					高さ h	-30	
							根入れ長									設計値以上					根入れ長	設計値以上	
11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	6	2	井戸工 (手押ポンプ)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	6	2	井戸工 (手押ポンプ)	設置高さ H	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅 w (D)										-30	基礎1基毎				幅 w (D)	-30
							高さ h										-30					高さ h	-30
							根入れ長										設計値以上					根入れ長	設計値以上
11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	7		門扉工 (門壁) (門柱) (門扉)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	7		門扉工 (門壁) (門柱) (門扉)	設置高さ H	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅 w (D)										-30	基礎1基毎				幅 w (D)	-30
							高さ h										-30					高さ h	-30
							根入れ長										設計値以上					根入れ長	設計値以上
11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	8		柵工 (フェンス) (柵) (手すり) (転落(横断)防止柵) (ガードレール) (ガードケーブル) (ガードパイプ)	設置高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2箇所。			11 公園 編	3 施設 整備	11 管理 施設 整備 工	8		柵工 (フェンス) (柵) (手すり) (転落(横断)防止柵) (ガードレール) (ガードケーブル) (ガードパイプ)	設置高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。				
						基礎	幅 w (D)										-30	1箇所/1施工箇所				幅 w (D)	-30
							高さ h										-30					高さ h	-30
							根入れ長										設計値以上					根入れ長	設計値以上
						延長 L	-100										1施工箇所毎	延長 L				-100	1施工箇所毎

旧										新													
単位: mm										単位: mm													
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11	3	11	9		車止め工 (車止め) (車止めポスト) (車椅子ゲート)	設置高さH	±30	1箇所/1基			11	3	11	9		車止め工 (車止め) (車止めポスト) (車椅子ゲート)	設置高さH	±30	1ヶ所/1基				
						基礎	幅w(D)	-30									基礎1基毎	基礎	幅w(D)			-30	基礎1基毎
							高さh	-30											高さh			-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	設計値以上
11	3	12	3		四阿工 (四阿基礎) (バーゴラ基礎) (シェルター基礎) (キャビン(ロッジ)基礎) (温室基礎) (観察施設基礎) (売店基礎) (荷物預かり所基礎) (更衣室基礎) (便所基礎) (倉庫基礎) (自転車置き場基礎)	基準高▽	±30	1箇所/1施工箇所			11	3	12	3		四阿工 (四阿基礎) (バーゴラ基礎) (シェルター基礎) (キャビン(ロッジ)基礎) (温室基礎) (観察施設基礎) (売店基礎) (荷物預かり所基礎) (更衣室基礎) (便所基礎) (倉庫基礎) (自転車置き場基礎)	基準高▽	±30	1ヶ所/1施工箇所				
						基礎	幅w(D)	-30									基礎1基毎	基礎	幅w(D)			-30	基礎1基毎
							高さh	-30											高さh			-30	
							根入れ長	設計値以上														根入れ長	設計値以上

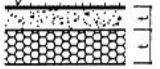

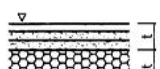

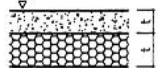

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規格値				測定基準	測定箇所	摘 要	
			個々の測定値 (X)		測定値の平均 \bar{X}_n								個々の測定値 (X)		測定値の平均 \bar{X}_n					
			中規模以上	小規模以下									中規模以上	小規模以下						
11 公園編	4 3 4 1	グラウンド・コート用舗装工 (下層路盤)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	*工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を掘起し及びコアー以外の方法→水系による管理をすることができる。	11 公園編	4 3 4 1	グラウンド・コート用舗装工 (下層路盤)	基準高▽	±30	±30	$\bar{X}_3 \sim$	±15	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所の面積とする。			
	厚さ	-45	-45	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10			厚さ	-45	-45	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10				
						$\bar{X}_7 \sim$	-15								$\bar{X}_7 \sim$	-15				
	幅W	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20					幅W	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20						
11 公園編	4 3 4 2	グラウンド・コート用舗装工 (上層路盤)(中層)	厚さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とし、掘起して測定。	11 公園編	4 3 4 2	グラウンド・コート用舗装工 (上層路盤)(中層)	厚さ	-25	-30	\bar{X}_3	-5	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個とし、掘起して測定。			
						$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-6				
						$\bar{X}_7 \sim$	-8								$\bar{X}_7 \sim$	-8				
	幅W	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20					幅W	-50	-50	$\bar{X}_3 \sim$	-20						
11 公園編	4 3 4 3	グラウンド・コート用舗装工 (基層)	厚さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個としコアーを採取して測定。	11 公園編	4 3 4 3	グラウンド・コート用舗装工 (基層)	厚さ	-9	-12	\bar{X}_3	-1	幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個としコアーを採取して測定。			
						$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-2				
						$\bar{X}_7 \sim$	-3								$\bar{X}_7 \sim$	-3				
	幅W	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10					幅W	-25	-25	$\bar{X}_3 \sim$	-10						
11 公園編	4 3 4 4	グラウンド・コート用舗装工 (クレー舗装)(アンツーカー舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	40m毎に1箇所の割合で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡ごとに1個を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所測定。 	11 公園編	4 3 4 4	グラウンド・コート用舗装工 (クレー舗装)(アンツーカー舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	40m毎に1ヶ所の割合で測定。厚さは、2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は1,000㎡毎に1個を掘り起こして測定。 幅は、延長40m毎に1箇所測定。 	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所の面積とする。		
	厚さ	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10			厚さ	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10				
		t ≥ 150	-45	$\bar{X}_7 \sim$	-15						t ≥ 150	-45	$\bar{X}_7 \sim$	-15						
	幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25						幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25							
	表層工	厚さ	-10							表層工	厚さ	-10								
		幅	-25								幅	-25								
	平坦性	テニスコート 陸上競技場 野球場	±5mm以内 ±10mm以内 ±20mm以内	-						平坦性	テニスコート 陸上競技場 野球場	±5mm以内 ±10mm以内 ±20mm以内	-							
11 公園編	4 3 4 5	グラウンド・コート用舗装工 (天然芝舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40mごとに、1箇所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。 	11 公園編	4 3 4 5	グラウンド・コート用舗装工 (天然芝舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim$	±15	基準高、幅は延長40m毎に、毎ヶ所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。 厚さは2,000㎡毎に3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個とする。 	※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所の面積とする。		
	厚さ	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10			厚さ	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10				
		t ≥ 150	-45	$\bar{X}_7 \sim$	-15						t ≥ 150	-45	$\bar{X}_7 \sim$	-15						
	幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25						幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25							
	表層工	厚さ	-10							表層工	厚さ	-10								
		幅	-25								幅	-25								

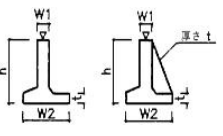
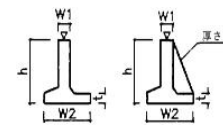
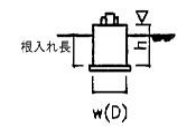
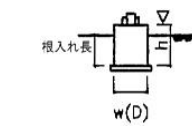
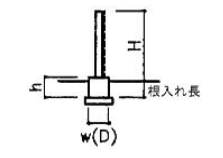
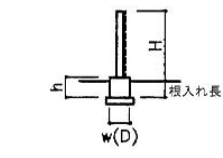
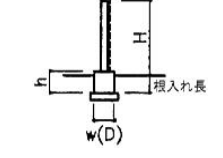
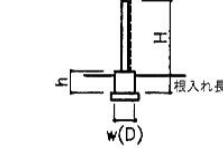
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘 要																											
			個々の測定値 (X)	測定値の平均 \bar{X}_n							個々の測定値 (X)	測定値の平均 \bar{X}_n																														
11 公園 編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 6	グラウンド・コート用舗装工 (人工芝舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		11 公園 編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 6	グラウンド・コート用舗装工 (人工芝舗装)	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個とする。		※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所面積とする。																				
							厚さ	t < 150										-30	\bar{X}_3				-6	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6															
								t ≥ 150										-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$				-10	t ≥ 150	-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10															
							幅											-100	$\bar{X}_3 \sim$				-25	幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25															
					表層工	厚さ	-10									厚さ	-10																									
						幅	-25									幅	-25																									
					11 公園 編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 7								グラウンド・コート用舗装工 (全天候型舗装(樹脂系)) (全天候型舗装(アスファルト系))	路盤工	基準高▽	±50				$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		11 公園 編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 7	グラウンド・コート用舗装工 (全天候型舗装(樹脂系)) (全天候型舗装(アスファルト系))	路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個とする。		※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所面積とする。					
																			厚さ				t < 150										-30	\bar{X}_3				-6	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6
																							t ≥ 150										-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$				-10	t ≥ 150	-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10
																			幅														-100	$\bar{X}_3 \sim$				-25	幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25
表層工	厚さ	-10		厚さ					-10																																	
	幅	-25		幅					-25																																	
平坦性 テニスコート 陸上競技場									±5mm以内 ±10mm以内	-	平坦性 テニスコート 陸上競技場						±5mm以内 ±10mm以内	-																								
11 公園 編	4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 8	グラウンド・コート用舗装工 (グラウンド・コート砂舗装) (グラウンド・コートダスト舗装)					路盤工	基準高▽	±50	$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40mごとに、1個所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡ごとに1個とする。		11 公園 編		4 グラウンド・コート整備	3 グラウンド・コート舗装工	4 8	グラウンド・コート用舗装工 (グラウンド・コート砂舗装) (グラウンド・コートダスト舗装)	路盤工	基準高▽	±50								$\bar{X}_3 \sim \pm 15$	基準高、幅は延長40m毎に、1ヶ所の割とし、基準高は、中心線及びその端部で測定する。厚さは2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡毎に1個とする。		※工事規模の考え方(舗装工関係共通) 中規模工事：施工面積2,000㎡以上とする。 小規模工事：施工面積2,000㎡未満とする。 なお、施工面積300㎡未満においては厚さ管理を水系による管理とすることが出来る。 施工面積(実施数量)は、1施工箇所面積とする。								
											厚さ	t < 150											-30								\bar{X}_3							-6	t < 150	-30	\bar{X}_3	-6
												t ≥ 150											-45								$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$							-10	t ≥ 150	-45	$\bar{X}_4 \sim \bar{X}_6$	-10
					幅	-100	$\bar{X}_3 \sim$	-25			幅					-100							$\bar{X}_3 \sim$	-25																		
					表層工	厚さ	-10		厚さ	-10																																
						幅	-25		幅	-25																																

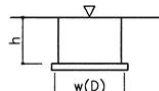
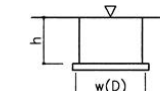
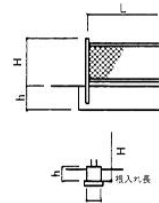
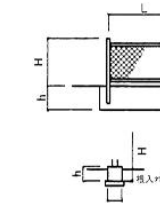
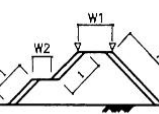
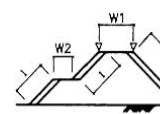
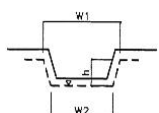
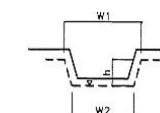
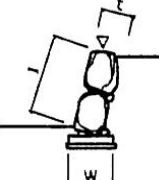
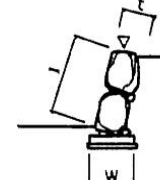
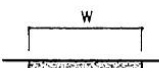
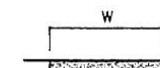
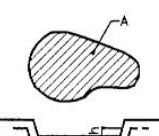
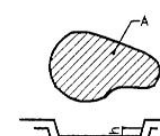
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11公園編 4グラウンド・コート整備 3グラウンド・コート舗装工	グラウンド・コート縁石工 (コンクリート縁石) (舗装止め) (見切材(仕切材)) (内圍縁石)			第3編2-3-5縁石工(縁石・アスカープ)に準ずる。			11公園編 4グラウンド・コート整備 3グラウンド・コート舗装工	グラウンド・コート縁石工 (コンクリート縁石) (舗装止め) (見切材(仕切材)) (内圍縁石)			第3編2-3-5縁石工(縁石・アスカープ)に準ずる。				
11公園編 4グラウンド・コート整備 4スタンド整備工	スタンド擁壁工 (スタンド擁壁)	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11公園編 4グラウンド・コート整備 4スタンド整備工	スタンド擁壁工 (スタンド擁壁)	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
		厚さ t	-20						厚さ t	-20					
		幅W ₁ 、W ₂	-30						幅W ₁ 、W ₂	-30					
		高さ h	h < 3m						-50	高さ h				h < 3m	-50
			h ≥ 3m						-100					高さ h	h ≥ 3m
延長 L	-100	延長 L	-100												
11公園編 4グラウンド・コート整備 4スタンド整備工	ベンチ工 (スタンドベンチ) (現場打ベンチ)	延長 L	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11公園編 4グラウンド・コート整備 4スタンド整備工	ベンチ工 (スタンドベンチ) (現場打ベンチ)	延長 L	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
11公園編 4グラウンド・コート整備 5ダッグアウト工 (スコアボード基礎)	ダッグアウト工 (ダッグアウト基礎) (スコアボード基礎)	基準高▽	±30	1箇所/1基			11公園編 4グラウンド・コート整備 5ダッグアウト工 (スコアボード基礎)	ダッグアウト工 (ダッグアウト基礎) (スコアボード基礎)	基準高▽	±30	1箇所/1基				
		基礎	幅 w (D)						-30	基礎				幅 w (D)	-30
			高さ h						-30					高さ h	-30
			根入れ長						設計値以上					根入れ長	設計値以上
11公園編 4グラウンド・コート整備 5バックネット工	バックネット工	高さ H	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11公園編 4グラウンド・コート整備 5バックネット工	バックネット工	高さ H	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
基礎	幅 w	-30	基礎					幅 w	-30						
	高さ h	-30						高さ h	-30						
延長 L	-100	延長 L	-100												
11公園編 4グラウンド・コート整備 5競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	設置高さ H	±30	1箇所/1基			11公園編 4グラウンド・コート整備 5競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	設置高さ H	±30	1箇所/1基				
		基礎	幅 w (D)						-30	基礎				幅 w (D)	-30
			高さ h						-30					高さ h	-30
			根入れ長						設計値以上					根入れ長	設計値以上

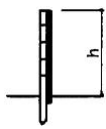
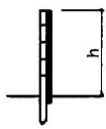
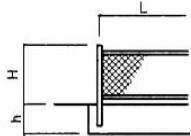
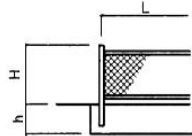
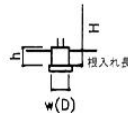
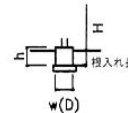
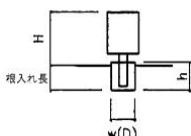
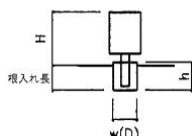
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要								
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備	6	2	競技施設工 (塁ベース基礎)	基準高▽	±30	1箇所/1基			11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備	6	2	競技施設工 (塁ベース基礎)	基準高▽	±30	1ヶ所/1基										
						基礎	幅 w (D)										-30	幅 w (D)				-30	高さ h	-30	高さ h	-30			
11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備	11		グラウンド・コート柵工 (高尺ネットフェンス)	設置高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎			11 公園編	4 グラウンド・コート整備	5 グラウンド・コート施設整備	11		グラウンド・コート柵工 (高尺ネットフェンス) 防球ネット	設置高さ H	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 1 施工箇所毎										
						基礎	幅 w (D)										-30	幅 w (D)				-30	高さ h	-30	高さ h	-30			
						根入れ長	設計値以上										根入れ長	設計値以上				延長 L	-100	延長 L	-100				
						延長 L	-100										延長 L	-100											
11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	3		自然育成盛土工 (蒔き出し)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。施工面積1,000㎡ につき 1 箇所、面積1,000㎡以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。基準高は各法肩で測定する。又は、施工面積のほぼ中心と各法肩で測定する。			11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	3		自然育成盛土工 (まき出し)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。施工面積1,000㎡に につき 1ヶ所、面積1,000㎡以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。基準高は 各法肩で測定する。又は、施工面積 のほぼ中心と各法肩で測定する。										
						法長 l	l < 5m										-100	法長 l				l < 5m	-100	法長 l	l ≥ 5m	法長の -2%	法長 l	l ≥ 5m	法長の -2%
						幅 W1, W2	-100										幅 W1, W2	-100											
						幅 W1, W2	-100										幅 W1, W2	-100											
11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	1	自然水路工 (遮水・止水シート)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	1	自然水路工 (遮水・止水シート)	基準高▽	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。										
						高さ h	-30										高さ h	-30											
						幅 W1, W2	-100										幅 W1, W2	-100											
						延長 L	-100										延長 L	-100											
11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	2	自然水路工 (ごろた石積) (崩れ積)	基準高▽	±100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	2	自然水路工 (ごろた石積) (崩れ積)	基準高▽	±100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。										
						法長 l	l / 2 < 3m										-50	法長 l				l / 2 < 3m	-50	法長 l	l / 2 ≥ 3m	-100	法長 l	l / 2 ≥ 3m	-100
						幅 W	-50										幅 W	-50											
						厚さ t	-50										厚さ t	-50											
						延長 L	-100										延長 L	-100											
						延長 L	-100										延長 L	-100											
11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	3	自然水路工 (砂・礫敷)	厚さ t	t < 15cm	-25	幅は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1 箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは、施工延長200mにつき 1 箇所、200m以下は 2 箇所、中央で測定。			11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	4	3	自然水路工 (砂・礫敷)	厚さ t	t < 15cm	-25	幅は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。厚さは、施工延長200mにつき 1ヶ所、200m以下は 2ヶ所、中央で測定。又は施工面積1,000㎡に1回。								
						厚さ t	t ≥ 15cm	-50										厚さ t	t ≥ 15cm	-50									
						幅 W	-100	幅 W										-100											
						幅 W	-100	幅 W										-100											
11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	5		水田工 (遮水・止水シート)	基準高▽	-50	1箇所/1施工箇所			11 公園編	5 自然育成	2 自然育成施設工	5		水田工 (遮水・止水シート)	基準高▽	-50	1ヶ所/1施工箇所										
						高さ h	-30										高さ h	-30											
						面積 A	設計値以上										面積 A	設計値以上											
						面積 A	設計値以上										面積 A	設計値以上											

単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要														
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	10		しがらみ柵工	高さh	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	10		しがらみ柵工	高さh	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																
						延長L	-100										延長L	-100																	
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	1	自然成型護岸工（じゃかご）			第3編2-3-27-1羽口工（じゃかご）に準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	1	自然成型護岸工（じゃかご）					第3編2-3-27-1羽口工（じゃかご）に準ずる。														
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	2	自然成型護岸工（ふとんかご）			第3編2-3-27-2羽口工（ふとんかご、かご枠）に準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	2	自然成型護岸工（ふとんかご）						第3編2-3-27-2羽口工（ふとんかご、かご枠）に準ずる。													
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	3	自然成型護岸工（階段ブロック積）（魚巣ブロック積）			第3編2-5-3コンクリートブロック工に準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	3	自然成型護岸工（階段ブロック積）（魚巣ブロック積）							第3編2-5-3コンクリートブロック工に準ずる。												
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	4	自然成型護岸工（石積）（石張）（雑割石張）			第3編2-5-5石積（張）工に準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	4	自然成型護岸工（石積）（石張）（雑割石張）								第3編2-5-5石積（張）工に準ずる。											
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	5	自然成型護岸工（かごマット）			第3編2-3-26-2（多自然型護岸工）かごマットに準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	5	自然成型護岸工（かごマット）								第3編2-3-26-2多自然型護岸工（かごマット）に準ずる。											
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	7	自然成型護岸工（種子散布）（張芝工）（筋芝工）（市松芝工）（植生シート工）（植生マット工）（植生筋工）（人工張芝工）（植生穴工）に準ずる。			第3編2-14-2植生工（種子散布）（張芝工）（筋芝工）（市松芝工）（植生シート工）（植生マット工）（植生筋工）（人工張芝工）（植生穴工）に準ずる。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	11	7	自然成型護岸工（種子散布）（張芝工）（筋芝工）（市松芝工）（植生シート工）（植生マット工）（植生筋工）（人工張芝工）（植生穴工）に準ずる。								第3編2-14-2-1植生工（種子散布）（張芝工）（筋芝工）（市松芝工）（植生シート工）（植生マット工）（植生筋工）（人工張芝工）（植生穴工）に準ずる。											
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	12		保護柵工（保護柵）	設置高さH	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	12		保護柵工（保護柵）	設置高さH	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。																
						基礎	幅w(D)										-30	1施工箇所毎						11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	12		保護柵工（保護柵）	基礎	幅w(D)	-30	1施工箇所毎		
							高さh										-30														高さh	-30			
																	延長L	-100																	
11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	13		解説板工（解説板）	設置高さH	±30	1箇所/1基			11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	13		解説板工（解説板）	設置高さH	±30	1箇所/1基																
基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎	11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	13				解説板工（解説板）	基礎	幅w(D)	-30	基礎1基毎	11 公園 編	5 自然 育 成	2 自然 育 成 施 設 工	13				解説板工（解説板）	基礎	高さh	-30									
	高さh	-30											高さh	-30																					
	根入れ長	設計値以上											根入れ長	設計値以上																					

旧

新

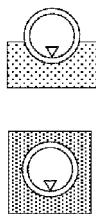
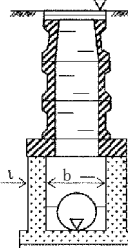
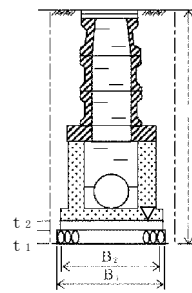
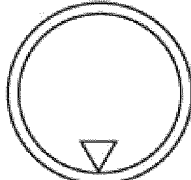
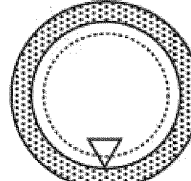
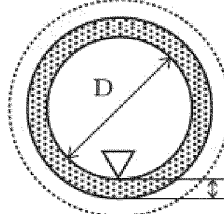
単位：mm

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	16	1	自然育成型護岸基礎工 (現場打基礎)			第3編2-4-3-1基礎工(護岸)(現場打)に準ずる。	11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	16	1	自然育成型護岸基礎工 (現場打基礎)			第3編2-4-3-1基礎工(護岸)(現場打)に準ずる。
11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	16	2	自然育成型護岸基礎工 (プレキャスト基礎)			第3編2-4-3-2基礎工(護岸)(プレキャスト)に準ずる。	11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	16	2	自然育成型護岸基礎工 (プレキャスト基礎)			第3編2-4-3-2基礎工(護岸)(プレキャスト)に準ずる。
11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	17		沈床工 (木工沈床) (改良沈床) (粗朶沈床) (袋詰玉石) (吸出し防止材) (粗朶単床) (粗朶柵)			第3編2-3-18沈床工に準ずる。	11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	17		沈床工 (木工沈床) (改良沈床) (粗朶沈床) (袋詰玉石) (吸出し防止材) (粗朶単床) (粗朶柵)			第3編2-3-18沈床工に準ずる。
11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	18		捨石工 (捨石) (表面均し) (吸出し防止材)			第3編2-3-19捨石工に準ずる。	11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	18		捨石工 (捨石) (表面均し) (吸出し防止材)			第3編2-3-19捨石工に準ずる。
11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	22		杭出し水制工 (杭出し水制)			第6編1-10-6杭出し水制工に準ずる。	11	公園編	5	自然育成	2	自然育成施設工	22		杭出し水制工 (杭出し水制)			第6編1-10-8杭出し水制工に準ずる。

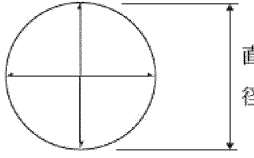
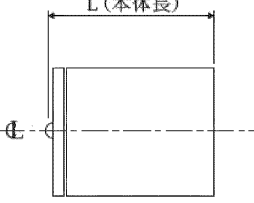
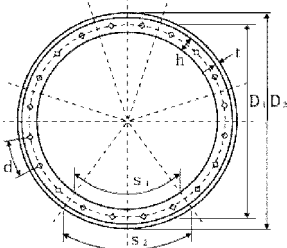
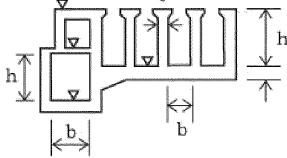
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	3 開 削 工		管布設 (自然流下管)	基 準 高 ▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	3 開 削 工		管布設 (自然流下管)	基 準 高 ▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の両端部を測定する。		
					中心線の変位 (水 平)	±50							中心線の変位 (水 平)	±50			
					勾 配	±20%							勾 配	±20%			
					延 長 ℓ	-ℓ/500 かつ-200							延長ℓはマンホール間を測定する。	延 長 ℓ			-ℓ/500 かつ-200
					総 延 長 L	-200								総 延 長 L			-200
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 坑 ・ 人 孔 築 造 工		標準マンホール工	基 準 高 ▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 坑 ・ 人 孔 築 造 工		標準マンホール工	基 準 高 ▽	±30	1施工箇所毎に測定する。		
					幅 b (内法)	-30							幅 b (内法)	-30			
					壁 圧 t	-20							壁 圧 t	-20			
					人 孔 天 端 高	±30							人 孔 天 端 高	±30			
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 坑 ・ 人 孔 築 造 工		マンホール基礎工	基 準 高 ▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 坑 ・ 人 孔 築 造 工		マンホール基礎工	基 準 高 ▽	±30	1施工箇所毎に測定する。		
					床 掘 深 H	±30							床 掘 深 H	±30			
					基 礎 工 幅 B ₁	-50							基 礎 工 幅 B ₁	-50			
					基 礎 工 厚 t ₁	-30							基 礎 工 厚 t ₁	-30			
					コンクリート工幅B ₂	-30							コンクリート工幅B ₂	-30			
					コンクリート工厚t ₂	-10							コンクリート工厚t ₂	-10			
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	6 推 進 工		推進工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、推進管1本ごとに1箇所測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	6 推 進 工		推進工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、推進管1本毎に1ヶ所測定する。		
					中心線の変位 (水 平)	±50							中心線の変位 (水 平)	±50			
					勾 配	±20%							勾 配	±20%			
					延 長 ℓ	-ℓ/500 かつ-200							延長ℓはマンホール間を測定する。	延 長 ℓ			-ℓ/500 かつ-200
					総 延 長 L	-200								総 延 長 L			-200
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	3 一 次 覆 工	掘進工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、セグメント5リングにつき1箇所測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	3 一 次 覆 工	掘進工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、セグメント5リングにつき1ヶ所測定する。		
					中心線の変位 (水 平)	±100							中心線の変位 (水 平)	±100			
					延 長 ℓ	-ℓ/500 かつ-200							延長ℓはマンホール間を測定する。	延 長 ℓ			-ℓ/500 かつ-200
					総 延 長 L	-200								総 延 長 L			-200
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	5 二 次 覆 工	二次覆工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長40mにつき1箇所測定する。	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	5 二 次 覆 工	二次覆工	基 準 高 ▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長40mにつき1ヶ所測定する。		
					中心線の変位 (水 平)	±50							中心線の変位 (水 平)	±50			
					二次覆工厚 t	-20							二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。	二次覆工厚 t			-20
					仕上がり内径D	±20							仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所測定する。	仕上がり内径D			±20
					勾 配	±20%							勾 配	±20%			
					延 長 ℓ	-ℓ/500 かつ-200							延長ℓはマンホール間を測定する。	延 長 ℓ			-ℓ/500 かつ-200
総 延 長 L	-200	総 延 長 L	-200														

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要												
12 下水道編	1 下水道工事	7 シールド工		シールド製作	真円度 (直径)	D ≤ 2m	-0 +8	※10mを超える径については、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。	トンネル示方書(シールド工法編)・同解説による。																
						2m < D ≤ 4m	-0 +10																		
						4m < D ≤ 6m	-0 +12																		
						6m < D ≤ 8m	-0 +16																		
						8m < D ≤ 10m	-0 +20																		
						本体軸方向の曲り (本体長)	L ≤ 3m							±5.0	※本体長7mを超えるものについては、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。										
							3m < L ≤ 4m							±6.0											
							4m < L ≤ 5m							±7.5											
							5m < L ≤ 6m							±9.0											
							6m < L ≤ 7m							±12.0											
					本体長	L ≤ 2m	±8	※本体長6mを超えるものについては、トンネル標準示方書(シールド工法編)・同解説による。			(参考図)														
						2m < L ≤ 3m	±10																		
						3m < L ≤ 4m	±12																		
						4m < L ≤ 5m	±14																		
						5m < L ≤ 6m	±16																		
					12 下水道編	1 下水道工事	7 シールド工		セグメント製作 (鋼製)	主桁高さ h	±1.5	日本下水道協会編「シールド工 用標準鋼製セグメント」による													
											セグメント幅 b								±1.5						
											弧長 s ₁ 、s ₂								±1.5						
											ボルト孔ピッチ d								±1.0						
										ボルト ピッチ サークル 径 D ₁	4000mm未満								±7.0						
4000mm以上 6000mm未満	±10.0																								
6000mm以上 8000mm未満	±10.0																								
8000mm以上	±15.0																								
外 径 D ₂	4000mm未満	±7.0																							
	4000mm以上 6000mm未満	±10.0																							
	6000mm以上 8000mm未満	±15.0																							
	8000mm以上	±20.0																							
鋼材の厚さ t	JIS G 3192, 3193 及び3194の規定 による																								
12 下水道編	1 下水道工事			池・槽の主要構造物						基準高 ▽	±30								1池(又は1槽)について、図面の主 要なる寸法表示箇所を測定する。						
											幅 b														
										高 さ h	±30														
					壁 厚 t	-20																			
						ただし床版厚 -10																			
					長 さ	±50																			

旧

新

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要												
13 港 湾 編	1 浚 渫 及 び 床 掘 り	1 2	浚渫工 (土砂)	水 底 面	+0	測線間隔10m以下 測点間隔10m以下		13 港 湾 編	1 浚 渫 及 び 床 掘 り	1 2	浚渫工 (土砂)	水 底 面	+0	測線間隔10m以下 測点間隔10m以下	(一)について特に必要な場合は、特記仕様書で定める。										
				深 法 面	+0							深 法 面	+0												
		浚渫工 (岩盤)	水 底 面	+0	測線間隔10m以下 測点間隔10m以下	水 底 面				+0	測線間隔10m以下 測点間隔10m以下														
			深 法 面	+0						深 法 面		+0													
13 港 湾 編	1 浚 渫 及 び 床 掘 り	2 2	床掘工	水 底 面	±300	延長方向は測点毎。 横断方向は5m以下		13 港 湾 編	1 浚 渫 及 び 床 掘 り	2 2	床掘工	水 底 面	±300	延長方向は測点毎。 横断方向は5m以下											
				深 法 面	外側 2,000 内側 300							深 法 面	外側 2,000 内側 300		法面に直角の値										
		置換工	天 端 高	±500	測線間隔20m以下 測点間隔陸上部10m以下 測点間隔水中部20m以下	天 端 高				±500	測線間隔20m以下 測点間隔陸上部10m以下 測点間隔水中部20m以下														
			天 端 幅	-0						天 端 幅		-0													
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	1 3	置換工	法 面	-0	施工完了後。		13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	1 3	置換工	法 面	-0	施工完了後。											
				延 長	-0							延 長	-0												
				13 港 湾 編	2 地 盤 改 良							2 3	敷砂工		天 端 高	±300	測線間隔20m以下 測点間隔陸上部10m以下 測点間隔水中部20m以下		13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	2 3	敷砂工	天 端 高	±300	測線間隔20m以下 測点間隔陸上部10m以下 測点間隔水中部20m以下
															天 端 幅	-0							天 端 幅	-0	
法 面	-0	施工完了後。	法 面			-0	施工完了後。																		
延 長	-0		延 長			-0																			
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	3 3	サンドドレーン	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による		13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	3 3	サンドドレーン	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による	ペーパードレーン工は本項目を適用する。 天端高 +：設計値より浅いこと -：設計値より深いこと										
				天 端 高	-0							天 端 高	-0			砂杭全数									
				先 端 深 度	+0							先 端 深 度	+0												
				砂の投入量	—							砂の投入量	—												
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	5 3	載荷工	天 端 高	±500	陸上部：側線間隔20m以下 測点間隔10m以下 水上部：側線間隔20m以下 測点間隔20m以下		13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	5 3	載荷工	天 端 高	±500	陸上部：側線間隔20m以下 測点間隔10m以下 水上部：側線間隔20m以下 測点間隔20m以下											
				天 端 幅	—							天 端 幅	—												
				法 面 勾 配	—	法 面 勾 配						—													
				延 長	-0	施工完了後。						延 長	-0	施工完了後。											

旧

新

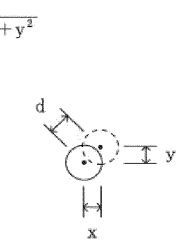
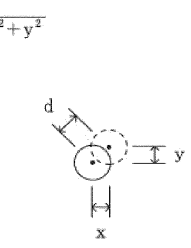
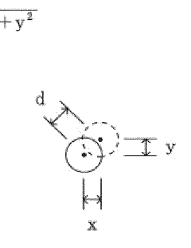
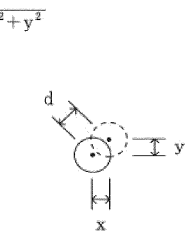
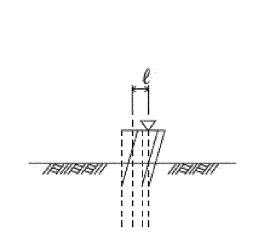
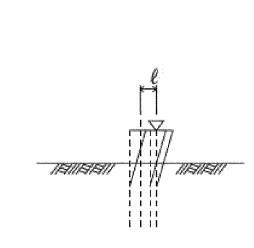
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	6 サ ン ド コ ン パ ク シ ョ ン パ イ ル 工	3	サ ン ド コ ン パ ク シ ョ ン パ イ ル 工	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による	13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	6 サ ン ド コ ン パ ク シ ョ ン パ イ ル 工	3	サ ン ド コ ン パ ク シ ョ ン パ イ ル 工	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による
					天 端 高	-0	砂杭全数						天 端 高	-0	砂杭全数
					先端深度	+0							先端深度	+0	
					砂の投入量	—							砂の投入量	—	
					盛上り量	—	完了後						盛上り量	—	完了後
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	7 ロ ッ ド コ ン パ ク シ ョ ン （ 振 動 棒 工 法 ） 工		ロ ッ ド コ ン パ ク シ ョ ン （ 振 動 棒 工 法 ） 工	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による	13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	7 ロ ッ ド コ ン パ ク シ ョ ン （ 振 動 棒 工 法 ） 工		ロ ッ ド コ ン パ ク シ ョ ン （ 振 動 棒 工 法 ） 工	位 置	—	転船毎及び監督員の指示による
					天 端 高	-0	全数						天 端 高	-0	全数
					先端深度	+0							先端深度	+0	
					充填剤の投入量	—							充填剤の投入量	—	
13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	8 深 層 混 合 処 理 工	7	深 層 混 合 処 理 工	位 置	—	海上施工は改良杭全数	13 港 湾 編	2 地 盤 改 良	8 深 層 混 合 処 理 工	7	深 層 混 合 処 理 工	位 置	—	海上施工は改良杭全数
					鉛直度、接合	—	改良杭全数 深度方向に2～5m程度毎に測定 （引き抜きと貫入時）						鉛直度、接合	—	改良杭全数 深度方向に2～5m程度毎に測定 （引き抜きと貫入時）
					天 端 高	-0	改良杭全数						天 端 高	-0	改良杭全数
					先端深度	+0	改良杭全数						先端深度	+0	改良杭全数
					硬化材吐出量	—	改良杭全数						硬化材吐出量	—	改良杭全数
					盛上り量	—	改良前、改良後						盛上り量	—	改良前、改良後
13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	1 ア ス フ ア ル ト マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1箇所以上	13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	1 ア ス フ ア ル ト マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1ヶ所以上
					重ね幅	500以上	1枚に2点						重ね幅	500以上	1枚に2点
					延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長						延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長
13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	2 繊 維 系 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1箇所以上	13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	2 繊 維 系 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1ヶ所以上
					重ね幅	500以上	1枚に2点						重ね幅	500以上	1枚に2点
					延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長						延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長
13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	3 合 成 樹 脂 系 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1箇所以上	13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	3 合 成 樹 脂 系 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1ヶ所以上
					重ね幅	300以上	1枚に2点						重ね幅	300以上	1枚に2点
					延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長						延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長
13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	4 ゴ ム マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1箇所以上	13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	4 ゴ ム マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎並びに 20mに1ヶ所以上
					重ね幅	500以上	1枚に2点						重ね幅	500以上	1枚に2点
					延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長						延 長	-100	マットの中心を区間毎及び全長
13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	5 摩 擦 増 大 用 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎	13 港 湾 編	3 マ ツ ト	1 マ ツ ト 工	4	5 摩 擦 増 大 用 マ ツ ト	敷設位置	—	始、終端及び変化する箇所毎

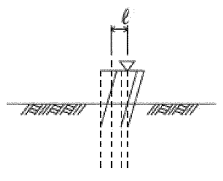
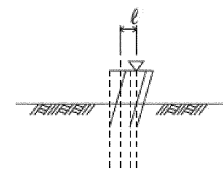
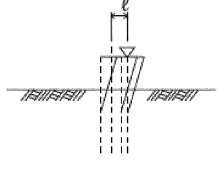
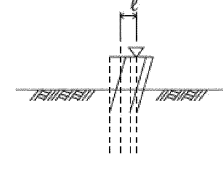
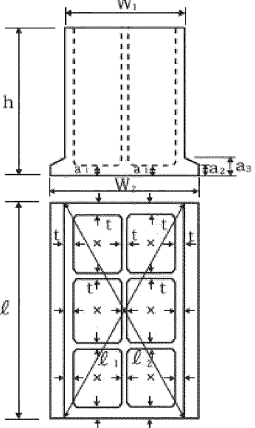
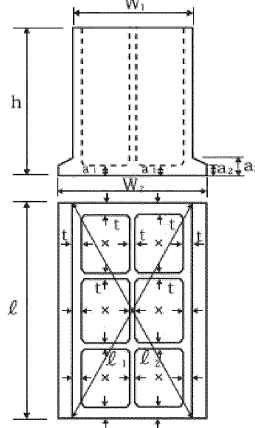
単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要										
13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	1 基 礎 工	3	基礎工	天 端 高	本均し	±50	測線及び測点間隔は10m以下	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300	係留施設留岸土留壁等については荒均しを適用しない。	13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	1 基 礎 工	3	基礎工	天 端 高	本均し	±50	測線及び測点間隔は10m以下	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300	係留施設留岸土留壁等については荒均しを適用しない。		
						岸壁前面本均し	+0 -50										岸壁前面本均し	+0 -50					
						荒均し	±500										荒均し	±500					
						岸壁前面荒均し	+0 -200										岸壁前面荒均し	+0 -200					
					法 面	±500	測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300（法面に直角で測定する）	法 面	±500						測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300（法面に直角で測定する）						
					天端幅	-100	測線間隔10m以下		天端幅	-100						測線間隔10m以下							
					延 長	-100	法線上		延 長	-100						法線上							
13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	2 被 覆 及 び 根 固 め 工	3	被覆及び根固め工	天 端 高	天 端	±500	測線及び測点間隔は10m以下	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300	13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	2 被 覆 及 び 根 固 め 工	3	被覆及び根固め工	天 端 高	天 端	±500	測線及び測点間隔は10m以下	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300				
						岸壁全面の天端均し	+0 -200									岸壁全面の天端均し	+0 -200						
					法 面	±500	測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300（法面に直角で測定する）	法 面						±500	測線間隔は10m以下、測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	基礎の上に消波用異型ブロックを据付ける場合（整積）の荒均し基準高は±300（法面に直角で測定する）						
					天 端 幅	-200	測線間隔は10m以下		天 端 幅						-200	測線間隔は10m以下							
					延 長	-200	天端中心上		延 長						-200	天端中心上							
13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	3 裏 込 め 工	3	裏込め工	天 端 高	±200	測線及び測点間隔は10m以下	場所打コンクリートの施工面は±50	マット等を使用する場合を含む。	13 港 湾 編	4 捨 石 及 び 均 し	3 裏 込 め 工	3	裏込め工	天 端 高	±200	測線及び測点間隔は10m以下	場所打コンクリートの施工面は±50	マット等を使用する場合を含む。				
					天 端 幅	-100									天 端 幅	-100							
					法 面	±200									測点は3点以上（法面に直角）	法 面				±200	測点は3点以上（法面に直角）		
					延 長	-100									天端中心上	延 長				-100	天端中心上		
13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	1 鋼 杭 工	4	鋼杭工	杭天端高	±50	打込完了時、全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		打込記録を提出海上施工に適用座標管理の場合とする	13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	1 鋼 杭 工	4	鋼杭工	杭天端高	±50	打込完了時、全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		打込記録を提出海上施工に適用座標管理の場合とする		
					根 入 長	—										根 入 長	—						
					杭頭中心位置	100以下										杭頭中心位置	100以下						
					杭の傾斜	直杭2°以下 斜杭3°以下										杭の傾斜	直杭2°以下 斜杭3°以下						
13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	2 コ ン ク リ ー ト 杭 工	2	コンクリート杭工	杭天端高	±50	打込完了時、全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		打込記録を提出海上施工に適用座標管理の場合とする	13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	2 コ ン ク リ ー ト 杭 工	2	コンクリート杭工	杭天端高	±50	打込完了時、全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		打込記録を提出海上施工に適用座標管理の場合とする		
					根 入 長	—										根 入 長	—						
					杭頭中心位置	100以下										杭頭中心位置	100以下						
					杭の傾斜	直杭2°以下 斜杭3°以下										杭の傾斜	直杭2°以下 斜杭3°以下						
13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	3 鋼 矢 板 工 及 び 鋼 管 矢 板 工	5	1 鋼 矢 板 工	矢板天端高▽	±100	打込完了時、20枚に1枚			打込記録を提出海上施工に適用	13 港 湾 編	5 杭 及 び 矢 板	3 鋼 矢 板 工 及 び 鋼 管 矢 板 工	5	1 鋼 矢 板 工	矢板天端高▽	±100	打込完了時、20枚に1枚			打込記録を提出海上施工に適用		
					根 入 長	—										根 入 長	—						
					矢板法線に対する出入り	±100										矢板法線に対する出入り	±100						
					矢板法線に対する傾	10/1,000以下										矢板法線に対する傾	10/1,000以下						
					矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1,000以下										施工中適宜 打込完了時（両端部）	矢板法線方向の傾斜					上下の差が矢板1枚幅未満 10/1,000以下	施工中適宜 打込完了時（両端部）
					矢板壁延長L	+矢板1枚幅 -0										施工中適宜 打込完了時	矢板壁延長L					+矢板1枚幅 -0	施工中適宜 打込完了時

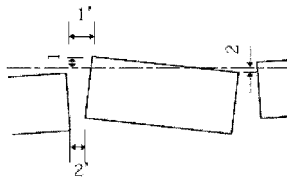
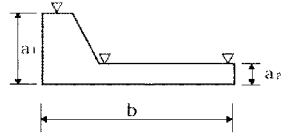
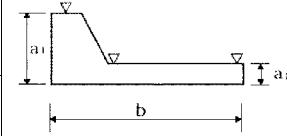
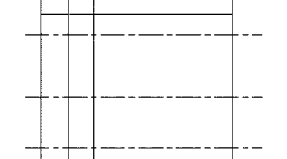
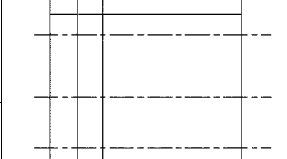
旧

新

旧							新														
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
13 港湾編	5 杭及び矢板	3 鋼矢板工及び鋼管矢板工	5	2	鋼管矢板工	矢板天端高▽	±100	打込完了時、10枚に1枚			13 港湾編	5 杭及び矢板	3 鋼矢板工及び鋼管矢板工	5	2	鋼管矢板工	矢板天端高▽	±100	打込完了時、10枚に1枚		
						根 入 長	—	20枚に1枚													
						矢板法線に対する 出入り ℓ	±100	打込完了時、10枚に1枚及び計画法線の変化点													
						矢板法線に対する 傾	10/1,000以下	打込完了時、全数確認後10枚に1枚及び変化点													
						矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1,000以下	施工中適宜 打込完了時 (両端部)													
						矢板壁延長L	—	施工中適宜 打込完了時													
13 港湾編	5 杭及び矢板	4 コンクリート矢板工	4	4	コンクリート矢板工	矢板天端高▽	±50	打込完了時、20枚に1枚		海上施工に適用	13 港湾編	5 杭及び矢板	4 コンクリート矢板工	4	コンクリート矢板工	矢板天端高▽	±50	打込完了時、20枚に1枚		海上施工に適用	
						根 入 長	—														
						矢板法線に対する 出入り ℓ	±150	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点													
						矢板法線に対する 傾	10/1,000以下	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点													
						矢板法線方向の傾斜	上下の差が矢板1枚幅未満 2/100以下	施工中適宜 打込完了時 (両端部)													
						矢板壁延長L	+矢板1枚幅 -0	施工中適宜 打込完了時													
13 港湾編	8 ケーソン	1 ケーソン製作工	3	3	ケーソン製作工	壁 厚 t	±10	各層完成時、各壁1箇所			13 港湾編	8 ケーソン	1 ケーソン製作工	3	ケーソン製作工	壁 厚 t	±10	各層完成時、各壁1ヶ所			
						高 さ h		完成時、四隅													
						幅 w_1, w_2		各層完成時に中央部及び底版と天端は両端													
						長 さ ℓ	+30 -10	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端													
						底板厚さ a_1		底版完成時、各室中央部1箇所													
						フーチング高さ a_2, a_3		底版完成時、四隅													
						対角線長 ℓ_1, ℓ_2	±50	底版完成時及び完成時													
						バラスト	碎石・砂 ±100 コンクリート ±50	各室中央部1箇所													

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要										
13 港 湾 編	9 コ ン ク リ ー ト ブ ロ ック 工	1 ブ ロ ック 工	5	据付工 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	法線に対する 出入り 1, 2	±50	据付後ブロック1個につき2箇所。 (最下段、最上段)	13 港 湾 編	9 コ ン ク リ ー ト ブ ロ ック 工	1 ブ ロ ック 工	5	据付工 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	法線に対する 出入り 1, 2	±50	据付後ブロック1個につき2ヶ所。 (最下段、最上段)	13 港 湾 編	9 コ ン ク リ ー ト ブ ロ ック 工	1 ブ ロ ック 工	5	据付工 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	法線に対する 出入り 1, 2	±50	据付後ブロック1個につき2ヶ所。 (最下段、最上段)
					隣接ブロックとの 間隔 1', 2'	L型ブロック セルラーブロック 50以下 直立消波ブロック ブロック (方塊) 30以下							隣接ブロックとの 間隔 1', 2'	L型ブロック セルラーブロック 50以下 直立消波ブロック ブロック (方塊) 30以下									
					延 長	—							据付完了後、法線上 (最上段のみ)	延 長							—	据付完了後、法線上 (最上段のみ)	
					天 端 高	—							据付後ブロック1箇所につき2箇所 (最上段のみ)	天 端 高							—	据付後ブロック1箇所につき2ヶ所 (最上段のみ)	
13 港 湾 編	10 中 詰 工	1 中 詰 工	3	中詰工	天 端 高	砂、石材等 陸上 ±50 水中 ±100 コンクリート 陸上 ±30 水中 ±50	1室につき1箇所 (中心)	13 港 湾 編	10 中 詰 工	1 中 詰 工	3	中詰工	天 端 高	砂、石材等 陸上 ±50 水中 ±100 コンクリート 陸上 ±30 水中 ±50	1室につき1ヶ所 (中心)								
13 港 湾 編	10 中 詰 工	2 蓋 コ ン ク リ ー ト	2	プレキャストコンクリート	天 端 高	陸上 ±30 水中 ±50	1室につき1箇所 (中心)	13 港 湾 編	10 中 詰 工	2 蓋 コ ン ク リ ー ト	2	プレキャストコンクリート	天 端 高	陸上 ±30 水中 ±50	1室につき1ヶ所 (中心)								
13 港 湾 編	11 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	1 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	3	上部コンクリート工	天 端 高 ▽	天端幅10m以下 の場合は ±20	天端面は1スパン4箇所以上 パラベット頂部は1スパン2箇所以 上	13 港 湾 編	11 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	1 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	3	上部コンクリート工	天 端 高 ▽	天端幅10m以下 の場合は ±20	天端面は1スパン4ヶ所以上 パラベット頂部は1スパン2ヶ所以上	13 港 湾 編	11 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	1 上 部 コ ン ク リ ー ト 工	3	上部コンクリート工	天 端 高 ▽	天端幅10m以下 の場合は ±20	天端面は1スパン4ヶ所以上 パラベット頂部は1スパン2ヶ所以上
					厚 さ a ₁ a ₂	天端幅10mを超 える場合は +50 -20							厚 さ a ₁ a ₂	天端幅10mを超 える場合は +50 -20									
					防 波 堤	天端幅10m以下 の場合は ±30							1スパン3箇所	防 波 堤							天端幅10m以下 の場合は ±30	1スパン3ヶ所	
					天 端 幅 b	天端幅10mを超 える場合は +50 -30							天 端 幅 b	天端幅10mを超 える場合は +50 -30									
					法線に対する出入	±50 本体がケーソンの 場合 ケーソン質量 2,000t未満 ±200 2,000t以上 ±300							1スパン2箇所	法線に対する出入							±50 本体がケーソンの 場合 ケーソン質量 2,000t未満 ±200 2,000t以上 ±300	1スパン2ヶ所	
					延 長 L	-0	法線上						延 長 L	-0	法線上								
					岸 壁	天端高厚さ a ₁ 、a ₂	±20						1スパン3箇所	岸 壁	天端高厚さ a ₁ 、a ₂						±20	1スパン3ヶ所	
						天 端 幅 b	±20						1スパン3箇所		天 端 幅 b						±20	1スパン3ヶ所	
						法線に対する出入	±30						1スパン2箇所		法線に対する出入						±30	1スパン2ヶ所	
						延 長 L	-0						法線上		延 長 L						-0	法線上	

単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
13 港 湾 編	12 舗 装 工						13 港 湾 編	12 舗 装 工									
	臨港道路等の舗装工			第1編第3章第6節の一般舗装工及び第6編第2章第3節の舗装工を適用する。				臨港道路等の舗装工			第3編第2章第6節の一般舗装工及び第10編第2章第4節の舗装工を適用する。						
13 港 湾 編	12 舗 装 工	1 路 床 工	1	路床工	高 さ	±50	エプロン舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	1 路 床 工	1	路床工	高 さ	±50	エプロン舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					幅	-100	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-100	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 1	下層路盤工	高 さ	±40	エプロン舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 1	下層路盤工	高 さ	±40	エプロン舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					アスファルト舗装	±50								アスファルト舗装	±50		
					厚 さ	-45	エプロン舗装は1,000m ² に1箇所							厚 さ	-45	エプロン舗装は1,000m ² に1ヶ所	
					幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 2	上層路盤工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	エプロン舗装は1,000m ² に1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 2	上層路盤工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	エプロン舗装は1,000m ² に1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					アスファルト舗装	-30								アスファルト舗装	-30		
					幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 3	上層路盤工 (セメント安定処理工)	厚 さ	-25	エプロン舗装は1,000m ² に1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	2 路 盤 工	1 3	上層路盤工 (セメント安定処理工)	厚 さ	-25	エプロン舗装は1,000m ² に1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					アスファルト舗装	-30								アスファルト舗装	-30		
					幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-50	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
13 港 湾 編	12 舗 装 工	3 コ ン ク リ ー ト 舗 装 工	1	コンクリート舗設	厚 さ	-10	エプロン舗装は型枠据付後中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	3 コ ン ク リ ー ト 舗 装 工	1	コンクリート舗設	厚 さ	-10	エプロン舗装は型枠据付後中心及び両端部の3点を延長20mに1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
					平 坦 性	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	各レーン毎全延長 3mプロフィールメータによる測定							平 坦 性	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	各レーン毎全延長 3mプロフィールメータによる測定	
13 港 湾 編	12 舗 装 工	4 ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	1 1	基層工	厚 さ	-12	エプロン舗装は1,000m ² に1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	4 ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	1 1	基層工	厚 さ	-12	エプロン舗装は1,000m ² に1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
13 港 湾 編	12 舗 装 工	4 ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	1 2	表層工	厚 さ	-9	エプロン舗装は1,000m ² に1箇所	係留施設等のエプロン舗装に適用	13 港 湾 編	12 舗 装 工	4 ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	1 2	表層工	厚 さ	-9	エプロン舗装は1,000m ² に1ヶ所	係留施設等のエプロン舗装に適用
					幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1箇所							幅	-25	エプロン舗装は延長20mに1ヶ所	
					延 長	-0								延 長	-0		
					平 坦 性	2.4mm以下	各レーン毎全延長 3mプロフィールメータによる測定							平 坦 性	2.4mm以下	各レーン毎全延長 3mプロフィールメータによる測定	

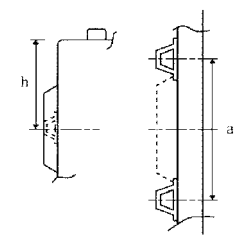
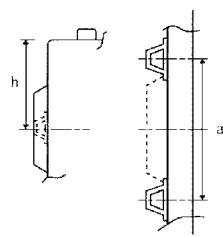
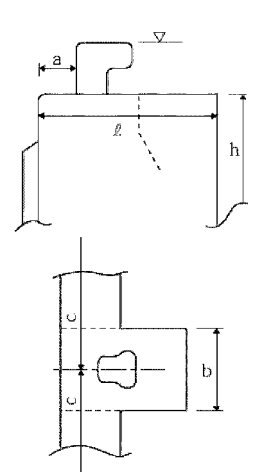
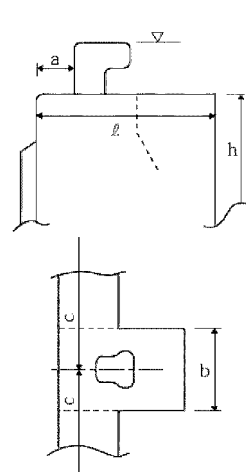
旧

新

単位：mm

単位：mm

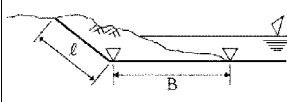
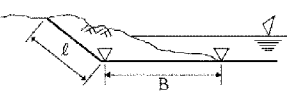
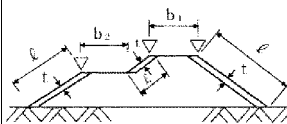
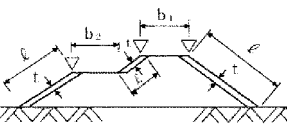
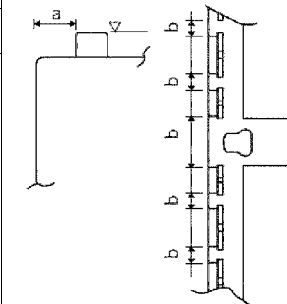
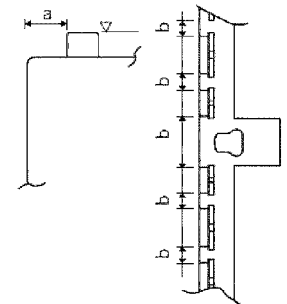
編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	2	緑石工	高 さ	±30	1箇所	13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	2	緑石工	高 さ	±30	1箇所
					延 長	-50							延 長	-50	
13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	3	区画線工	幅	±10	1箇所	13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	3	区画線工	幅	±10	1箇所
					長 さ	±100							長 さ	±100	
13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	4	道路標識工	高 さ	±50	1箇所	13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	4	道路標識工	高 さ	±50	1箇所
13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	5	防護柵工	高 さ	+30 -20	1箇所	13 港湾編	12 舗装工	5 道路付属工	5	防護柵工	高 さ	+30 -20	1箇所
					延 長	-							延 長	-	
13 港湾編	13 付属工	1 係船柱工	5	係船柱工	天 端 高 ▽	曲柱 ±20 直注 ±20	据付完了時、中心部、全数	13 港湾編	13 付属工	1 係船柱工	5	係船柱工	天 端 高 ▽	曲柱 ±20 直注 ±20	据付完了時、中心部、全数
					岸壁前面に対する出入a	-	据付完了時、全数						岸壁前面に対する出入a	-	据付完了時、全数
					中心間隔 c	-	据付完了時、各スパン毎中心部、各基						中心間隔 c	-	据付完了時、各スパン毎中心部、各基
					直注基礎 コンクリート								直注基礎 コンクリート		
					幅 b	-	完成時、全数、天端両端						幅 b	-	完成時、全数、天端両端
					長 さ ℓ	-	完成時、全数、前後面						長 さ ℓ	-	完成時、全数、前後面
					高 さ h	-	完成時、全数、中心点						高 さ h	-	完成時、全数、中心点
13 港湾編	13 付属工	2 防舷材工	4	防舷材工	取付高さ h	-	取付完了時、中心部、全数	13 港湾編	13 付属工	2 防舷材工	4	防舷材工	取付高さ h	-	取付完了時、中心部、全数
					中心間隔 a	-	取付完了時、中心部、全数						中心間隔 a	-	取付完了時、中心部、全数



単位：mm

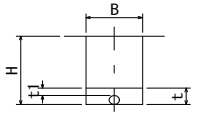
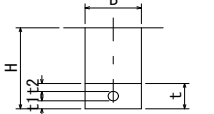
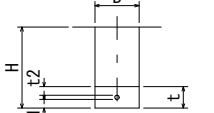
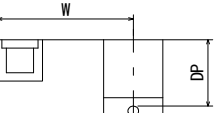
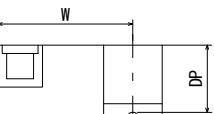
単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
13 港湾編	13 付属工	3 止め工	4	車止め工	天 端 高 ∇	—	取付完了時、中心部、全数	13 港湾編	13 付属工	3 止め工	4	車止め工	天 端 高 ∇	—	取付完了時、中心部、全数		
					岸壁前面に対する出入a	± 30	取付完了後中心部を1点						岸壁前面に対する出入a	± 30	取付完了後中心部を1点		
					取付間隔 b	—	上部工1スパンに2箇所						取付間隔 b	—	上部工1スパンに2ヶ所		
13 港湾編	13 付属工	4 防食工	2	電気防食	取 付 位 置	—	取付完了後、全数	13 港湾編	13 付属工	4 防食工	2	電気防食	取 付 位 置	—	取付完了後、全数		
					電 位 測 定	飽和かんこう 電極基準 -770mV 海水塩化銀基準 -780mV 又は飽和硫酸銅 電極基準 -850mV	取付完了後、測定端子取付箇所毎						電 位 測 定	飽和かんこう 電極基準 -770mV 海水塩化銀基準 -780mV 又は飽和硫酸銅 電極基準 -850mV	取付完了後、測定端子取付箇所毎		
				4	被覆防食 (FRPモルタルライ ニング)	取 付 高 さ	—				取付完了後、上端高さ 鋼管杭：全数 矢板：1打設3箇所以上	4	被覆防食 (FRPモルタルライ ニング)	取 付 高 さ	—	取付完了後、上端高さ 鋼管杭：全数 矢板：1打設3ヶ所以上	
					被覆防食 (ペトロラタムライ ニング) (コンクリート被覆) 防食塗装	高 さ	—				完了後、上端・下端高さ 鋼管杭：全数 矢板：1打設3箇所以上			被覆防食 (ペトロラタムライ ニング) (コンクリート被覆) 防食塗装	高 さ	—	完了後、上端・下端高さ 鋼管杭：全数 矢板：1打設3ヶ所以上
13 港湾編	15 土工	1 土工	6	盛土工	基 準 高 ∇	-50	施工延長40mにつき1箇所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 基準高は各法肩で測定する。	13 港湾編	15 土工	1 土工	6	盛土工	基 準 高 ∇	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 基準高は各法肩で測定する。		
					幅 b1、b2	-100							幅 b1、b2	-100			
					法長	$\phi < 5m$							-100	法長		$\phi < 5m$	-100
						$\phi \geq 5m$							法長の-2%			$\phi \geq 5m$	法長の-2%
					勾 配	-0.5分							勾 配	-0.5分			
延 長 L	-200	1施工箇所毎。	延 長 L	-200	1施工箇所毎。												
13 港湾編	15 土工	1 土工	7	掘削工 (浚渫は除く)	基 準 高 ∇	+100 -200	施工延長40mにつき1箇所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 基準高は掘削部の両端で測定する。	13 港湾編	15 土工	1 土工	7	掘削工 (浚渫は除く)	基 準 高 ∇	+100 -200	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40 m以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 基準高は掘削部の両端で測定する。		
					法長	$\phi < 5m$							-200	法長		$\phi < 5m$	-200
						$\phi \geq 5m$							法長の-4%			$\phi \geq 5m$	法長の-4%
					幅 B	-100							幅 B	-100			
					勾 配	-0.5分							勾 配	-0.5分			
延 長 L	-200	1施工箇所毎。	延 長 L	-200	1施工箇所毎。												
13 港湾編	15 土工	1 土工	8	法面工	厚 さ t	-30	法の中央で測定する。	13 港湾編	15 土工	1 土工	8	法面工	厚 さ t	-30	法の中央で測定する。		
					延 長 L	-200	1施工箇所毎。						延 長 L	-200	1施工箇所毎。		
13 港湾編	16 埋立及び裏埋	1 埋立工及び裏埋工	3	埋立 裏埋工	基 準 高	陸上部	-0	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	13 港湾編	16 埋立及び裏埋	1 埋立工及び裏埋工	3	埋立 裏埋工	基 準 高	陸上部	-0	
						水中部	-0								水中部	-0	
					平坦性 (整地完成断面)	± 100	平坦性 (整地完成断面)							± 100			



単位：mm

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ 铸铁管 ）	幅 B	±30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1箇所。	15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ 管巻材 ） （ 铸铁管 ）	幅 B	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1ヶ所。		
				深さ H	-30						厚さ t, t1	設計値以上			
				厚さ t, t1	設計値以上										
15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ ポリエチレン管 ）	幅 B	±30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1箇所。	15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ 管巻材 ） （ ポリエチレン管 ）	幅 B	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1ヶ所。		
				深さ H	-30						厚さ t, t1, t2	設計値以上			
				厚さ t, t1, t2	設計値以上										
15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ 給水管 ）	幅 B	±30	施工箇所10箇所につき1箇所、10箇所以下のものは1工事につき1箇所。	15 水道編	1 水道工事	6 管路土工（開削）	管路土工 （ 管巻材 ） （ 給水管 ）	幅 B	-50	施工箇所10ヶ所につき1ヶ所、10ヶ所以下のものは1工事につき1ヶ所。		
				深さ H	-30						厚さ t, t1, t2	設計値以上			
				厚さ t, t1, t2	設計値以上										
15 水道編	1 水道工事	10 铸铁管布設工	管布設 （ 铸铁管 ）	布設位置 W	±50	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1箇所。	15 水道編	1 水道工事	10 铸铁管布設工	管布設 （ 铸铁管 ）	布設位置 W	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1ヶ所。		布設位置は、官民境界又は道路構造物等からの離隔幅。
				土被り DP	±30						土被り DP	±30			
				総延長 L (500m以上)	-200						総延長 L (500m以上)	-200			
				総延長 L (500m未満)	-100						総延長 L (500m未満)	-100			
15 水道編	1 水道工事	11 ポリエチレン管布設工	管布設 （ ポリエチレン管 ）	布設位置 W	±50	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1箇所。	15 水道編	1 水道工事	11 ポリエチレン管布設工	管布設 （ ポリエチレン管 ）	布設位置 W	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき1ヶ所。		布設位置は、官民境界又は道路構造物等からの離隔幅。
				土被り DP	±30						土被り DP	±30			
				総延長 L (500m以上)	-200						総延長 L (500m以上)	-200			
				総延長 L (500m未満)	-100						総延長 L (500m未満)	-100			

工種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認			
1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料 必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○	1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料 必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○			
		骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○			
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材H)				○	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材H)		○	
		粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	40%以下、舗装コンクリートは35%以下 但し、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は25%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。		○			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下 舗装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は25%以下	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○			
1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料 その他(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○	1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	材料 その他(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○			
		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。				○	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。		○	
		モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。						○	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。			○
		骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。					○	骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。			○	
		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。				○	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	砂、砂利： 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。		○	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上		○	1	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上		○
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）		○	ポルトランドセメントの化学分析				JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）		○		
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上 および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○				練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上 及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
			回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならぬ。	○	回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上				その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○				
1	製造	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	工事開始時 工事中1回/6ヶ月以上	レディミキストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○	1	製造	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	レディミキストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディミキストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	○				ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種※で、1工種のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディミキストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）	○
			連続ミキサの場合： 土木学会標準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下		○	連続ミキサの場合： 土木学会標準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下					○				
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディミキストコンクリート以外の場合に適用する。	○				細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディミキストコンクリート以外の場合に適用する。	○
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		○				粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
1	施工	必須	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502, 503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 		1	施工	必須	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で、1工事のコンクリート使用量が1品種50m³未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・1品種当たりの総使用量が50m³以上の場合は、50m³毎に1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502, 503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略することができる。 	<p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
			単位水量測定	「レディミクストコンクリートの品質確保について」	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	100m ³ /日以上の場合； 2回/日(午前1回、午後1回)、または重要構造物では重要度に応じて100～150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときと測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。					1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	100m ³ /日以上の場合； 2回/日(午前1回、午後1回)以上、重要構造物の場合は重要度に応じて、100m ³ ～150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときと、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
1	セメント・コンクリート （転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工 必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm （コンクリート舗装の場合） スランブ2.5cm：許容値±1.0cm （道路橋床版の場合） スランブ8cmを標準とする。	・荷卸し時 1回/日 または 構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回、 および 荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスコンクリートを用いる場合は原則として全車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全車試験を行うが、スランブ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランブ試験の頻度について監督員と協議し低減することができる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。		1 セメント・コンクリート （転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	施工 必須		スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm スランブ2.5cm：許容差±1.0cm	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ 毎に1回、 及び 荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。 ・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スランブ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランブ試験の頻度について監督員と協議し低減することができる。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクスコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 （1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値）	・荷卸し時 1回/日 または 構造物の重要度と工事の規模に応じて20から150m ³ ごとに1回 なお、テストピースは打設場所にて採取し、1回につき6本（σ7・・・3本、σ28・・・3本）とする。 ・早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3本（σ3）を採取する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。										
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）	・荷卸し時 1回/日 または 構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ ごとに1回、 および 荷卸し時に品質変化が認められた時。											
	その他	コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき2回（午前・午後）の割りで行う。なおテストピースは打設場所にて採取し、1回につき原則として3個とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 コンクリート舗装の場合には、曲げ強度試験を適用する。		その他	コンクリートの曲げ強度試験（コンクリート舗装の場合、必須）	JIS A 1106	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。	打設日1日につき2回（午前・午後）の割りで行う。なおテストピースは打設場所にて採取し、1回につき原則として3個とする。					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認				
1	セメント・コンクリート	施工	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			1	セメント・コンクリート	施工	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。						
			コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112																	
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象(ただし いづれの 工種についてもプレキャスト製品 および プレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象(ただし いづれの 工種についてもプレキャスト製品 および プレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。		1	セメント・コンクリート	施工後試験	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象(ただし いづれの 工種についてもプレキャスト製品 および プレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。				
			テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504	1回の測定結果(X)(3測点の平均値)は(呼び強度)以上とする。 設計基準強度	1工事のコンクリート使用量が1品種150m ³ につき1回行なうものとする。	レディミクストコンクリート取扱基準による。	1回の測定結果(X)(3測点の平均値)は(呼び強度)以上とする。 設計基準強度					1工事のコンクリート使用量が1品種150m ³ につき1回行なうものとする。	レディミクストコンクリート取扱基準による。							
ガス圧接	施工前試験	必須	外観検査	・目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 折れ曲がり 等 ・ノギス等による計測(詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 等	熱間押技法以外の場合 ①軸心の偏心が鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが1.1D以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれがD/4以下 ⑤著しいたれ下がり、折れ曲がりがない	鉄筋メーカー、圧接作業班、鉄筋径毎に自動ガス圧接の場合は各2本、手動ガス圧接の場合は各5本のモデル供試体を作成し実施する。	・モデル供試体の作成は、実際の作業と同一条件・同一材料で行う。 (1)SD490以外の鉄筋を圧接する場合 ・手動ガス圧接及び熱間押技法ガス圧接を行う場合、材料、施工条件などを特に確認する必要がある場合には、施工前試験を行う。 ・特に確認する必要がある場合とは、施工実績の少ない材料を使用する場合、過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件、圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。 ・自動ガス圧接を行う場合には、装置が正常で、かつ装置の設定条件に誤りのないことを確認するため、施工前試験を行わなければならない。 (2)SD490の鉄筋を圧接する場合 SD490を圧接する場合、手動ガス圧接、自動ガス圧接、熱間押技法のいずれにおいても、施工前試験を行わなければならない。		2	ガス圧接	施工前試験	外観検査	・目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 等 ・ノギス等による計測(詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 等	熱間押技法以外の場合 ①軸心の偏心が鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径(径の異なる場合は細いほうの鉄筋)の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下。 ⑥著しいたれ下がり、へこみ、焼き割れない。 ⑦その他有害と認められる欠陥があつてはならない。	鉄筋メーカー、圧接作業班、鉄筋径毎に自動ガス圧接の場合は各2本、手動ガス圧接の場合は各5本のモデル供試体を作成し実施する。	・モデル供試体の作成は、実際の作業と同一条件・同一材料で行う。 (1)直径19mm以上の鉄筋またはSD490以外の鉄筋を圧接する場合 ・手動ガス圧接及び熱間押技法ガス圧接を行う場合、材料、施工条件などを特に確認する必要がある場合には、施工前試験を行う。 ・特に確認する必要がある場合とは、施工実績の少ない材料を使用する場合、過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件、圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。 ・自動ガス圧接を行う場合には、装置が正常で、かつ装置の設定条件に誤りのないことを確認するため、施工前試験を行わなければならない。 (2)直径19mm未満の鉄筋またはSD490の鉄筋を圧接する場合 手動ガス圧接、自動ガス圧接、熱間押技法のいずれにおいても、施工前試験を行わなければならない。					
			配筋状態及びびかぶり	「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びびかぶり測定要領」による	同左	同左	同左					同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
			強度測定																		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
2	施工後試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> 目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 折れ曲がり等 ノギス等による計測（詳細外観検査） 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ等 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1/5以下。</p> <p>②ふくらみは鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。</p> <p>③ふくらみの長さが1.1D以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。</p> <p>④ふくらみの頂点と圧接部のずれがD/4以下</p> <p>⑤著しいたれ下がり、折れ曲がりがない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目視は全数実施する。 特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 規格値を外れた場合は下記による。いずれの場合も監督員の承諾を得る。 ①は、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査および超音波探傷検査を行う。 ②③は、再加熱し、圧力を加えて所定のふくらみに修正し、外観検査を行う。 ④は、圧接部を切り取って再圧接修正し、外観検査および超音波探傷検査を行う。 ⑤は、著しい折れ曲がりが生じた場合は、再加熱して修正し、外観検査を行う。又、著しい焼き割れおよび垂れ下がりなどが生じた場合は、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査および超音波探傷検査を行う。 		2	施工後試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> 目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ等 ノギス等による計測（詳細外観検査） 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ等 	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1/5以下。</p> <p>②ふくらみは鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。</p> <p>③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。</p> <p>④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。</p> <p>⑤折れ曲がりの角度が2°以下。</p> <p>⑥著しいたれ下がり、へこみ、焼き割れがない。</p> <p>⑦その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目視は全数実施する。 特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。 	<p>熱間押抜法の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 規格値を外れた場合は下記による。いずれの場合も監督員の承諾を得る。 ①②③は、再加熱、再加圧、押抜きを行って修正し、修正後外観検査を行う。 ④は、再加熱して修正し、修正後外観検査を行う。 <p>ただし、現場条件により溶接機械の設置が出来ない場合には、添筋で補強する（コンクリートの充填性が低下しない場合に限る）。</p>	
					<p>熱間押抜法の場合</p> <p>①ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない</p> <p>②ふくらみの長さが1.1D以上。ただし、SD490の場合は1.2D以上</p> <p>③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があつてはならない。</p> <p>④その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>		<p>熱間押抜法の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 規格値を外れた場合は下記による。いずれの場合も監督員の承諾を得る。 ①②③は、再加熱、再加圧、押抜きを行って修正し、修正後外観検査を行う。 ④は、再加熱して修正し、修正後外観検査を行う。 										
2	施工後試験	必須	超音波探傷検査	JIS Z 3062	<ul style="list-style-type: none"> 各検査ロットごとに30箇所 ランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が1箇所以下の時はロットを合格とし、2箇所以上のときはロットを不合格とする。 ただし、合否判定レベルは基準レベルより-24db感度を高めたレベルとする。 	<p>超音波探傷検査は抜取検査を原則とする。</p> <p>抜取検査の場合は、各ロットの30箇所とし、1ロットの大きさは200箇所程度を標準とする。ただし、1作業班が1日に施工した箇所を1ロットとし、自動と手動は別ロットとする。</p>	<p>規格値を外れた場合は、下記による。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不合格ロットの全数について超音波探傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督員の承認を得て、補強筋（ラップ長の2倍以上）を添えるか、圧接部を切り取って再圧接する。 圧接部を切り取って再圧接によって修正する場合には、修正後外観検査および超音波探傷検査を行う。 		2	施工後試験	必須	超音波探傷検査	JIS Z 3062	<ul style="list-style-type: none"> 各検査ロットごとに30ヶ所 ランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が1ヶ所以下の時はロットを合格とし、2ヶ所以上のときはロットを不合格とする。 ただし、合否判定レベルは基準レベルより-24db感度を高めたレベルとする。 	<p>超音波探傷検査は抜取検査を原則とする。</p> <p>抜取検査の場合は、各ロットの30ヶ所とし、1ロットの大きさは200ヶ所程度を標準とする。ただし、1作業班が1日に施工した箇所を1ロットとし、自動と手動は別ロットとする。</p>	<p>規格値を外れた場合は、以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不合格ロットの全数について超音波探傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督員の承認を得て、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査及び超音波探傷検査を行う。 	
3	既製杭工	材料	必須	外観検査（鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭）	目視	目視により使用上有害な欠陥（鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など）がないこと。	設計図書による。	○	3	材料	必須	外観検査（鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭）	目視	目視により使用上有害な欠陥（鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など）がないこと。	設計図書による。		○
3	既製杭工	材料	必須	外観検査（鋼管杭）	JIS A 5525	<p>【円周溶接部の目違い】</p> <p>外径700mm未満：許容値2mm以下</p> <p>外径700mm以上1,016mm以下：許容値3mm以下</p> <p>外径1,016mmを超え2,000mm以下：許容値4mm以下</p>		<ul style="list-style-type: none"> 外径700mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を2mm×π以下とする。 外径700mm以上1,016mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を3mm×π以下とする。 外径1,016mmを超え2,000mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を4mm×π以下とする。 		3	材料	必須	外観検査（鋼管杭）	JIS A 5525	<p>【円周溶接部の目違い】</p> <p>外径700mm未満：許容値2mm以下</p> <p>外径700mm以上1,016mm以下：許容値3mm以下</p> <p>外径1,016mmを超え2,000mm以下：許容値4mm以下</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外径700mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を2mm×π以下とする。 外径700mm以上1,016mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を3mm×π以下とする。 外径1,016mmを超え2,000mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を4mm×π以下とする。 	
3	既製杭工	材料	必須	鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接浸透深傷試験（溶剤除去性染色浸透探傷試験）	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4	われ及び有害な欠陥がないこと。	原則として全溶接箇所で行う。ただし、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4により定められた認定技術者が行うものとする。試験箇所は杭の全周とする。		3	材料	必須	鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接浸透深傷試験（溶剤除去性染色浸透探傷試験）	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	われ及び有害な欠陥がないこと。	原則として全溶接箇所で行う。ただし、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6により定められた認定技術者が行うものとする。試験箇所は杭の全周とする。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
3	施工	必須	鋼管杭・H鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の3類以上	原則として溶接20箇所毎に1箇所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。 (20箇所毎に1箇所とは、溶接を20箇所施工した毎にその20箇所から任意の1箇所を試験することである。)			3	施工	既製杭工	鋼管杭・H鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)		
			その他	鋼管杭の現場溶接超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の3類以上	原則として溶接20箇所毎に1箇所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から深傷し、その深傷長は30cm/1方向とする。 (20箇所毎に1箇所とは、溶接を20箇所施工した毎にその20箇所から任意の1箇所を試験することである。)	中掘り工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波深傷試験とすることができる。				鋼管杭の現場溶接超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類であること	原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から探傷し、その探傷長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)	中掘り工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。	
			鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比試験	比重の測定	設計図書による。 又、設計図書に記載されていない場合は60%~70%とする。	試料の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。		鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比				比重の測定による水セメント比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%~70% (中掘り杭工法)、60% (プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法) とする。	試料の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。			
			鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) セメントミルクの圧縮強度試験	セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周固定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による。	供試体の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とすることが多い。 尚、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値：19.6Mpa	鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) セメントミルクの圧縮強度試験 JIS A 1108				セメントミルク工法に用いる根固め液及びびくい周固定液の圧縮強度試験 JIS A 1108	設計図書による。	供試体の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とすることが多い。 なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。	参考値：20N/m ²		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
4	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	粒状路盤：修正CBR20%以上（クラッシュラン鉄鋼スラグは修正CBR30%以上） アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が40cmより小さい場合は30%以上とする。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	4	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	粒状路盤：修正CBR20%以上（クラッシュラン鉄鋼スラグは修正CBR30%以上） アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層の合計厚が40cmより小さい場合は30%以上とする。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	骨材のふるい分け試験				JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○		
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下	・鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	土の液性限界・塑性限界試験				JIS A 1205	塑性指数PI：6以下	・鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○		
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-16	1.5%以下	・水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	鉄鋼スラグの水浸膨張性試験				舗装調査・試験法便覧 [4]-16	1.5%以下	・水硬性粒度調整スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○		
			道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015	呈色なし	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	道路用スラグの呈色判定試験				JIS A 5015	呈色なし	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認				
4	材料	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・再生クラッシュランに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。	○	4	材料	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・再生クラッシュランに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。	○		
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-191	個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_3	2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	施工				必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-185	砂置換法 (JIS A1214)	砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用出来る。	個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_3	2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。
			車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上	$\bar{X}_3=97\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=96\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上	車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上	$\bar{X}_3=97\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=96\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上													
			歩道(密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	$\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上													歩道(密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	$\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上	
ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210			・中規模以上の工事：随時	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210			・中規模以上の工事：随時	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・施工規模は1施工箇所の施工面積(実施数量)とする。								
その他	平板載荷試験	JIS A 1215			1,000㎡につき2回の割で行う。					・セメントコンクリートの路盤に適用する。	施工	必須	平板載荷試験	JIS A 1215			1,000㎡につき2回の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。 ・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。			
	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102			・中規模以上の工事：異常が認められたとき。					・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。					骨材のふるい分け試験	JIS A 1102			・中規模以上の工事：異常が認められたとき。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・施工規模は1施工箇所の施工面積(実施数量)とする。	
	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下		・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下								・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・施工規模は1施工箇所の施工面積(実施数量)とする。				
	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による		・確認試験である。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。	・確認試験である。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・施工規模は1施工箇所の施工面積(実施数量)とする。			含水比試験	JIS A 1203					設計図書による		・確認試験である。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・施工規模は1施工箇所の施工面積(実施数量)とする。				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
5	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○	5	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することができる。 	○
			鉄鋼スラグの修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することができる。 	○				
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照		<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することができる。 	○				
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：4以下		<ul style="list-style-type: none"> ・但し、鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ただし、鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することができる。 	○				
			鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法便覧 [4]-10	呈色なし		<ul style="list-style-type: none"> ・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 	○				
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-16	1.5%以下		<ul style="list-style-type: none"> ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することができる。 	○				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
5 上層路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-12	1.2Mpa以上(14日)	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・HMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○	5 上層路盤	材料	必須	鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-12	1.2Mpa以上(14日)	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・HMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。 	○
			鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-106	1.50kg/L以上							<ul style="list-style-type: none"> ・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○	鉄鋼スラグの単位容積質量試験			
	その他		粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・粒度調整及び再生粒度調整に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○	その他			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・粒度調整及び再生粒度調整に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。 	○
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下							<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・300㎡以下は省略できる。 	○	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		試験基準	摘要	試験成績表等による確認																				
					個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n									個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n																							
5 上層路盤	施工 必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-191	車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上	測定値の平均値 \bar{X}_n $\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=95.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。			5 上層路盤	施工 必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-185 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用出来る。	車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上	測定値の平均値 \bar{X}_n $\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=95.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。																				
																						歩道 (密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	測定値の平均値 \bar{X}_n $\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上			歩道 (密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	測定値の平均値 \bar{X}_n $\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上										
																																2.36mmふるい：±15%以内	・中規模以上の工事：定期的又は随時 (1回～2回/日)			2.36mmふるい：±15%以内	・中規模以上の工事：定期的または随時 (1回～2回/日)		
																						その他	平板荷試験	JIS A 1215		1,000㎡につき2回の割で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。			平板荷試験	JIS A 1215		1,000㎡につき2回の割で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。 ・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。					
																																					土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：4以下
含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。																																
										6 アスファルト安定処理路盤		アスファルト舗装に準じる				アスファルト舗装に準じる																							

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7	セメント安定処理路盤	材料 必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-38	下層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 2.9Mpa (アスファルト舗装)、2.0Mpa (セメントコンクリート舗装)。	<ul style="list-style-type: none"> 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> 安定処理材に適用する。 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることのできる。 300㎡以下は省略できる。 		7	材料 必須	試験区分	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-38	下層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 2.9Mpa (アスファルト舗装)、2.0Mpa (セメントコンクリート舗装)。	<ul style="list-style-type: none"> 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> 安定処理材に適用する。 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることのできる。 300㎡以下は省略できる。 	
			骨材の修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上							<ul style="list-style-type: none"> アスファルト舗装に適用する。 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることのできる。 300㎡以下は省略できる。 	○				
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 舗装調査・試験法便覧 [4]-103	下層路盤 塑性指数PI：9以下 上層路盤 塑性指数PI：9以下									<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 材料の品質証明書によることのできる。 300㎡以下は省略できる。 			
施工	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	JIS A 1102	2.36mmふるい：±15%以内	<ul style="list-style-type: none"> 中規模以上の工事：定期的又は随時 (1回～2回/日) 小規模以下の工事：異常が認められたとき 	<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 300㎡以下は省略できる。 		施工	必須	試験区分	粒度 (2.36mmフルイ)	JIS A 1102	2.36mmふるい：±15%以内		<ul style="list-style-type: none"> 中規模以上の工事：定期的または随時 (1回～2回/日) 小規模以下の工事：異常が認められたとき 	<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 300㎡以下は省略できる。 	
		粒度 (75μmフルイ)	JIS A 1102	75μmふるい：±6%以内							<ul style="list-style-type: none"> 中規模以上の工事：異常が認められたとき。 						
		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-191	個々の測定値 測定値の平均値 \bar{X}_n									<ul style="list-style-type: none"> 2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 300㎡以下は省略できる。 			
車道、路肩等	最大乾燥密度の93%以上	$\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=95.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上	<ul style="list-style-type: none"> 1施工箇所の施工面積 (実施数量) が300㎡未満は省略することが出来る。 ※セメントを用いて安定処理した混合物を測定する。 														
歩道 (密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	$\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上		<ul style="list-style-type: none"> 2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 300㎡以下は省略できる。 												
砂置換法 (JIS A 1214)	砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用出来る	車道、路肩等 最大乾燥密度の93%以上 $\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=95.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=95\%$ 以上	<ul style="list-style-type: none"> 1施工箇所の施工面積 (実施数量) が300㎡未満は省略することが出来る。 ※セメントを用いて安定処理した混合物を測定する。 														
歩道 (密度を落とした場合)	最大乾燥密度の88%以上	歩道 (密度を落とした場合) 最大乾燥密度の88%以上 $\bar{X}_3=90\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=89.5\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=89\%$ 以上		<ul style="list-style-type: none"> 2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中規模工事：2,000㎡以上とする。 小規模工事：2,000㎡未満とする。 300㎡以下は省略できる。 												

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
7	セメント	施工 その他	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。			7	セメント	施工 その他	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。		
			セメント量試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-213, [4]-218	±1.2%以内	・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回/日）	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回/日）				・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。					
8	アスファルト舗装	材料 必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	8	アスファルト舗装	材料 必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略することが出来る。	○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下			○									
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下			○									
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-45	細長、あるいは扁平な石片：10%以下			○									
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧 表3.3.17による。			○									
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下			○									
			8	アスファルト舗装	材料 その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4以下				・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	8	アスファルト舗装	材料 その他
フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-65	50%以下			○												
フィラーの水浸膨張試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-59	4%以下			○												
フィラーの剥離抵抗性試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-61	1/4以下			○												
製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-77	水浸膨張比：2.0%以下			○												
製鋼スラグの密度及び吸水率試験	JIS A 1110	SS 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下			○												
粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	すり減り量 砕石：30%以下 CSS：50%以下 SS：30%以下			○												
硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下			○												
粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石量：5%以下			○												

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
8	材料	その他	針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・ 小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・ 材料の品質証明書によることのできる。 ・ 当初、試験練り検査結果により省略する。 	○	8	材料	その他	針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・ 小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・ 小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・ 材料の品質証明書によることのできる。 ・ 当初、試験練り検査結果により省略することが出来る。 	○
			軟化点試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3			○				軟化点試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3			○
			伸度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3			○				伸度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3			○
			トルエン可溶分試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○				トルエン可溶分試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○				引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○
			薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○				薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・ セミブローンアスファルト：表3.3.4			○
			蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1			○				蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・ 舗装用石油アスファルト：表3.3.1			○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
8	材料	その他	密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○	8	材料	その他	密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることが出来る。 ・当初、試験練り検査結果により省略することが出来る。	○		
			高温動粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-180	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4			○											
			60℃粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-192				○											
			タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-244	舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3			○											
	プラント	必須		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	プラント	必須		粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧（平成18年版）表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	
				粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい：±5%以内基準粒度			○										
				アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	アスファルト量：±0.9%以内			○										
				温度測定（アスファルト・骨材・混合物）	温度計による。	配合設計で決定した混合温度。			随時				○						
										○		その他		水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-57	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○
															○	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-39		
										○				ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-17			アスファルト混合物の耐摩耗性の確認	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
					個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n									個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n				
8 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-91	車道	基準密度の94%以上	$\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4\sim6}=96.0\%$ 以上 $\bar{X}_{7\sim10}=96.0\%$ 以上	2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	<ul style="list-style-type: none"> ・但し、橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。 	8 アスファルト舗装	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-91	車道	基準密度の94%以上	$\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4\sim6}=96.0\%$ 以上 $\bar{X}_{7\sim10}=96.0\%$ 以上	2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ただし、橋面舗装はコア採取しないでAs合材量(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。 ・1施工箇所の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。 	
						歩道	基準密度の90%以上									$\bar{X}_3=92.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4\sim6}=92.0\%$ 以上				
			温度測定(初期締固め前)	温度計による。	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。	温度測定(初転圧前)	温度計による。				110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。					
			外観検査(混合物)	目視				外観検査(混合物)	目視											
その他			すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1]-84	設計図書による		舗設車線毎200m毎に1回		その他			すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1]-84	設計図書による		各舗設車線200m毎に1回				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認					
9	材料	必須	コンシステンシーVC試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値：50秒	当初			9	材料	必須	コンシステンシーVC試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値：50秒	当初							
			マーシャル突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指針(案) ※いずれか1方法	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率：96%																	
			ランマー突き固め試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率：97%																	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむえずおこなえない場合に適用する。なお測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが臨ましい。																
		その他	コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。							9	材料	必須	コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。			
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	舗装施工便覧 細骨材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.22	細骨材300m ³ 、粗骨材500m ³ ごとに1回、あるいは1回/日。																
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	設計図書による。																	
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	設計図書による。	工事開始前、材料の変更時																
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地25%以下	ホワイトベースに使用する場合：40%以下																
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂、スラグ細骨材 5.0%以下 それ以外(砂等) 3.0%以下(ただし、砕砂で粘土、シルト等を含まない場合は5.0%以下)	工事開始前、材料の変更時																
			粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石量：5%以下	工事開始前、材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。															
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。		・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。															
9	材料	その他	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 5308の附属書C	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。			9	材料	その他	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。							
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。															
			骨材中の比重1.95の液体に浮く粒子の試験	JIS A 5308の附属書A	0.5%以下																	
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%未満 粗骨材：12%以下		寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。															
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上																
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)																	
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。															
			回収水の場合：JIS A 5308附属書C		塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上		・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならぬ。															
			9	材料	その他	骨材中の比重大き液体に浮く粒子の試験	JIS A 1141	0.5%以下						9	材料	その他	骨材中に含まれる密度1.95g/cm ³ の液体に浮く粒子の試験	JIS A 1141	0.5%以下			
						硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下					寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。									
						セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)				工事開始前、工事中1回/月以上										
						ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)														
練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上				工事開始前、工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。															
回収水の場合：JIS A 5308附属書C		塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上					・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。															

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
9	製造 (プレキャスト)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	設計図書による。	・レディーミクストコンクリートの 場合、印字記録により確認を行う。	○	9	製造 (プレキャスト)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの 場合、印字記録により確認を行う。	○
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積 質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の 差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合： コンクリート中のモルタル単位容積 質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の 差：5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用 量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以 上。またはレディーミクストコンク リート工場 (JISマーク表示認証工 場) の品質証明書等のみとすること ができる。	○				ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの 場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率： 15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・1工種のコンクリート使用量が1品 種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の 試験、またはレディーミクストコン クリート工場の品質証明書等のみと することが出来る。	○
				連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積 質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の 差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下			○					連続ミキサの場 合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量 差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5% 以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下			○
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する。	○				細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の 場合に適用する。	○
		粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上			○			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上			○
9	施工	必須	コンシステンシーVC試験		修正VC値の±10秒	1日2回 (午前・午後) 以上、その他 コンシステンシーの変動が認められ る場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視観察を行 う。		9	施工	必須	コンシステンシーVC試験		修正VC値の±10秒	1日2回 (午前・午後) 以上、その他 コンシステンシーの変動が認められ る場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視観察を行 う。			
			マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験 法便覧 [3]-290 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%						マーシャル突き固め試 験	舗装調査・試験 法便覧 [3]-290 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%				
			ランマー突き固め試験								ランマー突き固め試験						
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	・試験回数が7回以上 (1回は3個以 上の供試体の平均値) の場合は、 全部の試験値の平均値が所定の合格 判断強度を上まわらなければならない。 ・試験回数が7回未満となる場合 は、 ①1回の試験結果は配合基準強度の 85%以上 ②3回の試験結果の平均値は配合基 準強度以上	2回/日 (午前・午後) で、3本1組/ 回 (材令28日)。	小規模工種で1工種当りの総使用 量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以 上。またレディーミクストコンク リート工場の品質証明書等のみとす ることができる。				○	コンクリートの曲げ強 度試験	JIS A 1106	・試験回数が7回以上 (1回は3個以上の供 試体の平均値) の場合は、 全部の試験値の平均値が所定の合格判断 強度を上まわるものとする。 ・試験回数が7回未満となる場合は、 ①1回の試験結果は配合基準強度の85%以 上 ②3回の試験結果の平均値は配合基準強度 以上	2回/日 (午前・午後) で、3本1組/ 回 (材令28日)。	・1工種のコンクリート使用量が1品 種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の 試験、またはレディーミクストコン クリート工場の品質証明書等のみと することが出来る。	○
			温度測定 (コンクリ ート)	温度計による。		2回/日 (午前・午後) 以上						温度測定 (コンクリ ート)	温度計による。		2回/日 (午前・午後) 以上		
			現場密度の測定	RI水分密度計	基準密度の95.5%以上。	40mに1回 (横断方向に3箇所)						現場密度の測定	RI水分密度計	基準密度の95.5%以上。	40mに1回 (横断方向に3ヶ所)		
		コアによる密度測定	舗装調査・試験 法便覧 [3]-300		1,000m ³ に1個の割合でコアを採取 して測定		コアによる密度測定	舗装調査・試験 法便覧 [3]-300		1,000m ³ に1個の割合でコアを採取し て測定							

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認					
10	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○	10	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○					
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm ³ 以上 吸水率：3.0%以下							<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○									
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下									○								
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-45	細長、あるいは扁平な石片：10%以下													○				
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧3-3-17による。														○			
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下															○		
	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	30%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○															
		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下				○														
		粗骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石量：5%以下						○												
		針入度試験	JIS K 2207	15~30(1/10mm)							<ul style="list-style-type: none"> ・規格値は、石油アスファルト（針入度20~40）にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○										
	10	材料	その他	軟化点試験	JIS K 2207	58~68℃	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 						<ul style="list-style-type: none"> ・規格値は、石油アスファルト（針入度20~40）にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○	10	材料	その他	軟化点試験	JIS K 2207		58~68℃	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前
				伸度試験	JIS K 2207	10cm以上 (25℃)		○														
				トルエン可溶分試験	JIS K 2207	86~91%				○												
				引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	240℃以上					○											
蒸発質量変化率試験				JIS K 2207	0.5%以下	○																
密度試験				JIS K 2207	1.07~1.13g/cm ³				○													
ブランド	必須	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3]-315	貫入量 (40℃) 目標値 表層：1~4mm 基層：1~6mm	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。		○					ブランド	必須	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3]-315	貫入量 (40℃) 目標値 表層：1~4mm 基層：1~6mm	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。	○				
		リュエル流動性試験240℃	舗装調査・試験法便覧 [3]-320	3~20秒 (目標値)				○														
		ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-39	300以上						○												
		曲げ試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-69	破断ひずみ (-10℃、50mm/min) 8.0×10 ⁻³ 以上							○											

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
10	グリースアスファルト舗装	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：定期的又は随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数又は抽出 ・ふるい分け試験 1~2回/日 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 	○	10	グリースアスファルト舗装	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：定期的または随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 ・印字記録の場合：全数または抽出 ・ふるい分け試験 1~2回/日 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 	○	
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい：±5%以内基準粒度							○						
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	アスファルト量：±0.9%以内							○						
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	アスファルト：220℃以下 石 粉：常温~150℃							○						
	舗設現場	必須	温度測定 (初期締固め前)	温度計による。		随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)		舗設現場	必須	温度測定 (初転圧前)	温度計による。		随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)			
11	路床安定処理工	材料	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化したとき。			11	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化したとき。			
			CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-155, [4]-158	設計図書による。		CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-155, [4]-158				設計図書による。						
11	路床安定処理工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4]-185	最大乾燥密度の90%以上。	500m3につき1回の割合で行う。(1回は3個の試料採取)	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		11	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法	【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは90%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法 (例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合) に適用する。 【粘性土】 ・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2% ≤ Va ≤ 8%ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 その他、設計図書による。	500㎡につき1回の割合で行う。(1回は3個の試料採取)	1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	・1施工箇所の施工量 (実施数量) が100㎡未満は省略することが出来る。
					または、RI計器を用いた盛土の締固め管理要領 (案)	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。	1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500㎡未満：5点 ・500㎡以上~1000㎡未満：10点 ・1000㎡以上~2000㎡未満：15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。	【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは92%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 。ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法 (例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合) に適用する。 【粘性土】 ・路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 または、設計図書による。				1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500㎡未満：5点 ・500㎡以上1,000㎡未満：10点 ・1,000㎡以上2,000㎡未満：15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。				
					「TS・GNSSを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領 (案)」【TS編・GNSS編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位 (以下「管理単位」) に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは92%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 。ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法 (例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合) に適用する。 【粘性土】 ・路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 または、設計図書による。				1. 盛土を管理する単位 (以下「管理単位」) に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認			
11	路床安定処理工	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		11	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。			
				その他	平板載荷試験	JIS A 1215		延長40mにつき1箇所の割で行う。					・セメントコンクリートの路盤に適用する。	その他	平板載荷試験	JIS A 1215			延長40mにつき1ヶ所の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。
				現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。						現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。				
				含水比試験	JIS A 1203		降雨後または含水比の変化が認められたとき。						含水比試験	JIS A 1203		500mにつき1回の割合で行う。	・1施工箇所の施工量（実施数量）が100m未満は省略することが出来る。			
				たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-227（ベンゲルマンビーム）		ブルーフローリングでの不良箇所について実施						たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-227（ベンゲルマンビーム）		ブルーフローリングでの不良箇所について実施				
12	表層安定処理工（表層混合処理）	材料	その他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。		12	材料	その他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。			
12	表層安定処理工（表層混合処理）	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法	最大乾燥密度の90%以上。	500m3につき1回の割合で行う。（1回は3個の試料採取）	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。		12	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤53mm： 砂置換法（JIS A 1214） 最大粒径 >53mm： 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法	【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは90%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 【粘性土】 ・路床及び構造物取付け部：トラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≤Va≤8%ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 その他、設計図書による。	500mにつき1回の割合で行う。（1回は3個の試料採取） 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	・1施工箇所の施工量（実施数量）が100m未満は省略することが出来る。			
				または、RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。 又は、設計図書による。	1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500㎡未満：5点 ・500㎡以上～1000㎡未満：10点 ・1000㎡以上～2000㎡未満：15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。	【砂質土】 ・路床及び構造物取付け部：締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上（締固め試験（JIS A 1210）A・B法）もしくは92%以上（締固め試験（JIS A 1210）C・D・E法）。ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合）に適用する。 【粘性土】 ・路床及び構造物取付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 または、設計図書による。					1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500㎡未満：5点 ・500㎡以上1,000㎡未満：10点 ・1,000㎡以上2,000㎡未満：15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。						
				「TS・GNS Sを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領（案）」【TS編・GNS S編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。							また、 「TS・GNS Sを用いた盛土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認			
12	表層安定処理工（表層混合処理）	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下が認められた場合は、その箇所においてベンゲルマンビーム等によるたわみ測定を行うものとする。	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		12	表層安定処理工（表層混合処理）	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。		
			その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。						その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。			
				現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。								その他	現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。			
				含水比試験	JIS A 1203		降雨後または含水比の変化が認められたとき。								含水比試験	JIS A 1203		500mにつき1回の割合で行う。	・1施工箇所の施工量（実施数量）が100m未満は省略することが出来る。	
				たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-227（ベンゲルマンビーム）		ブルーフローリングでの不良箇所について実施。								たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-227（ベンゲルマンビーム）		ブルーフローリングでの不良箇所について実施。		
									13	材料	固結工	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したものの	当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。			
													ゲルタイム試験			当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。			
13	固結工	施工	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したものの	改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に3回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督員の指示による。		13	固結工	施工	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したものの	改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に3回とする。 現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督員の指示による。	ボーリング等により供試体を採取する。			
14	アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回（午前・午後）/日		14	アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回（午前・午後）/日				
				モルタルのフロー値試験	JIS R 5201		練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。													
14	アンカー工	施工	必須	多サイクル確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説（JGS4101-2000）	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	14	アンカー工	施工	必須	適性試験（多サイクル確認試験）	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説（JGS4101-2012）	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。			
				1サイクル確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説（JGS4101-2000）	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。														
			その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説（JGS4101-2000）	所定の緊張力が導入されていること。	・定着時緊張力確認試験 ・残存引張り確認試験 ・リフトオンテスト 等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督員と協議し行う必要性の有無を判断する。													
15	補強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時。		15	補強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時。				
				外観検査（ストリップ、鋼製壁面材、コンクリート製壁面材等）	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	同左													
				コンクリート製壁面材のコンクリート強度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。															
			その他	土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	設計図書による。													

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
15	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4] - 185	最大乾燥密度の90%以上。 または、設計図書による。	500m ³ につき1回の割合で行う。 (1回は3個の試料採取)	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	○	15	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm: 砂置換法 (JJIS A 1214) 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4] - 185 突砂法	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上(締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは90%以上(締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 または、設計図書による。	500m ³ につき1回の割合で行う。 (1回は3個の試料採取)	・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】 平均92%以上、かつ最小90%以上 【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上、かつ最小95%以上 ・1施工箇所施工量(実施数量)が100m ³ 未満は省略することが出来る。	○		
				または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」	路体・路床とも1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。	路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500m ² 未満: 5点 ・500m ² 以上~1000m ² 未満: 10点 ・1000m ² 以上~2000m ² 未満: 15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。						路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満: 5点 ・500m ² 以上1,000m ² 未満: 10点 ・1,000m ² 以上2,000m ² 未満: 15点	・最大粒径 < 100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 ・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法) 【一般の橋台背面】 平均92%以上、かつ最小90%以上 【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上、かつ最小95%以上					
				「TS・GNS Sを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領(案)」【TS編・GNS S編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。						1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。						
16	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーマイクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○	16	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーマイクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○		
				骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。							骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。		工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。	
				骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度: 2.5以上 細骨材の吸水率: 3.5%以下 粗骨材の吸水率: 3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)						JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部: 電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度: 2.5以上 細骨材の吸水率: 3.5%以下 粗骨材の吸水率: 3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)		JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部: フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部: 銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部: 電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	
				骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材: 1.0%以下 細骨材: コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)						骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)			
		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。						

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認				
16	材料	その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○	16	材料	その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○				
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○				骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○				
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。					○	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	砂、砂利： 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。		○		
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上						○	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上				○	
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上						○	ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上				○	
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C 回収水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。 その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならぬ。					○	練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C 回収水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。 その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。		○		
16	製造	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による		2回/日以上	レディミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○	16	製造	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による		2回/日以上	レディミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○		
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		粗骨材の表面水率試験					JIS A 1125		1回/日以上						
			計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	設計図書による。	・レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。 ・急結剤は適用外						○	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。 ・急結剤は適用外			○
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 連続ミキサの場合： 土木学会標準 JSCE-I 502	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。						○	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 連続ミキサの場合： 土木学会標準 JSCE-I 502-2013	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率：15%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種※で1工種のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることが出来る。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）			○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
16	施工	その他	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。		16	施工	その他	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)			
			スランブ試験(モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					スランブ試験(モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ~150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合、50m ³ 毎に1回の試験を行う。 ※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照			
			必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-1999	3本の強度の平均値が材令28日で設計強度以上とする。	吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用すると同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で28日養生し、直径50mmのコアを切り取りキャッピングを行う。原則として1回に3本とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	3本の強度の平均値が材令28日で設計強度以上とする。	吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用すると同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で28日養生し、直径50mmのコアを切り取りキャッピングを行う。原則として1回に3本とする。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合、50m ³ 毎に1回の試験を行う。 ※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照	
			その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ~150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合、50m ³ 毎に1回の試験を行う。 ※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照	
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。						コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
17	材料	現場吹付法枠工	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディミキストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○	17	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディミキストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○
			その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○			その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)	JIS A 5005 (砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3(コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4(コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021(コンクリート用再生骨材H)		○	骨材の密度及び吸水率試験			JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)		○			
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○	骨材の微粒分量試験			JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○		
砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。		○	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。		○					
17	材料	現場吹付法枠工	その他	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準溶液の色より濃い場合。		○	17	材料	その他	モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準溶液の色より濃い場合。		○
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○	骨材中の粘土塊量の試験			JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○		
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。		○			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	砂、砂利： 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。 砕砂、砕石： 工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。		○
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		○	セメントの物理試験			JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		○		
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			○	ポルトランドセメントの化学分析			JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			○		
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C 回収水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。 ・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。		○			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C 回収水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。 ・その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。		○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
17	製造	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○	17	製造	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	1回/日以上	粗骨材の表面水率試験						JIS A 1125	1回/日以上				
	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	設計図書による。	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○	その他		計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○		
	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランブ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合 コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	○	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2		コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランブ）の偏差率：15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）	○				
	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下			○	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下			○							

旧

新

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認			
17	施工	その他	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。		17	施工	その他	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合は、50m ³ 毎に1回の試験を行う。	※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)			
			必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2005	設計図書による	1回6本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で7日間および28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(σ7…3本、σ28…3本、)とする。	・参考値：18N/mm ² 以上(材令28日) ・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	設計図書による	1回6本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(σ7…3本、σ28…3本、)とする。	・参考値：18N/mm ² 以上(材令28日) ・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合は、50m ³ 毎に1回の試験を行う。	※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照	
			その他	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。					その他	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合は、50m ³ 毎に1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。	※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照	
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種※で1工事のコンクリート使用量が1品種50m ³ 未満の場合は1品種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1品種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合は、50m ³ 毎に1回の試験を行う。	※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照			
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。					ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。						
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。						コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
18	河川・海岸土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。			18	河川土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。						その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202									土粒子の密度試験	JIS A 1202					
			土の含水比試験	JIS A 1203									土の含水比試験	JIS A 1203					
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205									土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205					
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216		必要に応じて。							土の一軸圧縮試験	JIS A 1216		必要に応じて。			
			土の三軸圧縮試験	土質試験の方法と解説	設計図書による。	必要に応じて。							土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	設計図書による。	必要に応じて。			
			土の圧密試験	JIS A 1217									土の圧密試験	JIS A 1217					
			土のせん断試験	土質試験の方法と解説									土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説					
			土の透水試験	JIS A 1218									土の透水試験	JIS A 1218					
18	河川・海岸土工	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm： JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径 > 53 mm： 舗装調査・試験法便覧 [4]-185	最大乾燥密度の85%以上。又は設計図書に示された値。	築堤は、1,000m ³ につき1回。 (1回は3個の試料採取)	・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。		18	河川土工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53 mm： 砂置換法 (JJIS A 1214) 最大粒径 > 53 mm： 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法	最大乾燥密度の90%以上。 ただし、上記により難しい場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。 【砂質土 (25% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分 $< 50\%$)】 空気間隙率 V_a が $V_a \leq 15\%$ 【粘性土 (50% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分)】 飽和度 S_r が $85\% \leq S_r \leq 95\%$ または空気間隙率 V_a が $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または、設計図書による。	築堤は、1,000m ³ につき1回。 (1回は3個の試料採取)	・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 ・1施工箇所の施工量(実施数量)が200m ³ 未満は省略することが出来る。		
			または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。	築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500m ² 未満：5点 ・500m ² 以上～1000m ² 未満：10点 ・1000m ² 以上～2000m ² 未満：15点	・最大粒径 $< 100\text{mm}$ の場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の92%以上。 ただし、上記により難しい場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。 【砂質土 (25% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分 $< 50\%$)】 空気間隙率 V_a が $V_a \leq 15\%$ 【粘性土 (50% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分)】 飽和度 S_r が $85\% \leq S_r \leq 95\%$ または空気間隙率 V_a が $2\% \leq V_a \leq 10\%$ または、設計図書による。	築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満：5点 ・500m ² 以上1,000m ² 未満：10点 ・1,000m ² 以上2,000m ² 未満：15点			・最大粒径 $< 100\text{mm}$ の場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。							
			「TS・GNSSを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領(案)」【TS編・GNSS編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。											
18	河川・海岸土工	施工	その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	含水比の変化が認められたとき。		18	河川土工	施工	その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	含水比の変化が認められたとき。			
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1]-216		トラフィカビリティが悪いとき。						コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1]-216		トラフィカビリティが悪いとき。				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
19	砂防土工	材料 必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時。			20	砂防土工	材料 必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時。			
			現場密度の測定 ※右記試験方法（3種類）のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm： JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径>53mm： 舗装調査・試験法便覧 [4]-185	最大乾燥密度の85%以上。又は設計図書に示された値。	1,000m ³ に1回の割合で行う。 (1回は3個の試料採取)	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	最大粒径≦53mm： 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径>53mm： 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法				最大乾燥密度の85%以上。または設計図書に示された値。	1,000m ³ に1回の割合、または設計図書による。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 ・1施工箇所の施工量（実施数量）が200m ³ 未満は省略することが出来る。				
			または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）」による。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。	築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500m ² 未満：5点 ・500m ² 以上～1000m ² 未満：10点 ・1000m ² 以上～2000m ² 未満：15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）」による。	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。または、設計図書による。				1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満：5点 ・500m ² 以上1,000m ² 未満：10点 ・1,000m ² 以上2,000m ² 未満：15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。					
「TS・GNSSを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領（案）」【TS編・GNSS編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。												
20	道路土工	材料 必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時（材料が岩砕の場合は除く）。 但し、法面、路肩部の土量は除く。			21	道路土工	材料 必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時（材料が岩砕の場合は除く）。 ただし、法面、路肩部の土量は除く。			
			CBR試験（路床）	JIS A 1211		当初及び土質の変化した時。（材料が岩砕の場合は除く）						CBR試験（路床）	JIS A 1211		当初及び土質の変化した時。（材料が岩砕の場合は除く）			
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。						その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。							土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の含水比試験	JIS A 1203		・路体：当初及び土質の変化した時。 ・路床：含水比の変化が認められた時。							土の含水比試験	JIS A 1203		当初及び土質の変化した時。		
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205		当初及び土質の変化した時。							土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205		当初及び土質の変化した時。		
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216									土の一軸圧縮試験	JIS A 1216				
			土の三軸圧縮試験	土質試験の方法と解説									土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説				
			土の圧密試験	JIS A 1217									土の圧密試験	JIS A 1217				
			土のせん断試験	土質試験の方法と解説									土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説				
土の透水試験	JIS A 1218						土の透水試験	JIS A 1218										

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
20	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4]-185	・路体:最大乾燥密度の85%以上。(下水道工事は最大乾燥密度の90%以上。) ・路床:最大乾燥密度の90%以上。 その他、設計図書による。	路体の場合、1,000m ³ につき1回の割合で行う。 路床の場合、500m ³ につき1回の割合で行う。 (1回は3個の試料採取) 路体200m ³ 、路床100m ³ 未満は省略できる。	左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。		21	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≦53mm:砂置換法 (JIS A1214) 最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法	【砂質土】 ・路体:締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部:締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)もしくは90%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 【粘性土】 ・路体:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦10%または飽和度Srが85%≦Sr≦95%。 ・路床及び構造物取付け部:トラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2%≦Va≦8%ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 その他、設計図書による。	路体の場合、1,000m ³ につき1回の割合で行う。 路床の場合、500m ³ につき1回の割合で行う。 (1回は3個の試料採取) 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	・1施工箇所の施工量(実施数量)が路体200m ³ 、路床100m ³ 未満は省略することが出来る。	
				または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」	路体・路床とも1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の90%以上。又は、設計図書による。	路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安は以下のとおり。 ・500m ² 未満:5点 ・500m ² 以上~1000m ² 未満:10点 ・1000m ² 以上~2000m ² 未満:15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	または、「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」					【砂質土】 ・路体:締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の92%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)。 ・路床及び構造物取付け部:締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上(締固め試験(JIS A 1210) A・B法)もしくは92%以上(締固め試験(JIS A 1210) C・D・E法)。ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法(例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上り厚を薄くする場合)に適用する。 【粘性土】 ・路体、路床及び構造物取付け部:自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することが出来る。 または、設計図書による。	路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m ² を標準とし、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m ² 未満:5点 ・500m ² 以上1,000m ² 未満:10点 ・1,000m ² 以上2,000m ² 未満:15点	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。		
				「TS・GNSSを用いた盛土の締固め情報化施工管理要領(案)」【TS編・GNSS編】による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		または、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による					施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m ² を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m ² 以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認			
20	道路土工	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。但し、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	○	21	施工	必須	ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210	沈下状況異常なし	路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。ただし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	○		
			その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mについて1箇所割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。				その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mについて1ヶ所割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。			
			現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。		現場CBR試験				JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。						
			含水比試験	JIS A 1203		降雨後又は、含水比の変化が認められたとき。		含水比試験				JIS A 1203		路体の場合、1,000㎡につき1回の割合で行う。	・1施工箇所施工量（実施数量）が路体200㎡、路床100㎡未満は省略することができる。					
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1]-216		トラフィカビリティが悪いとき。		コーン指数の測定				舗装調査・試験法便覧 [1]-216		必要に応じて実施。 (例) トラフィカビリティが悪いとき。						
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1]-227 (ベンゲルマンビーム)		ブルーフローリングでの不良箇所について実施。		たわみ量				舗装調査・試験法便覧 [1]-227 (ベンゲルマンビーム)		ブルーフローリングでの不良箇所について実施。						
21	捨石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：約2.7g/cm3～2.5g/cm3 ・準硬石：約2.5g/cm3～2g/cm3 ・軟石：約2g/cm3未満	○	22	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500m以下は監督員承諾を得て省略出来る。 ・参考値： ・硬石：約2.7g/cm ³ ～2.5g/cm ³ ・準硬石：約2.5g/cm ³ ～2g/cm ³ ・軟石：約2g/cm ³ 未満	○		
			岩石の吸水率	JIS A 5006		500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：5%未満 ・準硬石：5%以上15%未満 ・軟石：15%以上	○	岩石の吸水率				JIS A 5006		500m以下は監督員承諾を得て省略出来る。 ・参考値： ・硬石：5%未満 ・準硬石：5%以上15%未満 ・軟石：15%以上	○					
21	捨石工	施工	必須	岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：4903N/cm ² 以上 ・準硬石：980.66N/cm ² 以上 4903N/cm ² 未満 ・軟石：980.66N/cm ² 未満	○	22	施工	必須	岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	・500m以下は監督員承諾を得て省略出来る。 ・参考値： ・硬石：4903N/cm ² 以上 ・準硬石：980.66N/cm ² 以上 4903N/cm ² 未満 ・軟石：980.66N/cm ² 未満	○		
			その他	岩石の形状	JIS A 5006	うすっぱらなもの、細長いものであってはならない。	5,000m3につき1回の割で行う。但し、5,000m3以下のものは1工事2回実施する。	500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。				○	その他	岩石の形状	JIS A 5006	うすっぱらなもの、細長いものであってはならない。	5,000㎡につき1回の割で行う。ただし、5,000㎡以下のものは1工事2回実施する。		500m以下は監督員承諾を得て省略できる。	○
22	覆工コンクリート (N A T M)	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		○	23	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○		
			その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1～4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。					○	その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1～4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。			○
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1～4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ骨材の規格値については適用を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。	JIS A 5005 (砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)					○	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1～4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ骨材の規格値については適用を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)		○	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
覆工コンクリート (N A T M)	材料 (J I S マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	40%以下、舗装コンクリートは35%以下 但し、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は25%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。		○	覆工コンクリート (N A T M)	材料 (J I S マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。		○
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下 (砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○									
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。					○					
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準溶液の色より濃い場合。		○									
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。		○									
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。					○					
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上。		○									
ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			○												
覆工コンクリート (N A T M)	材料 (J I S マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○	覆工コンクリート (N A T M)	その他	練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○	
			回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならぬ。		○										
			計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	設計図書による。	レディミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○									
覆工コンクリート (N A T M)	製造 (プラント) (J I S マーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合： コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	○	覆工コンクリート (N A T M)	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率：15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。		○	

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
22	覆工コンクリート (NATM)	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	同上	○	23	覆工コンクリート (NATM)	その他	ミキサの練混ぜ性能試験	連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	同上	○	
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○				細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○	
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上						○	粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		
施工	必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20～150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。		施工	必須	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日以上、または構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。					
22	覆工コンクリート (NATM)	施工	必須	単位水量測定	「レディーミクストコンクリートの品質確保について」	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	100m ³ /日以上の場合； 2回/日（午前1回、午後1回）、または重要構造物では重要度に応じて100m ³ ～150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められたときと測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。		23	施工	必須	単位水量測定	「レディーミクストコンクリートの品質確保について」	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m ³ 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	100m ³ /日以上の場合； 2回/日（午前1回、午後1回）以上、重要構造物の場合は重要度に応じて100m ³ ～150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときと、測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。	
				コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ から150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6本 (σ 7…3本、σ 28…3本) とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ～150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6個 (σ 7…3個、σ 28…3個) とする。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認						
23	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	設計図書による。	細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。			○	24	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	設計図書による。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある毎に1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更がある毎に1回。			○				
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104																			
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下																		
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下（砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下）																		
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。																	
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。																	
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。																	
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。																	
粗骨材の粒形判定実績率試験	JIS A 5005	55%以上	粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。																				
23	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上				24	材料	その他（JISマーク表示されたレディミキストコンクリートを使用する場合は除く）	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210（ポルトランドセメント） JIS R 5211（高炉セメント） JIS R 5212（シリカセメント） JIS R 5213（フライアッシュセメント） JIS R 5214（エコセメント）	工事開始前、工事中1回/月以上							
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202																			
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。 上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。																	
回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で90%以上	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。																					

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
23	吹付けコンクリート (N A T M)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	設計図書による。	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○	24	吹付けコンクリート (N A T M)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	○	
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度平均値からの差：7.5%以下 空気量平均値からの差：10%以下 スランプ平均値からの差：15%以下 公称容量の1/2の場合 コンクリート中のモルタル単位容積質量差0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。	○				ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合 コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率：15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。		○	
				連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下			○					連続ミキサの場合： 土木学会規準 JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下			○	
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○				細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○	
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上。		○				粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上。		○	
23	吹付けコンクリート (N A T M)	施工	必須	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。		24	吹付けコンクリート (N A T M)	施工	必須	塩化物総量規制	「レディーミクストコンクリート取扱基準」	原則0.3kg/m ³ 以下	コンクリートの打設が午前と午後にもたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503)または設計図書の規定により行う。	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2005	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	トンネル施工長40m毎に1回 材齢7日、28日 (2×3=6供試体)なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付け、現場で7日間および28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本 (σ7…3本、σ28…3本、)とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。					コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	トンネル施工長40m毎に1回 材齢7日、28日 (2×3=6供試体)なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本 (σ7…3本、σ28…3本、)とする。			
		その他	スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。				スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ~150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。				
		空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ~150m ³ ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。		空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128			±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m ³ ~150m ³ 毎に1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。						
		コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。								

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
24	材料	その他	外観検査（ロックボルト）	・目視 ・寸法計測	設計図書による。	材質は製造会社の試験による。		○	25	材料	その他	外観検査（ロックボルト）	・目視 ・寸法計測	設計図書による。	材質は製造会社の試験による。		○	
			モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	1) 施工開始前に1回 2) 施工中は、トンネル施工延長50mごとに1回 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回						モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	1) 施工開始前に1回 2) 施工中は、トンネル施工延長50m毎に1回 3) 製造工場または品質の変更がある毎に1回			
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による。	1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回						モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	設計図書による。	1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更がある毎に1回			
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による		掘削の初期段階は20mごとに、その後は50mごとに実施、1断面当たり3本均等に行う（ただし、坑口部では両側壁各1本）。						ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による		掘削の初期段階は20m毎に、その後は50m毎に実施、1断面当たり3本均等に行う（ただし、坑口部では両側壁各1本）。			
25	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。		26	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR20%以上	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・1工事の施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。		
			土の粒度試験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照 資表-4.7 路上再生路盤骨材の望ましい粒度範囲による	当初及び材料の変化時						土の粒度試験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照 表-3.2.8 路上再生路盤用素材の望ましい粒度範囲による	当初及び材料の変化時			
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。							土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。				
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：9以下							土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：9以下				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
25	材料	その他	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		○	路上再生路盤工	26	材料	その他	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		○	
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)								○						
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-191	基準密度の93%以上。	1,000㎡に1回								現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-185 砂置換法 (JIS A1214) 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用出来る	基準密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上	・2,000㎡までは、3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・1施工箇所の施工面積（実施数量）が300㎡未満は省略することが出来る。 ※破碎・混合した混合物を測定する。	
			土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	設計図書による。	当初及び材料の変化時							土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-68	設計図書による。	当初及び材料の変化時			
			CAEの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-69		CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。						CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。							
			含水比試験	JIS A 1203		1~2回/日							含水比試験	JIS A 1203		1~2回/日			
26	材料	必須	旧アスファルト針入度	JIS K 2207		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		路上表層再生工	27	材料	必須	旧アスファルト針入度	JIS K 2207		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。		
			旧アスファルトの軟化点																
			既設表層混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-91															
			既設表層混合物の最大比重試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-229															

旧

新

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
26	材料	必須	既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。	○	27	材料	必須	既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。	○
			既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-14								既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-14				
			新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	同左							新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	同左			
施工	必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-91	96%以上	1,000㎡につき1個	空隙率による管理でもよい。		施工	必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-91	基準密度の96%以上 X10 98%以上 X6 98%以上 X3 98.5%以上	・2,000㎡までは、3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・1施工箇所施工面積（実施数量）が300㎡未満は省略することが出来る。 ※破碎・混合した混合物を測定する。	
			温度測定	温度計による。	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）					温度測定	温度計による。	110℃以上	随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	
			かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」付録-8に準じる。	-0.7cm以内	1,000㎡毎						かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」付録-8に準じる。	-0.7cm以内	1,000㎡毎		
その他			粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。		その他			粒度（2.36mmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。	
			粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい：±5%以内							粒度（75μmフルイ）	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい：±5%以内			
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	アスファルト量：±0.9%以内							アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	アスファルト量：±0.9%以内			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認																									
排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「舗装施工便覧」3-3-2(3)による。	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○	排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「舗装施工便覧」3-3-2(3)による。	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																									
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	砕石・玉砕、製鋼スラグ (SS) 表乾比重：2.45以上 吸水率：3.0%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 						<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																														
		骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量：0.25%以下									<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 				○																								
		粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-45	細長、あるいは扁平な石片：10%以下															<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																					
		フィラーの粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」3-3-2(4)による。																		<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																		
		フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下																					<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○															
	その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4以下		<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																																		
	フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-65	50%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 					○																																
	製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-77	水浸膨張比：2.0%以下								<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																													
	排水性舗装工・透水性舗装工	材料	その他											粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	砕石・玉砕、製鋼スラグ (SS)：30%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○	排水性舗装工・透水性舗装工	材料							その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	砕石・玉砕、製鋼スラグ (SS)：30%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○								
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験											JIS A 1122	損失量：12%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 						<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																			
			粗骨材中の軟石量試験											JIS A 1126	軟石量：5%以下									<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																
針入度試験			JIS K 2207			40 (1/10mm) 以上	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																																	
軟化点試験			JIS K 2207	80.0℃以上	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 				○																																
伸度試験			JIS K 2207	50cm以上 (15℃)							<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○																													
引火点試験			JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	260℃以上										<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 												○															
薄膜加熱質量変化率			JIS K 2207	0.6%以下																								<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○												
薄膜加熱針入度残留率			JIS K 2207	65%以上																											<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 				<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○						
タフネス・テナシティ試験			舗装調査・試験法便覧 [2]-244	タフネス：20N・m																																	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○			
密度試験			JIS K 2207																																					<ul style="list-style-type: none"> ・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前 	<ul style="list-style-type: none"> ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。 	○

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認					
排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧(平成18年版)表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	排水性舗装工・透水性舗装工	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧(平成18年版)表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○					
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい：±5%以内基準粒度							○										
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	アスファルト量：±0.9%以内								○									
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	配合設計で決定した混合温度。									○								
		その他	その他	その他	その他	その他	その他	その他			○	○	○	○								
舗設現場	必須	温度測定 (初期締固め前)	温度計による。	140~160℃	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	○	舗設現場	必須	温度測定 (初転圧前)	温度計による。	随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	○								
		現場透水試験	舗装調査・試験法便覧 [1]-122	1,000mL/15sec以上 300mL/15sec以上 (歩道箇所)	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・300㎡以下は省略できる。	○	現場透水試験			舗装調査・試験法便覧 [1]-122	1,000mL/15sec以上 300mL/15sec以上 (歩道箇所)	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・1施工箇所の施工面積 (実施数量) が300㎡未満は省略することが出来る。	○								
排水性舗装工・透水性舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-97	個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	○	排水性舗装工・透水性舗装工	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-97	個々の測定値	測定値の平均値 \bar{X}_n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。 ・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・1施工箇所の施工面積 (実施数量) が300㎡未満は省略することが出来る。	○					
					車道	基準密度の94%以上								$\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=96.0\%$ 以上 $\bar{X}_{7-10}=96.0\%$ 以上	○							
					歩道	基準密度の90%以上								$\bar{X}_3=92.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=92.0\%$ 以上				○				
外観検査 (混合物)	目視	随時	○	外観検査 (混合物)	目視	随時	○															
プラント再生舗装工	材料	必須	再生骨材アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	再生骨材使用量500 t ごとに1回。	試験練り立会い検査結果の提出により省略できる。	○	○	プラント再生舗装工	材料	必須	再生骨材アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	再生骨材使用量500 t 毎に1回。	試験練り立会い検査結果の提出により省略することが出来る。	○						
			再生骨材旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	3.8%以上	○						再生骨材旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法便覧 [4]-238	3.8%以上	○							
			再生骨材旧アスファルト針入度	マーシャル安定度試験による再生骨材の旧アスファルト性状判定方法	20 (1/10mm) 以上 (25℃)	再生混合物製造日ごとに1回。 1日の再生骨材使用量が500 t を超える場合は2回。 1日の再生骨材使用量が100 t 未満の場合は、再生骨材を使用しない日を除いて2日に1回とする。						試験練り立会い検査結果の提出により省略できる。	○	再生骨材旧アスファルト針入度	マーシャル安定度試験による再生骨材の旧アスファルト性状判定方法		20 (1/10mm) 以上 (25℃)	再生混合物製造日毎に1回。 1日の再生骨材使用量が500 t を超える場合は2回。 1日の再生骨材使用量が100 t 未満の場合は、再生骨材を使用しない日を除いて2日に1回とする。	試験練り立会い検査結果の提出により省略することが出来る。	○		
			再生骨材洗い試験で失われる量	舗装再生便覧	5%以下	再生骨材使用量500 t ごとに1回。						洗い試験で失われる量とは、試料のアスファルトコンクリート再生骨材の水洗前の75μmふるいにとどまるものと、水洗後の75μmふるいにとどまるものを気乾もしくは60℃以下の炉乾燥し、その質量の差からとめる。		○	再生骨材洗い試験で失われる量		舗装再生便覧	5%以下	再生骨材使用量500 t 毎に1回。		洗い試験で失われる量とは、試料のアスファルトコンクリート再生骨材の水洗前の75μmふるいにとどまるものと、水洗後の75μmふるいにとどまるものを気乾もしくは60℃以下の炉乾燥し、その質量の差からとめる。	○
			再生アスファルト混合物	JIS K 2207	JIS K 2207石油アスファルト規格	2回以上及び材料の変化						○		再生アスファルト混合物	JIS K 2207		JIS K 2207石油アスファルト規格	2回以上及び材料の変化	○			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
28	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.8.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に 1 回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧(平成18年版)表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	29	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。	・混合物の種類毎に累計使用量が1,000 t 毎に1回行うものとする。 ・印字による場合は、舗装施工便覧(平成18年版)表10.5.1による。	・印字記録は、当該工事以前の1,000バッチのデータを提出すること。	○	
			粒度 (75μmフルイ)									75μmふるい：±5%以内 再アス処理の場合、75μm：±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.8.5による。						75μmふるい：±5%以内 再アス処理の場合、75μm：±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5による。
			再生アスファルト量									舗装調査・試験法便覧 [4]-238						アスファルト量：±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファルト量：±1.2%以内 印字記録による場合は舗装再生便覧表-2.8.5による。
	その他	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-57	設計図書による。	同左	耐水性の確認	○	舗設現場	必須	水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-57	設計図書による。	同左	耐水性の確認	○			
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-39			耐流動性の確認				○	ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-39			耐流動性の確認	○	
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-17			耐磨耗性の確認				○	ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3]-17			耐磨耗性の確認	○	
	舗設現場	必須	外観検査 (混合物)	目視		随時			舗設現場	必須	外観検査 (混合物)	目視		随時				
			温度測定 (初期締固め前)	温度計による。			測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)				温度測定 (初転圧前)	温度計による。			測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)			
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3]-91	個々の測定値 測定値の平均値 \bar{X}_n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・300㎡以下は省略できる。	現場密度の測定			舗装調査・試験法便覧 [3]-91	個々の測定値 測定値の平均値 \bar{X}_n	・2,000㎡までは3個とし、2,000㎡を超える場合は、1,000㎡につき1個加算する。	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・1施工箇所施工面積(実施数量)が300㎡未満は省略することが出来る。				
		車道	基準密度の94%以上 $\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=96.0\%$ 以上 $\bar{X}_{7-9}=96.0\%$ 以上				車道	基準密度の94%以上 $\bar{X}_3=96.5\%$ 以上 $\bar{X}_6=96.0\%$ 以上 $\bar{X}_{10}=96.0\%$ 以上										
	歩道	基準密度の90%以上 $\bar{X}_3=92.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=92.0\%$ 以上				歩道	基準密度の90%以上 $\bar{X}_3=92.5\%$ 以上 $\bar{X}_{4-6}=92.0\%$ 以上											

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
工場製作工(鋼橋用鋼材)	材料	必須	外観・規格(主部材)	現物照合、帳票確認		現物とミルシートの整合性が確認できること。規格、品質がミルシートで確認できること。		○	工場製作工(鋼橋用鋼材)	材料	必須	外観・規格(主部材)	現物照合、帳票確認		現物とミルシートの整合性が確認できること。規格、品質がミルシートで確認できること。		○	
			機械試験(JISマーク表示品以外かつミルシート照合不可な主部材)	JISによる	JISによる	JISによる	試験対象とする材料は監督員と協議のうえ選定する。						JISによる	試験対象とする材料は監督員と協議のうえ選定する。				
			外観検査(付属部材)	目視および計測														
ガス切断工	施工	必須	表面粗さ	目視	主要部材: 50μmRy以下 二次部材: 100μmRy以下	表面あらさは、JIS B 0601に規定する表面の粗度をあらし、50μmRyとは表面あらさ50/1,000mmの凸凹を示す。		○	ガス切断工	施工	必須	表面粗さ	目視	主要部材の最大表面粗さ 50μm以下 二次部材の最大表面粗さ 100μm以下 (ただし、切削による場合は50μm以下)	最大表面粗さとは、JIS B 0601 (2001) に規定する最大高さ粗さRZとする。		○	
			ノッチ深さ	・目視 ・計測	主要部材: ノッチがあつてはならない 二次部材: 1mm以下	ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示す。						主要部材: ノッチがあつてはならない 二次部材: 1mm以下	ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示す。					
			スラグ	目視	塊状のスラグが点在し、付着しているが、 こん 跡を残さず容易にはく離するもの。							塊状のスラグが点在し、付着しているが、 痕 跡を残さず容易にはく離するもの。						
			上縁の溶け		わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のもの。							わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のもの。						
		その他	平面度	目視	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス切断面の品質基準」に基づく)						その他	平面度	目視	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス切断面の品質基準」に基づく)				
		ベベル精度	計測器による計測								ベベル精度	計測器による計測						
		真直度									真直度							
溶接工	施工	必須	引張試験: 開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。	試験片の形状: JIS Z 3121 1号 試験片の個数: 2	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○	溶接工	施工	必須	引張試験: 開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。	試験片の形状: JIS Z 3121 1号 試験片の個数: 2	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.1開先溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。		○
			型曲げ試験(19mm未満裏曲げ)(19mm以上側曲げ): 開先溶接	JIS Z 3122	亀裂が生じてはならない。ただし、亀裂の発生原因がブローホール あるいは スラグ巻き込みであることが確認され、かつ、亀裂の長さが3mm以下の場合は許容するものとする。	試験片の形状: JIS Z 3122 試験片の個数: 2						試験片の形状: JIS Z 3122 試験片の個数: 2						
			衝撃試験: 開先溶接	JIS Z 2242	溶接金属 および 溶接熱影響部で母材の規格値以上(それぞれ3個の平均)。	試験片の形状: JIS Z 2242 4号 試験片の採取位置: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17.4.4溶接施工法 図-17.4.2衝撃試験片 試験片の個数: 各部位につき3						試験片の形状: JIS Z 2242 Vノッチ 試験片の採取位置: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.2衝撃試験片 試験片の個数: 各部位につき3						
			マクロ試験: 開先溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があつてはならない。	試験片の個数: 1						試験片の個数: 1						
			非破壊試験: 開先溶接	JIS Z 3104	引張側: 2類以上 圧縮側: 3類以上	試験片の個数: 試験片継手全長						試験片の個数: 試験片継手全長						
			マクロ試験: すみ肉溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があつてはならない。	試験片の形状: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編17.4.4溶接 図-17.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状 試験片の個数: 1	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○				試験片の形状: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 試験片の個数: 1	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○				
			マクロ試験: すみ肉溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があつてはならない。	試験片の形状: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状 試験片の個数: 1	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○				試験片の形状: 「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 試験片の個数: 1	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.3すみ肉溶接試験(マクロ試験) 溶接方法及び試験片の形状による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	○				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
31	施工	必須	引張試験：スタッド溶接	JIS Z 2241	道路橋示方書・同解説による	試験片の形状：JIS B 1198 試験片の個数：3	なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもち工場では、その時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略することができる。	○	32	施工	必須	引張試験：スタッド溶接	JIS Z 2241	降伏点は 235N/mm ² 以上、引張強さは 400~550N/mm ² 、伸びは20%以上とする。ただし溶接で切れてはいけない。	試験片の形状：JIS B 1198 試験片の個数：3	なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもち工場では、その時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略することが出来る。	○
			曲げ試験：スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状：JIS Z 3145 試験片の個数：3		○				曲げ試験：スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状：JIS Z 3145 試験片の個数：3		○
			突合せ継手の内部欠陥に対する検査	JIS Z 3104	引張側：2類以上 圧縮側：3類以上	RTの場合はJIS Z 3104による。 UTの場合はJIS Z 3060による。	「鋼道路橋の疲労設計指針H14.3」による継手の設計を行っている場合は、疲労強度等級の条件によること。（等級に応じて、内部キズの規格値は3mm以下あるいは、板厚/6mm以下となる）	○				突合せ継手の内部欠陥に対する検査	JIS Z 3104 JIS Z 3060	試験で検出されたいきず法は、設計上許容される寸法以下でなければならぬ。ただし、寸法によらず表面に開口した割れ等の面状きずはあってはならない。 なお、放射線透過試験による場合において、板厚が25mm以下の試験の結果については、以下を満たす場合には合格としてよい。 ・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z3104附属書4（透過写真によるきずの像の分類方法）に示す2類以上とする。 ・圧縮応力を受ける溶接部は、JIS Z3104附属書4（透過写真によるきずの像の分類方法）に示す3類以上とする。	放射線透過試験の場合はJIS Z 3104による。 超音波探傷試験（手探傷）の場合はJIS Z 3060による。 ・「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II鋼橋編 表-解18.4.5に各継手の強度等級を満たす上での内部きず寸法の許容値が示されている。 なお、表-解18.4.5に示されていない継手の内部きず寸法の許容値は、「鋼道路橋の疲労設計指針H14.3」が参考に出来る。 (非破壊試験を行う者の資格) ・放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験におけるレベル2以上の資格とする。 ・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル3の資格とする。 ・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。	○	
			外観検査（割れ）	・目視	あつてはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延長実施する。ただし、疑わしい場合は、磁粉探傷法又は浸透液探傷法を用いる。						外観検査（割れ）	・目視	あつてはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延長実施する。ただし、疑わしい場合は、磁粉探傷試験または浸透液探傷試験を用いる。	磁粉探傷試験または浸透液探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応したJISZ 2305（非破壊試験—技術者の資格及び認証）に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。	
31	施工	必須	外観形状検査（ビード表面のピット）	・目視及びノギス等による計測	主要部材の突合せ継手及び断面を構成するT継手、かど継手には、ビード表面にピットがあつてはならない。その他のすみ肉溶接及び部分溶込み開先溶接には、1継手につき3個又は継手長さ1mにつき3個までを許容するものとする。ただし、ピットの大きさが1mm以下の場合、3個を1個として計算するものとする。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。			32	施工	必須	外観形状検査（ビード表面のピット）	・目視及びノギス等による計測	主要部材の突合せ継手及び断面を構成するT継手、角継手には、ビード表面にピットがあつてはならない。その他のすみ肉溶接及び部分溶込み開先溶接には、1継手につき3個または継手長さ1mにつき3個までを許容するものとする。ただし、ピットの大きさが1mm以下の場合、3個を1個として計算するものとする。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。		
			外観形状検査（ビード表面の凹凸）		ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。			外観形状検査（ビード表面の凹凸）					ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。				
			外観形状検査（アンダーカット）		アンダーカットの深さは、0.5mm以下でなければならない。	「鋼道路橋の疲労設計指針H14.3」による継手の設計を行っている場合は、疲労強度等級の条件によること。（等級に応じて、アンダーカットの規格値は0.3mm以下あるいは、0.0mmとなる）		外観形状検査（アンダーカット）					「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II鋼橋編 表-解18.4.4に各継手の強度等級を満たすうえでのアンダーカットの許容値が示されている。表-解18.4.4に示されていない継手のアンダーカットの許容値は、「鋼道路橋の疲労設計指針H14.3」が参考に出来る。				

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
31	施工	必須	外観検査（オーバーラップ）	・目視	あつてはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。			32	施工	必須	外観検査（オーバーラップ）	・目視	あつてはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。		
			外観形状検査（すみ肉溶接サイズ）	・目視及びノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズおよびのど厚は、指定すみ肉サイズおよびのど厚を下回ってはならない。ただし、1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズおよびのど厚ともに-1.0mmの誤差を認めるものとする。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。						すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ肉サイズ及びのど厚を下回ってはならない。ただし、1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに-1.0mmの誤差を認めるものとする。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。				
			外観形状検査（余盛高さ）		道路橋示方書・同解説による								設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない開先溶接は、以下に示す範囲内の余盛りは仕上げなくてよい。余盛高さが以下に示す値を超える場合は、ピード形状、特に止端部を滑らかに仕上げるものとする。 ピード幅(B[mm])余盛高さ(h[mm]) B<15 : h≦3 15≦B<25 : h≦4 25≦B : h≦(4/25)・B				
			外観形状検査（アークスタッド）		・余盛り形状の不整：余盛りは全周にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ1mm、幅0.5mm以上 ・クラックおよびスラグ巻込み：あつてはならない。 ・アンダーカット：するどい切欠状のアンダーカットがあつてはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が0.5mm以内に納まるものは仕上げで合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ：（設計値±2mm）をこえてはならない。			・余盛り形状の不整：余盛りは全周にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ1mm、幅0.5mm以上 ・クラック及びスラグ巻込み：あつてはならない。 ・アンダーカット：するどい切欠状のアンダーカットがあつてはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が0.5mm以内に納まるものは仕上げで合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ：（設計値±2mm）を超えてはならない。									
その他		ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	われなどの欠陥を生じないものを合格。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から1%について抜き取り曲げ検査を行なうものとする。	・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向と反対の15°の角度まで曲げるものとする。 ・15°曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すことなく、曲げたままにしておくものとする。		その他		ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	割れ等の欠陥を生じないものを合格。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から1%について抜き取り曲げ検査を行なうものとする。	・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向と反対の15°の角度まで曲げるものとする。 ・15°曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すことなく、曲げたままにしておくものとする。			

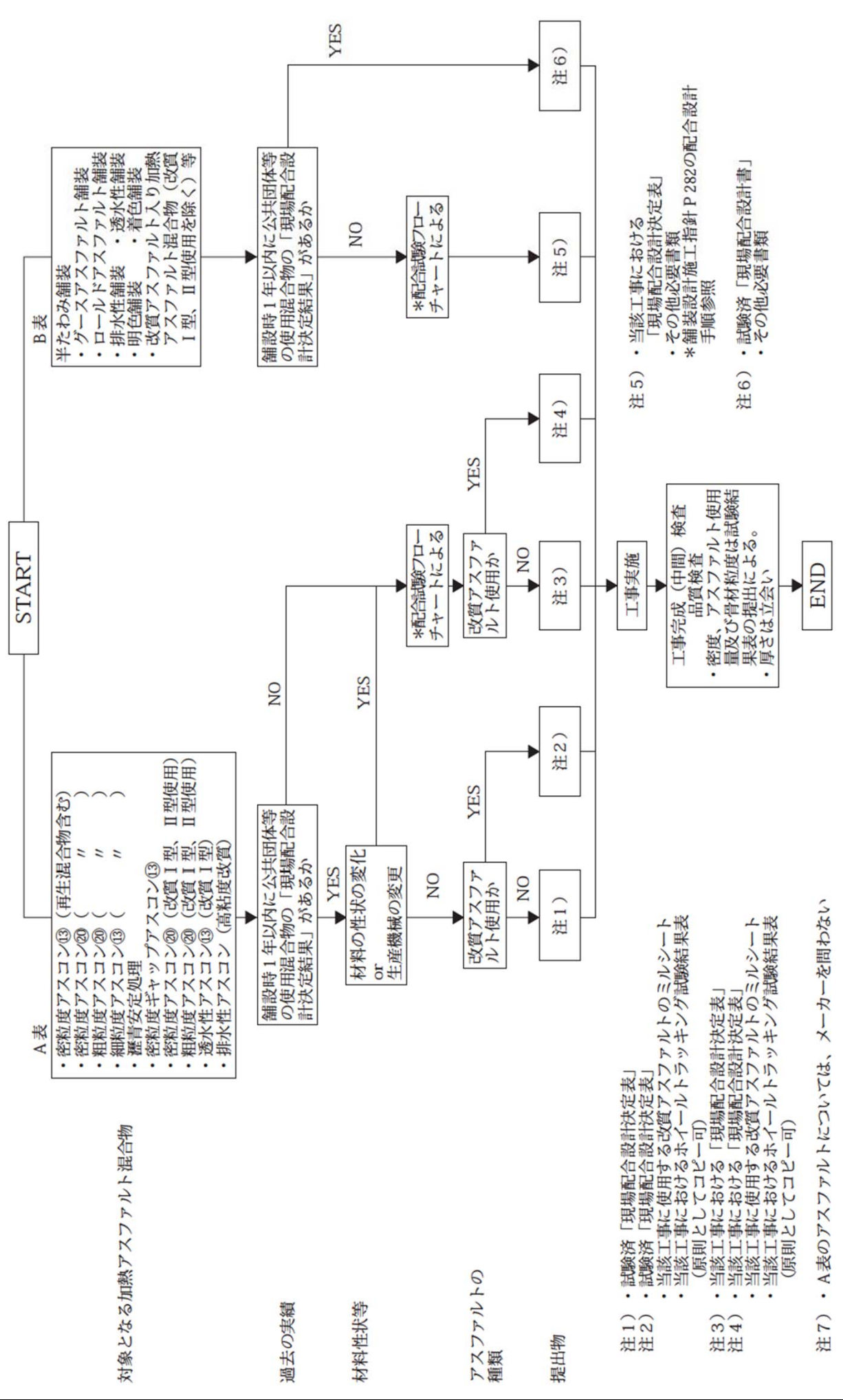
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認		
32	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○		33	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○	
			土粒子の密度試験	JIS A 1202															
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。								当初及び土質の変化した時。						
			土の透水試験	JIS A 1218	設計図書による。								当初及び土質の変化した時。						
33	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○		34	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○	
			土粒子の密度試験	JIS A 1202															
			土の含水比試験	JIS A 1203															
34	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○		35	材料	その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		○	
			土粒子の密度試験	JIS A 1202															
			土の含水比試験	JIS A 1203															
35	材料	その他	物性値・成分値は製造者からの試験表による		試験表の確認			○		36	材料	その他	物性値・成分値は製造者からの試験表による		試験表の確認			○	
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。								・路体：当初及び土質の変化した時。 ・路床：含水比の変化が認められた時。	土の含水比試験	JIS A 1203				
35	材料	その他	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧[2]-45	細長、あるいは扁平な石片：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略する。	○		36	材料	その他	粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧[2]-45	細長、あるいは扁平な石片：10%以下	・中規模以上の工事：施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事：施工前	・中規模工事：2,000㎡以上とする。 ・小規模工事：2,000㎡未満とする。 ・材料の品質証明書によることのできる。 ・当初、試験練り検査結果により省略することができる。	○	
			硬度	プロクターニードール	陸上競技場 50~110 野球場 30~80 テニスコート 40~110	1,000㎡毎	硬度						プロクターニードール	陸上競技場 50~110 野球場 30~80 テニスコート 40~110	1,000㎡毎				
36	材料	その他	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石：約2.5~2g/cm3 ・軟石：約2g/cm3未満	○		37	材料	その他	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略することができる。 ・参考値： ・硬石：約2.7~2.5g/cm3 ・準硬石：約2.5~2g/cm3 ・軟石：約2g/cm3未満	○	
			岩石の吸水率	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：5%未満 ・準硬石：5%以上15%未満 ・軟石：15%以上						岩石の吸水率	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略することができる。 ・参考値： ・硬石：5%未満 ・準硬石：5%以上15%未満 ・軟石：15%以上		
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。 ・参考値： ・硬石：4903N/cm2以上 ・準硬石：980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 ・軟石：980.66N/cm2未満						岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化した時。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略することができる。 ・参考値： ・硬石：4903N/cm2以上 ・準硬石：980.66N/cm2以上 4903N/cm2未満 ・軟石：980.66N/cm2未満		
			岩石の形状	JIS A 5006	うすっぺらなもの、細長いものであつてはならない。	5,000m3につき1回の割で行う。ただし、5,000m3以下のものは1工事2回実施する。	500m3以下は監督員承諾を得て省略できる。						岩石の形状	JIS A 5006	うすっぺらなもの、細長いものであつてはならない。	5,000m3につき1回の割で行う。ただし、5,000m3以下のものは1工事2回実施する。	・500m3以下は監督員承諾を得て省略することができる。		

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
37	材料	その他	最大乾燥密度の測定	JIS A 1210 (試験方法E法)	30%以上	<ul style="list-style-type: none"> 採取地ごとに1回及び採取地の変った場合にはその都度測定する。 突固め試験は骨材の最大寸法を取り除いて行う。 生産者等の試験成績結果によることができる。 (ただし、試験実施日が施工期間を著しくずれていない場合に限る。) 	○		38	材料	その他	最大乾燥密度の測定	JIS A 1210 (試験方法E法)	30%以上	<ul style="list-style-type: none"> 採取地ごとに1回及び採取地の変った場合にはその都度測定する。 突固め試験は骨材の最大寸法を取り除いて行う。 生産者等の試験成績結果によることが出来る。 (ただし、試験実施日が施工期間を著しくずれていない場合に限る。) 	○	
			修正C B Rの測定	舗装試験便覧 路盤材料の修正 C B R試験								修正C B Rの測定	舗装試験便覧 路盤材料の修正 C B R試験				
			骨材のふるい分け試験	5 mm以下	9~15%以下							骨材のふるい分け試験	5mm以下	9~15%以下			
			骨材の洗い試験									骨材の洗い試験					
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	45%以下							粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	45%以下			
			骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下							骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下			
			凍上試験									凍上試験					
			強熱減量試験									強熱減量試験					
			土の透水試験	JIS A 1218	特記仕様書による。							土の透水試験	JIS A 1218	特記仕様書による。			
			38	材料	その他							縮固め度の測定	現場密度測定方法				
骨材のふるい分け試験	5 mm以下	9~15%以下				骨材のふるい分け試験	5mm以下	9~15%以下									
骨材の洗い試験						骨材の洗い試験											
39	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H	設計数量の10%を計測する。ただし、株立ち樹木については、全数を計測する。	○		40	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H	設計数量の10%を計測する。ただし、株立ち樹木については、全数を計測する。	○	
			幹周 (C)	計測用具による計測	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値							幹周 (C)	計測用具による計測	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値			
			枝張 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W							枝張 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W			
40	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H < 上位階級の寸法値	設計数量の5%を計測する。	○		41	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H < 上位階級の寸法値	設計数量の5%を計測する。	○	
			枝張 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W							枝張 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W			
41	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H	設計数量の全数を計測する。	○		42	材料	必須	高さ (H)	計測用具による計測	設計値 ≤ H	設計数量の全数を計測する。	○	
			幹周 (C)	計測用具による計測	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値							幹周 (C)	計測用具による計測	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値			
			枝張又は尺 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W							枝張又は尺 (W)	計測用具による計測	設計値 ≤ W			

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
42	地被類(公園)	材料 必須	茎長(L)	計測用具による計測	設計値≦L	設計数量の2%を計測する。			43	地被類(公園)	材料 必須	茎長(L)	計測用具による計測	設計値≦L	設計数量の2%を計測する。			
			芽立	目視	設計値≦芽立数													
43	木材(公園)	材料 その他	木材の加圧式保存処理方法	JIS A 9002				○	44	木材(公園)	材料 その他	木材の加圧式保存処理方法	JIS A 9002					○
			木材の浸漬式防腐処理方法															
			含水率	JAS														
			保存処理剤浸度試験	JAS														
44	鑄鉄管布設工(水道)	施工 必須	ダクタイル鑄鉄管継手 部接合検査	トルクレンチにてボルト締付け	日本ダクタイル鉄管協会発行の「接合要領書」によるものとする。	管継手接合時	締付けトルク数値を確認		45	鑄鉄管布設工(水道)	施工 必須	ダクタイル鑄鉄管継手 部接合検査	トルクレンチにてボルト締付け	日本ダクタイル鉄管協会発行の「接合要領書」によるものとする。	管継手接合時	締付けトルク数値を確認		
				薄板ゲージによる測定	日本ダクタイル鉄管協会発行の「接合要領書」によるものとする。	管継手接合時												
			管路水圧試験	試験水圧0.6MPaで10分保持してこの間の圧力変化を測定	管路に異常がなく、急激な圧力降下がないこと	管路工事完了時												
			継手部水圧試験	試験水圧0.5MPaで5分保持してこの間の圧力変化を測定	0.4MPa以上を保持	管径900mm程度以上の管接合時	継手部ごと内面からテストバンドで水圧試験を行う原則として監督員の立会い											

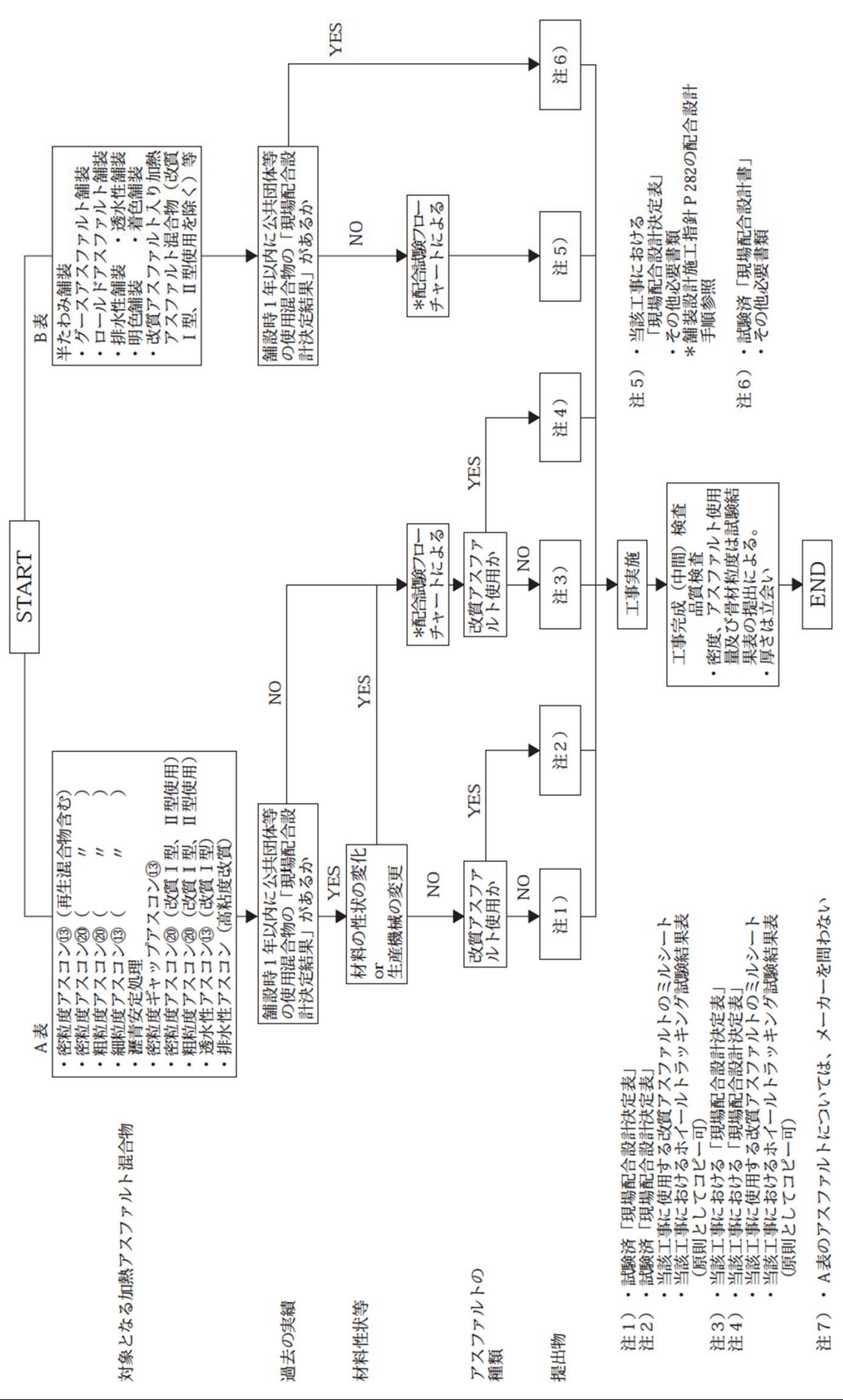
加熱アスファルト混合物材料試験区分

加熱アスファルト混合物及び再生加熱アスファルト混合物の試験等の取扱いは以下による。(但し、施工面積300㎡以下の場合、過去3年以内に公共団体等において実施した使用混合物の「現場配合設計結果」によることができる。)



加熱アスファルト混合物材料試験区分

加熱アスファルト混合物及び再生加熱アスファルト混合物の試験等の取扱いは以下による。(ただし、施工面積300㎡以下の場合、過去3年以内に公共団体等において実施した使用混合物の「現場配合設計結果」によることができる。)



「ロックボルトの引抜試験」

(1) 計測の目的

ロックボルトの定着効果を確認することを目的とする。

(2) 測定の要領

ロックボルトの引抜試験方法に従って行う。

実施時期は施工後3日経過後とし、**最大引抜荷重は10ton**とする。

(3) 結果の報告

計測結果は**図4-1**の要領で整理する。

(4) 試験後のボルトの処置

引抜試験の結果が荷重変位曲線**図4-1**のA領域に留まっている状態の場合には、試験後のボルトはそのままとし、これを補うボルトは打設しないものとする。

図のB領域に入る場合には、その他のボルトの状況を判断して施工が悪いと思われるものについては、試験したボルトを補うボルトを打設する。また地山条件によると思われる場合には地中変位や、ロックボルトの軸力分布等を**勘案**して、ロックボルトの設計を修正する。

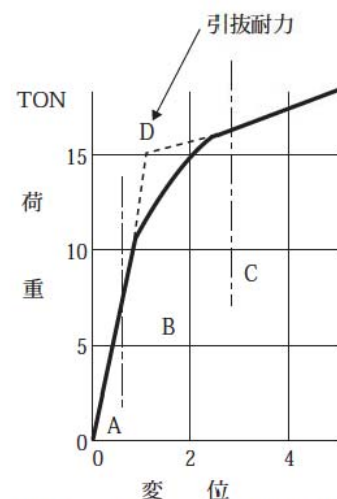


図4-1 ロックボルト引抜試験

ロックボルトの引抜試験

(1) 計測の目的

ロックボルトの定着効果を確認することを目的とする。

(2) 計測の要領

ロックボルトの引抜試験方法に従って行う。

実施時期は施工後3日経過後とし、**引抜試験耐力はロックボルト引抜耐力の80%程度以上とする。**

(3) 結果の報告

計測結果は**図-1**の要領で整理する。

(4) 試験後のボルトの処置

引抜試験の結果が荷重変位曲線**図-1**のA領域に留まっている状態の場合には、試験後のボルトはそのままとし、これを補うボルトは打設しないものとする。

図のB領域に入る場合には、その他のボルトの状況を判断して施工が悪いと思われるものについては、試験したボルトを補うボルトを打設する。また地山条件によると思われる場合には地中変位や、ロックボルトの軸力分布等をして、ロックボルトの設計を修正する。

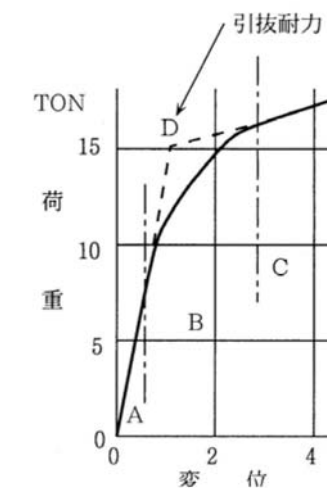


図-1 ロックボルト引抜試験

(ロックボルトの引抜試験方法)

この方法はISRMの提案する方法に準拠したものである。

(International Society for Rock Mechanics, Commission on Standardization of Laboratory and Field Tests, Cominnee on Field Tests Document No.2, 1974)

(1) 引抜試験準備

ロックボルト打設後に、載荷時にボルトに曲げを発生しないように**図-2**のように反カプレートがボルト軸に直角にセットし、地山との間は早強石膏をはりつける。

(2) 引抜試験

引抜試験は、**図-3**のようにセンターホールジャッキを用い、油圧ポンプで1ton毎の段階載荷を行って、ダイヤルゲージでボルトの伸びを読み取る。

(3) 全面接着式ボルトの場合の注意事項

(イ)吹付コンクリートが施工されている時は、コンクリートを取りこわして岩盤面を露出させるか、あるいは、あらかじめ引抜試験用のロックボルトに、吹付コンクリートの付着の影響を無くすよう布等を巻いて設置して試験を行うのが望ましい。ロックボルトに歪みゲージを貼付けて引抜試験の結果が得られている場合には、その結果を活用することにより、特に吹付コンクリートを取り壊す必要がない場合もある。

(ロックボルトの引抜試験方法)

この方法は I S R M の提案する方法に準拠したものである。

(International Society for Rock Mechanics, Commission on Standardization of Laboratory and Field Tests, Commission on Field Tests Document No. 2, 1974)

(1) 引抜試験準備

ロックボルト打接後に、載荷時にボルトに曲げを発生しないように図4-2のように反力プレートをボルト軸に直角にセットし、地山との間は早強石膏をはりつける。

(2) 引抜試験

引抜試験は、図4-3のようにセンターホールジャッキを用い、油圧ポンプで1 ton毎の段階載荷を行って、ダイヤルゲージでボルトの伸びを読み取る。

(3) 全面接着式ボルトの場合の注意事項

(イ) 吹付コンクリートが施工されている時は、コンクリートを取りこわして岩盤面を露出させるか、あるいは、あらかじめ引抜試験用のロックボルトに、吹付コンクリートの付着の影響を無くすよう布等を巻いて設置して試験を行うのが望ましい。ロックボルトに歪みゲージを貼付けて引抜試験の結果が得られている場合には、その結果を活用することにより、特に吹付コンクリートを取り壊す必要がない場合もある。

(ロ) 反力は、ロックボルトの定着効果としてピラミッド形を考慮する場合には、できるだけ孔等は大きいものを用い、ボルト周辺岩盤壁面を拘束しないこと。

(ハ) ロックボルトの付着のみを考慮する場合は、反力をできるだけロックボルトに近づけること。

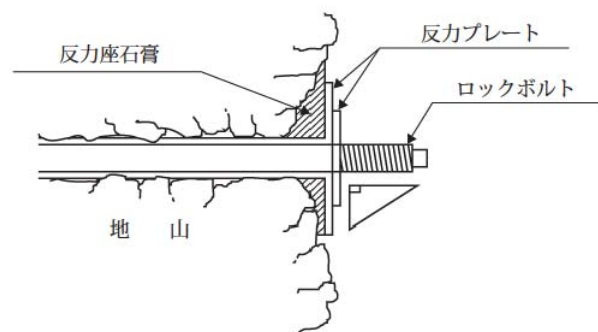


図4-2 反力座の設置

(ロ) 反力は、ロックボルトの定着効果としてピラミッド形を考慮する場合には、できるだけ孔等は大きいものを用い、ボルト周辺岩盤壁面を拘束しないこと。

(ハ) ロックボルトの付着のみを考慮する場合は、反力をできるだけロックボルトに近づけること。

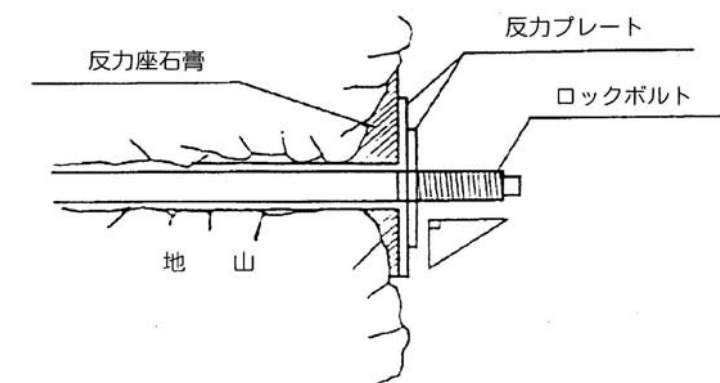


図-2 反力座の設置

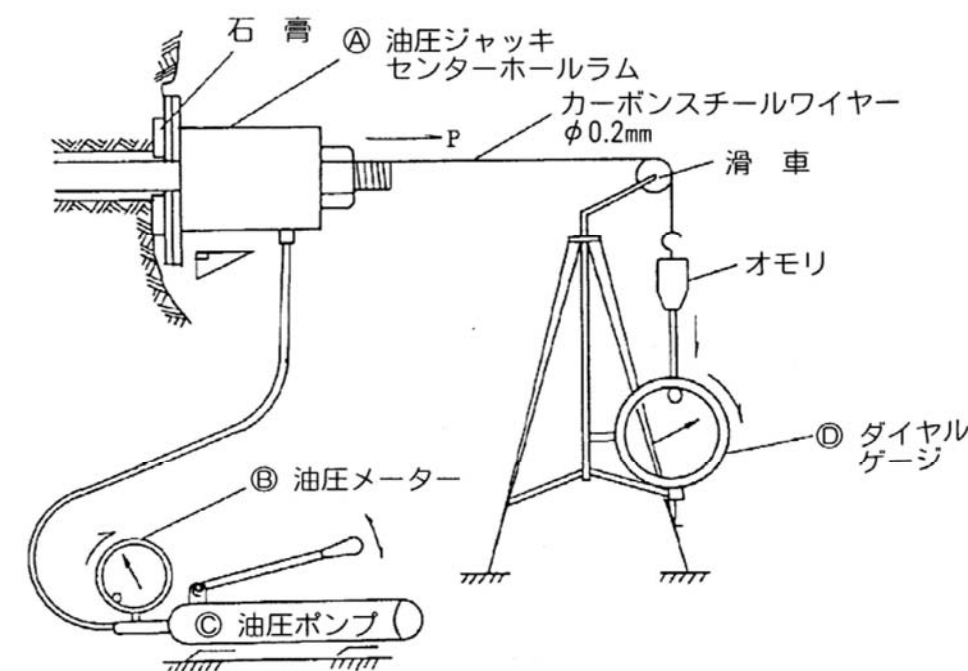


図-3 引抜試験概要図

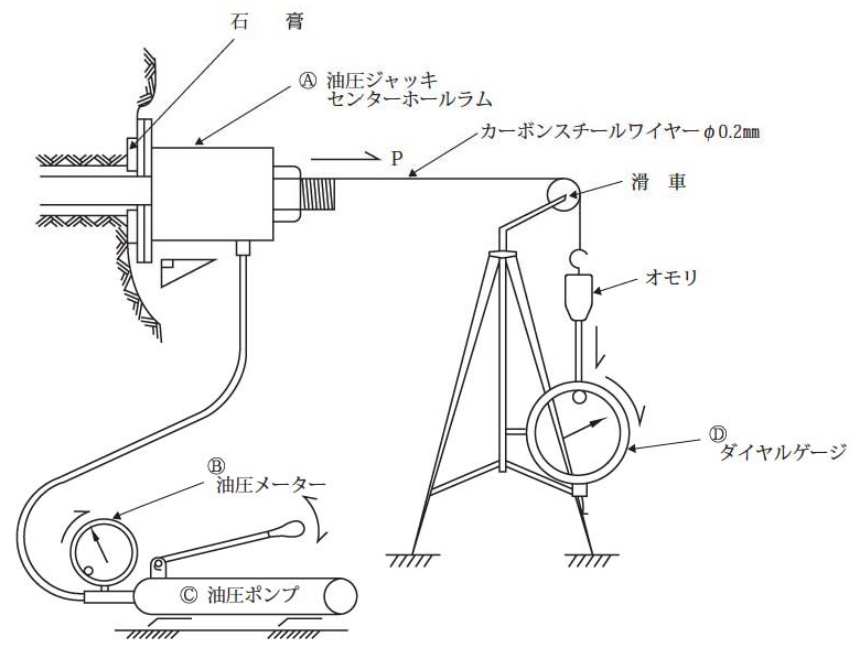


図4-3 引抜試験概要図

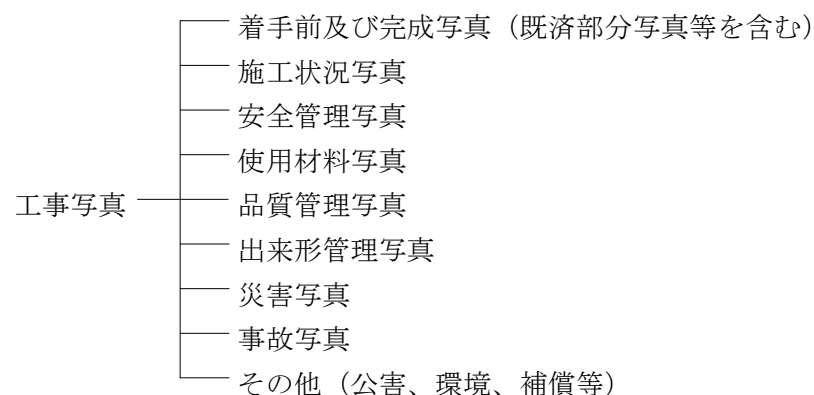
写真管理基準

(適用範囲)

- この写真管理基準は、土木工事施工管理基準に定める土木工事の工事写真（電子媒体によるものを含む）の撮影に適用する。

(工事写真の分類)

- 工事写真は次のように分類する。



(工事写真の撮影基準)

- 工事写真の撮影は以下の要領で行う。

(1) 撮影頻度

工事写真の撮影頻度は別紙撮影箇所一覧表に示すものとする。

(2) 撮影方法

写真撮影にあたっては、次の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点（位置）
- ④ 設計寸法
- ⑤ 実測寸法
- ⑥ 略図

小黒板の判読が困難となる場合は、別紙に必要事項を記入し、写真に添付して整理する。

また、特殊な場合で監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

なお、施工管理データを搭載したトータルステーションによる出来形管理を行う場合は、上記④～⑥を省略してもよい。

写真管理基準

1. 総則

1-1 適用範囲

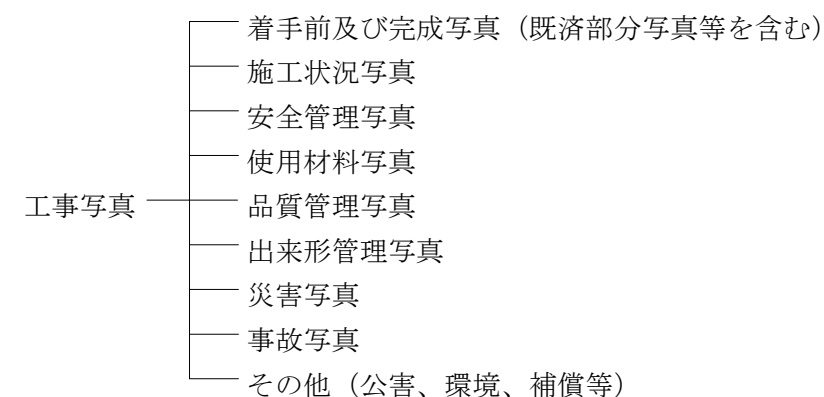
この写真管理基準は、静岡市土木工事施工管理基準に定める土木工事の工事写真による管理

（デジタルカメラを使用した撮影～提出）に適用する。

なお、フィルムカメラを使用した撮影～提出とする場合は、別紙「フィルムカメラを使用した場合の写真管理基準（案）」による。

1-2 工事写真の分類

工事写真は以下のように分類する。



2. 撮影

2-1 撮影頻度

工事写真は、撮影箇所一覧表に示す「撮影頻度」に基づき撮影するものとする。

2-2 撮影方法

写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点（位置）
- ④ 設計寸法
- ⑤ 実測寸法
- ⑥ 略図

小黒板の判読が困難となる場合は、「静岡市電子納品要領・基準（案）」により必要事項を記入し、整理する。

また、特殊な場合で監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

(写真の省略)

4. 工事写真は次の場合に省略するものとする。
- (1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
 - (2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
 - (3) 監督員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。

2-3 情報化施工

「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）による出来形管理を行った場合には、出来形管理写真の撮影頻度及び撮影方法は同要領の規定による。

2-4 写真の省略

工事写真は以下の場合に省略するものとする。

- (1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
- (2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
- (3) 監督員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。

2-5 写真の編集

写真の信憑性を考慮し、原則として写真編集は認めない。（「静岡市電子納品要領・基準（案）」による。）

(写真の色彩)

5. 写真はカラーとする。

(写真の大きさ)

6. 写真の大きさは、サービスサイズ程度とする。ただし、次の場合は別の大きさとしてすることができる。

- (1) 着手前、完成写真等はキャビネ版又はパノラマ写真（つなぎ写真可）とすることができる。
- (2) 監督員が指示するものは、その指示した大きさとする。

(工事写真帳の大きさ)

7. 工事写真帳は、4切版のフリーアルバム又はA4版とする。

(工事写真の提出部数及び形式)

8. 工事写真の提出部数及び形式は次によるものとする。

- (1) 工事写真として、工事写真帳と原本を工事完成時に各1部提出する。
- (2) 原本としては、ネガ（APSの場合はカートリッジフィルム）または電子媒体とする。

(工事写真の整理方法)

9. 工事写真の整理方法は次によるものとする。

- (1) 工事写真の原本をネガで提出する場合は密着写真とともにネガアルバムに、撮影内容等がわかるように整理し提出する。APSのカートリッジフィルムで提出する場合はカートリッジフィルム内の撮影内容がわかるように明示し、インデックス・プリントとともに提出する。
- (2) 工事写真帳の整理については、工種毎に別紙撮影箇所一覧表の整理条件に示すものを標準とする。
なお、整理条件とは受注者が撮影頻度に基づき撮影した工事写真のうち、工事写真帳として貼付整理し提出する枚数を示したものである。
- (3) 工事写真の原本を電子媒体で提出する場合は、「デジタル写真管理情報基準」に基づき整理し提出するものとする。
この場合、工事写真帳の提出は不要とする。

(留意事項等)

10. 別紙撮影箇所一覧表の適用について、次の事項を留意するものとする。

- (1) 撮影項目、撮影頻度等が工事内容に合致しない場合は、監督員の指示により追加、削減するものとする。
- (2) 施工状況等の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。
- (3) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。

2-6 撮影の仕様

写真はカラーとし、サイズは「静岡市電子納品要領・基準（案）」による。

2-7 撮影の留意事項

撮影箇所一覧表の適用について、以下を留意するものとする。

- (1) 「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督員の指示により追加、削減するものとする。
- (2) 施工状況等の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。
- (3) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。

- (4) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図等を工事写真帳に添付する。
- (5) 撮影箇所一覧表に記載のない工種については監督員と写真管理項目を協議のうえ取り扱いを定めるものとする。

(その他)

1 1. 用語の定義

- (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所でその仕様が確認できる箇所をいう。
- (2) 適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (3) 整理条件の不要とは、原本は提出するが、工事写真帳として貼付整理し提出する必要がないことをいう。

- (4) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図（撮影位置図、平面図、凡例図、構造図など）を参考図として作成する。
- (5) 撮影箇所一覧表に記載のない工種については監督員と写真管理項目を協議のうえ取り扱いを定めるものとする。

3. 整理提出

撮影箇所一覧表の「撮影頻度」に基づいて撮影された写真原本を電子媒体に格納し、監督員に提出するものとする。

写真ファイルの整理及び電子媒体への格納方法（各種仕様）は「静岡市電子納品要領・基準（案）」に基づくものとする。

なお、電子媒体で提出しない場合は、別紙「フィルムカメラを使用した場合の写真管理基準」による。

4. その他

撮影箇所一覧表の整理条件の用語の定義

- (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所でその仕様が確認できる箇所をいう。
- (2) 適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (3) 「提出頻度」の不要とは、フィルムカメラを使用した場合の写真管理に適用する。

撮影箇所一覧表

撮影箇所一覧表 (全体)

区分		写真管理項目			摘要	区分		写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度 [時期]	提出頻度	
着手前・完成	着手前	全景又は代表部分写真	着手前 1回 〔着手前〕	着手前 1枚		着手前・完成	着手前	全景又は代表部分写真	着手前 1回 〔着手前〕	着手前 1枚	
	完成	全景又は代表部分写真	施工完了後 1回 〔完成後〕	施工完了後 1枚				完成	全景又は代表部分写真	施工完了後 1回 〔完成後〕	
施工状況	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月 1回 〔月末〕	不要		施工状況	工事施工中	全景又は代表部分の工事進捗状況	月 1回 〔月末〕	不要	
		施工中の写真	工種、種別毎に設計図書、施工計画書に従い施工していることが確認できるように適宜 〔施工中〕	適宜				施工中の写真	工種、種別毎に設計図書、施工計画書に従い施工していることが確認出来るように適宜 〔施工中〕	適宜	
		高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認できるように適宜 〔施工中〕	不要	高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付		高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況が確認出来るように適宜 〔施工中〕	不要	高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出資料に添付			
	仮設(指定仮設)	使用材料、仮設状況、形状寸法	1 施工箇所 1回 〔施工前後〕	代表箇所 1枚		仮設(指定仮設)	使用材料、仮設状況、形状寸法	1 施工箇所 1回 〔施工前後〕	代表箇所 1枚		
	図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	必要に応じて 〔発生時〕	不要	工事打合簿に添付する。		図面との不一致	図面と現地との不一致の写真	必要に応じて 〔発生時〕	不要	工事打合簿に添付する。
安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	各種類毎に 1回 〔設置後〕	不要		安全管理	安全管理	各種標識類の設置状況	各種類毎に 1回 〔設置後〕	不要	
		各種保安施設の設置状況	各種類毎に 1回 〔設置後〕					各種保安施設の設置状況	各種類毎に 1回 〔設置後〕		
		監視員交通整理状況	各 1回 〔作業中〕					監視員交通整理状況	各 1回 〔作業中〕		
		安全訓練等の実施状況	実施毎に 1回 〔実施中〕	不要				実施状況資料に添付する。	安全訓練等の実施状況	実施毎に 1回 〔実施中〕	
使用材料	使用材料	形状寸法 使用数量 保管状況	各品目毎に 1回 〔使用前〕	不要	品質証明に添付する。	使用材料	使用材料	形状寸法 使用数量 保管状況	各品目毎に 1回 〔使用前〕	不要	品質証明に添付する。
		品質証明 (JISマーク表示)	各品目毎に 1回					品質証明 (JISマーク表示)	各品目毎に 1回		
		検査実施状況	各品目毎に 1回 〔検査時〕					検査実施状況	各品目毎に 1回 〔検査時〕		
品質管理		別添 撮影箇所一覧表 (品質管理) に準じて撮影				品質管理		別添 撮影箇所一覧表 (品質管理) に準じて撮影			
		不可視部分の施工		適宜				不可視部分の施工		適宜	
出来形管理		別添 撮影箇所一覧表 (出来形管理) に準じて撮影				出来形管理		別添 撮影箇所一覧表 (出来形管理) に準じて撮影			
		不可視部分の施工		適宜				不可視部分の施工		適宜	
		出来形管理基準が定められていない		監督員と協議事項				出来形管理基準が定められていない		監督員と協議事項	
災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	その都度 〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	適宜		災害	被災状況	被災状況及び被災規模等	その都度 〔被災前〕 〔被災直後〕 〔被災後〕	適宜	
事故	事故報告	事故の状況	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜	発生前は付近の写真でも可	事故	事故報告	事故の状況	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜	発生前は付近の写真でも可
その他	補償関係	被害又は損害状況等	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜		補償関係外	補償関係	被害又は損害状況等	その都度 〔発生前〕 〔発生直後〕 〔発生後〕	適宜	
	環境対策 イメージアップ等	各施設設置状況	各種毎 1回 〔設置後〕	適宜			環境対策 イメージアップ等	各施設設置状況	各種毎 1回 〔設置後〕	適宜	

撮影箇所一覧表（品質管理）

撮影箇所一覧表（品質管理）

番号	工種	写真管理項目			概要	番号	工種	写真管理項目			概要
		撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件				撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度	
1	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)(施工)	塩化物総量規制	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できるもの コンクリート舗装の場合適用	1	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)(施工)	塩化物総量規制	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認出来るもの コンクリート舗装の場合適用
		スランプ試験						スランプ試験			
		コンクリートの圧縮強度試験						コンクリートの圧縮強度試験			
		空気量測定	品質に変化が見られた場合 〔試験実施中〕					空気量測定	品質に変化が見られた場合 〔試験実施中〕		
		コンクリートの曲げ強度試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕					コンクリートの曲げ強度試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕		
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕					コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕		
セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)(施工後試験)	ひび割れ調査	対象構造物毎に1回 〔試験実施中〕		ひび割れ調査	対象構造物毎に1回 〔試験実施中〕						
	テストハンマーによる強度推定調査			テストハンマーによる強度推定調査							
	コアによる強度試験	テストハンマー試験により必要が認められた時 〔試験実施中〕		コアによる強度試験	テストハンマー試験により必要が認められた時 〔試験実施中〕						
2	ガス圧接	外観検査	検査毎に1回 〔検査実施中〕	不要	2	ガス圧接	外観検査	検査毎に1回 〔検査実施中〕	不要		
		超音波探傷検査					超音波探傷検査				
3	既製杭工	外観検査	検査毎に1回 〔検査実施中〕	不要	3	既製杭工	外観検査	検査毎に1回 〔検査実施中〕	不要		
		浸透探傷試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕				浸透探傷試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕			
		放射線透過試験					放射線透過試験				
		超音波探傷試験					超音波探傷試験				
		水セメント比試験					水セメント比試験				
		セメントミルクの圧縮強度試験					セメントミルクの圧縮強度試験				
4	下層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要	4	下層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		ブルフローリング	路盤毎に1回 〔試験実施中〕				ブルフローリング	路盤毎に1回 〔試験実施中〕			
		平板載荷試験	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕				平板載荷試験	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕			
		骨材のふるい分け試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕				骨材のふるい分け試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕			
		土の液性限界・塑性限界試験 含水比試験					土の液性限界・塑性限界試験 含水比試験				
5	上層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要	5	上層路盤	現場密度の測定	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		粒度					粒度				
		平板載荷試験					平板載荷試験				
		土の液性限界・塑性限界試験 含水比試験	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕				土の液性限界・塑性限界試験 含水比試験	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕			
6	アスファルト安定処理路盤	アスファルト舗装に準拠		不要	6	アスファルト安定処理路盤	アスファルト舗装に準拠		不要		
7	セメント安定処理路盤(施工)	粒度	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要	7	セメント安定処理路盤(施工)	粒度	各種路盤毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		現場密度の測定					現場密度の測定				
		含水比試験	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕				含水比試験	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕			
		セメント量試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕				セメント量試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕			
8	アスファルト舗装(プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	8	アスファルト舗装(プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		アスファルト量抽出粒度分析試験					アスファルト量抽出粒度分析試験				
		温度測定					温度測定				
							水浸ホイールトラッキング試験 ホイールトラッキング試験 ラベリング試験				
アスファルト舗装(舗設現場)	現場密度の測定	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	アスファルト舗装(舗設現場)	現場密度の測定	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要				
	温度測定				温度測定						
	外観検査				外観検査						
	すべり抵抗試験				すべり抵抗試験						
9	転圧コンクリート(施工)	コンシステンシーVC試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	9	転圧コンクリート(施工)	コンシステンシーVC試験	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		マーシャル突き固め試験					マーシャル突き固め試験				
		ランマー突き固め試験					ランマー突き固め試験				
		コンクリートの曲げ強度試験					コンクリートの曲げ強度試験				
		温度測定(コンクリート)	コンクリートの種類毎に1回 〔温度測定中〕				温度測定(コンクリート)	コンクリートの種類毎に1回 〔温度測定中〕			
		現場密度の測定	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕				現場密度の測定	コンクリートの種類毎に1回 〔試験実施中〕			
		コアによる密度測定					コアによる密度測定				
10	グースアスファルト舗装(プラント)	貫入試験40℃	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	10	グースアスファルト舗装(プラント)	貫入試験40℃	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		リュエル流動性試験240℃					リュエル流動性試験240℃				
		ホイールトラッキング試験					ホイールトラッキング試験				
		曲げ試験					曲げ試験				
		粒度					粒度				
		アスファルト量抽出粒度分析試験					アスファルト量抽出粒度分析試験				
		温度測定					温度測定				
							グースアスファルト舗装(舗設現場)	温度測定	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕		不要

番号	工種	写真管理項目			摘要	番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度 [時期]	提出頻度	
11	路床安定処理工	現場密度の測定	路床毎に1回 〔試験実施中〕	不要		11	路床安定処理工	現場密度の測定	路床毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		ブルーフローリング									
		平板載荷試験									
		現場C B R 試験									
		含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕								
	たわみ量	ブルーフローリングの不良箇所について実施 〔試験実施中〕									
12	表層安定処理工 (表層混合処理)	含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕	不要		12	表層安定処理工 (表層混合処理)	含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕	不要	
		現場密度の測定	材質毎に1回 〔試験実施中〕								
		ブルーフローリング	工種毎に1回 〔試験実施中〕								
		平板載荷試験	材質毎に1回 〔試験実施中〕								
		現場C B R 試験									
		たわみ量	ブルーフローリングの不良箇所について実施 〔試験実施中〕								
13	固結工	土の一軸圧縮試験	材質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		13	固結工	土の一軸圧縮試験	材質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
14	アンカー工	モルタルのフロー値試験	適宜 〔試験実施中〕	不要		14	アンカー工	モルタルのフロー値試験	適宜 〔試験実施中〕	不要	
		モルタルの圧縮強度試験									
		多サイクル確認試験									
		1サイクル確認試験									
15	補強土壁工	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		15	補強土壁工	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
16	吹付工 (施工)	塩化物総量規制	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要		16	吹付工 (施工)	塩化物総量規制	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		コンクリートの圧縮強度試験									
		スランブ試験	品質に変化がみられた場合 〔試験実施中〕					モルタルを 除く			
		空気量測定									
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕								
17	現場吹付法砕工	コンクリートの圧縮強度試験	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要		17	現場吹付法砕工	コンクリートの圧縮強度試験	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		塩化物総量規制									
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕								
		スランブ試験	品質に変化がみられた場合 〔試験実施中〕					モルタルを 除く			
		空気量測定									
		ロックボルトの引抜き試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕								
18	河川・海岸土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		18	河川土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		土の含水比試験	含水比に変化が認められた場合 〔試験実施中〕								
		コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い場合 〔試験実施中〕								
						19	海岸土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
								土の含水比試験	含水比に変化が認められた場合 〔試験実施中〕		
								コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い場合 〔試験実施中〕		
19	砂防土工	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		20	砂防土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
20	道路土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		21	道路土工 (施工)	現場密度の測定	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		ブルーフローリング	工種毎に1回 〔試験実施中〕								
		平板載荷試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕								
		現場C B R 試験									
		含水比試験	降雨後又は含水比の変化が認められた場合 〔試験実施中〕								
		コーン指数の測定	トラフィカビリティが悪い場合 〔試験実施中〕								
		たわみ量	ブルーフローリングの不良箇所について実施 〔試験実施中〕								
21	捨石工	岩石の見掛比重	産地又は岩質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		22	捨石工	岩石の見掛比重	産地又は岩質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		岩石の吸水率									
		岩石の圧縮強さ									
		岩石の形状									
22	覆工コンクリート (N A T M)	スランブ試験	品質に変化が認められた場合 〔試験実施中〕	不要		23	覆工コンクリート (N A T M)	スランブ試験	品質に変化が認められた場合 〔試験実施中〕	不要	
		コンクリートの圧縮強度試験	配合毎に1回 〔試験実施中〕								
		塩化物総量規制									
		空気量測定	品質に変化が認められた場合 〔試験実施中〕								
		コアによる強度試験	品質に異常が認められた場合 〔試験実施中〕								
23	吹付けコンクリート (N A T M)	塩化物総量規制	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要		24	吹付けコンクリート (N A T M)	塩化物総量規制	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		コンクリートの圧縮強度試験						圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できるもの			
		スランブ試験	品質に変化が認められた場合 〔試験実施中〕								
		空気量測定									

番号	工種	写真管理項目			摘要	番号	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度 [時期]	提出頻度	
24	ロックボルト (NATM)	モルタルの圧縮強度試験	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要	25	ロックボルト (NATM)	モルタルの圧縮強度試験	配合毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		モルタルのフロー値試験									
		ロックボルトの引抜き試験	適宜								
25	路上再生路盤工 (材料)	修正CBR試験	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要	26	路上再生路盤工 (材料)	修正CBR試験	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		土の粒度試験									
		土の含水比試験									
		土の液性限界・塑性限界試験									
	路上再生路盤工 (施工)	現場密度の測定	材料毎に1回 〔試験実施中〕								
	土の一軸圧縮試験										
	CAEの一軸圧縮試験										
	含水比試験										
26	路上表層再生工 (材料)	旧アスファルト針入度	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要	27	路上表層再生工 (材料)	旧アスファルト針入度	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		旧アスファルトの軟化点									
	路上表層再生工 (施工)	現場密度の測定	材料毎に1回 〔試験実施中〕								
		温度測定									
		かきほぐし深さ									
	粒度										
	アスファルト量抽出粒度分析試験										
27	排水性舗装工・透水性舗装工 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	28	排水性舗装工・透水性舗装工 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		アスファルト量抽出粒度分析試験									
		温度測定									
	排水性舗装工・透水性舗装工 (舗設現場)	温度測定									
	現場透水試験										
	現場密度の測定										
	外観検査										
28	プラント再生舗装工 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要	29	プラント再生舗装工 (プラント)	粒度	合材の種類毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		再生アスファルト量									
	プラント再生舗装工 (舗設現場)	外観検査									
	温度測定										
	現場密度の測定										
29	工場製作工	外観検査	1橋に1回又は1工事に1回 〔現物照合時〕	不要	30	工場製作工	外観検査	1橋に1回又は1工事に1回 〔現物照合時〕	不要		
		在庫品切出	当初の物件で1枚〔切出時〕※他は焼き増し								
		機械試験	1橋に1回又は1工事に1回 〔試験実施中〕								
30	ガス切断工	表面粗さ	試験毎に1回 〔試験実施中〕	不要	31	ガス切断工	表面粗さ	試験毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		ノッチ深さ									
		スラグ									
		上縁の溶け									
		平面度									
		ベベル精度									
		真直度									
31	溶接工	引張試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕	不要	32	溶接工	引張試験	試験毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		型曲げ試験									
		衝撃試験									
		マクロ試験									
		非破壊試験									
		突合せ継手の内部欠陥に対する検査									
		外観検査									
		曲げ試験									
		ハンマー打撃試験	外観検査が不合格となったスタッドジベルについて 〔試験実施中〕								
32 (公園)	たたき粘土	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	33 (公園)	たたき粘土	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		土粒子の密度試験									
		土の含水試験									
		土の透水試験									
33 (公園)	土舗装材	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	34 (公園)	土舗装材	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		土粒子の密度試験									
		土の含水試験									
34 (公園)	クレー舗装材	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要	35 (公園)	クレー舗装材	土の粒度試験	土質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		
		土粒子の密度試験									
		土の含水試験									
		硬度 (施工)	1,000m ² 毎に1回 〔試験実施中〕				不要				
35 (公園)	アンツーカー舗装材	含水比	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕	不要	36 (公園)	アンツーカー舗装材	含水比	観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕	不要		
		粒度									
		硬度 (施工)	1,000m ² 毎に1回 〔試験実施中〕				不要				

番号	工種	写真管理項目			摘要	番号	工種	写真管理項目			摘要					
		撮影項目	撮影頻度 [時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度 [時期]	提出頻度						
36 (公園)	舗装用石材 積み・張り用石材	岩石の見掛比重	産地又は岩質毎に1回 〔試験実施中〕	不要		37 (公園)	舗装用石材 積み・張り用石材	岩石の見掛比重	産地又は岩質毎に1回 〔試験実施中〕	不要						
		岩石の圧縮強さ						岩石の圧縮強さ								
		岩石の形状						岩石の形状								
37 (公園)	火山砂利	最大乾燥密度の測定	採取地毎に1回 〔試験実施中〕	不要		38 (公園)	火山砂利	最大乾燥密度の測定	採取地毎に1回 〔試験実施中〕	不要						
		修正CBRの測定						修正CBRの測定								
		骨材のふるい分け試験						骨材のふるい分け試験								
		骨材の洗い試験						骨材の洗い試験								
		粗骨材のすりへり試験						粗骨材のすりへり試験								
		骨材の安定性試験						骨材の安定性試験								
		凍上試験						凍上試験								
		強熱減量試験						強熱減量試験								
		土の透水試験						採取地毎に1回 〔試験実施中〕				不要	土の透水試験	採取地毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
		締固め度の測定(施工)						A類300㎡毎に1回 B・C類1,500㎡毎に1回 〔試験実施中〕				不要	締固め度の測定(施工)	A類300㎡毎に1回 B・C類1,500㎡毎に1回 〔試験実施中〕	不要	
骨材のふるい分け試験(施工)	搬入時に1回 観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕	不要	骨材のふるい分け試験(施工)	搬入時に1回 観察により異常が認められた場合 〔試験実施中〕	不要											
骨材の洗い試験(施工)			骨材の洗い試験(施工)													
38 (公園)	客土	pH (H ₂ O) [簡易pH計]	採取地毎に1回 〔試験実施中〕	不要		39 (公園)	客土	pH (H ₂ O) [簡易pH計]	採取地毎に1回 〔試験実施中〕	不要						
		有害物質 [電気伝導度 (ECメーター)]						有害物質 [電気伝導度 (ECメーター)]								
39 (公園)	高木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要		40 (公園)	高木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要						
		幹周						幹周								
		枝張						枝張								
40 (公園)	中低木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要		41 (公園)	中低木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要						
		枝張						枝張								
41 (公園)	特殊樹木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要		42 (公園)	特殊樹木	高さ	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要						
		幹周						幹周								
		枝張又は尺						枝張又は尺								
42 (公園)	地被類	茎長	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要		43 (公園)	地被類	茎長	樹種別、規格別に1回 〔試験実施中〕	不要						
		芽立						芽立								
43 (公園)	木材	木材の加圧式防腐処理方法	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要		44 (公園)	木材	木材の加圧式防腐処理方法	材料毎に1回 〔試験実施中〕	不要						
		クレオソート油、加工タール、タールピッチ (特記による)						クレオソート油、加工タール、タールピッチ (特記による)								
		木材の浸漬式防腐処理方法						木材の浸漬式防腐処理方法								
		含水率						含水率								
		保存処理剤浸度試験						保存処理剤浸度試験								
44 (水道)	鋳鉄管布設工	締付けトルク数値	各管種口径毎に1回 〔施工中・施工後〕	不要	締付けトルク数値確認	45 (水道)	鋳鉄管布設工	締付けトルク数値	各管種口径毎に1回 〔施工中・施工後〕	不要	締付けトルク数値確認					
		すきまゲージによる測定	各管種口径毎に1回 〔施工中〕	不要				すきまゲージによる測定	各管種口径毎に1回 〔施工中〕	不要						
		静水圧測定	試験毎に1回 〔試験前〕	不要	水圧ゲージ計確認			静水圧測定	試験毎に1回 〔試験前〕	不要	水圧ゲージ計確認					
		管路水圧試験	試験毎に1回 〔開始時〕 〔試験状況〕 〔10分後〕	不要	水圧ゲージ計確認			管路水圧試験	試験毎に1回 〔開始時〕 〔試験状況〕 〔10分後〕	不要	水圧ゲージ計確認					

撮影箇所一覧表（出来形管理）

※撮影頻度の（ ）は測点間隔25mの場合

撮影箇所一覧表（出来形管理）

※撮影頻度の（ ）は測点間隔25mの場合

編 号	章 節	条 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 号	章 節	条 番	工 種	写真管理項目			摘 要		
				撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件						撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度			
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2 掘削工	土質等の判別	地質が変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2 掘削工	土質等の判別	地質が変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚			
				法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔掘削後〕								法長 ※右のいずれかで撮影する			40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔掘削後〕	「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」による 1工事1回 〔掘削後〕
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3 盛土工	巻出し厚	40m (50m) に1回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3 盛土工	巻出し厚	40m (50m) に1回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1枚			
				締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔締固め時〕								締固め状況			転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔締固め時〕	
				法長幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕								法長幅 ※右のいずれかで撮影する			40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」による 1工事1回 〔施工後〕
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4 盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4 盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚			
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5 法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5 法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1枚			
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6 堤防天端工	厚さ 幅	40m (50m) に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6 堤防天端工	厚さ 幅	40m (50m) に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚			
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2 掘削工	土質等の判別	地質が変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	4 道路土工	2 掘削工	土質等の判別	地質が変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚			
				法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔掘削後〕								法長 ※右のいずれかで撮影する			40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔掘削後〕	「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」による 1工事1回 〔掘削後〕
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 路体盛土工 路床盛土工	巻出し厚	40m (50m) に1回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 路体盛土工 路床盛土工	巻出し厚	40m (50m) に1回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1枚			
				締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔締固め時〕								締固め状況			転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔締固め時〕	
				法長幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕								法長幅 ※右のいずれかで撮影する			40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」による 1工事1回 〔施工後〕
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5 法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1枚		1 共通編	2 土工	4 道路土工	5 法面整形工(盛土部)	仕上げ状況 厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1枚			
1 共通編	3 無筋、鉄筋工	7 鉄筋工	4 組立て	平均間隔	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	代表箇所 各1枚		1 共通編	3 無筋、鉄筋工	7 鉄筋工	4 組立て	平均間隔	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	代表箇所 各1枚			
				かぶり	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)								かぶり			コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	
1 共通編	3 無筋、鉄筋工	7 鉄筋工	4 組立て ※新設のコンクリート構造物の内、橋梁上部工事と下部工事	非破壊試験 (電磁誘導法、電磁波レーダ法)	試験毎に1回 〔試験実施中〕	代表箇所各1枚〔試験種別毎〕		1 共通編	3 無筋、鉄筋工	7 鉄筋工	4 組立て ※新設のコンクリート構造物の内、橋梁上部工事と下部工事	非破壊試験 (電磁誘導法、電磁波レーダ法)	試験毎に1回 〔試験実施中〕	代表箇所各1枚〔試験種別毎〕			

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
3 2 3 4	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	根入長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込前後〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 4	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	根入長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込前後〕	代表箇所 各1枚	
			変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込後〕					変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込後〕		
			数量	全数量 〔打込後〕					数量	全数量 〔打込後〕		
3 2 3 5	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	緑石工 (緑石・アスカープ)	施工状況	種別毎に1回 〔施工中〕	不要	3 2 3 5	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	緑石工 (緑石・アスカープ)	施工状況	種別毎に1回 〔施工中〕	不要	
3 2 3 6	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	小型標識工	基礎幅 基礎高さ 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	不要	3 2 3 6	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	小型標識工	基礎幅 基礎高さ 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	不要	
3 2 3 7	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	防止柵工 (立入防止柵) (転落 (横断) 防止柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	3 2 3 7	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	防止柵工 (立入防止柵) (転落 (横断) 防止柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	
			パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕					パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3 2 3 8	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	路側防護柵工 (ガードレール)	※基礎幅 ※基礎高さ ※配筋状況	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	3 2 3 8	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	路側防護柵工 (ガードレール)	※基礎幅 ※基礎高さ ※配筋状況	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	
			ビーム取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕					ビーム取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3 2 3 8	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	路側防護柵工 (ガードケーブル)	※基礎幅 ※基礎高さ ※基礎延長	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	3 2 3 8	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	路側防護柵工 (ガードケーブル)	※基礎幅 ※基礎高さ ※基礎延長	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある場合) 〔施工後〕	不要	
			ケーブル取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕					ケーブル取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3 2 3 9	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	不要	3 2 3 9	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	不要	
			施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕					施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕		
3 2 3 10	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要	3 2 3 10	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要	
3 2 3 11	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	コンクリート面塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 〔使用前後〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 11	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	コンクリート面塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 〔使用前後〕	代表箇所 各1枚	
			素地調整状況 (塗替)	スパン毎、部材別 〔施工前後〕					素地調整状況 (塗替)	スパン毎、部材別 〔施工前後〕		
			塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕					塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕		
3 2 3 12	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 12	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
3 2 3 12	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ橋)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 12	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ橋)	断面の外形寸法 橋桁のそり 横方向の曲がり	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
3 2 3 13	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	ポストテンション桁製作工	シース、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 13	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	ポストテンション桁製作工	シース、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚	
			幅 (上) 幅 (下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外後〕					幅 (上) 幅 (下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外後〕		
			中詰め及びびグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕					中詰め及びびグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
3 2 3 14	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレキャストセグメント製作工 (購入工)	断面の外形寸法	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 14	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレキャストセグメント製作工 (購入工)	断面の外形寸法	1スパンに1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
3 2 3 14	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレキャストセグメント主桁組立工	組立状況	1スパンに1回 〔組立時〕	代表箇所 各1枚	3 2 3 14	土木工事共通編 一般施工 共通の工種	プレキャストセグメント主桁組立工	組立状況	1スパンに1回 〔組立時〕	代表箇所 各1枚	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	3	15		PCホロースラブ製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	15		PCホロースラブ製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚	
						幅厚さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕									幅厚さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕		
						中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕									中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
3	2	3	16	1	PC箱桁製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	16	1	PC箱桁製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚	
						幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕									幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕		
						内空幅 円空高さ	桁毎に1回 〔型枠設置後〕									内空幅 円空高さ	桁毎に1回 〔型枠設置後〕		
						中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕									中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
3	2	3	16	2	PC押出し箱桁製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	16	2	PC押出し箱桁製作工	シーラ、PC鋼材配置状況	桁毎に1回 〔打設前〕	代表箇所 各1枚	
						幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕									幅(上) 幅(下) 高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕		
						内空幅 円空高さ	桁毎に1回 〔型枠設置後〕									内空幅 円空高さ	桁毎に1回 〔型枠設置後〕		
						中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕									中詰め及びグラウト状況	1スパンに1回 〔施工時〕		
3	2	3	17		根固めブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	17		根固めブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
						ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕									ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕		
3	2	3	18		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	18		沈床工	格子寸法 厚さ 割石状況 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	19		捨石工	幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	19		捨石工	幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	22		階段工	幅 高さ 長さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	22		階段工	幅 高さ 長さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	24	1	伸縮装置工(ゴムジョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	24	1	伸縮装置工(ゴムジョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	24	2	伸縮装置工(鋼製フィンガージョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	24	2	伸縮装置工(鋼製フィンガージョイント)	設置状況	1スパンに1回 〔設置後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	26	1	多自然型護岸工(巨石張り、巨石積み)	胴込裏込厚	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	26	1	多自然型護岸工(巨石張り、巨石積み)	胴込裏込厚	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕									法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3	2	3	26	2	多自然型護岸工(かごマット)	高さ 法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	26	2	多自然型護岸工(かごマット)	高さ 法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	27	1	羽口工(じゃかご)	法長 厚さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	27	1	羽口工(じゃかご)	法長 厚さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	3	27	2	羽口工(ふとんかご、かご枠)	高さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	3	27	2	羽口工(ふとんかご、かご枠)	高さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	3	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚		3	2	3	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						※幅 ※高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 (※印は場所打ちのある場合) 〔埋戻し前〕										40m (50m) 又は1施工箇所に1回 (※印は場所打ちのある場合) 〔埋戻し前〕		
3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要		3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	
3	2	3	29	2	側溝工 (場所打水路工)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚		3	2	3	29	2	側溝工 (場所打水路工)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	幅 深さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要		3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	幅 深さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	
3	2	3	30		集水枮工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	不要		3	2	3	30		集水枮工	厚さ 幅 高さ	1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	不要	
3	2	3	31		現場塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各1枚		3	2	3	31		現場塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量 〔使用前後〕	代表箇所各1枚	
						ケレン状況 (塗替)	スパン毎、部材別 〔施工前後〕									ケレン状況 (塗替)	スパン毎、部材別 〔施工前後〕		
						塗装状況	各層毎1スパンに1回 〔塗装後〕									塗装状況	各層毎1スパンに1回 〔塗装後〕		
3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要	
3	2	4	3	1	基礎工護岸 (現場打)	幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚		3	2	4	3	1	基礎工護岸 (現場打)	幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚	
3	2	4	3	2	基礎工護岸 (プレキャスト)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		3	2	4	3	2	基礎工護岸 (プレキャスト)	据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	
3	2	4	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕	代表箇所各1枚		3	2	4	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕	代表箇所各1枚	
						根入長	1施工箇所に1回 〔打込前〕									根入長	1施工箇所に1回 〔打込前〕		
						数量	全数量 〔打込後〕									数量	全数量 〔打込後〕		
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕									杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕		
3	2	4	5		場所打杭工	根入長	1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚		3	2	4	5		場所打杭工	根入長	1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	
						偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕									偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕		
						数量、杭径	全数量 杭頭余盛部の撤去前、杭頭処理後									数量、杭径	全数量 杭頭余盛部の撤去前、杭頭処理後		
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕									杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前、中、後〕		
						鉄筋組立状況	1施工箇所に1回 〔組立後〕									鉄筋組立状況	1施工箇所に1回 〔組立後〕		
3	2	4	6		深礎工	根入長	全数量 〔掘削後〕	代表箇所各1枚		3	2	4	6		深礎工	根入長	全数量 〔掘削後〕	代表箇所各1枚	
						偏心量	全数量 〔施工後〕									偏心量	全数量 〔施工後〕		
						数量	全数量 〔掘削後〕									数量	全数量 〔掘削後〕		
						ライナープレート設置状況	1施工箇所に1回 〔掘削中〕									ライナープレート設置状況	1施工箇所に1回 〔掘削中〕		
						土質	土質の変わる毎に1回 〔掘削中〕									土質	土質の変わる毎に1回 〔掘削中〕		
						鉄筋組立状況	全数量 〔組立後〕									鉄筋組立状況	全数量 〔組立後〕		
3	2	4	7		オープンケーソン基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数		3	2	4	7		オープンケーソン基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数	
						ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロットに1回 〔設置後及び型枠取外し後〕									ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロットに1回 〔設置後及び型枠取外し後〕		
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕									載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕		
						封鎖コンクリート打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕									封鎖コンクリート打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数		3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数	
						ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロットに1回 〔設置後及び型枠取外し後〕									ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロットに1回 〔設置後及び型枠取外し後〕		
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕									載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕		
						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕									封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕		
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数		3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	沓	1基に1回 〔据付後〕	全枚数	
						根入長 偏心量 鉄筋組立状況	1基に1回 〔設置後〕									根入長 偏心量 鉄筋組立状況	1基に1回 〔設置後〕		
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕									載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕		
						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕									封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕		
3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						法長 厚さ (ブロック積張)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕									法長 厚さ (ブロック積張)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3	2	5	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回	代表箇所 各1枚		3	2	5	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回	代表箇所 各1枚	
						幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕									幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
						厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕									厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕		
3	2	5	4		緑化ブロック工	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	5	4		緑化ブロック工	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						法長 厚さ(ブロック)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回									法長 厚さ(ブロック)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回		
3	2	5	5		石積(張)工	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	5	5		石積(張)工	厚さ(裏込)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						法長 厚さ(石積・張)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回									法長 厚さ(石積・張)	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回		
3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕		
3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要									厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕									平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工(下 層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工(下 層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工(上 層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工(上 層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工(上 層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工(上 層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工(加 熱アスファルト安定処 理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工(加 熱アスファルト安定処 理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工(基 層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工(基 層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工(表 層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工(表 層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						浸透性ミルク注入 状況	200mに1回 〔注入時〕									浸透性ミルク注入 状況	200mに1回 〔注入時〕		
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕									平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		
3	2	6	9	1	排水性舗装工(下層路 盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	1	排水性舗装工(下層路 盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		
3	2	6	9	2	排水性舗装工(上層路 盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	2	排水性舗装工(上層路 盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	6	9	3	排水性舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	3	排水性舗装工（上層路盤工）セメント（石灰）安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	9	4	排水性舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	4	排水性舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	9	5	排水性舗装工（基層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	5	排水性舗装工（基層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
3	2	6	9	6	排水性舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	9	6	排水性舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕									平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		
3	2	6	10	1	透水性舗装工（路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	10	1	透水性舗装工（路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	10	2	透水性舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	10	2	透水性舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕									平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		
3	2	6	11	1	グースアスファルト舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	11	1	グースアスファルト舗装工（加熱アスファルト安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	11	2	グースアスファルト舗装工（基層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	11	2	グースアスファルト舗装工（基層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
3	2	6	11	3	グースアスファルト舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	11	3	グースアスファルト舗装工（表層工）	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕									タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕		
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕									平坦性	1工事に1回 〔実施中〕		
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工（下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	12	1	コンクリート舗装工（下層路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	12	2	コンクリート舗装工（粒度調整路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	12	2	コンクリート舗装工（粒度調整路盤工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕									厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		
3	2	6	12	3	コンクリート舗装工（セメント（石灰・瀝青）安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	6	12	3	コンクリート舗装工（セメント（石灰・瀝青）安定処理工）	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
						整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕									整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要									厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要		
						幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕									幅	各層毎40m（50m）に1回 〔整正後〕		

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3 2 6 12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	4
			タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕					タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	石粉、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	石粉、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	5
			スリップバー、 タイバー寸法、 位置	40m (50m)に1回 〔据付後〕					スリップバー、 タイバー寸法、 位置	40m (50m)に1回 〔据付後〕			
			鉄網寸法 位置	40m (50m)に1回 〔据付後〕					鉄網寸法 位置	40m (50m)に1回 〔据付後〕			
			平坦性	1工事に1回 〔実施中〕					平坦性	1工事に1回 〔実施中〕			
			厚さ	各層毎40m (50m)に1回 〔型枠据付後〕					厚さ	各層毎40m (50m)に1回 〔型枠据付後〕			
			目地段差	1工事に1回					目地段差	1工事に1回			
3 2 6 12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	6
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕					厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	7
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕					厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	8
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要					厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	9
			タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕					タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ 転圧状況	200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ 転圧状況	200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 12	10
			厚さ	各層毎40m (50m)に1回 〔型枠据付後〕					厚さ	各層毎40m (50m)に1回 〔型枠据付後〕			
			平坦性	1工事に1回 〔実施中〕					平坦性	1工事に1回 〔実施中〕			
3 2 6 13	1	薄層カラー舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	1	薄層カラー舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	1
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕					厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 13	2	薄層カラー舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	2	薄層カラー舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	2
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕					厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 13	3	薄層カラー舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	3	薄層カラー舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	3
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要					厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 13	4	薄層カラー舗装工(加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	4	薄層カラー舗装工(加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13	4
			整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕					整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
			幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕					幅	各層毎40m (50m)に1回 〔整正後〕			

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3 2 6 13 5	薄層カラー舗装工(基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 13 5	薄層カラー舗装工(基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		
		タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
		厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕				厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕			
		幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕				幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 14 1	ブロック舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 14 1	ブロック舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
		整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕				整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
		厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕				厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
		幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕				幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 14 2	ブロック舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 14 2	ブロック舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
		整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕				整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
		厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕				厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕			
		幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕				幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 14 3	ブロック舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 14 3	ブロック舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
		整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕				整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
		厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要				厚さ	各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真 不要			
		幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕				幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 14 4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 14 4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎200mに1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
		整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕				整正状況	各層毎200mに1回 〔整正後〕			
		幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕				幅	各層毎40m(50m)に1回 〔整正後〕			
3 2 6 14 5	ブロック舗装工(基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 14 5	ブロック舗装工(基層工)	整正状況	200mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		
		タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
3 2 6 15	路面切削工	幅 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 15	路面切削工	幅 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 2 6 16	舗装打換え工	幅 延長 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 16	舗装打換え工	幅 延長 厚さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 2 6 17	オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 6 17	オーバーレイ工	平坦性	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
		タックコート	各層毎に1回 〔散布時〕				タックコート	各層毎に1回 〔散布時〕			
		整正状況	200mに1回 〔施工後〕				整正状況	200mに1回 〔施工後〕			
3 2 7 2	路床安定処理工	施工厚さ 幅	40m(50m)に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 7 2	路床安定処理工	施工厚さ 幅	40m(50m)に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 2 7 3	置換工	置換厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 7 3	置換工	置換厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 2 7 5	バイルネット工	厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 7 5	バイルネット工	厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
3 2 7 6	サンドマット工	施工厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	3 2 7 6	サンドマット工	施工厚さ 幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	7	7	7	パーチカドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーバードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	打込長さ 施工状況	200㎡又は1施工箇所に1回 〔打込み前後、施工中〕	代表箇所 各1枚		3	2	7	7	7	パーチカドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーバードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	打込長さ 施工状況	200㎡又は1施工箇所に1回 〔打込み前後、施工中〕	代表箇所 各1枚	
						杭径 位置・間隔	200㎡又は1施工箇所に1回 〔打込後〕									杭径 位置・間隔	200㎡又は1施工箇所に1回 〔打込後〕		
			8		締固め改良工 (サンドコンパクション パイル工)	砂の投入量	全数量 〔打込前後〕					8		締固め改良工 (サンドコンパクション パイル工)	砂の投入量	全数量 〔打込前後〕			
3	2	7	9	9	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径 深度	1施工箇所に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		3	2	7	9	9	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚	
						深度	1施工箇所に1回 〔打込前後〕									深度	1施工箇所に1回 〔打込前後〕		
3	2	10	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	変位 根入長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込前〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	変位 根入長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔打込前〕	代表箇所 各1枚	
						数量	全数量 〔打込後〕									数量	全数量 〔打込後〕		
3	2	10	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さ	1施工箇所に1回 〔削孔後〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さ	1施工箇所に1回 〔削孔後〕	代表箇所 各1枚	
						配置誤差	1施工箇所に1回 〔施工後〕									配置誤差	1施工箇所に1回 〔施工後〕		
3	2	10	5	3	土留・仮締切工 (連節 ブロック張り工)	法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回	代表箇所 各1枚		3	2	10	5	3	土留・仮締切工 (連節 ブロック張り工)	法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回	代表箇所 各1枚	
3	2	10	5	4	土留・仮締切工 (締切 盛土)	天端幅 法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	5	4	土留・仮締切工 (締切 盛土)	天端幅 法長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	10	5	5	土留・仮締切工 (中詰 盛土)	施工状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	5	5	土留・仮締切工 (中詰 盛土)	施工状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	10	9		地中連続壁工 (壁式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	9		地中連続壁工 (壁式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列 式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列 式)	連壁の長さ 変位	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	10	22		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工に 準ずる			3	2	10	22		法面吹付工		第3編 2-14-3 吹付工に 準ずる		
3	2	12	1	1	鋳造費 (金属支承工)	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	1	1	鋳造費 (金属支承工)	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承 工)	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承 工)	製作状況	適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	1	3	仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	1	3	仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所 各1枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕									製作状況	適宜 〔製作中〕		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃口高さ 外周長	1 施工箇所に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃口高さ 外周長	1 施工箇所に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	3	1	桁製作工（仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	原寸状況 製作状況 仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	※シミュレーション仮組立検査の場合は仮組立寸法を省略	3	2	12	3	1	桁製作工（仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	原寸状況 製作状況 仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	※シミュレーション仮組立検査の場合は仮組立寸法を省略
3	2	12	3	2	桁製作工（仮組立検査を実施しない場合）	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	3	2	桁製作工（仮組立検査を実施しない場合）	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	3	3	桁製作工（鋼製えん堤製作工（仮組立時））	仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 基に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	3	3	桁製作工（鋼製えん堤製作工（仮組立時））	仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 基に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	4		検査路製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	4		検査路製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	6		落橋防止装置製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	6		落橋防止装置製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	7		橋梁用防護柵製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	7		橋梁用防護柵製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	8		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	8		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法 （撮影項目は適宜）	1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	9		プレミアム用桁製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	9		プレミアム用桁製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1 橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	10		鋼製排水管製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	10		鋼製排水管製作工	原寸状況 製作状況	1 橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	代表箇所 各1枚	
3	2	12	11		工場塗装工	材料使用量 （塗料缶） 素地調整状況 （塗替） 塗装状況	全数量 〔使用前後〕 部材別 〔施工前後〕 各層毎に1回 〔塗装後〕	代表箇所 各1枚		3	2	12	11		工場塗装工	材料使用量 （塗料缶） 素地調整状況 （塗替） 塗装状況	全数量 〔使用前後〕 部材別 〔施工前後〕 各層毎に1回 〔塗装後〕	代表箇所 各1枚	
3	2	13			架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	代表箇所 各1枚		3	2	13			架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	代表箇所 各1枚	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
3	2	14	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工、植生 マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	材料使用量	1 工事に 1 回 〔混合前〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工、植生 マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	材料使用量	1 工事に 1 回 〔混合前〕	代表箇所 各 1 枚	
						土羽土の厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕									土羽土の厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕		
						法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕									法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
3	2	14	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	清掃状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔清掃後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	清掃状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔清掃後〕	代表箇所 各 1 枚	
						ラス鉄網の重ね合せ寸法	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付前〕									ラス鉄網の重ね合せ寸法	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付前〕		
						厚さ (検測孔)	200㎡又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付後〕									厚さ (検測孔)	200㎡又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付後〕		
						法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕									法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
						材料使用量	1 工事に 1 回 〔混合前〕									材料使用量	1 工事に 1 回 〔混合前〕		
3	2	14	3	3	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	清掃状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔清掃後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	3	3	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	清掃状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔清掃後〕	代表箇所 各 1 枚	
						ラス鉄網の重ね合せ寸法	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付前〕									ラス鉄網の重ね合せ寸法	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付前〕		
						法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕									法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
						厚さ (検測孔)	200㎡又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付後〕									厚さ (検測孔)	200㎡又は 1 施工箇所に 1 回 〔吹付後〕		
3	2	14	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長、 幅、 高さ、 枠中心間隔	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長、 幅、 高さ、 枠中心間隔	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3	2	14	4	2	法枠工 (プレキャスト 法枠工)	法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	4	2	法枠工 (プレキャスト 法枠工)	法長	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3	2	14	6	6	アンカー工	削孔深さ	1 施工箇所に 1 回 〔削孔後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	14	6	6	アンカー工	削孔深さ	1 施工箇所に 1 回 〔削孔後〕	代表箇所 各 1 枚	
						配置誤差	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕									配置誤差	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
3	2	15	1	1	場所打擁壁工	裏込厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	15	1	1	場所打擁壁工	裏込厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
						厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕									厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕		
3	2	15	2	2	プレキャスト擁壁工	据付状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔埋戻し前〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	15	2	2	プレキャスト擁壁工	据付状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔埋戻し前〕	代表箇所 各 1 枚	
										3	2	15	3	3	盛土補強工 (補強土 (テールアル メ) 壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	高さ 鉛直度	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3	2	15	4	4	井桁ブロック工	裏込厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	15	4	4	井桁ブロック工	裏込厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
						法長 厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕									法長 厚さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕		
3	2	16	3	3	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船) (グラブ船)	運転状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	16	3	3	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船) (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	運転状況	1 施工箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
3	2	18	2	2	床版・横組工	幅 厚さ 鉄筋の有効高さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	1 スパンに 1 回 〔打設前後〕	代表箇所 各 1 枚		3	2	18	2	2	床版・横組工	幅 厚さ 鉄筋の有効高さ 鉄筋のかぶり 鉄筋間隔	1 スパンに 1 回 〔打設前後〕	代表箇所 各 1 枚	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要						
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度							
6	河川編	1	7	4	護岸付属物工 (横帯コンクリート) (縦帯コンクリート) (小口止工) (巻コンクリート)	幅高さ	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	1	7	4	護岸付属物工 (横帯コンクリート) (縦帯コンクリート) (小口止工) (巻コンクリート)	幅高さ	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							
6	河川編	1	10	8	杭出し水制工	径 杭長	1 施工箇所 に1回 〔打込み前〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	1	10	8	杭出し水制工	径 杭長	1 施工箇所 に1回 〔打込み前〕	代表箇所 各1枚							
					幅 方向	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕										幅 方向	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕								
6	河川編	1	13	3	配管工	配管状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要		6	河川編	1	13	3	配管工	配管状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要							
6	河川編	1	13	4	ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要		6	河川編	1	13	4	ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	不要							
6	河川編	3	5	6	1	函渠工 (本体工)	厚さ 幅 内空幅 内空高	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚	6	河川編	3	5	6	1	函渠工 (本体工)	厚さ 幅 内空幅 内空高	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚						
6	河川編	3	5	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	据付状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔巻立前〕	不要	6	河川編	3	5	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	据付状況	40m (50m) 又は 1 施工箇所 に1回 〔巻立前〕	不要						
6	河川編	3	5	7	翼壁工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	3	5	7	翼壁工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚							
6	河川編	3	5	8	水叩工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	3	5	8	水叩工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚							
6	河川編	4	6	7	8	9	10	11	床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚	6	河川編	4	6	7	8	9	10	11	床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	厚さ 幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚
6	河川編	4	9	10	1	支承工 (鋼製支承)	支承取付状況	1 スパンに 1回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚	6	河川編	4	9	10	1	支承工 (鋼製支承)	支承取付状況	1 スパンに 1回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚						
6	河川編	4	9	10	2	支承工 (ゴム支承)	支承取付状況	1 スパンに 1回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚	6	河川編	4	9	10	2	支承工 (ゴム支承)	支承取付状況	1 スパンに 1回 〔取付後〕	代表箇所 各1枚						
6	河川編	4	12	4	地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	4	12	4	地覆工	地覆の幅 地覆の高さ 有効幅員	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							
6	河川編	4	12	5	6	橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	6	河川編	4	12	5	6	橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 高さ	1 施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚						

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
6	河川編	4	水門	12	橋梁付属物工(鋼管理橋)	幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	4	水門	12	橋梁付属物工(鋼管理橋)	幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	5	堰	6	可動堰本体工	厚さ 幅高さ 延長	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	5	堰	6	可動堰本体工	厚さ 幅高さ 延長	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	5	堰	7	固定堰本体工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	5	堰	7	固定堰本体工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	5	堰	8	魚道本体工	厚さ 幅高さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	5	堰	8	魚道本体工	厚さ 幅高さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	5	堰	9	管理橋橋台工	厚さ 天端幅 (橋軸方向) 敷幅 (橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	5	堰	9	管理橋橋台工	厚さ 天端幅 (橋軸方向) 敷幅 (橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	6	排水機場	4	本体工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	6	排水機場	4	本体工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	6	排水機場	4	燃料貯油槽工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	適宜		6	河川編	6	排水機場	4	燃料貯油槽工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	適宜	
6	河川編	6	排水機場	5	コンクリート床版工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	6	排水機場	5	コンクリート床版工	厚さ 幅高さ	1 施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	7	床止め・床固め	4	本体工(床固め本体工)	天端幅 堤幅 水通し幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	7	床止め・床固め	4	本体工(床固め本体工)	天端幅 堤幅 水通し幅	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	7	床止め・床固め	4	水叩工	幅 厚さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	7	床止め・床固め	4	水叩工	幅 厚さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
6	河川編	7	床止め・床固め	5	側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		6	河川編	7	床止め・床固め	5	側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
7	河川	1	5	5	場所打コンクリート工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	5	5	場所打コンクリート工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	1	5	6	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	5	6	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		
					ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕										ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕			
					据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
7	河川	1	6	4	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	6	4	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		
					ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔施工後〕										ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔施工後〕			
					法長厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										法長厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
7	河川	1	6	5	コンクリート被覆工	法長厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	6	5	コンクリート被覆工	法長厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
					裏込材厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕										裏込材厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕			
7	河川	1	8	2	コンクリート被覆工	幅厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	8	2	コンクリート被覆工	幅厚さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
					基礎厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕										基礎厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕			
7	河川	1	9	3	波返工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	1	9	3	波返工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	2	4	4	捨石工	法長天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	4	4	捨石工	法長天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	2	4	5	吸出し防止工	幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	4	5	吸出し防止工	幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	2	5	2	捨石工	法長天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	2	捨石工	法長天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	2	5	5	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	5	海岸コンクリートブロック工	数量	全数量 〔製作後〕	代表箇所各1枚		
					ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕										ブロックの形状寸法	形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕			
					天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										天端幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
7	河川	2	5	9	石砕工	厚さ高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	9	石砕工	厚さ高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
					間詰石状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕										間詰石状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕			
7	河川	2	5	10	場所打コンクリート工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	10	場所打コンクリート工	幅高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
7	河川	2	5	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	壁厚 幅 高さ 長さ 底板厚さ フーチング高さ	1基に1回 〔製作後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	壁厚 幅 高さ 長さ 底板厚さ フーチング高さ	1基に1回 〔製作後〕	代表箇所各1枚
7	河川	2	5	11	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	据付状況	1施工箇所に1回 〔据付後〕	代表箇所各1枚		7	河川	2	5	11	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	据付状況	1施工箇所に1回 〔据付後〕	代表箇所各1枚

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要					
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度						
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	11	3	ケーソン工（突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ 幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	11	3	ケーソン工（突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ 幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	1	セルラー工（セルラー工製作）	壁厚 幅 高さ	1 基に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	1	セルラー工（セルラー工製作）	壁厚 幅 高さ	1 基に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	2	セルラー工（セルラー工据付）	据付状況	1 施工箇所に1回 〔据付後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	2	セルラー工（セルラー工据付）	据付状況	1 施工箇所に1回 〔据付後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	3	セルラー工（突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ 幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	5	突堤本体工	12	3	セルラー工（突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	厚さ 幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	6	根固め工	2		捨石工	法長 天端幅	40m（50m）又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	6	根固め工	2		捨石工	法長 天端幅	40m（50m）又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	6	根固め工	3		根固めブロック工	数量 ブロックの形状寸法	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	6	根固め工	3		根固めブロック工	数量 ブロックの形状寸法	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	7	消波工	3		消波ブロック工	数量 ブロックの形状寸法	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	2	突堤・人工岬	7	消波工	3		消波ブロック工	数量 ブロックの形状寸法	全数量 〔製作後〕 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
7	河川海岸編	3	海城堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3	海城堤基礎工	3		捨石工	法長 天端幅	40m（50m）又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	7	河川海岸編	3	海城堤防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3	海城堤基礎工	3		捨石工	法長 天端幅	40m（50m）又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

編章節条	種	写真管理項目			摘 要	編章節条	種	写真管理項目			摘 要			
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度				
8 砂防編	1 砂防えん堤	3 工場製作工	4	鋼製えん堤仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚	鋼製えん堤仮設材製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚			
					製作状況	適宜	〔製作中〕		製作状況	適宜	〔製作中〕			
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤	4	コンクリートえん堤本体工	骨材採取製造 コンクリート製造 運搬	月に1回	〔施工中〕	各月1枚	骨材採取製造 コンクリート製造 運搬	月に1回	〔施工中〕	各月1枚		
					打継目処理 打込・養生	4リフトに1回	〔施工中〕	代表箇所各1枚	打継目処理 打込・養生	4リフトに1回	〔施工中〕	代表箇所各1枚		
					天端幅 堤幅 水通しの幅	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	天端幅 堤幅 水通しの幅	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚		
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	6	コンクリート側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	コンクリート側壁工	天端幅 長さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	8	水叩工	幅 厚さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	水叩工	幅 厚さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	5	鋼製えん堤本体工（不透過型）	長さ 幅 下流側倒れ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	鋼製えん堤本体工（不透過型）	長さ 幅 下流側倒れ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	5	鋼製えん堤本体工（透過型）	堤長 堤幅 高さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	鋼製えん堤本体工（透過型）	堤長 堤幅 高さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	6	鋼製側壁工	長さ 幅 下流側倒れ 高さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	鋼製側壁工	長さ 幅 下流側倒れ 高さ	測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	2 流路	5 床固め工	8	魚道工	幅 高さ 厚さ	40m（50m）又は測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	魚道工	幅 高さ 厚さ	40m（50m）又は測定箇所毎に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
8 砂防編	3 斜面対策	6 山腹水路工	4	山腹明暗渠工	厚さ 幅 高さ 深さ	40m（50m）又は1施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	不要		山腹明暗渠工	厚さ 幅 高さ 深さ	40m（50m）又は1施工箇所 に1回 〔型枠取外し後〕	不要		
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	4	集排水ボーリング工	削孔深さ 配置誤差	1施工箇所に1回	〔施工後〕	不要	集排水ボーリング工	削孔深さ 配置誤差	1施工箇所に1回	〔施工後〕	不要	
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	5	集水井工	偏心量 長さ 巻立て幅 巻立て厚さ	1施工箇所に1回	〔施工後〕	不要	集水井工	偏心量 長さ 巻立て幅 巻立て厚さ	1施工箇所に1回	〔施工後〕	不要	
8 砂防編	3 斜面対策	9 抑止杭工	6	合成杭工	偏心量	1施工箇所に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	合成杭工	偏心量	1施工箇所に1回	〔施工後〕	代表箇所各1枚	
				数量	全数量	〔打込後〕				数量	全数量	〔打込後〕		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
10	1	3	2		遮音壁支柱製作工	部材長	1 施工箇所に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚		10	1	3	2		遮音壁支柱製作工	部材長	1 施工箇所に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	9	6		場所打函渠工	厚さ 幅 (内空) 高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚		10	1	9	6		場所打函渠工	厚さ 幅 (内空) 高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	11	4		落石防止網工	幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	1	11	4		落石防止網工	幅	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	11	5		落石防護柵工	高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	1	11	5		落石防護柵工	高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	11	6		防雪柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	1	11	6		防雪柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	11	7		雪崩予防柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ アンカー長	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	1	11	7		雪崩予防柵工	高さ 基礎幅 基礎高さ アンカー長	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	1	12	4		遮音壁基礎工	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜		10	1	12	4		遮音壁基礎工	幅 高さ	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜	
10	1	12	5		遮音壁本体工	支柱間隔 支柱ずれ 支柱倒れ 高さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	1	12	5		遮音壁本体工	支柱間隔 支柱ずれ 支柱倒れ 高さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	2	4			歩道舗装工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	敷均し厚さ 転圧状況 整正状況 厚さ 幅	各層毎200mに1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 〔整正後〕 各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		10	2	4			歩道舗装工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	敷均し厚さ 転圧状況 整正状況 厚さ 幅	各層毎200mに1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 〔整正後〕 各層毎1,000㎡に1回 〔整正後〕 各層毎40m (50m) に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	
10	2	4			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	整正状況 タックコート、 プライムコート 平坦性	200mに1回 〔整正後〕 各層毎に1回 〔散布時〕 1 工事に1回 〔実施中〕	代表箇所 各1枚		10	2	4			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	整正状況 タックコート、 プライムコート 平坦性	200mに1回 〔整正後〕 各層毎に1回 〔散布時〕 1 工事に1回 〔実施中〕	代表箇所 各1枚	
10	2	5	9		排水性舗装用路肩排水工	据付状況	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工中〕	不要		10	2	5	9		排水性舗装用路肩排水工	据付状況	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工中〕	不要	
10	2	7	4		踏掛版工 (コンクリート工) (ラバーシュー) (アンカーボルト)	<コンクリート工> 各部の厚さ 各部の長さ <ラバーシュー> 各部の長さ 厚さ <アンカーボルト> 中心のずれ アンカー長	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		10	2	7	4		踏掛版工 (コンクリート工) (ラバーシュー) (アンカーボルト)	<コンクリート工> 各部の厚さ 各部の長さ <ラバーシュー> 各部の長さ 厚さ <アンカーボルト> 中心のずれ アンカー長	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
10	2	9	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	適宜		10	2	9	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 〔施工後〕	適宜	

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要				
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度					
10	2	9	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ	1 施工箇所	1 回	適宜		10	2	9	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ	1 施工箇所	1 回	適宜			
10	2	12	5	1	ケーブル配管工	配管状況	40m (50m) 又は	1 施工箇所	1 回	不要		10	2	12	5	1	ケーブル配管工	配管状況	40m (50m) 又は	1 施工箇所	1 回	不要	
10	2	12	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は	1 施工箇所	1 回	不要		10	2	12	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は	1 施工箇所	1 回	不要	
10	2	12	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎	5 箇所に	1 回	適宜		10	2	12	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 高さ	基礎タイプ毎	5ヶ所に	1 回	適宜	
10	3	3	3		鋼製橋脚製作工	原寸状況	1 脚に	1 回又は	1 工事に	1 回	代表箇所 各 1 枚	10	3	3	3	鋼製橋脚製作工	原寸状況	1 脚に	1 回又は	1 工事に	1 回	代表箇所 各 1 枚	
						製作状況	適宜																
						仮組立寸法 (撮影項目は適宜)	1 脚に	1 回又は	1 工事に	1 回													
10	3	6	8		橋台躯体工	厚さ 天端幅(橋軸方向) 敷幅(橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	全数量				代表箇所 各 1 枚	10	3	6	8	橋台躯体工	厚さ 天端幅(橋軸方向) 敷幅(橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	全数量				代表箇所 各 1 枚	
10	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 天端長 敷長	全数量				代表箇所 各 1 枚	10	3	7	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 天端長 敷長	全数量			代表箇所 各 1 枚	
10	3	7	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	全数量				代表箇所 各 1 枚	10	3	7	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	全数量			代表箇所 各 1 枚	
10	3	8	9	1	橋脚フーチング工 (I 型・T 型)	幅 高さ 長さ	全数量				代表箇所 各 1 枚	10	3	8	9	1	橋脚フーチング工 (I 型・T 型)	幅 高さ 長さ	全数量			代表箇所 各 1 枚	
10	3	8	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	幅 高さ	全数量				代表箇所 各 1 枚	10	3	8	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	幅 高さ	全数量			代表箇所 各 1 枚	
10	3	8	10	1	橋脚架設工 (I 型・T 型)	架設状況	架設工法が変わる毎に	1 回			代表箇所 各 1 枚	10	3	8	10	1	橋脚架設工 (I 型・T 型)	架設状況	架設工法が変わる毎に	1 回		代表箇所 各 1 枚	
10	3	8	10	2	橋脚架設工 (門型)	架設状況	架設工法が変わる毎に	1 回			代表箇所 各 1 枚	10	3	8	10	2	橋脚架設工 (門型)	架設状況	架設工法が変わる毎に	1 回		代表箇所 各 1 枚	
10	3	8	11		現場継手工	継手部のすき間	1 施工箇所	1 回			代表箇所 各 1 枚	10	3	8	11		現場継手工	継手部のすき間	1 施工箇所	1 回		代表箇所 各 1 枚	
10	4	3	9		橋梁用高欄製作工	原寸状況	1 橋に	1 回又は	1 工事に	1 回	代表箇所 各 1 枚	10	4	3	9		橋梁用高欄製作工	原寸状況	1 橋に	1 回又は	1 工事に	1 回	代表箇所 各 1 枚
						製作状況	適宜																

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
10	4	8	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	全数	代表箇所各1枚		10	4	8	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	全数	代表箇所各1枚		
10	5	6	2		プレビュー桁製作工(現場)	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚		10	5	6	2		プレビュー桁製作工(現場)	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	代表箇所各1枚		
					製作状況	適宜	〔製作中〕									製作状況	適宜		〔製作中〕	
					仮組立寸法(撮影項目は適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕										仮組立寸法(撮影項目は適宜)	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕			
					幅高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕										幅高さ	桁毎に1回 〔型枠取外し後〕			
10	6	4	3		吹付工	岩質	岩質の変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所各1枚		10	6	4	3		吹付工	岩質	岩質の変わる毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所各1枚		
					湧水状況	適宜	〔掘削中〕									湧水状況	適宜		〔掘削中〕	
					吹付面の清掃状況	40m毎に1回 〔清掃後〕										吹付面の清掃状況	40m毎に1回 〔清掃後〕			
					金網の重ねせ状況	40m毎に1回 〔2次吹付前〕										金網の重ねせ状況	40m毎に1回 〔2次吹付前〕			
					吹付け厚さ(検測孔)	40m毎に1回 〔吹付後〕										吹付け厚さ(検測孔)	40m毎に1回 〔吹付後〕			
10	6	4	4		ロックボルト工	位置間隔 角度 削孔深さ 孔径 突出量	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔穿孔中〕	代表箇所各1枚		10	6	4	4		ロックボルト工	位置間隔 角度 削孔深さ 孔径 突出量	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔穿孔中〕	代表箇所各1枚		
					ロックボルト注入状況	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔注入中〕										ロックボルト注入状況	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔注入中〕			
					ロックボルト打設後の状況	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔打設後〕										ロックボルト打設後の状況	施工パターン毎又は40mに1 断面 〔打設後〕			
10	6	5	3		覆工コンクリート工	覆工(巻立空間)	1センチに1回 〔型枠組立後〕	代表箇所各1枚		10	6	5	3		覆工コンクリート工	覆工(巻立空間)	1センチに1回 〔型枠組立後〕	代表箇所各1枚		
					覆工(厚さ)	1センチに1回 〔型枠取外し後〕										覆工(厚さ)	1センチに1回 〔型枠取外し後〕			
					幅高さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										幅高さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
10	6	5	5		床版コンクリート工	幅厚さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		10	6	5	5		床版コンクリート工	幅厚さ	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		
10	6	6	4		インパート本体工	インパート(厚さ)	40m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚		10	6	6	4		インパート本体工	インパート(厚さ)	40m又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚		
					幅(全幅)	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										幅(全幅)	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
10	6	8	4		坑門本体工	幅高さ	1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚		10	6	8	4		坑門本体工	幅高さ	1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚		
10	6	8	5		明り巻工	覆工(巻立空間)	40m又は1施工箇所に1回 〔型枠組立後〕	代表箇所各1枚		10	6	8	5		明り巻工	覆工(巻立空間)	40m又は1施工箇所に1回 〔型枠組立後〕	代表箇所各1枚		
					覆工(厚さ)	40m又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕										覆工(厚さ)	40m又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕			
					幅(全幅)高さ(内法)	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕										幅(全幅)高さ(内法)	40m又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
10	11	6	2		現場打躯体工	厚さ 内空幅 内空高	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚		10	11	6	2		現場打躯体工	厚さ 内空幅 内空高	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外し後〕	代表箇所各1枚		
10	11	6	4		カラー継手工	厚さ 幅 長さ	1施工箇所に1回 〔設置後〕	代表箇所各1枚		10	11	6	4		カラー継手工	厚さ 幅 長さ	1施工箇所に1回 〔設置後〕	代表箇所各1枚		
10	11	6	5	1	防水工(防水)	幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		10	11	6	5	1	防水工(防水)	幅	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
10	11	6	5	2	防水工 (防水保護工)	厚さ	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		10	11	6	5	2	防水工 (防水保護工)	厚さ	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
10	11	6	5	3	防水工 (防水壁)	高さ 幅 厚さ	1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		10	11	6	5	3	防水工 (防水壁)	高さ 幅 厚さ	1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
10	11	7	2		プレキャスト躯体工	据付状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔埋戻し前〕	代表箇所 各 1 枚		10	11	7	2		プレキャスト躯体工	据付状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔埋戻し前〕	代表箇所 各 1 枚	
10	12	5	2		管路工 (管路部)	敷設状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔敷設後〕	代表箇所 各 1 枚		10	12	5	2		管路工 (管路部)	敷設状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔敷設後〕	代表箇所 各 1 枚	
10	12	5	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	据付状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔据付後〕	代表箇所 各 1 枚		10	12	5	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	据付状況	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔据付後〕	代表箇所 各 1 枚	
10	12	5	4		現場打ちボックス工 (特殊部)	厚さ 内空幅 内空高	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各 1 枚		10	12	5	4		現場打ちボックス工 (特殊部)	厚さ 内空幅 内空高	40m (50m) 又は 1 箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各 1 枚	
10	12	6	2		ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	1 箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕	不要		10	12	6	2		ハンドホール工	厚さ 幅 高さ	1 箇所に 1 回 〔型枠取外し後〕	不要	
10	14	4	5		切削オーバーレイ工	平坦性	1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚		10	14	4	5		切削オーバーレイ工	平坦性	1 箇所に 1 回 〔施工後〕	代表箇所 各 1 枚	
						タックコート	各層毎に 1 回 〔散布時〕									タックコート	各層毎に 1 回 〔散布時〕		
						整正状況	200m に 1 回 〔施工後〕									整正状況	200m に 1 回 〔施工後〕		
10	14	4	7		路上再生工	敷均厚 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚		10	14	4	7		路上再生工	敷均厚 転圧状況	各層毎 200m に 1 回 〔施工中〕	代表箇所 各 1 枚	
						整正状況 厚さ	各層毎 1,000㎡ に 1 回 〔整正後〕									整正状況 厚さ	各層毎 1,000㎡ に 1 回 〔整正後〕		
10	14	4	11		グレーピング工	施工状況	施工日に 1 回 〔施工前後〕	不要		10	14	4	11		グレーピング工	施工状況	施工日に 1 回 〔施工前後〕	不要	
10	16	3	4		桁補強材製作工	原寸状況	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔原寸時〕	代表箇所 各 1 枚		10	16	3	4		桁補強材製作工	原寸状況	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔原寸時〕	代表箇所 各 1 枚	
						製作状況	適宜 〔製作中〕									製作状況	適宜 〔製作中〕		
						仮組立寸法 (撮影項目は適宜)	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔仮組立時〕									仮組立寸法 (撮影項目は適宜)	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔仮組立時〕		
10	16	22	4		落橋防止装置工	長さ、径、材質	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔材料搬入時〕	代表箇所 各 1 枚		10	16	22	4		落橋防止装置工	長さ、径、材質	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 〔材料搬入時〕	代表箇所 各 1 枚	
						施工状況	適宜 〔施工中〕									施工状況	適宜 〔施工中〕		

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	2	表土保全工 (表土掘削)	土質等の判断 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔掘削中〕	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	2	表土保全工 (表土掘削)	土質等の判断 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔掘削中〕	代表箇所 各1 枚	
				幅 深さ 法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔掘削後〕						幅 深さ 法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔掘削後〕		
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	3	整地工 (整地)	仕上げ状況 仕上げ厚さ	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	3	公園整地工 (公園整地)	仕上げ状況 仕上げ厚	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1 枚
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	4	掘削工 (掘削 (土砂)) (掘削 (軟岩)) (掘削 (硬岩))	土質等の判別 地質が変わる毎に1 回 〔掘削中〕	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	4	掘削工 (掘削 (土砂)) (掘削 (軟岩)) (掘削 (硬岩))	土質等の判別 地質が変わる毎に1 回 〔掘削中〕	代表箇所 各1 枚	
				法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔掘削後〕						法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔掘削後〕		
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	5	盛土工 (盛土 (流用土)) (盛土 (発生土)) (盛土 (採取土)) (盛土 (購入土))	巻出し厚 40m (50m) に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	5	盛土工 (盛土 (流用土)) (盛土 (発生土)) (盛土 (採取土)) (盛土 (購入土))	まき出し厚 40m (50m) に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔まき出し中〕	代表箇所 各1 枚	
				締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1 回 〔締固め時〕						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1 回 〔締固め時〕		
				幅 法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔施工後〕						幅 法長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工後〕		
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	6	路床盛土工 (路床 (流用土)) (路床 (発生土)) (路床 (採取土)) (路床 (購入土))	巻出し厚 40m (50m) に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔巻出し時〕	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	6	路体・路床盛土工 (路体 (築堤) 盛土) (路床盛土)	まき出し厚 40m (50m) に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔まき出し中〕	代表箇所 各1 枚	
				締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1 回 〔締固め時〕						締固め状況	転圧機械又は地質が変わる毎に1 回 〔締固め時〕		
				法長 幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔施工後〕						法長 幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工後〕		
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	7	法面整形工 (法面整形工 (盛土部))	仕上げ状況 厚さ	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	7	法面整形工 (法面整形工 (盛土部))	仕上げ状況 厚さ	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1 枚
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	8	路床安定処理工 (安定処理)	施工厚さ 幅	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	8	路床安定処理工 (安定処理)	仕上げ状況 厚さ	40m に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔仕上げ時〕	代表箇所 各1 枚
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	9	置換工 (置換)	置換厚さ 幅	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	9	置換工 (置換)	置換厚さ 幅	40m 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工後〕	代表箇所 各1 枚
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	10	サンドマット工 (サンドマット)	施工厚さ 幅	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	10	サンドマット工 (サンドマット)	施工厚さ 幅	40m 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工後〕	代表箇所 各1 枚
11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	11	パーチカルドレーン工 (サンドドレーン) (袋詰式サンドドレーン) (ペーパードレーン)	打込長さ 施工状況 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔打込前後〕	代表箇所 各1 枚	11 公園 編	1 基盤 整備	3 敷地 造成 工	11	パーチカルドレーン工 (パーチカルドレーン)		第3編2-7-7パーチカルドレーン工に準ずる。	
				杭径 位置・間隔	40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔打込後〕									
				砂の投入量	全数量 〔打込前後〕									
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	1 透水層工 (開渠排水)	高さ 幅 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 〔埋戻し前〕	不要	11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	1 透水層工 (開渠排水)	高さ 幅 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 〔埋戻し前〕	不要	
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	2 透水層工 (暗渠排水)	高さ 幅 厚さ 長さ 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 〔埋戻し前〕	不要	11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	3	2 透水層工 (暗渠排水)	高さ 幅 厚さ 長さ 40m (50m) 又は1 施工箇所に1 回 〔埋戻し前〕	不要	
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	4	土層改良工 (普通耕) (深耕) (混層耕) (心土破碎)	幅 深さ 施工状況 耕耘タイプ毎に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔施工中、施工後〕	不要	11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	4	土層改良工 (普通耕) (深耕) (混層耕) (心土破碎)	幅 深さ 施工状況 耕耘タイプ毎に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工前、施工中、施工後〕	不要	
11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	5	土性改良工 (土性改良) (中和剤施用) (除塩) (施肥)	幅 深さ 施工状況 耕耘タイプ毎に1 回 又は施工面積1,000㎡毎に1 回 〔施工中、施工後〕	不要	11 公園 編	1 基盤 整備	5 植栽 基盤 工	5	土性改良工 (土性改良) (中和剤施用) (除塩) (施肥)	幅 深さ 施工状況 耕耘タイプ毎に1 回 又は施工面積1,600㎡毎に1 回 〔施工前、施工中、施工後〕	不要	

編章節条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	編章節条	枝番	工種	写真管理項目			摘要		
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度			
11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	6	表土盛土工 (盛土(流用表土)) (盛土(発生表土)) (盛土(採取表土)) (盛土(購入表土))	巻出し厚 40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔巻出し時〕	不要	11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	6	表土盛土工 (表土盛土(流用表土)) (表土盛土(発生表土)) (表土盛土(採取表土)) (表土盛土(購入表土))	まき出し厚 40m(50m)に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔まき出し中〕	不要		
				締固め度 転圧機械が変わる毎に1回 〔締固め時〕							締固め度 転圧機械が変わる毎に1回 〔締固め時〕				
				幅法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工後〕							幅法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔施工後〕				
11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	2	人工地盤工 (人工地盤排水層)	高さ 幅 厚さ 長さ	不要	11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	2	人工地盤工 (人工地盤排水層)	高さ 幅 厚さ 長さ	不要
11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	3	人工地盤工 (フィルター) (防根シート)	高さ 幅 厚さ	不要	11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	3	人工地盤工 (フィルター) (防根シート)	高さ 幅 厚さ	不要
11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	4	人工地盤工 (立排水浸透柵)	厚さ 幅 高さ	不要	11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	7	4	人工地盤工 (立排水浸透柵)	厚さ 幅 高さ	不要
11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	8		造形工 (表面仕上げ) (築山)	仕上げ状況	代表箇所 各1枚	11公園編	1基盤整備	5植栽基盤工	8		造形工 (表面仕上げ) (築山)	仕上げ状況	代表箇所 各1枚
11公園編	1基盤整備	6法面工	3		法面ネット工 (法面ネット)			11公園編	1基盤整備	6法面工	3		法面ネット工 (法面ネット)		
11公園編	1基盤整備	6法面工	4	1	植生工 (種子散布) (植生シート) (植生マット) (公園種子帯) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝) (人工張芝) (植生穴)	材料使用量 1工事につき1回 〔混合前〕	代表箇所 各1枚	11公園編	1基盤整備	6法面工	4	1	植生工 (種子散布) (植生シート) (植生マット) (公園種子帯) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝) (人工張芝) (植生穴)	材料使用量 1工事につき1回 〔混合前〕	代表箇所 各1枚
						土羽土の厚さ 200㎡又は1施工箇所に1回 〔施工中〕							土羽土の厚さ 40m(50m)又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔施工中〕		
						法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕							法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
11公園編	1基盤整備	6法面工	4	2	植生工 (客土吹付) (植生基材吹付)	清掃状況 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	1基盤整備	6法面工	4	2	植生工 (客土吹付) (植生基材吹付)	清掃状況 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔清掃後〕	代表箇所 各1枚
						ラス鉄鋼の重ね合せ寸法 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔吹付前〕							ラス鉄鋼の重ね合せ寸法 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔吹付前〕		
						厚さ(検測孔) 200㎡又は1施工箇所に1回 〔吹付後〕							厚さ(検測孔) 200㎡又は1施工箇所に1回 〔吹付後〕		
						法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕							法長 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕		
						材料使用量 1工事に1回 〔混合前〕							材料使用量 1工事に1回 〔混合前〕		
11公園編	1基盤整備	6法面工	5	1	法枠工 (現場打枠) (現場吹付法枠)			11公園編	1基盤整備	6法面工	5	1	法枠工 (現場打枠) (現場吹付法枠)		
						第3編2-14-4-1法枠工(現場打枠工)(現場吹付法枠工)に準ずる。							第3編2-14-4-1法枠工(現場打枠工)(現場吹付法枠工)に準ずる。		
11公園編	1基盤整備	6法面工	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠) (金属製法枠)			11公園編	1基盤整備	6法面工	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠) (金属製法枠)		
						第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。							第3編2-14-4-2法枠工(プレキャスト法枠工)に準ずる。		
11公園編	1基盤整備	6法面工	6		編柵工 (編柵)	高さ 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	1基盤整備	6法面工	6		編柵工 (編柵)	高さ 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	1基盤整備	6法面工	7	1	かご工 (じゃかご)			11公園編	1基盤整備	6法面工	7	1	かご工 (じゃかご)		
						第3編2-3-27-1羽口工(じゃかご)に準ずる。							第3編2-3-27-1羽口工(じゃかご)に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
11	公園編	1	6	7	2	かご工 (ふとんかご)		第3編2-3-27-2羽口工(ふとんかご、かご枠)に準ずる。		11	公園編	1	6	7	2	かご工 (ふとんかご)		第3編2-3-27-2羽口工(ふとんかご、かご枠)に準ずる。		
11	公園編	1	7	2	2	軽量盛土工 (軽量盛土) (コンクリート床版) (基礎コンクリート) (壁体) (裏込砕石)		第1編2-4-3路体盛土工に準ずる。		11	公園編	1	7	2	2	軽量盛土工 (軽量盛土) (コンクリート床版) (基礎コンクリート) (壁体) (裏込砕石)		第1編2-4-3路体盛土工に準ずる。		
11	公園編	1	8	4	1	場所打擁壁工 (小型擁壁) (重力式擁壁) (もたれ式擁壁) (逆T型擁壁) (L型擁壁) (鉄筋) (裏込砕石) (止水板) (コンクリート) (型枠) (足場) (目地板) (水抜パイプ) (吸出し防止材)		第3編2-15-1場所打擁壁工に準ずる。		11	公園編	1	8	4	1	場所打擁壁工(構造物単位)・場所打擁壁工 (小型擁壁) (重力式擁壁) (もたれ式擁壁) (逆T型擁壁) (L型擁壁) (鉄筋) (裏込砕石) (止水板) (コンクリート) (型枠) (足場) (目地板) (水抜パイプ) (吸出し防止材)		第3編2-15-1場所打擁壁工に準ずる。		
11	公園編	1	8	4	2	場所打擁壁工 (基礎材) (均しコンクリート)		第3編2-4-1一般事項(砕石基礎工)(均しコンクリート)に準ずる。		11	公園編	1	8	4	2	場所打擁壁工(構造物単位)・場所打擁壁工 (基礎材) (均しコンクリート)		第3編2-4-1一般事項(砕石基礎工)(均しコンクリート)に準ずる。		
11	公園編	1	8	4	3	場所打擁壁工 (擁壁高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 (施工前、施工後)	適宜	11	公園編	1	8	4	3	場所打擁壁工(構造物単位)・場所打擁壁工 (擁壁高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 (施工前、施工後)	適宜	
11	公園編	1	8	5	5	プレキャスト擁壁工 (プレキャストL型擁壁) (プレキャスト逆T型擁壁) (側溝付プレキャスト擁壁)		第3編2-15-2プレキャスト擁壁工に準ずる。		11	公園編	1	8	5	5	プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2プレキャスト擁壁工に準ずる。		
11	公園編	1	8	6	6	補強土壁工 (補強土壁基礎) (帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁) (ジオテキスタイル補強土壁)		第1編2-3-4盛土補強工に準ずる。		11	公園編	1	8	6	6	補強土壁工 (補強土壁基礎) (帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁) (ジオテキスタイル補強土壁)		第1編2-3-4盛土補強工に準ずる。		
11	公園編	1	8	7	7	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック基礎) (コンクリートブロック積) (間知ブロック張) (平ブロック張) (連節ブロック張) (緑化ブロック積) (ブロック植栽) (天端コンクリート) (小口止コンクリート)		第3編2-5-3コンクリートブロック工、第3編2-5-4緑化ブロック工に準ずる。		11	公園編	1	8	7	7	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック基礎) (コンクリートブロック積) (間知ブロック張) (平ブロック張) (連節ブロック張) (緑化ブロック積) (ブロック植栽) (天端コンクリート) (小口止コンクリート)		第3編2-5-3-1~4コンクリートブロック工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要		
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度			
11	公園編	1	8	8	1	石積工 (崩れ積)	胴込裏込厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	1	8	8	1	石積工 (崩れ積)	胴込裏込厚	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
							法長又は高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕									法長又は高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕			
11	公園編	1	8	8	2	石積工 (面積) (玉石積) (小端積) (こぶだし石積) (切石積) (間知石積) (雑割石積) (雑石積) (割石積) (雑割石張) (雑石張)		第3編2-5-5石積(張)工に準ずる。		11	公園編	1	8	8	2	石積工 (面積) (玉石積) (小端積) (こぶだし石積) (切石積) (間知石積) (雑割石積) (雑石積) (割石積) (雑割石張) (雑石張)		第3編2-5-3-5石積(張)工に準ずる。			
11	公園編	1	8	8	3	石積工 (石積高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	1	8	8	3	石積工 (石積高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
11	公園編	1	8	9	9	土留め工 (土留め)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	1	8	9	9	土留め工 (土留め)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
							高さ 延長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚								高さ 延長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
11	公園編	1	9	4	4	場所打函渠工 (函渠) (鉄筋) (コンクリート) (型枠) (足場) (支保) (目地板) (止水板) (水抜パイプ)		第10編1-9-6場所打函渠工に準ずる。		11	公園編	1	9	4	4	現場打函渠工(構造物単位) (函渠) (鉄筋) (コンクリート) (型枠) (足場) (支保) (目地板) (止水板) (水抜パイプ)		第10編1-9-6場所打函渠工に準ずる。			
11	公園編	1	9	5	5	プレキャストカルバート工 (プレキャストカルバート)		第3編2-3-28プレキャストカルバート工に準ずる。		11	公園編	1	9	5	5	プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス)		第3編2-3-28プレキャストカルバート工に準ずる。			
11	公園編	1	10	3	1	1	移設工 (遊具移設)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜	11	公園編	1	10	3	1	移設工 (遊具移設)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜	
							基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕									基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕			
11	公園編	1	10	3	2	2	移設工 (小工作物移設)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	1	10	3	2	2	移設工 (小工作物移設)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11	公園編	1	10	3	3	3	移設工 (景石移設)	施工状況	5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	1	10	3	3	3	移設工 (景石移設)	施工状況	5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11	公園編	2	3	3	3	3	高木植栽工 (高木植栽) (高木植栽(支柱有・幹巻有)) (高木植栽(支柱有・幹巻無))	①植穴 径 深さ	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	3	3	3	高木植栽工 (高木植栽) (高木植栽(支柱有・幹巻有)) (高木植栽(支柱有・幹巻無))	①植穴 径 深さ	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	
							②樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜								②樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜
							③支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜								③支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜
							④客土 ⑤肥料 ⑥土壌改良材 ⑦幹巻	施工状況 材料の使用量(空袋)	樹種別、規格別に1回 〔施工中、施工後〕	適宜								④客土 ⑤肥料 ⑥土壌改良材	施工状況 材料の使用量(空袋)	樹種別、規格別に1回 〔施工中、施工後〕	適宜
11	公園編	2	3	6	6	6	地被類植栽工 (地被類植栽)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	3	6	6	6	地被類植栽工 (地被類植栽)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要		
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度			
11	公園編	2	植栽	3	7	草花種子散布工 (草花種子散布) (草花植生マット)	材料使用量	種子別又は1工事につき1回 〔混合前〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	2	植栽	3	7	草花種子散布工 (草花種子散布) (草花植生マット)	材料使用量	種子別又は1工事につき1回 〔混合前〕	代表箇所 各1枚		
							厚さ	種子別又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕									厚さ	種子別又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔施工中〕			
11	公園編	2	植栽	3	8	播種工 (播種)	①種子	播種状況	種子別1回 〔施工中〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	8	播種工 (播種)	①種子	播種状況	種子別1回 〔施工中〕	適宜
							②肥料 ③養生材	施工状況 材料の使用量(空袋)	種子別1回 〔搬入時、施工中〕									②肥料 ③養生材	施工状況 材料の使用量(空袋)	種子別1回 〔施工中、施工後〕	
11	公園編	2	植栽	3	9	花壇植栽工 (花壇植栽)	施工状況	花壇植物別1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	9	花壇植栽工 (花壇植栽)	施工状況	花壇植物別1回 〔施工後〕	適宜		
11	公園編	2	植栽	3	10	1	樹木養生工 (防風ネット)	支柱の高さ 延長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	2	植栽	3	10	1	樹木養生工 (防風ネット)	支柱の高さ 延長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
11	公園編	2	植栽	3	10	2	樹木養生工 (寒冷紗巻き)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	10	2	樹木養生工 (寒冷紗巻き)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	10	3	樹木養生工 (植穴透水層)	厚さ 幅 長さ	樹種別1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	10	3	樹木養生工 (植穴透水層)	厚さ 幅 長さ	樹種別1回 〔施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	10	4	樹木養生工 (空気管)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	10	4	樹木養生工 (空気管)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	10	7	樹木養生工 (養生柵)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	10	7	樹木養生工 (養生柵)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜
							高さ 延長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚									高さ 延長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	
11	公園編	2	植栽	3	10	8	樹木養生工 (支柱設置)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	10	8	樹木養生工 (支柱設置)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	11	1	樹名板工 (埋込型樹名板)	基礎高 基礎幅	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	11	1	樹名板工 (埋込型樹名板)	基礎高 基礎幅	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	11	2	樹名板工 (幹巻型樹名板)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	11	2	樹名板工 (幹巻型樹名板)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜
11	公園編	2	植栽	3	12	根囲い保護工 (根囲い保護)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	12	根囲い保護工 (根囲い保護)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11	公園編	2	植栽	3	14	壁面緑化施設工 (壁面緑化フェンス) (壁面緑化パネル) (登はん補助資材)	施工状況	1施工箇所(タイプ毎)に1回 〔施工中、施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	3	14	壁面緑化施設工 (壁面緑化フェンス) (壁面緑化パネル) (登はん補助資材)	施工状況	1施工箇所(タイプ毎)に1回 〔施工中、施工後〕	適宜		
11	公園編	2	植栽	4	3	根回し工 (高木根回し)	根回し状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11	公園編	2	植栽	4	3	根回し工 (高木根回し)	根回し状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜		

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
11 公園 編	2 植栽	4 移植工	4		高木移植工 (高木移植)	①樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	4 移植工	4		高木移植工 (高木移植)	①樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	
						②支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜							②支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	
11 公園 編	2 植栽	4 移植工	5		根株移植工 (根株移植) (根株運搬) (特殊機械掘取) (特殊機械運搬)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	4 移植工	5		根株移植工 (根株移植) (根株運搬) (特殊機械掘取) (特殊機械運搬)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	2 植栽	4 移植工	6		中低木移植工 (中低木移植)	①樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	4 移植工	6		中低木移植工 (中低木移植)	①樹木	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	
						②支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜							②支柱	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	
11 公園 編	2 植栽	4 移植工	7		地被類移植工 (地被類移植) (地被類運搬)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	4 移植工	7		地被類移植工 (地被類移植) (地被類運搬)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	3		高中木整姿工 (基本剪定) (軽剪定) (機械剪定)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	3		高中木整姿工 (基本剪定) (軽剪定) (機械剪定)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	4		低木整姿工 (手刈) (機械刈)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	4		低木整姿工 (手刈) (機械刈)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	5	1	樹勢回復工 (樹勢回復)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	5	1	樹勢回復工 (樹勢回復)	施工状況	樹種別、規格別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	5	2	樹勢回復工 (樹木修復)	施工状況	修復方法別1回 〔施工後〕	適宜	11 公園 編	2 植栽	5 樹木 整姿工	5	2	樹勢回復工 (樹木修復)	施工状況	修復方法別に1回 〔施工後〕	適宜			
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	3		水栓類取付工 (メーターボックス) (止水栓) (止水栓ボックス) (不凍水栓) (ボックス類高さ調 整)	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要	11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	3		水栓類取付工 (メーターボックス) (止水栓) (止水栓ボックス) (不凍水栓) (ボックス類高さ調 整)	据付状況	5ヶ所に1回 〔施工後〕	不要			
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	1	散水施設工 (ミスト)	施工状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要												
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	2	散水施設工 (ドリップパイプ)	高さ 据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	2	散水施設工 (ドリップパイプ)	高さ 据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要			
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	3	散水施設工 (散水栓) (散水栓ボックス)	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要	11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	3	散水施設工 (散水栓) (散水栓ボックス)	据付状況	5ヶ所に1回 〔施工後〕	不要			
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	4	散水施設工 (散水栓高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	6	4	散水施設工 (散水栓高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜			
11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	8		給水設備修繕工 (給水設備修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11 公園 編	3 施設 整備	3 給水 設備 工	8		給水設備修繕工 (給水設備修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜			

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
11 公園編 3 施設整備 3 給水設備工	給水管路工 (給水管) (埋設シート)	高さ 据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要		11 公園編 3 施設整備 3 給水設備工	給水管路工 (給水管) (埋設シート)	高さ 据付状況	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	
11 公園編 3 施設整備 3 給水設備工	給水管路工 (埋設標)	据付状況	5箇所に1回 〔施工後〕	不要		11 公園編 3 施設整備 3 給水設備工	給水管路工 (埋設標)	据付状況	5ヶ所に1回 〔施工後〕	不要	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (L型側溝) (管(函)渠型側溝) (プレキャストU型側溝) (プレキャスト皿形側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝) (特殊円形側溝)		第3編2-3-29-1側溝工(プレキャストU型側溝)(L型側溝)(自由勾配側溝)に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (L型側溝) (管(函)渠型側溝) (プレキャストU型側溝) (プレキャスト皿形側溝) (コルゲートフリューム) (自由勾配側溝) (特殊円形側溝)		第3編2-3-29-1側溝工(プレキャストU型側溝)(L型側溝)(自由勾配側溝)に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (現場打L型側溝)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	不要		11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (現場打L型側溝)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	不要	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (現場打側溝)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	不要		11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (現場打側溝)	厚さ 幅 高さ	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	不要	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (公園素掘側溝)	高さ 幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	不要		11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (公園素掘側溝)	高さ 幅	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔埋戻し前〕	不要	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (側溝高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	側溝工 (側溝高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	管渠工 (コルゲートパイプ) (ヒューム管) (PC管) (陶管) (副管) (硬質塩化ビニール管)		第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	管渠工 (コルゲートパイプ)		第3編2-3-29-1側溝工(管渠)に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	集水樹・マンホール工 (街渠樹) (集水樹) (浸透樹) (プレキャスト街渠樹) (プレキャスト集水樹) (塩化ビニール製樹) (マンホール) (プレキャストマンホール) (公園マンホール) (浸透マンホール)		第3編2-3-30集水樹工に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	集水樹・マンホール工 (街渠樹) (集水樹) (浸透樹) (プレキャスト街渠樹) (プレキャスト集水樹) (塩化ビニール製樹) (マンホール) (プレキャストマンホール) (公園マンホール) (浸透マンホール)		第3編2-3-30集水樹工に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	集水樹・マンホール工 (樹高さ調整) (マンホール高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	集水樹・マンホール工 (樹高さ調整) (マンホール高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	地下排水工 (有孔ヒューム管) (有孔塩化ビニール管) (透水コンクリート管) (化学繊維管)		第3編2-3-29-3側溝工(暗渠工)に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	地下排水工 (透水コンクリート管) (化学繊維管) (地下排水)		第3編2-3-29-3暗渠工に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	公園水路工 (現場打水路) (プレキャスト水路)		第3編2-3-29-2側溝工(場所打水路工)に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 4 雨水排水設備工	公園水路工 (現場打水路) (プレキャスト水路)		第3編2-3-29-2場所打水路工に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 6 電気設備工	照明設備工 (ハンドホール)		第10編2-12-5-2ケーブル配管工(ハンドホール)に準ずる。			11 公園編 3 施設整備 6 電気設備工	照明設備工 (ハンドホール)		第10編2-12-5-2ケーブル配管工(ハンドホール)に準ずる。		
11 公園編 3 施設整備 6 電気設備工	照明設備工 (ハンドホール高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		11 公園編 3 施設整備 6 電気設備工	照明設備工 (ハンドホール高さ調整)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (引込柱)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (引込柱) (分電盤)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (分電盤高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (分電盤高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (照明灯基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 3	照明設備工 (照明灯基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 4	放送設備工 (スピーカー柱基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 4	放送設備工 (スピーカー柱基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 5	監視カメラ設置工 (監視カメラ基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 5	監視カメラ設置工 (監視カメラ柱基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 6	電気設備修繕工 (電気設備修繕)	施工状況	1 施工箇所(修繕内容毎)に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜		11公園編 3施設整備 6電気設備 6	電気設備修繕工 (電気設備修繕)	施工状況	1 施工箇所(修繕内容毎)に1 回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜		
11公園編 3施設整備 6電気設備 8	電線管路工 (電線管) (電線) (埋設シート)	深さ 据付状況	40m(50m)又は1 施工箇所に 1回 〔埋戻し前〕	不要		11公園編 3施設整備 6電気設備 8	電線管路工 (電線管) (電線) (埋設シート)	深さ 据付状況	40m(50m)又は1 施工箇所に 1回 〔埋戻し前〕	不要		
11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (下層路盤) (上層路盤)	敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (下層路盤) (上層路盤)		第3編2-6-7-1アスファルト舗 装工(下層路盤工)及び第3編 2-6-7-2アスファルト舗装工 (上層路盤工)に準ずる。			
	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
	厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
	幅	各層毎40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (基層)	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (基層)		第3編2-6-7-5アスファルト舗 装工(基層工)に準ずる。			
	タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕										
	幅	各層毎40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (表層)	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 5	アスファルト舗装工 (表層)		第3編2-6-7-6アスファルト舗 装工(表層工)に準ずる。			
	タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕										
	平坦性	1 工事1回 〔実施中〕										
11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (下層路盤) (上層路盤)	敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (下層路盤) (上層路盤)		第3編2-6-9-1排水性舗装工 (下層路盤工)及び第3編2-6- 9-2排水性舗装工(上層路盤 工)に準ずる。			
	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
	厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
	幅	各層毎40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (基層)	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (基層)		第3編2-6-9-5排水性舗装工 (基層工)に準ずる。			
	タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕										
	幅	各層毎40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕										
11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (表層)	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 3施設整備 7園路広場 6	排水性舗装工 (表層)		第3編2-6-9-6排水性舗装工 (表層工)に準ずる。			
	タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕										
	平坦性	1 工事1回 〔実施中〕										

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件								撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
11	公園編	3	7	7	1	透水性舗装工 (路盤)	敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	7	1	透水性舗装工 (路盤)		第3編2-6-10-1透水性舗装工 (路盤工)に準ずる。	
							修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕											
							厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕											
							幅	各層毎40m (50m)に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕											
11	公園編	3	7	7	2	透水性舗装工 (表層)	修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	7	2	透水性舗装工 (表層)		第3編2-6-10-2透水性舗装工 (表層工)に準ずる。	
							タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕											
							平坦性	1工事1回 〔実施中〕											
11	公園編	3	7	8		アスファルト系舗装工 (公園アスファルト舗装) (公園アスファルト薄 層カラー舗装) (透水性アスファルト 舗装) (脱色アスファルト舗装)	路盤工 敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積500㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	8		アスファルト系舗装工 (公園アスファルト舗装) (公園アスファルト薄 層カラー舗装) (透水性アスファルト 舗装) (脱色アスファルト舗装)		第3編2-6一般舗装工に準ず る。	
							修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積500㎡に1回 〔修正後〕											
							厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積500㎡に1回 〔修正後〕											
							幅	各層毎40m (50m)に1回 又は施工面積500㎡に1回 〔修正後〕											
							表層工 修正 (敷設) 状況	各層毎200mに1回 又は施工面積500㎡に1回 〔施工後〕											
							タック コート プライム コート	各層毎に1回 〔散布時〕											
11	公園編	3	7	14	1	石材系舗装工 (砂利舗装) (砕石舗装) (平石張り舗装) (ごろた石張舗装) (玉石張舗装) (野面平石張舗装) (修景割板石張舗装) (修景切板石張舗装) (割板石張舗装) (小舗石張舗装) (切板石張舗装) (延段)	路盤工 敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	14	1	石材系舗装工 (砂利舗装) (砕石舗装) (平石張り舗装) (ごろた石張舗装) (玉石張舗装) (野面平石張舗装) (修景割板石張舗装) (修景切板石張舗装) (割板石張舗装) (小舗石張舗装) (切板石張舗装) (延段)	路盤工 敷均し厚 転圧状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚
							修正状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕											
							厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔修正後〕											
							表層工 修正 (敷設) 状況	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工後〕											
							タック コート プライム コート	各層毎に1回 〔散布時〕											
11	公園編	3	7	14	2	石材系舗装工 (飛石)	砕石基礎 厚さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	不要	11	公園編	3	7	14	2	石材系舗装工 (飛石)	砕石基礎 厚さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	不要
11	公園編	3	7	16		園路緑石工 (コンクリート緑石) (現場打緑石) (駒止めブロック) (舗装止め) (擬石緑石) (レンガ緑石) (木緑石) (見切材(仕切材)) (石材緑石) (緑石高さ調整)		第3編2-3-5緑石工(緑石・ア スカーブ)に準ずる。		11	公園編	3	7	16		園路緑石工 (コンクリート緑石) (現場打緑石) (駒止めブロック) (舗装止め) (擬石緑石) (レンガ緑石) (木緑石) (見切材(仕切材)) (石材緑石) (緑石高さ調整)		第3編2-3-5緑石工(緑石・ア スカーブ)に準ずる。	
11	公園編	3	7	17		区画線工 (溶融式区画線) (ペイント式区画線) (区画線消去)		第3編2-3-9区画線工に準ず る。		11	公園編	3	7	17		区画線工 (溶融式区画線) (ペイント式区画線) (区画線消去)		第3編2-3-9区画線工に準ず る。	
11	公園編	3	7	18	1	階段工 (コンクリート階段) (コンクリートブロッ ク階段) (丸太階段) (擬木階段) (石材階段)	幅 高さ 長さ 段数	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	18	1	階段工 (コンクリート階段) (コンクリートブロッ ク階段) (丸太階段) (擬木階段) (石材階段)	幅 高さ 長さ 段数	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
11	公園編	3	7	18	2	階段工 (階段高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11	公園編	3	7	18	2	階段工 (階段高さ調整)	施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	適宜
11	公園編	3	7	19	1	公園橋工 (公園橋橋台) (石橋橋台) (木橋橋台)	幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外後〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	19	1	公園橋工 (公園橋橋台) (石橋橋台) (木橋橋台)	幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外後〕	代表箇所 各1枚
11	公園編	3	7	19	2	公園橋工 (公園橋設置) (八ッ橋) (石橋設置) (木橋設置) (浮き栈橋)	幅 高さ 長さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11	公園編	3	7	19	2	公園橋工 (公園橋設置) (八ッ橋) (石橋設置) (木橋設置) (浮き栈橋)	幅 高さ 長さ	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要		
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度			
11公園編	3施設整備	7園路広場整備工	20	デッキ工 (デッキ基礎) (デッキ設置)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	7園路広場整備工	20	デッキ工 (デッキ基礎) (デッキ設置)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所 に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	7園路広場整備工	23	植樹ブロック工 (植樹ブロック)		第3編2-3-5緑石工(緑石・ア スカーフ)に準ずる。		11公園編	3施設整備	7園路広場整備工	23	植樹ブロック工 (植樹ブロック)		第3編2-3-5緑石工(緑石・ア スカーフ)に準ずる。	
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	3	石組工 (石組) (景石)	施工状況	1箇所 に1回 〔施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	3	石組工 (石組) (景石)	施工状況	1箇所 に1回 〔施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	4	添景物工 (つくばい) (井筒) (灯籠) (石塔) (擬岩造形)	施工状況	5ヶ所 に1回 〔施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	4	添景物工 (つくばい) (井筒) (灯籠) (石塔) (擬岩造形)	施工状況	5ヶ所 に1回 〔施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	5	袖垣・垣根工 (袖垣) (垣根)	高さ 延長	40m(50m)又は1箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	5	袖垣・垣根工 (袖垣) (垣根)	高さ 延長	40m(50m)又は1箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	7	トレリス工 (トレリス) (緑化フェンス)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	7	トレリス工 (トレリス) (緑化フェンス)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所 に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
					高さ 延長	40m(50m)又は1箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚						高さ 延長	40m(50m)又は1箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	1 小規模水景施設工 (流れ)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	1 小規模水景施設工 (流れ)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	2 小規模水景施設工 (滝)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	2 小規模水景施設工 (滝)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	3 小規模水景施設工 (池)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	3 小規模水景施設工 (池)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	4 小規模水景施設工 (州浜)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	4 小規模水景施設工 (州浜)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	5 小規模水景施設工 (壁泉)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	5 小規模水景施設工 (壁泉)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	6 小規模水景施設工 (カスケード)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	6 小規模水景施設工 (カスケード)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	7 小規模水景施設工 (カナル)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	9	7 小規模水景施設工 (カナル)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	10	修景施設修繕工 (修景施設修繕)	施工状況	1箇所(修繕内容毎) に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	8修景施設整備工	10	修景施設修繕工 (修景施設修繕)	施工状況	1箇所(修繕内容毎) に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要				
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度					
11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	3	遊具組立設置工 (ブランコ) (ジャングルジム) (滑台) (シーソー) (鉄棒) (ラダー) (はん登棒) (スプリング遊具) (複合遊具) (アスレチック遊具) (健康遊具施設)	設置高さ 1回/1基 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	3	遊具組立設置工 (ブランコ) (ジャングルジム) (滑台) (シーソー) (鉄棒) (ラダー) (はん登棒) (スプリング遊具) (複合遊具) (アスレチック遊具) (健康遊具施設)	設置高さ 1回/1基 〔施工後〕	代表箇所 各1枚				
				基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕						基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕					
11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	1	小規模現場打遊具工 (砂場)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	1	小規模現場打遊具工 (砂場)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	2	小規模現場打遊具工 (現場打遊具)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	2	小規模現場打遊具工 (現場打遊具)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	3	小規模現場打遊具工 (徒渉池)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	6	3	小規模現場打遊具工 (徒渉池)	厚さ 幅 高さ 施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕	代表箇所 各1枚
11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	7		遊具施設修繕工 (遊具施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	9遊戯施設整備工	7		遊具施設修繕工 (遊具施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	3		時計台工 (時計台)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	3		時計台工 (時計台)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	4		水飲み場工 (水飲み場)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	4		水飲み場工 (水飲み場)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜
						基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕							基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕		
11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	6		ベンチ・テーブル工 (ベンチ) (緑台) (テーブル) (スツール) (野外卓)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	6		ベンチ・テーブル工 (ベンチ) (緑台) (テーブル) (スツール) (野外卓)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜
						基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕							基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕		
11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	8		炊事場工 (炊事場)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	8		炊事場工 (炊事場)	設置高さ	1回/1基 〔施工後〕	適宜
						基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕							基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕		
11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	10		サービス施設修繕工 (サービス施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	10サービス施設整備	10		サービス施設修繕工 (サービス施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	3		リサイクル施設工 (リサイクル施設基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	3		リサイクル施設工 (リサイクル施設基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	5		ごみ施設工 (くず入れ) (吸殻入れ)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	5		ごみ施設工 (くず入れ) (吸殻入れ)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	6	1	井戸工 (さく井)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	6	1	井戸工 (さく井)	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	施工箇所 各1枚

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要						
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度							
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	6	2	井戸工 (手押ポンプ)	基礎高 基礎幅 根入れ長	1	施工箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	6	2	井戸工 (手押ポンプ)	基礎高 基礎幅 根入れ長	1	施工箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	7	7	門扉工 (門壁) (門柱) (門扉)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	7	7	門扉工 (門壁) (門柱) (門扉)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	8	8	柵工 (フェンス) (柵) (手すり) (転落(横断)防止柵) (ガードレール) (ガードケーブル) (ガードパイプ)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕 40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜 代表箇所 各1枚	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	8	8	柵工 (フェンス) (柵) (手すり) (転落(横断)防止柵) (ガードレール) (ガードケーブル) (ガードパイプ)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工前、施工後〕 40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜 代表箇所 各1枚		
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	9	9	車止め工 (車止め) (車止めポスト) (車椅子ゲート)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	9	9	車止め工 (車止め) (車止めポスト) (車椅子ゲート)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	14	14	管理施設修繕工 (管理施設修繕)	施工状況	1	施工箇所 (修繕内容毎) に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	11管理施設整備工	14	14	管理施設修繕工 (管理施設修繕)	施工状況	1	施工箇所 (修繕内容毎) に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜
11公園編	3施設整備	12建築施設組立設置工	3	3	四阿工 (四阿基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	12建築施設組立設置工	3	3	四阿工 (四阿基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所 に1回 〔施工前、施工後〕	適宜		
11公園編	3施設整備	12建築施設組立設置工	15	15	建築施設修繕工 (建築施設修繕)	施工状況	1	施工箇所 (修繕内容毎) に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	3施設整備	12建築施設組立設置工	15	15	建築施設修繕工 (建築施設修繕)	施工状況	1	施工箇所 (修繕内容毎) に 1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜
11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	1 2	グラウンド・コート用 舗装工 (下層路盤工) (上層路盤工) (中層)	敷均し厚 転圧状況 整正状況 厚さ 幅	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎40m (50m) に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	1 2	グラウンド・コート用 舗装工 (下層路盤工) (上層路盤工) (中層)	敷均し厚 転圧状況 整正状況 厚さ 幅	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎40mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		
11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	3	グラウンド・コート用 舗装工 (基層)	整正状況 タックコート プライムコート 幅 抜取りコア厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎に1回 〔散布時〕 各層毎40m (50m) に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 全数量 〔抜取り後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	3	グラウンド・コート用 舗装工 (基層)	整正状況 タックコート プライムコート 幅 抜取りコア厚さ	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工後〕 各層毎に1回 〔散布時〕 各層毎40mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工後〕 全数量 〔抜取り後〕	代表箇所 各1枚		
11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	4 5 8	グラウンド・コート用 舗装工 (クレー舗装) (アンツーカー舗装) (天然芝舗装) (グラウンド・コート 砂舗装) (グラウンド・コート ダスト舗装)	路盤工 敷均し厚 転圧状況 整正状況 厚さ 幅 表層工	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎40m (50m) に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	11公園編	4グラウンド・コート整備	3グラウンド・コート舗装工	4	4 5 8	グラウンド・コート用 舗装工 (クレー舗装) (アンツーカー舗装) (天然芝舗装) (グラウンド・コート 砂舗装) (グラウンド・コート ダスト舗装)	路盤工 敷均し厚 転圧状況 整正状況 厚さ 幅 表層工	各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎40mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚		

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要				
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度					
11公園編	4	3	4	6	グラウンド・コート用舗装工 (人工芝舗装) (全天候型舗装(樹脂系)) (全天候型舗装(アスファルト系))	路盤工 敷均し厚転圧状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 修正状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 厚さ 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 幅 各層毎40m(50m)に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 表層工 修正(施工)状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 タックコートプライムコート 各層毎に1回 〔散布時〕 抜取りコア厚さ 全数量 〔抜取り後〕	代表箇所各1枚	11公園編	4	3	4	6	グラウンド・コート用舗装工 (人工芝舗装) (全天候型舗装(樹脂系)) (全天候型舗装(アスファルト系))	路盤工 敷均し厚転圧状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 修正状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 厚さ 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 幅 各層毎40mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 表層工 修正(施工)状況 各層毎200mに1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔修正後〕 タックコートプライムコート 各層毎に1回 〔散布時〕 抜取りコア厚さ 全数量 〔抜取り後〕	代表箇所各1枚		
11公園編	4	3	5	5	グラウンド・コート緑石工 (コンクリート緑石) (舗装止め) (見切材(仕切材)) (内圍緑石)		第3編2-3-5緑石工(緑石・アスカーブ)に準ずる。		11公園編	4	3	5	グラウンド・コート緑石工 (コンクリート緑石) (舗装止め) (見切材(仕切材)) (内圍緑石)		第3編2-3-5緑石工(緑石・アスカーブ)に準ずる。		
11公園編	4	4	3	3	スタンド擁壁工 (スタンド擁壁)	幅高さ 厚さ 法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚	11公園編	4	4	3	スタンド擁壁工 (スタンド擁壁)	幅高さ 厚さ 法長	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚	
11公園編	4	4	4	4	ベンチ工 (スタンドベンチ) (現場打ベンチ)	幅高さ 厚さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚	11公園編	4	4	4	ベンチ工 (スタンドベンチ) (現場打ベンチ)	幅高さ 厚さ	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所各1枚	
11公園編	4	4	5	5	スタンド施設修繕工 (スタンド施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11公園編	4	4	5	スタンド施設修繕工 (スタンド施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	
11公園編	4	5	3	3	ダッグアウト工 (ダッグアウト基礎) (スコアボード基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	4	5	3	ダッグアウト工 (ダッグアウト基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	
11公園編	4	5	5	5	バックネット工 (バックネット基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚	11公園編	4	5	5	バックネット工 (バックネット基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕 基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	代表箇所各1枚	
11公園編	4	5	6	1	競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入れ長	1回/1基 〔施工後〕 基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	4	5	6	1	競技施設工 (フェールポール) (ポスト) (ゴールポスト) (支柱台) (スポーツサークル) (跳躍箱) (踏切板)	設置高さ 基礎高 基礎幅 根入れ長	1回/1基 〔施工後〕 基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜
11公園編	4	5	6	2	競技施設工 (塁ベース基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11公園編	4	5	6	2	競技施設工 (塁ベース基礎)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
11公園編 4 5 11	グラウンド・コート柵工 (高尺ネットフェンス)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 4 5 11	グラウンド・コート柵工 (高尺ネットフェンス) (フェンス) (防球ネット)	基礎高 基礎幅 根入れ長	40m (50m) 又は1施工箇所に1回 〔型枠取外後〕	代表箇所 各1枚	
11公園編 4 5 12	グラウンド・コート施設修繕工 (グラウンド・コート施設修繕)	施工状況	1 施工箇所 (修繕内容毎) に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜		11公園編 4 5 12	グラウンド・コート施設修繕工 (グラウンド・コート施設修繕)	施工状況	1 施工箇所 (修繕内容毎) に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 3	自然育成盛土工 (蒔き出し)	巻き出し厚 巻き出し状況 幅 法長	40m (50m) に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔巻き出し時〕 転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔巻き出し時〕 40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 5 2 3	自然育成盛土工 (まき出し)	まき出し厚 まき出し状況 幅 法長	40m (50m) に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔まき出し時〕 転圧機械又は地質が変わる毎に1回 〔まき出し時〕 40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
11公園編 5 2 4 1	自然水路工 (遮水・止水シート)	幅 高さ 施工状況	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 5 2 4 1	自然水路工 (遮水・止水シート)	幅 高さ 施工状況	40m 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
11公園編 5 2 4 2	自然水路工 (ごろた石積) (崩れ積)		第3編2-5-5石積(張)工に準ずる。			11公園編 5 2 4 2	自然水路工 (ごろた石積) (崩れ積)	洞込裏込厚	第3編2-5-5石積(張)工に準ずる。 〔施工中〕		
11公園編 5 2 4 3	自然水路工 (砂・礫敷)	法長又は高さ 厚さ 幅	100m 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕 200m に1回 又は施工面積1,000㎡に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 5 2 4 3	自然水路工 (砂・礫敷)	法長又は高さ 厚さ 幅	100m 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕 200m に1回 又は施工面積1,600㎡毎に1回	代表箇所 各1枚	
11公園編 5 2 5	水田工 (遮水・止水シート)	高さ 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 5 2 5	水田工 (遮水・止水シート)	高さ 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 6	ガレ山工 (ガレ山)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜		11公園編 5 2 6	ガレ山工 (ガレ山)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 7	粗朶山工 (粗朶山)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜		11公園編 5 2 7	粗朶山工 (粗朶山)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 8	カントリーヘッジ工 (カントリーヘッジ)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜		11公園編 5 2 8	カントリーヘッジ工 (カントリーヘッジ)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 9	石積土堰堤工 (石積土堰堤)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜		11公園編 5 2 9	石積土堰堤工 (石積土堰堤)	高さ 幅 施工状況	1 施工箇所に1回 〔施工中、施工後〕	適宜	
11公園編 5 2 10	しがらみ柵工 (しがらみ柵)	高さ 幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		11公園編 5 2 10	しがらみ柵工 (しがらみ柵)	高さ 幅	40m (50m) 又は1 施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
11公園編 5 2 11 3	自然育成型護岸工 (階段ブロック積み) (魚巢ブロック積み)		第3編2-5-3コンクリートブロック工に準ずる。			11公園編 5 2 11 3	自然育成型護岸工 (階段ブロック積み) (魚巢ブロック積み)		第3編2-5-3-1コンクリートブロック工に準ずる。		

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 4 自然成型護岸工 (石積) (石張) (雜割石張)		第3編2-5-5石積(張)工に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 4 自然成型護岸工 (石積) (石張) (雜割石張)		第3編2-5-5石積(張)工に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 5 自然成型護岸工 (かごマット)		第3編2-3-26-2多自然型護岸工(かごマット)に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 5 自然成型護岸工 (かごマット)		第3編2-3-26-2多自然型護岸工(かごマット)に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 6 自然成型護岸工 (玉石階段)	法長又は高さ 幅 高さ 長さ 段数	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 6 自然成型護岸工 (玉石階段)	法長又は高さ 幅 高さ 長さ 段数	40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 7 自然成型護岸工 (種子散布) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝)	材料使用量 土羽土の厚さ 法長	1工事につき1回 (混合前) 40m(50m)又は1施工箇所に1回 又は施工面積1,000㎡毎に1回 〔施工中〕 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 7 自然成型護岸工 (種子散布) (公園張芝) (公園筋芝) (公園市松芝)		第3編2-14-2-1植生工に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 8 自然成型護岸工 (覆土(流用土)) (覆土(発生土)) (覆土(採取土)) (覆土(購入土))		第1編2-3-5法面整形工(盛土部)に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	11 8 自然成型護岸工 (覆土(流用土)) (覆土(発生土)) (覆土(採取土)) (覆土(購入土))		第1編2-3-5法面整形工(盛土部)に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	12 保護柵工 (保護柵)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜 代表箇所 各1枚	11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	12 保護柵工 (保護柵)	基礎高 基礎幅 根入れ長 高さ 延長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕 40m(50m)又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	適宜 代表箇所 各1枚		
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	13 解説板工 (解説板)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5箇所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜	11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	13 解説板工 (解説板)	基礎高 基礎幅 根入れ長	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 (施工前は必要に応じて) 〔施工前、施工後〕	適宜		
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	14 自然育成施設修繕工 (自然育成施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜	11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	14 自然育成施設修繕工 (自然育成施設修繕)	施工状況	1施工箇所(修繕内容毎)に1回 〔施工前、施工中、施工後〕	適宜		
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	16 1 自然成型護岸基礎工 (現場打基礎)		第3編2-4-3-1基礎工(護岸)(現場打)に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	16 1 自然成型護岸基礎工 (現場打基礎)		第3編2-4-3-1基礎工(護岸)(現場打)に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	16 2 自然成型護岸基礎工 (プレキャスト基礎)		第3編2-4-3-2基礎工(護岸)(プレキャスト)に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	16 2 自然成型護岸基礎工 (プレキャスト基礎)		第3編2-4-3-2基礎工(護岸)(プレキャスト)に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	17 沈床工 (木工沈床) (改良沈床) (粗朶沈床) (袋詰玉石) (吸出し防止材) (粗朶単床) (粗朶柵)		第3編2-3-18沈床工に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	17 沈床工 (木工沈床) (改良沈床) (粗朶沈床) (袋詰玉石) (吸出し防止材) (粗朶単床) (粗朶柵)		第3編2-3-18沈床工に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	18 捨石工 (捨石) (表面均し) (吸出し防止材)		第3編2-3-19捨石工に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	18 捨石工 (捨石) (表面均し) (吸出し防止材)		第3編2-3-19捨石工に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	22 杭出し水制工 (杭出し水制)		第6編1-10-8杭出し水制工に準ずる。		11 公園編 5 自然育成 2 自然育成施設工	22 杭出し水制工 (杭出し水制)		第6編1-10-8杭出し水制工に準ずる。			
11 公園編 5 自然育成 3 自然育成植栽工	4 水生植物植栽工 (水生植物植栽)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜	11 公園編 5 自然育成 3 自然育成植栽工	4 水生植物植栽工 (水生植物植栽)	施工状況	樹種別1回 〔施工後〕	適宜		

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要			
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度				
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	3 開 削 工	3 4 5 6	矢板工 管渠工 現場打カルバート工 プレキャストカルバート工	施工状況 据付 出来形	全測点に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	3 開 削 工	3 4 5 6	矢板工 管渠工 現場打カルバート工 プレキャストカルバート工	施工状況 据付 出来形	全測点に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	4 排 水 工	2	ウェルポイント排水及 びディープウェル排水	施工状況	全数 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	4 排 水 工	2	ウェルポイント排水及 びディープウェル排水	施工状況	全数 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 抗 ・ 人 孔 築 造 工	2 3	立抗工 人孔築造工	施工状況 出来形	1 施工箇所に1回 〔施工中、後〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	5 立 抗 ・ 人 孔 築 造 工	2 3	立抗工 人孔築造工	施工状況 出来形	1 施工箇所に1回 〔施工中、後〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	6 推 進 工	2	推進工 掘削及び推進	掘削の地山状態	地質の変化毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	6 推 進 工	2	推進工 掘削及び推進	掘削の地山状態	地質の変化毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	2	シールド工 掘削及び推進	掘削の地山状態	地質の変化毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	2	シールド工 掘削及び推進	掘削の地山状態	地質の変化毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	3	一次覆工 セグメント組立	施工状況 出来形	80mに1回 〔組立後〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	3	一次覆工 セグメント組立	施工状況 出来形	80mに1回 〔組立後〕	代表箇所 各1枚	
12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	5	二次覆工 (セグメント 清掃状況) 二次覆工	施工状況 二次覆工の厚さ	1 セントルに1回 〔清掃後〕 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚	12 下 水 道 編	1 下 水 道 工 事	7 シ ー ル ド 工	5	二次覆工 (セグメント 清掃状況) 二次覆工	施工状況 二次覆工の厚さ	1 セントルに1回 〔清掃後〕 〔型枠取外し後〕	代表箇所 各1枚	

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
13 港湾編	1 浚渫及び床掘	1 浚渫工 (土砂) (岩盤)	深さ、幅	80m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	1 浚渫及び床掘	1 浚渫工 (土砂) (岩盤)	深さ、幅	80m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	1 浚渫及び床掘	2 床掘工	深さ、幅	80m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	1 浚渫及び床掘	2 床掘工	深さ、幅	80m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	1 置換工	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	1 置換工	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	2 敷砂土	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	2 敷砂土	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	3 サンドドレーン工	高さ、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	3 サンドドレーン工	高さ、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	4 ベーバードレーン工	高さ、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	4 ベーバードレーン工	高さ、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	5 載荷工	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	5 載荷工	高さ、幅、全景	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	6 サンドコンパクション パイル工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	6 サンドコンパクション パイル工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	7 ロッドコンパクション (振動棒工法) 工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	7 ロッドコンパクション (振動棒工法) 工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	2 地盤改良	8 深層混合処理工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	2 地盤改良	8 深層混合処理工	高さ	全数 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	3 マット工	1 アスファルトマット 2 繊維系マット 3 合成樹脂系マット 4 ゴムマット 5 摩擦増大用マット	敷設位置、重ね 幅、延長及びジョ イント	40m又は1施工箇所 〔敷設完了時〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	3 マット工	1 アスファルトマット 2 繊維系マット 3 合成樹脂系マット 4 ゴムマット 5 摩擦増大用マット	敷設位置、重ね 幅、延長及びジョ イント	40m又は1施工箇所 〔敷設完了時〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	4 捨石及び均し	1 基礎工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		13 港湾編	4 捨石及び均し	1 基礎工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要						
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度							
13 港湾編	4 捨石及び均し	2 被覆及び根固め工	3	被覆及び根固め工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	4 捨石及び均し	2 被覆及び根固め工	3	被覆及び根固め工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
13 港湾編	4 捨石及び均し	3 裏込め工	3	裏込め工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	4 捨石及び均し	3 裏込め工	3	裏込め工	幅、高さ、長さ	40m又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
13 港湾編	5 杭及び矢板	1 鋼杭工	4	鋼杭工	偏心量	1施工箇所1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	5 杭及び矢板	1 鋼杭工	4	鋼杭工	偏心量	1施工箇所1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		
				根入長	1施工箇所1回 〔打込前〕								根入長	1施工箇所1回 〔打込前〕			
				数量	全数量 〔打込後〕								数量	全数量 〔打込後〕			
				杭頭処理状況	1施工箇所1回 〔処理前、中、後〕								杭頭処理状況	1施工箇所1回 〔処理前、中、後〕			
13 港湾編	5 杭及び矢板	2 コンクリート杭工	2	コンクリート杭工	偏心量	1施工箇所1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	5 杭及び矢板	2 コンクリート杭工	2	コンクリート杭工	偏心量	1施工箇所1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		
				根入長	1施工箇所1回 〔打込前〕								根入長	1施工箇所1回 〔打込前〕			
				数量	全数量 〔打込後〕								数量	全数量 〔打込後〕			
				杭頭処理状況	1施工箇所1回 〔処理前、中、後〕								杭頭処理状況	1施工箇所1回 〔処理前、中、後〕			
13 港湾編	5 杭及び矢板	3 鋼矢板工及び鋼管矢板工	5	鋼矢板工 鋼管矢板工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	5 杭及び矢板	3 鋼矢板工及び鋼管矢板工	5	鋼矢板工 鋼管矢板工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚		
				変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕								変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕			
				数量	全数量 〔打込後〕								数量	全数量 〔打込後〕			
13 港湾編	5 杭及び矢板	4 コンクリート矢板工	4	コンクリート矢板工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	5 杭及び矢板	4 コンクリート矢板工	4	コンクリート矢板工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚		
				変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕								変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕			
				数量	全数量 〔打込後〕								数量	全数量 〔打込後〕			
13 港湾編	6 控工	1 控工	3	控工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	6 控工	1 控工	3	控工	根入長	40m又は1施工箇所1回 〔打込前、後〕	代表箇所 各1枚		
				変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕								変位	40m又は1施工箇所1回 〔打込後〕			
				数量	全数量 〔打込後〕								数量	全数量 〔打込後〕			
13 港湾編	8 ケーソン	1 ケーソン製作工	3	ケーソン製作工	壁厚 幅 高さ 長さ 底版厚さ フーチング高さ	1基毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	8 ケーソン	1 ケーソン製作工	3	ケーソン製作工	壁厚 幅 高さ 長さ 底版厚さ フーチング高さ	1基毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚		
13 港湾編	8 ケーソン	2 ケーソン進水工		ケーソン進水工	浮上	進水 1基毎に1回 〔吊上げ完了時〕		代表箇所 各1枚	13 港湾編	8 ケーソン	2 ケーソン進水工		ケーソン進水工	浮上		進水 1基毎に1回 〔吊上げ完了時〕	代表箇所 各1枚
13 港湾編	8 ケーソン	3 ケーソン仮置工		ケーソン仮置工	仮置状況	1基毎に1回 〔完了時〕			代表箇所 各1枚	13 港湾編	8 ケーソン	3 ケーソン仮置工		ケーソン仮置工		仮置状況	
13 港湾編	8 ケーソン	4 ケーソン曳航		ケーソン曳航	曳航完了状況	1基毎に1回 〔完了時〕	代表箇所 各1枚			13 港湾編	8 ケーソン	4 ケーソン曳航		ケーソン曳航	曳航完了状況	1基毎に1回 〔完了時〕	
13 港湾編	8 ケーソン	5 ケーソン回航		ケーソン回航	回航完了状況	1基毎に1回 〔完了時〕		代表箇所 各1枚		13 港湾編	8 ケーソン	5 ケーソン回航		ケーソン回航	回航完了状況	1基毎に1回 〔完了時〕	代表箇所 各1枚
13 港湾編	8 ケーソン	6 ケーソン据付工	2	ケーソン据付工	据付状況	1施工箇所1回 〔据付後〕			代表箇所 各1枚	13 港湾編	8 ケーソン	6 ケーソン据付工	2	ケーソン据付工	据付状況	1施工箇所1回 〔据付後〕	

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 3	製作 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	数量 全数量 〔製作後〕 ブロックの形状寸法 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 3	製作 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	数量 全数量 〔製作後〕 ブロックの形状寸法 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 4	運搬及び仮置	運搬仮置状況 全数量 〔仮置後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 4	運搬及び仮置	運搬仮置状況 全数量 〔仮置後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 5	据付 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	天端幅 据付状況 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	1 5	据付 (方塊) (L型ブロック) (セルラーブロック) (直立消波ブロック)	天端幅 据付状況 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 3	製作	数量 全数量 〔製作後〕 ブロックの形状寸法 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 3	製作	数量 全数量 〔製作後〕 ブロックの形状寸法 形状寸法変わる毎に1回 〔製作後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 4	運搬及び仮置き	運搬仮置状況 全数量 〔仮置後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 4	運搬及び仮置き	運搬仮置状況 全数量 〔仮置後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 5	据付	天端幅 据付状況 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	9 コンクリートブロック工	2 5	据付	天端幅 据付状況 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	10 中詰工	1 3	中詰工	高さ 1基毎1回 〔均し完了後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	10 中詰工	1 3	中詰工	高さ 1基毎1回 〔均し完了後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	10 中詰工	2 3	プレキャストコンクリート 場所打コンクリート	高さ 1基毎1回 〔均し完了後〕		13 港湾編	10 中詰工	2 3	プレキャストコンクリート 場所打コンクリート	高さ 1基毎1回 〔均し完了後〕		
13 港湾編	11 上部工	1 3	上部コンクリート工	幅、高さ、厚さ 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	11 上部工	1 3	上部コンクリート工	幅、高さ、厚さ 40m又は1施工箇所 に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	
13 港湾編	12 舗装工	1 1	路床工	施工厚さ、幅 40mに1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	12 舗装工	1 1	路床工	施工厚さ、幅 40mに1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	臨港道路 等適用
13 港湾編	12 舗装工	2 1	下層路盤 上層路盤 〔粒度調整路盤〕 セメント安定処理路盤 工	敷均し厚さ 状況 200m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕 整正状況 200m又は1施工箇所 に1回 〔整正後〕 厚さ 1000㎡に1回 〔整正後〕 幅 各層毎40mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	13 港湾編	12 舗装工	2 1	下層路盤 上層路盤 〔粒度調整路盤〕 セメント安定処理路盤 工	敷均し厚さ 状況 200m又は1施工箇所 に1回 〔施工中〕 整正状況 200m又は1施工箇所 に1回 〔整正後〕 厚さ 1000㎡に1回 〔整正後〕 幅 各層毎40mに1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	係留施 設、荷捌 施設に適 用

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度	
13 港 湾 編 12 舗 装 工 3 コ ン ク リ ー ト 舗 装 工	コンクリート舗設工	路盤紙重ね寸法	40mに1回 〔設後〕	代表箇所 各1枚	係留施 設、荷捌 施設に適 用	13 港 湾 編 12 舗 装 工 3 コ ン ク リ ー ト 舗 装 工	コンクリート舗設工	路盤紙重ね寸法	40mに1回 〔設後〕	代表箇所 各1枚	係留施 設、荷捌 施設に適 用
		石粉、プライム コート	各層毎に1回 〔散布時〕					石粉、プライム コート	各層毎に1回 〔散布時〕		
		ストリップバー、 タイバー寸法、 位置 鉄網寸法位置	40mに1回 〔据付後〕					ストリップバー、 タイバー寸法、 位置 鉄網寸法位置	40mに1回 〔据付後〕		
		厚さ	40mに1回 〔型枠据付後〕					厚さ	40mに1回 〔型枠据付後〕		
13 港 湾 編 12 舗 装 工 4 ア ス フ ァ ル ト 舗 装 工	アスファルト舗装工 基層工 表層工	整正状況	200m又は1施工箇所に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	係留施 設、荷捌 施設に適 用	13 港 湾 編 12 舗 装 工 4 ア ス フ ァ ル ト 舗 装 工	アスファルト舗装工 基層工 表層工	整正状況	200m又は1施工箇所に1回 〔整正後〕	代表箇所 各1枚	係留施 設、荷捌 施設に適 用
		タックコート、 プライムコート	各層に1回 〔散布時〕					タックコート、 プライムコート	各層に1回 〔散布時〕		
		抜取りコア厚さ	全数量 〔抜取後〕					抜取りコア厚さ	全数量 〔抜取後〕		
		平坦性 〔表層工〕	1工事1回 〔実施中〕					平坦性 〔表層工〕	1工事1回 〔実施中〕		
13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	2	緑石工 (緑石、アスカーブ)	施工状況	1種別毎に1回 〔施工中〕	不要	13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	2	緑石工 (緑石、アスカーブ)	施工状況	1種別毎に1回 〔施工中〕	不要
13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	3	区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	不要	13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	3	区画線工	材料使用量	全数量 〔施工前後〕	不要
			施工状況	施工中に1回 〔施工前後〕					施工状況	施工中に1回 〔施工前後〕	
13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	4	道路標識工	基礎幅 基礎高さ	基礎タイプ毎5箇所に1回 〔施工後〕	不要	13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	4	道路標識工	基礎幅 基礎高さ	基礎タイプ毎5ヶ所に1回 〔施工後〕	不要
13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	5	防護柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止 柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある 場合) 〔施工後〕	不要	13 港 湾 編 12 舗 装 工 5 道 路 付 属 工	5	防護柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止 柵) (車止めポスト)	※基礎幅 ※基礎高さ	1施工箇所に1回 (※印は現場打ち部分がある 場合) 〔施工後〕	不要
			パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕					パイプ取付高	1施工箇所に1回 〔施工後〕	
13 港 湾 編 13 付 属 工 1 係 船 柱 工	5	係船柱工	基礎幅、高さ、長 さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 1 係 船 柱 工	5	係船柱工	基礎幅、高さ、長 さ	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 13 付 属 工 2 防 舷 材 工	4	防舷材工	取付状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 2 防 舷 材 工	4	防舷材工	取付状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 13 付 属 工 3 車 止 め 工	4	車止め工	取付状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 3 車 止 め 工	4	車止め工	取付状況	1施工箇所に1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	2	電気防食	電位測定状況	1施工箇所に1回 〔測定時〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	2	電気防食	電位測定状況	1施工箇所に1回 〔測定時〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	3	防食塗装	陽極取付状況	1施工箇所に1回 〔取付完了時〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	3	防食塗装	陽極取付状況	1施工箇所に1回 〔取付完了時〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	4	被覆防食	電位測定状況	1施工箇所に1回 〔測定時〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 13 付 属 工 4 防 食 工	4	被覆防食	電位測定状況	1施工箇所に1回 〔測定時〕	代表箇所 各1枚
13 港 湾 編 15 土 工 1 土 工	3	排水処理	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前後〕	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編 15 土 工 1 土 工	3	排水処理	施工状況	1施工箇所に1回 〔施工前後〕	代表箇所 各1枚

編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	写真管理項目			摘 要				
		撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件				撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度					
13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	5	伐開工	出来形確認状況 1施工箇所1回 (仕上時)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	5	伐開工	出来形確認状況 1施工箇所1回 (仕上時)	代表箇所 各1枚		
13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	6	盛土工	巻出し厚	40mに1回 (巻出し時)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	6	盛土工	巻出し厚	40mに1回 (巻出し時)	代表箇所 各1枚
					締固め状況	転圧機械が変わる毎に1回 (締固め時)							締固め状況	転圧機械が変わる毎に1回 (締固め時)	
					法長幅	40m又は1施工箇所1回 (施工後)							法長幅	40m又は1施工箇所1回 (施工後)	
13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	7	掘削工 (浚渫は除く)	法長幅 40mに1回 (施工後)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	7	掘削工 (浚渫は除く)	法長幅 40mに1回 (施工後)	代表箇所 各1枚		
13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	8	法面工	仕上状況 40mに1回 (仕上げ時)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	15 土 工	1 土 工	8	法面工	仕上状況 40mに1回 (仕上げ時)	代表箇所 各1枚		
13 港 湾 編	16 埋 立 及 び 裏 埋 工	1 埋 立 及 び 裏 埋 工	3	埋立及び裏埋工	出来形確認状況 40m又は1施工箇所1回 (施工後)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	16 埋 立 及 び 裏 埋 工	1 埋 立 及 び 裏 埋 工	3	埋立及び裏埋工	出来形確認状況 40m又は1施工箇所1回 (施工後)	代表箇所 各1枚		
13 港 湾 編	17 汚 濁 防 止 膜 工	1 汚 濁 防 止 膜 工	3	汚濁防止膜工	設置状況 1施工箇所1回 (設置完了後)	代表箇所 各1枚	13 港 湾 編	17 汚 濁 防 止 膜 工	1 汚 濁 防 止 膜 工	3	汚濁防止膜工	設置状況 1施工箇所1回 (設置完了後)	代表箇所 各1枚		

編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章 節 条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要					
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度						
15 水道 編	1 水道 工 事	6 管 路 土 工 (開 削)	1	管路土工 (掘削 ・ 厚さ 掘削) (掘削後)	40m毎又は1施工箇所 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事	6 管 路 土 工 (開 削)	1	管路土工 (掘削 ・ 厚さ 掘削) (掘削後)	40m毎又は1施工箇所 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚					
				管路土工 (給水管)	10箇所毎又は1工 事に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚					管路土工 (掘削 ・ 厚さ 掘削) (掘削後)	10箇所毎又は1工 事に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚					
15 水道 編	1 水道 工 事	10 鑄 鉄 管 布 設 工	2	管布設 (鑄鉄管)	布設位置・土被り	40m毎又は変化点毎 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事	10 鑄 鉄 管 布 設 工	2	管布設 (鑄鉄管)	布設位置・土被り	40m毎又は変化点毎 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚			
15 水道 編	1 水道 工 事	11 ポ リ エ チ レ ン 管 布 設 工	2	管布設 (ポリエチレン 管)	布設位置・土被り	40m毎又は変化点毎 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事	11 ポ リ エ チ レ ン 管 布 設 工	2	管布設 (ポリエチレン 管)	布設位置・土被り	40m毎又は変化点毎 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚			
15 水道 編	1 水道 工 事			試験掘工	試験掘掘削作業状 況	10箇所毎又は1工 事に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			試験掘工	試験掘掘削作業状 況	10箇所毎又は1工 事に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚			
				地下埋設物の種 類・布設位置・土 被り等	埋設物毎に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	地下埋設物の種 類・布設位置・土 被り等					埋設物毎に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚					
15 水道 編	1 水道 工 事			水替工	水替設備設置状況	1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			水替工	水替設備設置状況	1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	水替ポン プ		
				排水設備設置状況	1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	排水設備設置状況					1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	ノッチタ ンク				
15 水道 編	1 水道 工 事			仮配管工	仮配管状況	1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			仮配管工	仮配管状況	1施工箇所 に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	既設管の 仮設取出 部は全箇 所		
				仮配管の種類・布 設位置・土被り等	1施工箇所又は変化点 毎に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	仮配管の種類・布 設位置・土被り等					1施工箇所 に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚					
15 水道 編	1 水道 工 事			不断水式連絡工	掘削作業状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			不断水式連絡工	掘削作業状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚			
				既設管の口径・布 設位置・土被り等	全箇所 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	既設管の口径・布 設位置・土被り等					全箇所 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚					
				割T字管・不断水 式制水弁取付作業 状況	全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	割T字管・不断水 式制水弁取付作業 状況					全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚					
				穿孔作業状況	全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	穿孔作業状況					全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚					
				切断片及び切屑等 除去状況	全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	切断片及び切屑等 除去状況					全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚					
				水圧試験状況	全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	水圧試験状況					全箇所 〔施工中〕	代表箇所 各1枚					
				割T字管・不断水 式制水弁取付完了 状況	全箇所 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	割T字管・不断水 式制水弁取付完了 状況					全箇所 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚					
15 水道 編	1 水道 工 事			管撤去工 (閉塞工)	埋設状況 (埋設深さ)	100m毎又は変化点 毎に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			管撤去工	埋設状況 (埋設深さ)	100m毎又は変化点 毎に1回 〔掘削後〕	代表箇所 各1枚			
				切断状況	100m毎又は1施工 箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	切断状況					100m毎又は1施工 箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚					
														搬出状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕		代表箇所 各1枚	積み込み 等 全数量が 確認出来 ること
														処分状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕		代表箇所 各1枚	
15 水道 編	1 水道 工 事			管閉塞工 (閉塞工)	管閉塞状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	15 水道 編	1 水道 工 事			管閉塞工	管閉塞状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	流入口・ 流出口・ 帽部・栓 部設置箇 所は全箇 所		
				搬出状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	搬出状況					1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	積み込み 等 全数量が 確認出来 ること				
				処分状況	1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚	処分状況					1施工箇所 に1回 〔掘削中〕	代表箇所 各1枚					

編 章	節	条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	編 章	節	条	枝 番	工 種	写真管理項目			摘 要	
					撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件							撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度		
15 水道 編	1 水道 工事			鋳鉄管布設工	掘削状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		15 水道 編	1 水道 工事			鋳鉄管布設工	掘削状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					管吊り込み状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚							管吊り込み状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					管切断・管端面防食処理・挿しロリング取付状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚							管切断・管端面防食処理・挿しロリング取付状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					切管寸法	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							切管寸法	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		黒板へ切管寸法・挿しロリング数量等を記入
					受口・挿口清掃状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚							受口・挿口清掃状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					管接合状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚							管接合状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		チェックシート記入状況
					管継手接合状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							管継手接合状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		黒板へ配管図等により使用材料、数量等を記入
					管明示テープ表示状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							管明示テープ表示状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
					ポリエチレンスリーブ被覆状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中・施工後〕	代表箇所 各1枚							ポリエチレンスリーブ被覆状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工中・施工後〕	代表箇所 各1枚		
					ロケータングワイヤ設置状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							ロケータングワイヤ設置状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
管防護工(砂基礎)	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	管防護工(砂基礎)	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	幅・厚さ・被り等												
管明示シート表示状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚	管明示シート表示状況	40m毎又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所 各1枚													
通水・洗管実施状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚	通水・洗管実施状況	適宜 〔施工中〕	代表箇所 各1枚													
15 水道 編	1 水道 工事			弁類設置工	弁類設置、取付状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		15 水道 編	1 水道 工事			弁類設置工	弁類設置、取付状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		
					弁ボックス据付状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							弁ボックス据付状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		黒板へ弁ボックス使用部材、数量等を記入
15 水道 編	1 水道 工事			給水切替工	掘削状況	10箇所毎又は1工事に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		15 水道 編	1 水道 工事			給水切替工	掘削状況	10箇所毎又は1工事に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					給水切替実施状況	10箇所毎又は1工事に1回 〔施工中・施工後〕	代表箇所 各1枚							給水切替実施状況	10箇所毎又は1工事に1回 〔施工中〕	代表箇所 各1枚		
					給水管布設状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚							給水管布設状況	全箇所 〔施工後〕	代表箇所 各1枚		黒板へ切替延長及び使用部材、数量等を記入

編章節条	枝番	工種	写真管理項目			概要	編章節条	枝番	工種	写真管理項目			概要				
			撮影項目	撮影頻度[時期]	整理条件					撮影項目	撮影頻度[時期]	提出頻度					
その他	舗装工関係	橋面防水工	塗布又は設置状況	1 施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚	その他		舗装工関係	橋面防水工	塗布又は設置状況	1 施工箇所1回 〔施工中〕	代表箇所各1枚					
		トンネル関係	トンネル坑門工	厚さ、幅、高さ	1 施工箇所1回 〔埋戻し前〕				代表箇所各1枚	トンネル関係	トンネル坑門工	厚さ、幅、高さ		1 施工箇所1回 〔埋戻し前〕	代表箇所各1枚		
	シールド		掘削の地山状態	地質の変化の毎に1回 〔掘削中〕	代表箇所各1枚			トンネル関係	シールド		掘削の地山状態	地質の変化の毎に1回 〔掘削中〕		代表箇所各1枚			
			セグメント組立状況	1 工事に1回 〔組立後〕							トンネル関係	セグメント組立状況			1 工事に1回 〔組立後〕		
			二次覆工(セグメント清掃状況)	1 工事に1回 〔清掃後〕											トンネル関係	二次覆工(セグメント清掃状況)	1 工事に1回 〔清掃後〕
	二次覆工の厚さ	1 スパンに1回 〔型枠取外し後〕	トンネル関係	二次覆工の厚さ	1 スパンに1回 〔型枠取外し後〕												
	維持修繕工関係	アスファルト舗装			打換パッチング			施工日に1回 〔施工前後〕	不要	維持修繕工関係	アスファルト舗装	打換パッチング		施工日に1回 〔施工前後〕	不要		
		コンクリート舗装	目地掃除	1,500㎡に1回 〔施工前後〕	不要			維持修繕工関係	コンクリート舗装		目地掃除	1,500㎡に1回 〔施工前後〕		不要			
			目地充填	1,500㎡に1回 〔施工後〕													
			注入工、削孔状況(位置、間隔)	1,000㎡に1回 〔削孔後〕													
			注入工、注入圧	1,000㎡に1回 〔注入時〕													
			目地亀裂防止材、張付け状況	1,500㎡に1回 〔張付け後〕													
		局部打換、各層厚さ	各層毎50mに1回又は1施工箇所1回 〔施工前後〕														
		路肩、路側路盤工	厚さ	40mに1回又は1施工箇所1回 〔施工後〕	代表箇所各1枚			維持修繕工関係	路肩、路側路盤工		厚さ	40mに1回又は1施工箇所1回 〔施工後〕		代表箇所各1枚			
		道路除草	施工状況	0.5kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕	適宜				維持修繕工関係		道路除草	施工状況		0.5kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕	適宜		
		路肩整正	施工状況	0.5kmに1回	適宜						維持修繕工関係	路肩整正		施工状況	0.5kmに1回	適宜	
	新設、更新、修理防護柵類	施工状況	1 施工箇所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜	維持修繕工関係					新設、更新、修理防護柵類		施工状況		1 施工箇所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜		
	新設、更新、修理標識類	基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5箇所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜						維持修繕工関係		新設、更新、修理標識類		基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5ヶ所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜	
	新設、更新、修理照明灯	基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5箇所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜								維持修繕工関係		新設、更新、修理照明灯	基礎幅、深さ、施工状況	基礎タイプ毎5ヶ所1回(施工前は必要に応じて) 〔施工前後〕	適宜
	視線誘導標	施工状況	施工日に1回 〔施工後〕	適宜										維持修繕工関係	視線誘導標	施工状況	施工日に1回 〔施工後〕
清掃(路面、標識、側溝、集水樹)	施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕	適宜	維持修繕工関係		清掃(路面、標識、側溝、集水樹)	施工状況						施工日に1回 〔施工前後〕		適宜		
維持修繕工関係	区画線路面表示	施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕			適宜	維持修繕工関係						区画線路面表示		施工状況	施工日に1回 〔施工前後〕	適宜
		材料使用量	全数量 〔施工前後〕			適宜									維持修繕工関係	区画線路面表示	材料使用量
	街路樹植樹	施工状況	適宜 〔施工前後〕			適宜		維持修繕工関係					街路樹植樹				施工状況
	街路樹補強補植	施工状況	適宜 〔施工前後〕			適宜			維持修繕工関係						街路樹補強補植	施工状況	適宜 〔施工前後〕
	街路樹剪力	施工状況	街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工前後〕			適宜		維持修繕工関係			街路樹剪力		施工状況			街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工前後〕	適宜
	街路樹消毒、施肥	施工状況	街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工中〕		適宜	維持修繕工関係			街路樹消毒、施肥				施工状況		街路樹50本に1回、グリーンベルト100mに1回 〔施工中〕	適宜	
	街路樹雪囲	施工状況	適宜 〔施工後〕		適宜			維持修繕工関係		街路樹雪囲	施工状況		適宜 〔施工後〕		適宜		
	排雪除雪	施工状況、機種	施工中に1回 〔施工中〕		適宜	維持修繕工関係			排雪除雪		施工状況、機種	施工中に1回 〔施工中〕	適宜				
	凍結防止剤散布	施工状況	施工中に1回 〔施工中〕		適宜			維持修繕工関係		凍結防止剤散布	施工状況	施工中に1回 〔施工中〕	適宜				
		材料使用量	全数量 〔施工前後〕	適宜	維持修繕工関係	凍結防止剤散布			材料使用量		全数量 〔施工前後〕	適宜					
河川除草	施工状況、刈草処理状況	0.5kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕	適宜	維持修繕工関係			河川除草	施工状況、刈草処理状況	0.5kmに1回(1回刈毎) 〔施工前後〕	適宜							
鉄筋・無筋コンクリート関係	配筋	位置、間隔、継手寸法	打設ロット毎に1回又は1施工箇所1回 〔組立後〕		適宜	鉄筋・無筋コンクリート関係	配筋	位置、間隔、継手寸法	打設ロット毎に1回又は1施工箇所1回 〔組立後〕	適宜							
	コンクリート打設	打継目処理、締固施工状況	工種種別毎に1回 〔施工時〕	1 施工ブロック各1枚	鉄筋・無筋コンクリート関係		コンクリート打設	打継目処理、締固施工状況	工種種別毎に1回 〔施工時〕	1 施工ブロック各1枚							
	養生	養生状況	工種種別毎に1回、養生方法毎に1回 〔養生時〕				鉄筋・無筋コンクリート関係	養生	養生状況		工種種別毎に1回、養生方法毎に1回 〔養生時〕						

別紙「フィルムカメラを使用した場合の写真管理基準」

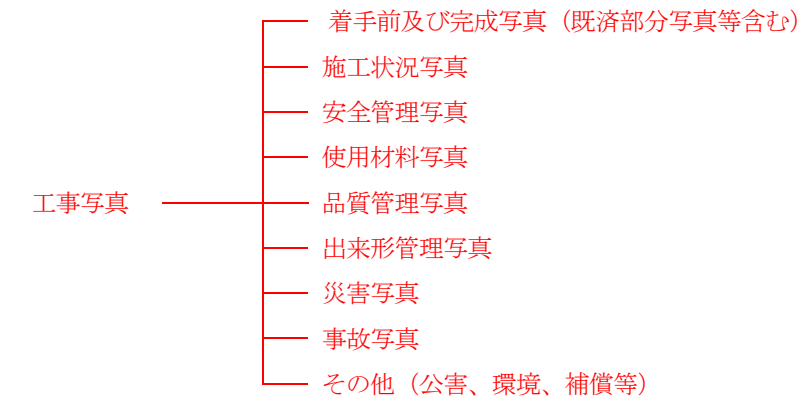
1. 総 則

1-1 適用範囲

この写真管理基準は、静岡県土木工事施工管理基準に定める土木工事の工事写真による管理（フィルムカメラを使用した撮影～提出）に適用する。

1-2 工事写真の分類

工事写真は以下のように分類する。



2. 撮影

2-1 撮影頻度

工事写真は、写真管理基準の撮影箇所一覧表に示す「撮影頻度」に基づき撮影するものとする。

2-2 撮影方法

写真撮影にあたっては、以下の項目のうち必要事項を記載した小黒板を文字が判読できるよう被写体とともに写しこむものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点（位置）
- ④ 設計寸法
- ⑤ 実測寸法
- ⑥ 略図

小黒板の判読が困難となる場合は、別紙に必要事項を記入し、写真に添付して整理する。また、特殊な場合で監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

2-3 情報化施工

「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）による出来形管理を行った場合には、出来形管理写真の撮影頻度及び撮影方法は同要領の規定による。

2-4 写真の省略

工事写真は以下の場合に省略するものとする。

- (1) 品質管理写真について、公的機関で実施された品質証明書を保管整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
- (2) 出来形管理写真について、完成後測定可能な部分については、出来形管理状況のわかる写真を工種ごとに1回撮影し、後は撮影を省略するものとする。
- (3) 監督員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所は、出来形管理写真の撮影を省略するものとする。

2-5 撮影の仕様

写真の色彩や大きさは以下のとおりとする。

- (1) 写真はカラーとする。
- (2) 写真の大きさは、サービスサイズ程度とする。
ただし、監督員が指示するものは、その指示した大きさとする。

2-6 留意事項

写真管理基準の撮影箇所一覧表の適用について、以下の事項を留意するものとする。

- (1) 「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督員の指示により追加、削減するものとする。
- (2) 施工状況等の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。
- (3) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。
- (4) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図（撮影位置図、平面図、凡例図、構造図など）を工事写真帳に添付する。
- (5) 写真管理基準の撮影箇所一覧表に記載のない工種については監督員と写真管理項目を協議のうえ取扱いを定めるものとする。

3. 整理提出

工事写真として、撮影写真の原本及び工事写真帳を各1部提出するものとし、その整理方法等は以下によるものとする。

- (1) 撮影写真の原本
撮影写真の原本とは、写真管理基準の撮影箇所一覧表「撮影頻度」に基づいて撮影した写真のネガをいい、密着写真とともに撮影内容がわかるようにネガアルバムに整理し提出するものとする。
- (2) 工事写真帳
工事写真帳は、写真管理基準の撮影箇所一覧表「撮影頻度」に基づいて撮影した写真のうち、「整理条件」に示す写真をアルバム等に整理したものをいい、工事写真帳の大きさは、4切版又はA4版とする。

4. その他

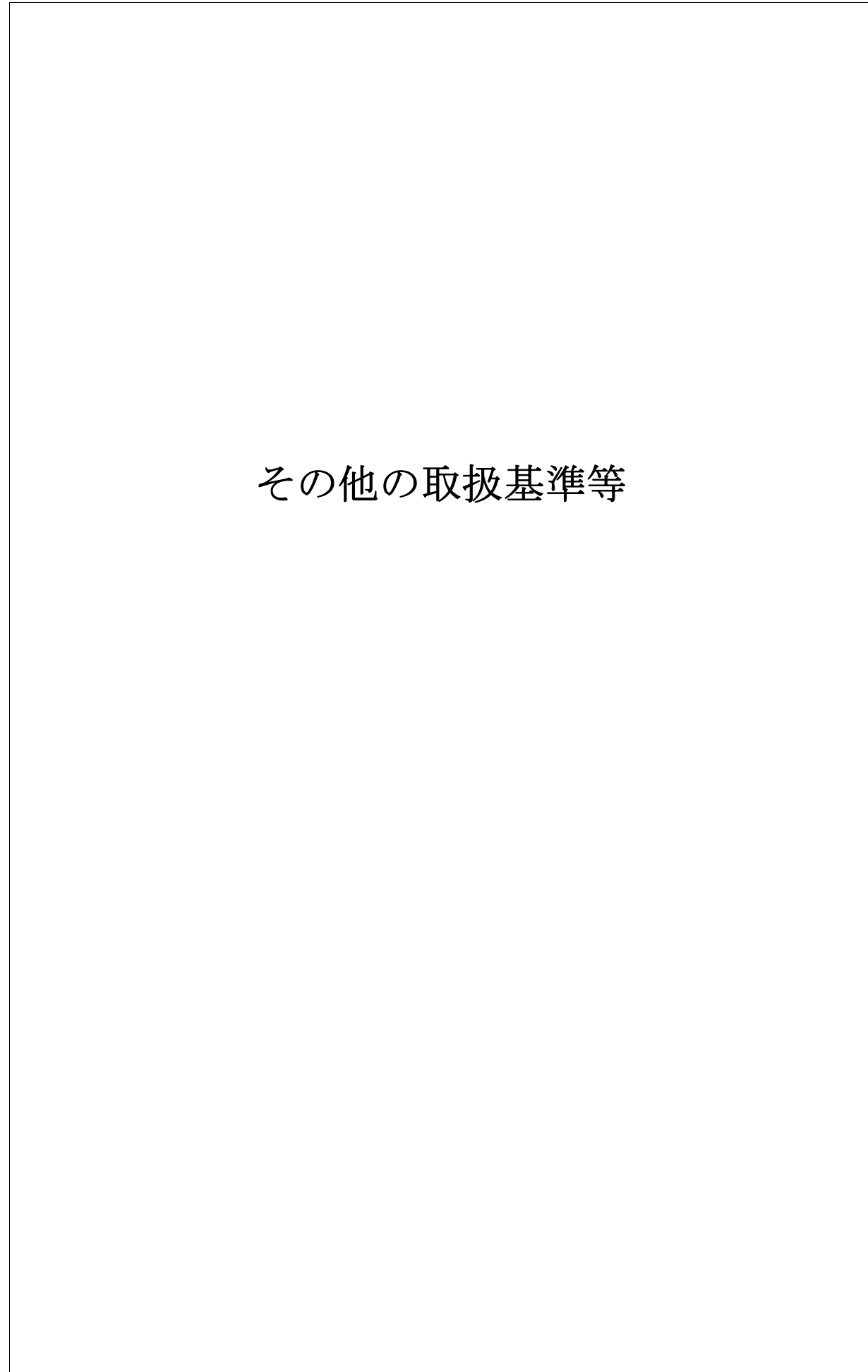
写真管理基準撮影箇所一覧表の用語の定義

- (1) 代表箇所とは、当該工種の代表箇所でその仕様が確認できる箇所をいう。
- (2) 適宜とは、設計図書の仕様が写真により確認できる必要最小限の箇所や枚数のことをいう。
- (3) 「提出頻度」の不要とは工事写真帳として貼付整理し提出する必要がないことをいう。

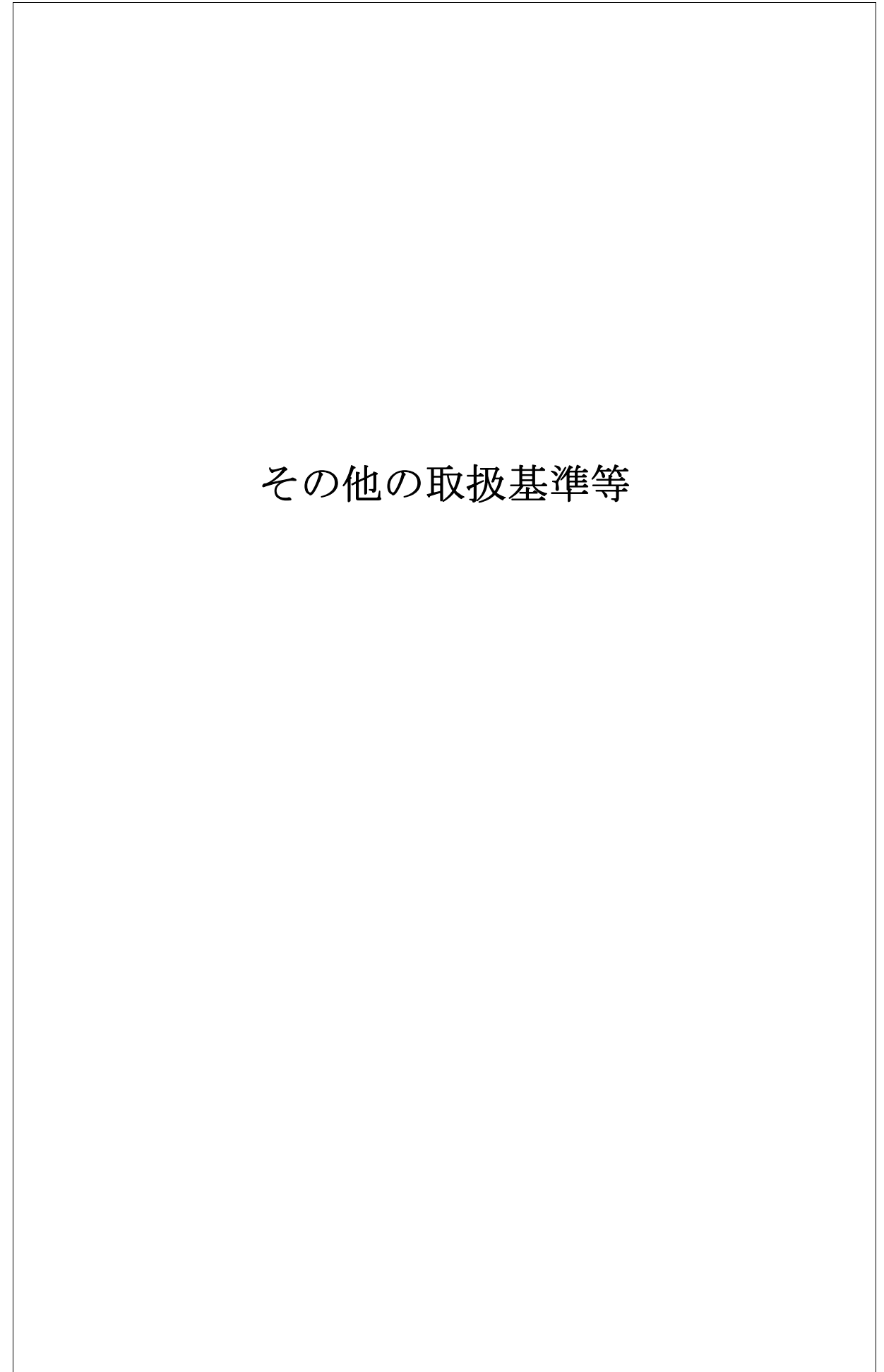
参考資料			参考資料		
橋台および擁壁等の写真撮影（例）			橋台および擁壁等の写真撮影（例）		
	写真撮影箇所	撮影上の注意		写真撮影箇所	撮影上の注意
1	栗石のX方向の幅	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）	1	栗石のX方向の幅	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）
2	栗石のY方向の幅	〃（ 〃 ）	2	栗石のY方向の幅	〃（ 〃 ）
3	栗石の厚さ		3	栗石の厚さ	
4	ならしコンクリートのX方向の幅	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）	4	ならしコンクリートのX方向の幅	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）
5	ならしコンクリートのY方向の幅	〃（ 〃 ）	5	ならしコンクリートのY方向の幅	〃（ 〃 ）
6	ならしコンクリートの厚さ		6	ならしコンクリートの厚さ	
7	1-1断面前趾X方向の鉄筋ピッチ	二段の場合、下部配筋寸法の明確さ	7	1-1断面前趾X方向の鉄筋ピッチ	二段の場合、下部配筋寸法の明確さ
8	1-1断面前趾Y方向の鉄筋ピッチ	〃（上面鉄筋組立前に撮影）	8	1-1断面前趾Y方向の鉄筋ピッチ	〃（上面鉄筋組立前に撮影）
9	2-2断面前趾X方向の鉄筋ピッチ		9	2-2断面前趾X方向の鉄筋ピッチ	
10	2-2断面前趾Y方向の鉄筋ピッチ		10	2-2断面前趾Y方向の鉄筋ピッチ	
11	スターラップ筋間隔	明確に	11	スターラップ筋間隔	明確に
12	主鉄筋、配力鉄筋の継手重ね長さ	〃	12	主鉄筋、配力鉄筋の継手重ね長さ	〃
13	フーチング鉄筋組立全景		13	フーチング鉄筋組立全景	
14	底版型枠のX、Y方向の幅及び厚さ	24で確認できれば不用	14	底版型枠のX、Y方向の幅及び厚さ	24で確認できれば不用
15	3-3断面壁のV方向の鉄筋ピッチ	複鉄筋の場合、裏側の配筋寸法の明確さ	15	3-3断面壁のV方向の鉄筋ピッチ	複鉄筋の場合、裏側の配筋寸法の明確さ
16	3-3断面壁のH方向の鉄筋ピッチ	〃（両面を撮影する）	16	3-3断面壁のH方向の鉄筋ピッチ	〃（両面を撮影する）
17	4-4断面壁のV方向の鉄筋ピッチ	〃	17	4-4断面壁のV方向の鉄筋ピッチ	〃
18	4-4断面壁のH方向の鉄筋ピッチ	〃	18	4-4断面壁のH方向の鉄筋ピッチ	〃
19	3-3断面壁のV方向の鉄筋長		19	3-3断面壁のV方向の鉄筋長	
20	スターラップ筋間隔	11に同じ	20	スターラップ筋間隔	11に同じ
21	パラペットの配筋間隔		21	パラペットの配筋間隔	
22	5-5断面橋座のX、Y方向の鉄筋ピッチ	明確に	22	5-5断面橋座のX、Y方向の鉄筋ピッチ	明確に
23	壁の型枠寸法	24で確認できれば不用	23	壁の型枠寸法	24で確認できれば不用
24	出来形管理に基づくコンクリートの仕上がり寸法	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）	24	出来形管理に基づくコンクリートの仕上がり寸法	寸法が判読出来る様に（端部の拡大写真を）
25	埋戻し前の全景		25	埋戻し前の全景	

Y ↑
X → 平面
道路中心線
V ↑
H → 正面
断面
V方向長
1 ↓ 2 ↓ 3 ↓ 4 ↓ 5 ↓

Y ↑
X → 平面
道路中心線
V ↑
H → 正面
断面
V方向長
1 ↓ 2 ↓ 3 ↓ 4 ↓ 5 ↓



その他の取扱基準等



その他の取扱基準等

その他の取扱基準等 目次

レディーミクストコンクリート取扱基準	415
セメントコンクリート製品取扱基準	441
レディーミクストコンクリートの品質確保について	475
非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領	483
非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（解説）	503
盛土材料取扱基準	525
RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）	537
T S ・ G N S Sを用いた盛土の締固め管理要領	567

その他の取扱基準等 目次

レディーミクストコンクリート取扱基準	415
セメントコンクリート製品取扱基準	441

- ※ 本文中に記載のある「承諾」は、設計図書の内容により「確認」と読み替える。
「承諾」とは、設計図書の品質規格に適合しない材料を使用する場合。（例：指定した材料以外を使用する場合）
「確認」とは、設計図書に示す品質規格に適合したもの、またはこれと同等以上の品質を有するものを使用する場合。
- ※ レディーミクストコンクリート取扱基準 5）(1) A法の③は適用しない。
- ※ レディーミクストコンクリート取扱基準本文中に記載のある「コンクリート強度検査報告書」（様式-5）は、「コンクリート品質管理報告書」（様式-5-1）、「コンクリート強度検査報告書」（様式-5-2）と読み替える。
- ※ セメントコンクリート製品取扱基準 3、(3) ウ及びエは適用しない。

レディーミクストコンクリート取扱基準

平成 19 年 10 月

土木工事施工管理基準
静岡県建設部監修
(財) 静岡県総合管理公社建設技術部

レディーミクストコンクリート取扱基準

平成 19 年 10 月

土木工事施工管理基準
静岡県建設部監修
(財) 静岡県総合管理公社建設技術部

レディーミクストコンクリート取扱基準

- レディーミクストコンクリートを使用するときは、この取扱基準によるほか、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）によらなければならない。
- レディーミクストコンクリートの配合は下表に示すものとする。

レディーミクストコンクリートの配合適用基準

No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の 最大寸法 mm	セメント の種類	水セメント 比%以下	単位セメ ント量 kg	空 気 量 %	JIS規格 の有無	摘 要
1	PC横桁・PC桁 間コンクリート・ PCホーロースラ ブの間隔	普通	30	8	25	N	—	—	4.5	○	
2	PCスラブ桁の間詰	〃	24	8	25	〃	—	—	4.5	○	
3	PCポステン主桁	〃	40	8	25	H	—	—	4.5	○	
4	合成床版	〃	30	8	25	N	55	—	4.5	○	
5	非合成床版、RC 床版（鉄筋コンク リート）側溝蓋	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
6	（鉄筋コンクリ ート）地覆、壁高欄	〃	24	8	25	BB	55	—	4.5	○	
7	場所打杭 水中：ベノト杭 リバース杭	〃	30	15	25	〃	55	350以上	4.5	○	
8	場所打杭 大気中：深礎工	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
9	トンネル覆工用 （機械打設）	〃	18	15	40	〃	60	—	4.5	○	〔単位セメント量270以上〕
10	トンネル施工用 （インバート打設）	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	〔単位セメント量240以上〕 側壁導杭の一次覆工含む
11	（鉄筋コンクリ ート）水門・排水機 場（上屋を除く）・ 堰	〃	21	8	25	〃	55	—	4.5	○	
12	（鉄筋コンクリ ート）橋台・橋脚・ 堰類・鉄筋コンクリ ート擁壁・樋門・樋管	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
13	河川護岸及び砂防 護岸に使用する石 積（張）胴裏込	〃	18	8	25	〃	60	—	4.5	○	
14	厚16cm未満の側溝・ 集水溝・石積（張） 胴裏込・管渠	〃	18	8	25	〃	60	—	4.5	○	
15	重力擁壁・モタレ 擁壁	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	
16	石積・ストンガー ド・標識及び照明 灯基礎・厚16cm以 上の側溝等	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	

レディーミクストコンクリート取扱基準

- レディーミクストコンクリートを使用するときは、この取扱基準によるほか、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）によらなければならない。
- レディーミクストコンクリートの配合は下表に示すものとする。

レディーミクストコンクリートの配合適用基準

No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の 最大寸法 mm	セメント の種類	水セメント 比%以下	単位セメ ント量 kg	空 気 量 %	JIS規格 の有無	摘 要
1	PC横桁・PC桁 間コンクリート・ PCホーロースラ ブの間隔	普通	30	8	25	N	—	—	4.5	○	
2	PCスラブ桁の間詰	〃	24	8	25	〃	—	—	4.5	○	
3	PCポステン主桁	〃	40	8	25	H	—	—	4.5	○	
4	合成床版	〃	30	8	25	N	55	—	4.5	○	
5	非合成床版、RC 床版（鉄筋コンク リート）側溝蓋	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
6	（鉄筋コンクリ ート）地覆、壁高欄	〃	24	8	25	BB	55	—	4.5	○	
7	場所打杭 水中：ベノト杭 リバース杭	〃	30	15	25	〃	55	350以上	4.5	○	
8	場所打杭 大気中：深礎工	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
9	トンネル覆工用 （機械打設）	〃	18	15	40	〃	60	—	4.5	○	〔単位セメント量270以上〕
10	トンネル施工用 （インバート打設）	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	〔単位セメント量240以上〕 側壁導杭の一次覆工含む
11	（鉄筋コンクリ ート）水門・排水機 場（上屋を除く）・ 堰	〃	21	8	25	〃	55	—	4.5	○	
12	（鉄筋コンクリ ート）橋台・橋脚・ 堰類・鉄筋コンクリ ート擁壁・樋門・樋管	〃	24	8	25	〃	55	—	4.5	○	
13	河川護岸及び砂防 護岸に使用する石 積（張）胴裏込	〃	18	8	25	〃	60	—	4.5	○	
14	厚16cm未満の側溝・ 集水溝・石積（張） 胴裏込・管渠	〃	18	8	25	〃	60	—	4.5	○	
15	重力擁壁・モタレ 擁壁	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	
16	石積・ストンガー ド・標識及び照明 灯基礎・厚16cm以 上の側溝等	〃	18	8	40	〃	60	—	4.5	○	

レディーミクストコンクリート取扱基準

No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	水セメント比%以下	単位セメント量 kg	空気量 %	JIS規格の有無	摘要
17	重力式橋台	普通	18	8	40	BB	60	-	4.5	○	
18	均しコンクリート	"	18	8	25 40	" "	- -	- -	4.5 4.5	- ○	厚16cm未満は粗骨材最大寸法25mm 厚16cm以上は粗骨材最大寸法40mm
19	セメントコンクリート舗装	舗装	(曲げ強度) 4.5	2.5	40	N	45	-	4.5	○	[単位セメント量 280~350]
20	(河川) 護岸基礎・根固ブロック・護岸コンクリート張(平場)・堰(無筋)	普通	18	5	40	BB	60	-	4.5	○	
21	(河川) 護岸コンクリート張(法面)	"	18	3	40	"	60	-	4.5	-	
22	(河川) 護岸均しコンクリート(法面)	"	-	3	25	"	-	170以上	-	-	
23	(海岸) 波返し・表法張・基礎	"	24	8	40	"	55	-	4.5	○	
24	(海岸) 無筋コンクリート擁壁	"	24	8	40	"	55	-	4.5	○	
25	(海岸) 根固ブロック10t以上	"	24	5	80 [40]	" "	55 55	- -	(4.0) [4.5]	- ○	粗骨材の最大寸法は80mmを標準とする。ただし、骨材の入手が困難な場合は40mmとすることができる。
26	(砂防) 主副ダム・側壁(砂防)10t以上の根固ブロック	"	18	5	80 [40]	" "	60 60	- -	(4.0) [4.5]	- ○	粗骨材の最大寸法は80mmを標準とする。ただし、骨材の入手が困難な場合は40mmとすることができる。
27	(砂防) 流路工・護岸・(砂防)10t未満根固ブロック	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	
28	(下水道) シールド二次覆工用等	"	24	12	25	"	55	-	4.5	○	
29	(港湾) 中詰コンクリート中詰ブロック	"	18	8	40	"	-	-	4.5	○	無筋コンクリート
30	(港湾) 防波堤上部工ケーソンの蓋コンクリート	"	18	8	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート
31	(港湾) 本体ブロック異形ブロック(消波・被覆)	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート 消波用異形ブロックで公称重量35t以上の場合は事業課と協議すること
32	(港湾) 根固ブロック	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート

レディーミクストコンクリート取扱基準

No	種別	コンクリートの種類	呼び強度 N/mm ²	スランプ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類	水セメント比%以下	単位セメント量 kg	空気量 %	JIS規格の有無	摘要
17	重力式橋台	普通	18	8	40	BB	60	-	4.5	○	
18	均しコンクリート	"	18	8	25 40	" "	- -	- -	4.5 4.5	- ○	厚16cm未満は粗骨材最大寸法25mm 厚16cm以上は粗骨材最大寸法40mm
19	セメントコンクリート舗装	舗装	(曲げ強度) 4.5	2.5	40	N	45	-	4.5	○	[単位セメント量 280~350]
20	(河川) 護岸基礎・根固ブロック・護岸コンクリート張(平場)・堰(無筋)	普通	18	5	40	BB	60	-	4.5	○	
21	(河川) 護岸コンクリート張(法面)	"	18	3	40	"	60	-	4.5	-	
22	(河川) 護岸均しコンクリート(法面)	"	-	3	25	"	-	170以上	-	-	
23	(海岸) 波返し・表法張・基礎	"	24	8	40	"	55	-	4.5	○	
24	(海岸) 無筋コンクリート擁壁	"	24	8	40	"	55	-	4.5	○	
25	(海岸) 根固ブロック10t以上	"	24	5	80 [40]	" "	55 55	- -	(4.0) [4.5]	- ○	粗骨材の最大寸法は80mmを標準とする。ただし、骨材の入手が困難な場合は40mmとすることができる。
26	(砂防) 主副ダム・側壁(砂防)10t以上の根固ブロック	"	18	5	80 [40]	" "	60 60	- -	(4.0) [4.5]	- ○	粗骨材の最大寸法は80mmを標準とする。ただし、骨材の入手が困難な場合は40mmとすることができる。
27	(砂防) 流路工・護岸・(砂防)10t未満根固ブロック	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	
28	(下水道) シールド二次覆工用等	"	24	12	25	"	55	-	4.5	○	
29	(港湾) 中詰コンクリート中詰ブロック	"	18	8	40	"	-	-	4.5	○	無筋コンクリート
30	(港湾) 防波堤上部工ケーソンの蓋コンクリート	"	18	8	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート
31	(港湾) 本体ブロック異形ブロック(消波・被覆)	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート 消波用異形ブロックで公称重量35t以上の場合は事業課と協議すること
32	(港湾) 根固ブロック	"	18	5	40	"	60	-	4.5	○	無筋コンクリート

No	種 別	コンクリートの種類	呼び強度 N / mm ²	スランブ cm	粗骨材の 最大寸法 mm	セメント の 種 類	水セメント 比%以下	単位セメ ント量 kg	空 気 量 %	JIS規格 の有無	摘 要
33	(港湾) 係船岸上部工、胸 壁、係船直柱基礎 (重力式)	普通	18	8	40	B B	60	—	4.5	○	無筋コンクリ ート
34	(港湾) 係船岸上部工、胸 壁、係船柱基礎 (杭式)	"	24	8	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート 棧橋上部工 を除く
35	(港湾) 棧橋上部工	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
36	(港湾) ケーソン・岸壁用 L型・セルラー・ 消波ブロック	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
37	(港湾) 控壁、控杭上部工	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
38	(港湾) エプロン舗装	舗装	(曲げ強度) 4.5	2.5	40	N	—	—	4.5	○	

注：1. 骨材の最大寸法25mm及び80mmは地域的に骨材の入手が不可能な場合のみ20mm及び40mmとすることができる。

- 水セメント比については、鉄筋コンクリート構造物については55%以下、無筋コンクリート構造物の場合は、60%以下としなければならない。(ただし、P Cについては別途事業室と協議)
- 設計図書に塩害対策を必要とする旨、明示した場合の橋梁上部工に用いるコンクリートの水セメント比は50%以下、橋梁下部工に用いるコンクリートの水セメント比は55%以下を標準とする。
- セメントの種類は、N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、B B：高炉セメントB種を示している。

3) レディーミクストコンクリートの製造工場

請負者は、レディーミクストコンクリートを使用する場合には、JIS表示認定工場または、JISマーク表示認証工場、全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等から選定するものとする。但し運搬時間、その他理由によりこれらの製品を使用することが困難な場合には、共通仕様書第1編「共通編」3-3-2の規定によるものとする。

4) レディーミクストコンクリートの使用の承諾

- 請負者は、レディーミクストコンクリートを使用する場合は、次の書類を提出し承諾を得なければならない。

No	種 別	コンクリートの種類	呼び強度 N / mm ²	スランブ cm	粗骨材の 最大寸法 mm	セメント の 種 類	水セメント 比%以下	単位セメ ント量 kg	空 気 量 %	JIS規格 の有無	摘 要
33	(港湾) 係船岸上部工、胸 壁、係船直柱基礎 (重力式)	普通	18	8	40	B B	60	—	4.5	○	無筋コンクリ ート
34	(港湾) 係船岸上部工、胸 壁、係船柱基礎 (杭式)	"	24	8	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート 棧橋上部工 を除く
35	(港湾) 棧橋上部工	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
36	(港湾) ケーソン・岸壁用 L型・セルラー・ 消波ブロック	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
37	(港湾) 控壁、控杭上部工	"	24	12	25	"	55	—	4.5	○	鉄筋コンクリ ート
38	(港湾) エプロン舗装	舗装	(曲げ強度) 4.5	2.5	40	N	—	—	4.5	○	

注：1. 骨材の最大寸法25mm及び80mmは地域的に骨材の入手が不可能な場合のみ20mm及び40mmとすることができる。

- 水セメント比については、鉄筋コンクリート構造物については55%以下、無筋コンクリート構造物の場合は、60%以下としなければならない。(ただし、P Cについては別途事業室と協議)
- 設計図書に塩害対策を必要とする旨、明示した場合の橋梁上部工に用いるコンクリートの水セメント比は50%以下、橋梁下部工に用いるコンクリートの水セメント比は55%以下を標準とする。
- セメントの種類は、N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、B B：高炉セメントB種を示している。

3) レディーミクストコンクリートの製造工場

請負者は、レディーミクストコンクリートを使用する場合には、JIS表示認定工場または、JISマーク表示認証工場、全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等から選定するものとする。但し運搬時間、その他理由によりこれらの製品を使用することが困難な場合には、共通仕様書第1編「共通編」3-3-2の規定によるものとする。

4) レディーミクストコンクリートの使用の承諾

- 請負者は、レディーミクストコンクリートを使用する場合は、次の書類を提出し承諾を得なければならない。

※JIS 表示許可工場の製品使用の場合	※JIS 表示許可工場以外の製品使用の場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS 表示許可の写し ・ 配合報告書（様式-1） ・ 配合計算書（様式-2） ・ 骨材試験成績表（様式-3） ・ アルカリ骨材反応性試験成績表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラント施設概要書 ・ 計量機の検定済証明書 ・ 品質管理データ ・ 配合報告書（様式-1） ・ 配合計算書（様式-2） ・ 骨材試験成績表（様式-3） ・ アルカリ骨材反応性試験成績表 ・ セメントの品質証明書

* JIS 表示許可工場以外の場合は、監督員の立会試験により品質を確認しなければならない。
* アルカリ骨材試験反応性試験成績表の有効期限 6 ヶ月なので注意すること。

- (2) 設計図書に示すコンクリートの種類を、請負者の事由により変更しようとするときは、変更の理由及び配合報告書・配合計算書を提出し、監督員の承諾を得なければならない。
- (3) JIS A 6204に規定する化学混和剤（A E 剤及び減水剤標準形・A E 減水剤標準形を除く）の減水剤及び A E 減水剤の「遅延形」及び「促進形」の使用は、「混和剤試験結果報告書」及び試験練結果等の資料により監督員の承諾を得て使用し、品質管理として「現場養生による供試体の圧縮強度試験」は、1 週・4 週強度及び低温下では、熟成日を推定して「熟成強度」の試験を実施するものとする。

5) レディーミクストコンクリートの品質を確かめるための検査におけるコンクリートの供試体の確認方法は、下記の方法のどちらかにより実施しなければならない。

(1) A 法

- ① コンクリートを供試体に投入したときの写真撮影時に、型枠外面に供試体を特定できる番号・記号等を記載し撮影すること。
- ② 供試体頭部硬化後、型枠外面に記載した番号・記号等と同一のものを頭部にも記載し、2 箇所の番号・記号等が 1 枚の写真でよくわかるように撮影すること。ただし、写真は型枠脱型前に行うこと。
- ③ 写真については、ネガにて保存するものとし、工事アルバムには適宜掲載するものとする。

(2) B 法

- ① 供試体型枠の内側にグリース塗布後、所定の事項を記入した供試体確認版等を型枠側部におき、コンクリートを打設すること。
- ② 強度試験前に供試体に転写した部分を写真に撮り資料採取時のものと同一のものか確認すること。

6) 配合強度

レディーミクストコンクリート製造工場の配合強度は、次によらなければならない。

(1) JIS工場

$$m \geq S L + 2.5 \delta$$

ここに、m：配合強度 (N/mm²)
S L：呼び強度 (N/mm²)
δ：当該工場の実績による標準偏差 (N/mm²)

(2) JIS工場以外の工場

設計基準強度を下廻らない値で配合強度を定めなければならない。

※JIS 表示許可工場の製品使用の場合	※JIS 表示許可工場以外の製品使用の場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS 表示許可の写し ・ 配合報告書（様式-1） ・ 配合計算書（様式-2） ・ 骨材試験成績表（様式-3） ・ アルカリ骨材反応性試験成績表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラント施設概要書 ・ 計量機の検定済証明書 ・ 品質管理データ ・ 配合報告書（様式-1） ・ 配合計算書（様式-2） ・ 骨材試験成績表（様式-3） ・ アルカリ骨材反応性試験成績表 ・ セメントの品質証明書

* JIS 表示許可工場以外の場合は、監督員の立会試験により品質を確認しなければならない。
* アルカリ骨材試験反応性試験成績表の有効期限 6 ヶ月なので注意すること。

- (2) 設計図書に示すコンクリートの種類を、請負者の事由により変更しようとするときは、変更の理由及び配合報告書・配合計算書を提出し、監督員の承諾を得なければならない。
- (3) JIS A 6204に規定する化学混和剤（A E 剤及び減水剤標準形・A E 減水剤標準形を除く）の減水剤及び A E 減水剤の「遅延形」及び「促進形」の使用は、「混和剤試験結果報告書」及び試験練結果等の資料により監督員の承諾を得て使用し、品質管理として「現場養生による供試体の圧縮強度試験」は、1 週・4 週強度及び低温下では、熟成日を推定して「熟成強度」の試験を実施するものとする。

5) レディーミクストコンクリートの品質を確かめるための検査におけるコンクリートの供試体の確認方法は、下記の方法のどちらかにより実施しなければならない。

(1) A 法

- ① コンクリートを供試体に投入したときの写真撮影時に、型枠外面に供試体を特定できる番号・記号等を記載し撮影すること。
- ② 供試体頭部硬化後、型枠外面に記載した番号・記号等と同一のものを頭部にも記載し、2 箇所の番号・記号等が 1 枚の写真でよくわかるように撮影すること。ただし、写真は型枠脱型前に行うこと。
- ③ 写真については、ネガにて保存するものとし、工事アルバムには適宜掲載するものとする。

(2) B 法

- ① 供試体型枠の内側にグリース塗布後、所定の事項を記入した供試体確認版等を型枠側部におき、コンクリートを打設すること。
- ② 強度試験前に供試体に転写した部分を写真に撮り資料採取時のものと同一のものか確認すること。

6) 配合強度

レディーミクストコンクリート製造工場の配合強度は、次によらなければならない。

(1) JIS工場

$$m \geq S L + 2.5 \delta$$

ここに、m：配合強度 (N/mm²)
S L：呼び強度 (N/mm²)
δ：当該工場の実績による標準偏差 (N/mm²)

(2) JIS工場以外の工場

設計基準強度を下廻らない値で配合強度を定めなければならない。

7) 品質管理

コンクリートの品質管理は共通仕様書第1編「共通編」第3章「無筋、鉄筋コンクリート」に定めるほか(別表-1)の「コンクリートの品質管理」によらなければならない。又(別表-1)にもとづき次の書類を提出する。

- (1) 標準養生による共試体の圧縮強度試験(1品種150㎡につき1回)
「レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書」(様式-4)
- (2) 生コン工場のレディーミクストコンクリート強度検査報告書(1品種50㎡未満の場合)
「コンクリート強度検査報告書」(様式-5)
- (3) 「コンクリート強度管理表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-6)
- (4) 「気温及びコンクリート打設記録表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-7)
- (5) 「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-8)
- (6) 「コンクリート中の塩化物含有量測定表」(様式-9)

8) 品質検査

コンクリートの品質検査は、コンクリートテストハンマーにより構造物の強度を測定する。また標準養生による供試体の圧縮試験結果も合わせて検査を行う。

9) 強度

$\bar{X} \geq \delta ck$ とする。ここに、 \bar{X} :1回の測定結果(3測点の平均値)
 δck :設計基準強度(呼び強度)

コンクリートテストハンマーの1回の測定結果(3測点の平均値)が $\bar{X} < \delta ck$ となった場合には、標準養生による供試体の圧縮試験結果により合否を判定する。

10) 熟成強度による合格判定

検査時に熟成度が100%に達しない場合には、熟成度を乗じた強度で合否を判定する。この場合監督員は、熟成日に強度を測定し、確認するものとする。

11) コンクリートテストハンマーによる測定方法

コンクリート圧縮強度の測定を、シュミットハンマー普通コンクリート用NR型、N型により行う場合には、日本材料学会「シュミットハンマーによる実施コンクリートの圧縮強度判定方法指針」により行うものとするが、その一部の運用は次のとおりとする。

(1) 硬度測定箇所の選定

- ① 硬度の測定は、厚さ10cm以下の床版や壁、一辺15cm以下の断面の柱など小寸法で支間の長い部材では避けること。やむを得ずそのような部材で測定するときは、背後から別にその部材を支持して行うものとする。
- ② 薄い床版及び壁では、なるべく周辺や支持辺に近い箇所を選定するものとする。
- ③ はりでは、その側面で行うのを原則とする。
- ④ 柱や壁では、コンクリートの分離による影響を考慮して適当な箇所を選定するものとする。
- ⑤ 測定面としては、型枠に接した面で質が均一でモルタルに覆われた平滑な面を選定するものとする。
- ⑥ 測定面内にある豆板、空泡、露出している砂利などの部分は避けて行うものとする。

(2) 硬度測定方法

- ① 測定面にあるわずかの凹凸や付着物は、と石でていねいに平滑にみがいてこれを除き、粉末その他の付着物をふきとってから行うものとする。

7) 品質管理

コンクリートの品質管理は共通仕様書第1編「共通編」第3章「無筋、鉄筋コンクリート」に定めるほか(別表-1)の「コンクリートの品質管理」によらなければならない。又(別表-1)にもとづき次の書類を提出する。

- (1) 標準養生による共試体の圧縮強度試験(1品種150㎡につき1回)
「レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書」(様式-4)
- (2) 生コン工場のレディーミクストコンクリート強度検査報告書(1品種50㎡未満の場合)
「コンクリート強度検査報告書」(様式-5)
- (3) 「コンクリート強度管理表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-6)
- (4) 「気温及びコンクリート打設記録表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-7)
- (5) 「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」(原則:1工種10㎡以上のもの)(様式-8)
- (6) 「コンクリート中の塩化物含有量測定表」(様式-9)

8) 品質検査

コンクリートの品質検査は、コンクリートテストハンマーにより構造物の強度を測定する。また標準養生による供試体の圧縮試験結果も合わせて検査を行う。

9) 強度

$\bar{X} \geq \delta ck$ とする。ここに、 \bar{X} :1回の測定結果(3測点の平均値)
 δck :設計基準強度(呼び強度)

コンクリートテストハンマーの1回の測定結果(3測点の平均値)が $\bar{X} < \delta ck$ となった場合には、標準養生による供試体の圧縮試験結果により合否を判定する。

10) 熟成強度による合格判定

検査時に熟成度が100%に達しない場合には、熟成度を乗じた強度で合否を判定する。この場合監督員は、熟成日に強度を測定し、確認するものとする。

11) コンクリートテストハンマーによる測定方法

コンクリート圧縮強度の測定を、シュミットハンマー普通コンクリート用NR型、N型により行う場合には、日本材料学会「シュミットハンマーによる実施コンクリートの圧縮強度判定方法指針」により行うものとするが、その一部の運用は次のとおりとする。

(1) 硬度測定箇所の選定

- ① 硬度の測定は、厚さ10cm以下の床版や壁、一辺15cm以下の断面の柱など小寸法で支間の長い部材では避けること。やむを得ずそのような部材で測定するときは、背後から別にその部材を支持して行うものとする。
- ② 薄い床版及び壁では、なるべく周辺や支持辺に近い箇所を選定するものとする。
- ③ はりでは、その側面で行うのを原則とする。
- ④ 柱や壁では、コンクリートの分離による影響を考慮して適当な箇所を選定するものとする。
- ⑤ 測定面としては、型枠に接した面で質が均一でモルタルに覆われた平滑な面を選定するものとする。
- ⑥ 測定面内にある豆板、空泡、露出している砂利などの部分は避けて行うものとする。

(2) 硬度測定方法

- ① 測定面にあるわずかの凹凸や付着物は、と石でていねいに平滑にみがいてこれを除き、粉末その他の付着物をふきとってから行うものとする。

レディーミクストコンクリート取扱基準

- ② 仕上げ層や上塗りのある場合はこれを除去し、コンクリート面を露出された後、(2)①の処理をしてから測定するものとする。
- ③ 打撃方向は、常に測定面に直角に行うものとする。
- ④ テストハンマーは、除々に力を加えて打撃をおこさせ測定するものとする。
- ⑤ 測定する位置は、端部から3cm以上離れたところで、互に3cm以上の間隔をもった12点について行い、上下2点の反発値を切り捨て10個を算術平均して、その測点の測定硬度とする。

(3) 強度判定法

- ① テストハンマーによる打撃は、ハンマーの水平軸方向（0°）で測定するのを原則とする。
- ただし、構造物の形状によりこれにより難しい場合は、上向（+）、下向（-）として測定し、水平（0°）から下向（-90°）までは、「テストハンマーの圧縮強度換算表」（別表-2）により強度を判定し、上向（+）の場合は、テストハンマーに添付されている強度曲線表により強度を判定する。

(4) シュミットコンクリートテストハンマーの調整

- ① シュミットコンクリートテストハンマーの調整は、専用精度検定器（テストアンピル）により使用前に検定するものとする。
- ② テストアンピルによる反発値（R_a）は80±2で調整するものとする。
- テストアンピルによる反発値（R_a）が80±2以上の数値を平均して示すものを使用する場合には、実際にコンクリートを打撃して測定した反発値の（R）は、次の式により修正するものとする。

$$R1 = R \cdot \frac{80}{R_a}$$

ここに、R1：測定硬度の修正値

R：測定硬度(10点又は20点の平均値)

- ③ 反発値（R_a）が、②以外のテストアンピルを使用する場合の調整は、その取扱説明書により行うものとする。

(5) 測定値の記録

品質管理又は検査においてテストハンマーで測定した数値は、「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」（様式-8）に記録するものとする。

12) ひび割れ発生状況の調査

- (1) 請負者は、高さ5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さ3m以上の堰・水門・樋門の施工完了時にひび割れ発生状況の調査を実施しなければならない。
- ただし、いずれの工種についても、プレキャスト製品およびプレストレストコンクリートは測定の対象としない。
- (2) 調査方法は、0.2mm以上のひび割れ幅について、展開図を作成するものとし、展開図に対応する写真についても提出しなければならない。
- また、ひび割れ等変状の認められた部分をマーキングしなければならない。
- (3) 請負者は、ひび割れ発生状況の調査を実施した結果を書面により監督員に提出しなければならない。
- (4) ひび割れ調査は、構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とし、フォーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については、竣工前に調査する。ひび割れ調査の面積計上について、代表的な構造物について下記のとおりとする。

レディーミクストコンクリート取扱基準

- ② 仕上げ層や上塗りのある場合はこれを除去し、コンクリート面を露出された後、(2)①の処理をしてから測定するものとする。
- ③ 打撃方向は、常に測定面に直角に行うものとする。
- ④ テストハンマーは、除々に力を加えて打撃をおこさせ測定するものとする。
- ⑤ 測定する位置は、端部から3cm以上離れたところで、互に3cm以上の間隔をもった12点について行い、上下2点の反発値を切り捨て10個を算術平均して、その測点の測定硬度とする。

(3) 強度判定法

- ① テストハンマーによる打撃は、ハンマーの水平軸方向（0°）で測定するのを原則とする。
- ただし、構造物の形状によりこれにより難しい場合は、上向（+）、下向（-）として測定し、水平（0°）から下向（-90°）までは、「テストハンマーの圧縮強度換算表」（別表-2）により強度を判定し、上向（+）の場合は、テストハンマーに添付されている強度曲線表により強度を判定する。

(4) シュミットコンクリートテストハンマーの調整

- ① シュミットコンクリートテストハンマーの調整は、専用精度検定器（テストアンピル）により使用前に検定するものとする。
- ② テストアンピルによる反発値（R_a）は80±2で調整するものとする。
- テストアンピルによる反発値（R_a）が80±2以上の数値を平均して示すものを使用する場合には、実際にコンクリートを打撃して測定した反発値の（R）は、次の式により修正するものとする。

$$R1 = R \cdot \frac{80}{R_a}$$

ここに、R1：測定硬度の修正値

R：測定硬度(10点又は20点の平均値)

- ③ 反発値（R_a）が、②以外のテストアンピルを使用する場合の調整は、その取扱説明書により行うものとする。

(5) 測定値の記録

品質管理又は検査においてテストハンマーで測定した数値は、「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」（様式-8）に記録するものとする。

12) ひび割れ発生状況の調査

- (1) 請負者は、高さ5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さ3m以上の堰・水門・樋門の施工完了時にひび割れ発生状況の調査を実施しなければならない。
- ただし、いずれの工種についても、プレキャスト製品およびプレストレストコンクリートは測定の対象としない。
- (2) 調査方法は、0.2mm以上のひび割れ幅について、展開図を作成するものとし、展開図に対応する写真についても提出しなければならない。
- また、ひび割れ等変状の認められた部分をマーキングしなければならない。
- (3) 請負者は、ひび割れ発生状況の調査を実施した結果を書面により監督員に提出しなければならない。
- (4) ひび割れ調査は、構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とし、フォーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については、竣工前に調査する。ひび割れ調査の面積計上について、代表的な構造物について下記のとおりとする。

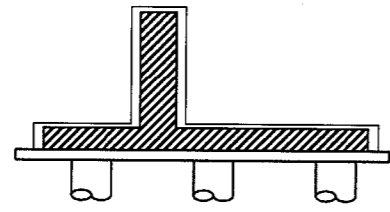


図-1 擁壁

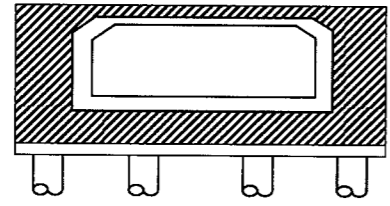


図-2 カルバート

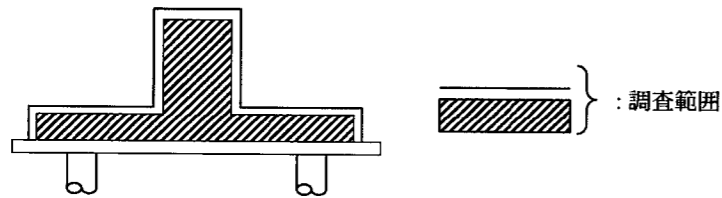


図-3 橋梁下部



図-4 橋梁上部

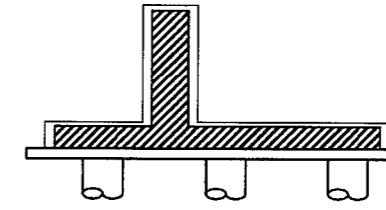


図-1 擁壁

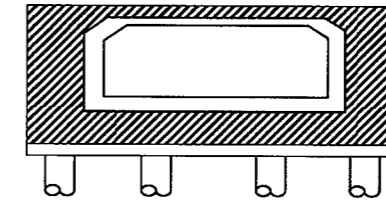


図-2 カルバート

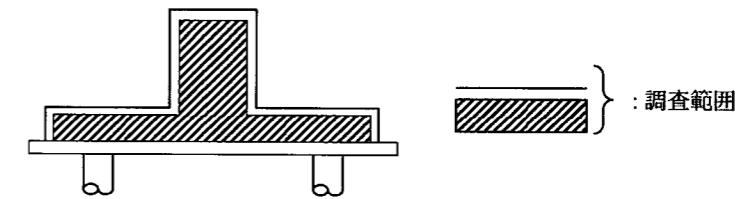


図-3 橋梁下部



図-4 橋梁上部

別表-1

「コンクリートの品質管理」

試験項目	試験方法	適用基準																	
1. 強度試験 1) 標準養生による供試体の圧縮強度試験	JIS A 1108	<p>(1) 供試体によるコンクリートの圧縮強度試験は、一工事のコンクリート使用量が一品種150㎡につき1回6個(σ₁…3個、σ₂₈…3個)について行うものとする。 ただし、コンクリートの使用量が一品種50㎡未満の場合には、(3)により試験に代えるものとする。</p> <p>(2) 材令σ₇、σ₂₈の強度試験結果は、「レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書」(様式-4)により提出するものとする。この場合σ₇の上段に()書でσ₂₈の推定値を(4)により記入するものとする。</p> <p>(3) 一工事のコンクリート使用量が一品種50㎡未満の場合には、生コン工場に於けるσ₂₈の品質検査結果を「コンクリート強度検査報告書」(様式-5)により提出するものとする。</p> <p>(4) ※ 普通ポルトランドセメント使用の材令7日強度より材令28日の強度の判定にあたっては、JIS認定工場の推定式を参考とするものとする。 なお、これによりがたい場合は、次式を参考にするものとする。 σ₂₈ = -0.020 (σ₇)² + 1.96 σ₇ …………… σ₇ < 15N/㎡ σ₂₈ = 0.96 σ₇ + 10.4 …………… σ₇ ≥ 15N/㎡ ※ 高炉セメント使用の材令7日強度より材令28日強度の判定にあたっては、JIS認定工場の推定式を参考とするものとする。 なお、これによりがたい場合は、次式を参考にするものとする。 σ₂₈ = 1.14 σ₇ + 11.8 …………… σ₇ ≥ 5N/㎡</p> <p>(5) 請負者は、σ₇における試験結果を提出させて、コンクリートの品質を確認するものとする。σ₇における試験結果に疑義のある場合には、請負者、生産者及び監督員が協議を行い処置するものとする。</p>																	
2) 現場養生による供試体の圧縮強度試験		特記仕様書に定める場合を除き、原則として行なわないものとする。																	
3) コンクリート強度管理表		<p>(1) 「コンクリート強度管理表」(様式-6)、「気温及びコンクリート打設記録表」(様式-7)、「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」(様式-8)は、総ての工事について下表にもとづき作成する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">コンクリート構造物の分類</th> <th>管理対象構造物</th> </tr> <tr> <th>構造物種別</th> <th>構造物の種類</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無筋構造物</td> <td>重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台</td> <td>①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの</td> </tr> <tr> <td>有筋構造物</td> <td>水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物</td> <td>①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小型構造物</td> <td>(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物</td> <td>適用しない</td> </tr> <tr> <td>(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物</td> <td>適用しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) コンクリートテストハンマーによる測定が出来ないもの、困難なもの、不適当なものは適用を除外する。 測定出来ないもの：ブロック積(張)の胴、裏込みコンクリート等。 測定困難なもの：厚10cm以下の床版・壁、一辺15cm以下の柱等。 測定不適当なもの：均し(張り)コンクリート等。</p>	コンクリート構造物の分類		管理対象構造物	構造物種別	構造物の種類		無筋構造物	重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台	①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの	有筋構造物	水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物	①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの	小型構造物	(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物	適用しない	(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物	適用しない
コンクリート構造物の分類		管理対象構造物																	
構造物種別	構造物の種類																		
無筋構造物	重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台	①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの																	
有筋構造物	水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物	①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの																	
小型構造物	(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物	適用しない																	
	(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物	適用しない																	

別表-1

「コンクリートの品質管理」

試験項目	試験方法	適用基準																	
1. 強度試験 1) 標準養生による供試体の圧縮強度試験	JIS A 1108	<p>(1) 供試体によるコンクリートの圧縮強度試験は、一工事のコンクリート使用量が一品種150㎡につき1回6個(σ₁…3個、σ₂₈…3個)について行うものとする。 ただし、コンクリートの使用量が一品種50㎡未満の場合には、(3)により試験に代えるものとする。</p> <p>(2) 材令σ₇、σ₂₈の強度試験結果は、「レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書」(様式-4)により提出するものとする。この場合σ₇の上段に()書でσ₂₈の推定値を(4)により記入するものとする。</p> <p>(3) 一工事のコンクリート使用量が一品種50㎡未満の場合には、生コン工場に於けるσ₂₈の品質検査結果を「コンクリート強度検査報告書」(様式-5)により提出するものとする。</p> <p>(4) ※ 普通ポルトランドセメント使用の材令7日強度より材令28日の強度の判定にあたっては、JIS認定工場の推定式を参考とするものとする。 なお、これによりがたい場合は、次式を参考にするものとする。 σ₂₈ = -0.020 (σ₇)² + 1.96 σ₇ …………… σ₇ < 15N/㎡ σ₂₈ = 0.96 σ₇ + 10.4 …………… σ₇ ≥ 15N/㎡ ※ 高炉セメント使用の材令7日強度より材令28日強度の判定にあたっては、JIS認定工場の推定式を参考とするものとする。 なお、これによりがたい場合は、次式を参考にするものとする。 σ₂₈ = 1.14 σ₇ + 11.8 …………… σ₇ ≥ 5N/㎡</p> <p>(5) 請負者は、σ₇における試験結果を提出させて、コンクリートの品質を確認するものとする。σ₇における試験結果に疑義のある場合には、請負者、生産者及び監督員が協議を行い処置するものとする。</p>																	
2) 現場養生による供試体の圧縮強度試験		特記仕様書に定める場合を除き、原則として行なわないものとする。																	
3) コンクリート強度管理表		<p>(1) 「コンクリート強度管理表」(様式-6)、「気温及びコンクリート打設記録表」(様式-7)、「コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表」(様式-8)は、総ての工事について下表にもとづき作成する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">コンクリート構造物の分類</th> <th>管理対象構造物</th> </tr> <tr> <th>構造物種別</th> <th>構造物の種類</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無筋構造物</td> <td>重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台</td> <td>①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの</td> </tr> <tr> <td>有筋構造物</td> <td>水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物</td> <td>①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小型構造物</td> <td>(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物</td> <td>適用しない</td> </tr> <tr> <td>(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物</td> <td>適用しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) コンクリートテストハンマーによる測定が出来ないもの、困難なもの、不適当なものは適用を除外する。 測定出来ないもの：ブロック積(張)の胴、裏込みコンクリート等。 測定困難なもの：厚10cm以下の床版・壁、一辺15cm以下の柱等。 測定不適当なもの：均し(張り)コンクリート等。</p>	コンクリート構造物の分類		管理対象構造物	構造物種別	構造物の種類		無筋構造物	重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台	①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの	有筋構造物	水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物	①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの	小型構造物	(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物	適用しない	(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物	適用しない
コンクリート構造物の分類		管理対象構造物																	
構造物種別	構造物の種類																		
無筋構造物	重力式擁壁等マッシブな無筋構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物で半重力式擁壁、橋台	①高さ2m以上の重力式・半重力式擁壁等 ②橋台 ③上記以外は一工種10㎡以上のもの																	
有筋構造物	水路、ボックスカルバート、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、突桁又は扶壁式の擁壁及び橋台、橋脚、橋梁床版等の鉄筋量の多い構造物	①高さ2m以上の擁壁 ②橋台・橋脚 ③内空4㎡以上の函渠 ④上記以外は一工種10㎡以上のもの																	
小型構造物	(I) 最大高さ1m程度の擁壁、側溝、ブロック基礎、笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく(1㎡以下)連続している構造物	適用しない																	
	(II) 形状が複雑な構造物及び集水溝、空気弁、排泥弁、道路照明・標識・防護欄の基礎等の少量(1㎡以下)のコンクリート量で点在する構造物	適用しない																	

試験項目	試験方法	適用基準
		(2) コンクリート強度管理表の記入方法 ① 配合強度は、配合計算書より記入する。 ② 熟成度の記入 イ、6月から9月の間にコンクリートを打設し、 σ_{28} が9月末日までのものは、材令別コンクリート熟成度表(別表-3)・(別表-4)の20℃を適用し、この間気温の測定は必要ない。 ロ、10月以降に材令が σ_{28} に達する場合と、5月末までにコンクリートを打設する場合には、コンクリートの強度を材令別コンクリート熟成度表で補正する。(呼び強度×熟成度) ③ テストハンマーによる強度の測定 イ、品質管理のためにおこなうテストハンマーによる強度の測定は、反発硬度が測定できるときから σ_7 又は σ_{14} で行い、熟成度による強度の目標値以上の場合には、 σ_{28} 又は熟成日を測定し熟成度により強度の確認をする。 なお σ_7 又は σ_{14} で強度に達しない場合には σ_{14} 又は σ_{21} で測定し σ_{28} 又は熟成日で確認をする。 ④ 養生方法は、実施した方法を記入する。 材令別コンクリート熟成度表の σ_7 の熟成度は σ_{28} に対して45~50%程度であるが、標準養生の強度は60%、又テストハンマーによる過去の実績の平均値は57%程度であるため、 σ_7 の強度は σ_{28} の60%を管理目標として初期養生を行うものとする。
4) 非破壊試験	コンクリートテストハンマーにより行う	試験方法は、この基準の10)コンクリートテストハンマーによる測定方法によるものとし、1回の測定結果(X)は3測点の平均値とする。
5) 標準養生による供試体の曲げ試験	JIS A 1106	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき2回(午前・午後)の割で行う。なおテストピースは打設場所で採取し、1回につき原則として3個とする。
6) コアーによる圧縮強度試験	JIS A 1107	品質に異状が認められる場合に行う。
2. スランプ試験	JIS A 1101	強度試験用供試体採取時及び打ち込み中に品質の変化が認められたとき。 ただし道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクストコンクリートを用いる場合は原則として全車測定を行う。
3. 空気量の測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	強度試験用供試体採取時及び打ち込み中に品質の変化が認められたとき。
4. コンクリート中の塩化物総量規制 (参考:コンクリート 耐久性向上「レディー ミクストコンクリート」 (別表-5))	JIS A 5308	1. 適用範囲 鉄筋コンクリート構造物及び用心鉄筋等を有する無筋コンクリート構造物(仮設を除く) 2. 塩化物総量規制値 0.30kg/m ³ 以下 3. 測定 請負者の技術者が、工事現場において荷卸し前のフレッシュコンクリートについて行うことを原則とする。 測定の頻度は当初1回以後150m ³ を超えるごとに1回(端数切り上げ)行う。 4. 監督員の立会及び審査 監督員は、立会又は請負者の測定資料を審査し、塩化物含有量の確認を行う。 5. 測定方法 コンクリートの塩化物含有量の検査方法は、受渡当事者間の協議によって、適宜定め、[フレッシュコンクリート中の水

試験項目	試験方法	適用基準
		(2) コンクリート強度管理表の記入方法 ① 配合強度は、配合計算書より記入する。 ② 熟成度の記入 イ、6月から9月の間にコンクリートを打設し、 σ_{28} が9月末日までのものは、材令別コンクリート熟成度表(別表-3)・(別表-4)の20℃を適用し、この間気温の測定は必要ない。 ロ、10月以降に材令が σ_{28} に達する場合と、5月末までにコンクリートを打設する場合には、コンクリートの強度を材令別コンクリート熟成度表で補正する。(呼び強度×熟成度) ③ テストハンマーによる強度の測定 イ、品質管理のためにおこなうテストハンマーによる強度の測定は、反発硬度が測定できるときから σ_7 又は σ_{14} で行い、熟成度による強度の目標値以上の場合には、 σ_{28} 又は熟成日を測定し熟成度により強度の確認をする。 なお σ_7 又は σ_{14} で強度に達しない場合には σ_{14} 又は σ_{21} で測定し σ_{28} 又は熟成日で確認をする。 ④ 養生方法は、実施した方法を記入する。 材令別コンクリート熟成度表の σ_7 の熟成度は σ_{28} に対して45~50%程度であるが、標準養生の強度は60%、又テストハンマーによる過去の実績の平均値は57%程度であるため、 σ_7 の強度は σ_{28} の60%を管理目標として初期養生を行うものとする。
4) 非破壊試験	コンクリートテストハンマーにより行う	試験方法は、この基準の10)コンクリートテストハンマーによる測定方法によるものとし、1回の測定結果(X)は3測点の平均値とする。
5) 標準養生による供試体の曲げ試験	JIS A 1106	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき2回(午前・午後)の割で行う。なおテストピースは打設場所で採取し、1回につき原則として3個とする。
6) コアーによる圧縮強度試験	JIS A 1107	品質に異状が認められる場合に行う。
2. スランプ試験	JIS A 1101	強度試験用供試体採取時及び打ち込み中に品質の変化が認められたとき。 ただし道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクストコンクリートを用いる場合は原則として全車測定を行う。
3. 空気量の測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	強度試験用供試体採取時及び打ち込み中に品質の変化が認められたとき。
4. コンクリート中の塩化物総量規制 (参考:コンクリート 耐久性向上「レディー ミクストコンクリート」 (別表-5))	JIS A 5308	1. 適用範囲 鉄筋コンクリート構造物及び用心鉄筋等を有する無筋コンクリート構造物(仮設を除く) 2. 塩化物総量規制値 0.30kg/m ³ 以下 3. 測定 請負者の技術者が、工事現場において荷卸し前のフレッシュコンクリートについて行うことを原則とする。 測定の頻度は当初1回以後150m ³ を超えるごとに1回(端数切り上げ)行う。 4. 監督員の立会及び審査 監督員は、立会又は請負者の測定資料を審査し、塩化物含有量の確認を行う。 5. 測定方法 コンクリートの塩化物含有量の検査方法は、受渡当事者間の協議によって、適宜定め、[フレッシュコンクリート中の水

試験項目	試験方法	適用基準
		<p>の塩化物イオン濃度試験方法] によって試験を行う。</p> <p>6. 測定結果の記録及び措置 測定結果は、別紙「コンクリート中の塩化物含有量測定表」(様式-9)に記載し、測定中の写真とともに監督員に提出しなければならない。</p> <p>測定の結果規制値以下の場合は受け入れるものとし、規制値を越えた場合は受け入れを拒否し、次から搬入されるコンクリートからは毎回測定して、安定して規制値を下回るまで測定を継続する。</p>
5. アルカリ骨材反応抑制対策(土木構造物) (参考:コンクリート耐久性向上「レディーミクストコンクリート」(別表-5))	「骨材のアルカリシリカ反応性試験」は、JIS A 1145・1146(化学法、モルタルバー法)または、JIS A 5308(レディーミクストコンクリート)の付属書7(化学法)・付属書8(モルタルバー法)による。	<p>1. 適用範囲 レディーミクストコンクリート全般</p> <p>2. 抑制対策「セメントの選定等によるアルカリ骨材反応の抑制対策の方法」 次のいずれか1つの方法による対策を講じなければならない。</p> <p>(1) コンクリート中のアルカリ総量を抑制する場合 ア 試験成績表に示されたセメントの全アルカリ量の最大値のうち直近6ヶ月の最大値(Na₂O換算値%) / 100 × 単位セメント量(配合表に示された値kg/m³) + 0.53 × (骨材中のNaCl%) / 100 × (当該単位骨材量kg/m³) + 混和剤中のアルカリ総量が3.0kg/m³以下であることを計算で確かめる。 (防錆剤等多い混和剤を用いる場合も同じ) イ AE剤、AE減水剤等のように、使用量の少ない混和剤を用いる場合には、簡易的にセメントのアルカリ量だけを考慮して、セメントのアルカリ量×単位セメント量が2.5kg/m³以下であることを確かめればよいものとする。</p> <p>(2) 抑制効果のある混合セメントを使用する場合 ア JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメントB種(スラグ混合比40%以上)又はC種、もしくはJIS R 5213フライアッシュセメントB種(フライアッシュ混合比15%以上)又はC種であることを「セメント試験成績表」で確認する。 イ 混和材をポルトランドセメントに混入して対策する場合には、試験等によってアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたもの。</p> <p>(3) 安全と認められる骨材を使用する場合 ア 試験の頻度は、JIS A 1145(化学法)・JIS A 5308(付属書7:化学法)による場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月かつ産地がかわった場合に信頼できる試験機関[®]で行い、試験に用いる骨材の採取には請負者が立ち会うことを原則とする。 イ JIS A 1146(モルタルバー法)・JIS A 5308(付属書8:モルタルバー法)による骨材試験の結果を用いる場合には、試験成績表により確認するとともに、信頼できる試験機関[®]においてJIS A 1804「コンクリート生産工程管理用試験方法-アルカリシリカ反応試験方法(迅速法)」で骨材が無害であることを確認する。この場合試験に用いる骨材の採取には、請負者が立ち会うことを原則とする。 ウ フェロニッケル骨材、銅スラグ骨材等の人工骨材および石灰石については、試験成績表による確認を行う。 (注) 公的機関またはこれに準ずる機関(大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、その他信頼に値する民間試験機関、人工骨材については製造工場の試験成績表)</p> <p>3. 対策の確認 請負者及び監督員は、抑制対策について資料により確認を行い、確認困難なものは使用してはならない。</p>

試験項目	試験方法	適用基準
		<p>の塩化物イオン濃度試験方法] によって試験を行う。</p> <p>6. 測定結果の記録及び措置 測定結果は、別紙「コンクリート中の塩化物含有量測定表」(様式-9)に記載し、測定中の写真とともに監督員に提出しなければならない。</p> <p>測定の結果規制値以下の場合は受け入れるものとし、規制値を越えた場合は受け入れを拒否し、次から搬入されるコンクリートからは毎回測定して、安定して規制値を下回るまで測定を継続する。</p>
5. アルカリ骨材反応抑制対策(土木構造物) (参考:コンクリート耐久性向上「レディーミクストコンクリート」(別表-5))	「骨材のアルカリシリカ反応性試験」は、JIS A 1145・1146(化学法、モルタルバー法)または、JIS A 5308(レディーミクストコンクリート)による。	<p>1. 適用範囲 レディーミクストコンクリート全般</p> <p>2. 抑制対策「セメントの選定等によるアルカリ骨材反応の抑制対策の方法」 次のいずれか1つの方法による対策を講じなければならない。</p> <p>(1) コンクリート中のアルカリ総量を抑制する場合 ア 試験成績表に示されたセメントの全アルカリ量の最大値のうち直近6ヶ月の最大値(Na₂O換算値%) / 100 × 単位セメント量(配合表に示された値kg/m³) + 0.53 × (骨材中のNaCl%) / 100 × (当該単位骨材量kg/m³) + 混和剤中のアルカリ総量が3.0kg/m³以下であることを計算で確かめる。 (防錆剤等多い混和剤を用いる場合も同じ) イ AE剤、AE減水剤等のように、使用量の少ない混和剤を用いる場合には、簡易的にセメントのアルカリ量だけを考慮して、セメントのアルカリ量×単位セメント量が2.5kg/m³以下であることを確かめればよいものとする。</p> <p>(2) 抑制効果のある混合セメントを使用する場合 ア JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメントB種(スラグ混合比40%以上)又はC種、もしくはJIS R 5213フライアッシュセメントB種(フライアッシュ混合比15%以上)又はC種であることを「セメント試験成績表」で確認する。 イ 混和材をポルトランドセメントに混入して対策する場合には、試験等によってアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたもの。</p> <p>(3) 安全と認められる骨材を使用する場合 ア 試験の頻度は、JIS A 1145(化学法)・JIS A 5308(付属書7:化学法)による場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月かつ産地がかわった場合に信頼できる試験機関[®]で行い、試験に用いる骨材の採取には請負者が立ち会うことを原則とする。 イ JIS A 1146(モルタルバー法)・JIS A 5308(付属書8:モルタルバー法)による骨材試験の結果を用いる場合には、試験成績表により確認するとともに、信頼できる試験機関[®]においてJIS A 1804「コンクリート生産工程管理用試験方法-アルカリシリカ反応試験方法(迅速法)」で骨材が無害であることを確認する。この場合試験に用いる骨材の採取には、請負者が立ち会うことを原則とする。 ウ フェロニッケル骨材、銅スラグ骨材等の人工骨材および石灰石については、試験成績表による確認を行う。 (注) 公的機関またはこれに準ずる機関(大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、その他信頼に値する民間試験機関、人工骨材については製造工場の試験成績表)</p> <p>3. 対策の確認 請負者及び監督員は、抑制対策について資料により確認を行い、確認困難なものは使用してはならない。</p>

別表-2

「テストハンマーの圧縮強度換算表」

(N/mm²)

反発硬度 R	角度			反発硬度 R	角度		
	0° 5分以下	-45° 5分を超え 2割5分まで	-90° 2割5分を 超え水平まで		0° 5分以下	-45° 5分を超え 2割5分まで	-90° 2割5分を 超え水平まで
20	7.5	10.6	11.8	30.5	20.8	23.7	24.6
.5	8.1	11.2	12.4	31	21.5	24.3	25.3
21	8.7	11.8	13.0	.5	22.1	24.9	25.9
.5	9.4	12.5	13.6	32	22.8	25.5	26.5
22	10.0	13.1	14.2	.5	23.4	26.2	27.1
.5	10.6	13.7	14.8	33	24.0	26.8	27.7
23	11.3	14.3	15.4	.5	24.7	27.4	28.3
.5	11.9	15.0	16.1	34	25.3	28.0	28.9
24	12.6	15.6	16.7	.5	25.9	28.7	29.5
.5	13.2	16.2	17.3	35	26.6	29.3	30.2
25	13.8	16.8	17.9	.5	27.2	29.9	30.8
.5	14.5	17.4	18.5	36	27.9	30.5	31.4
26	15.1	18.1	19.1	.5	28.5	31.1	32.0
.5	15.7	18.7	19.7	37	29.1	31.8	32.6
27	16.4	19.3	20.3	.5	29.8	32.4	33.2
.5	17.0	19.9	21.0	38	30.4	33.0	33.8
28	17.7	20.6	21.6	.5	31.0	33.6	34.4
.5	18.3	21.2	22.2	39	31.7	34.3	35.1
29	18.9	21.8	22.8	.5	32.3	34.9	35.7
.5	19.6	22.4	23.4	40	33.0	35.5	36.3
30	20.2	23.0	24.0				

備考(1) 強度換算式 打撃角度

$$G = 9.80665 \times 10^{-2}$$

水平 (+0°) $F = G \times (-184 + 13.0R)$

下向 (-45°) $F = G \times (-146 + 12.7R)$

下向 (-90°) $F = G \times (-130 + 12.5R)$

別表-2

「テストハンマーの圧縮強度換算表」

(N/mm²)

反発硬度 R	角度			反発硬度 R	角度		
	0° 5分以下	-45° 5分を超え 2割5分まで	-90° 2割5分を 超え水平まで		0° 5分以下	-45° 5分を超え 2割5分まで	-90° 2割5分を 超え水平まで
20	7.5	10.6	11.8	30.5	20.8	23.7	24.6
.5	8.1	11.2	12.4	31	21.5	24.3	25.3
21	8.7	11.8	13.0	.5	22.1	24.9	25.9
.5	9.4	12.5	13.6	32	22.8	25.5	26.5
22	10.0	13.1	14.2	.5	23.4	26.2	27.1
.5	10.6	13.7	14.8	33	24.0	26.8	27.7
23	11.3	14.3	15.4	.5	24.7	27.4	28.3
.5	11.9	15.0	16.1	34	25.3	28.0	28.9
24	12.6	15.6	16.7	.5	25.9	28.7	29.5
.5	13.2	16.2	17.3	35	26.6	29.3	30.2
25	13.8	16.8	17.9	.5	27.2	29.9	30.8
.5	14.5	17.4	18.5	36	27.9	30.5	31.4
26	15.1	18.1	19.1	.5	28.5	31.1	32.0
.5	15.7	18.7	19.7	37	29.1	31.8	32.6
27	16.4	19.3	20.3	.5	29.8	32.4	33.2
.5	17.0	19.9	21.0	38	30.4	33.0	33.8
28	17.7	20.6	21.6	.5	31.0	33.6	34.4
.5	18.3	21.2	22.2	39	31.7	34.3	35.1
29	18.9	21.8	22.8	.5	32.3	34.9	35.7
.5	19.6	22.4	23.4	40	33.0	35.5	36.3
30	20.2	23.0	24.0				

備考(1) 強度換算式 打撃角度

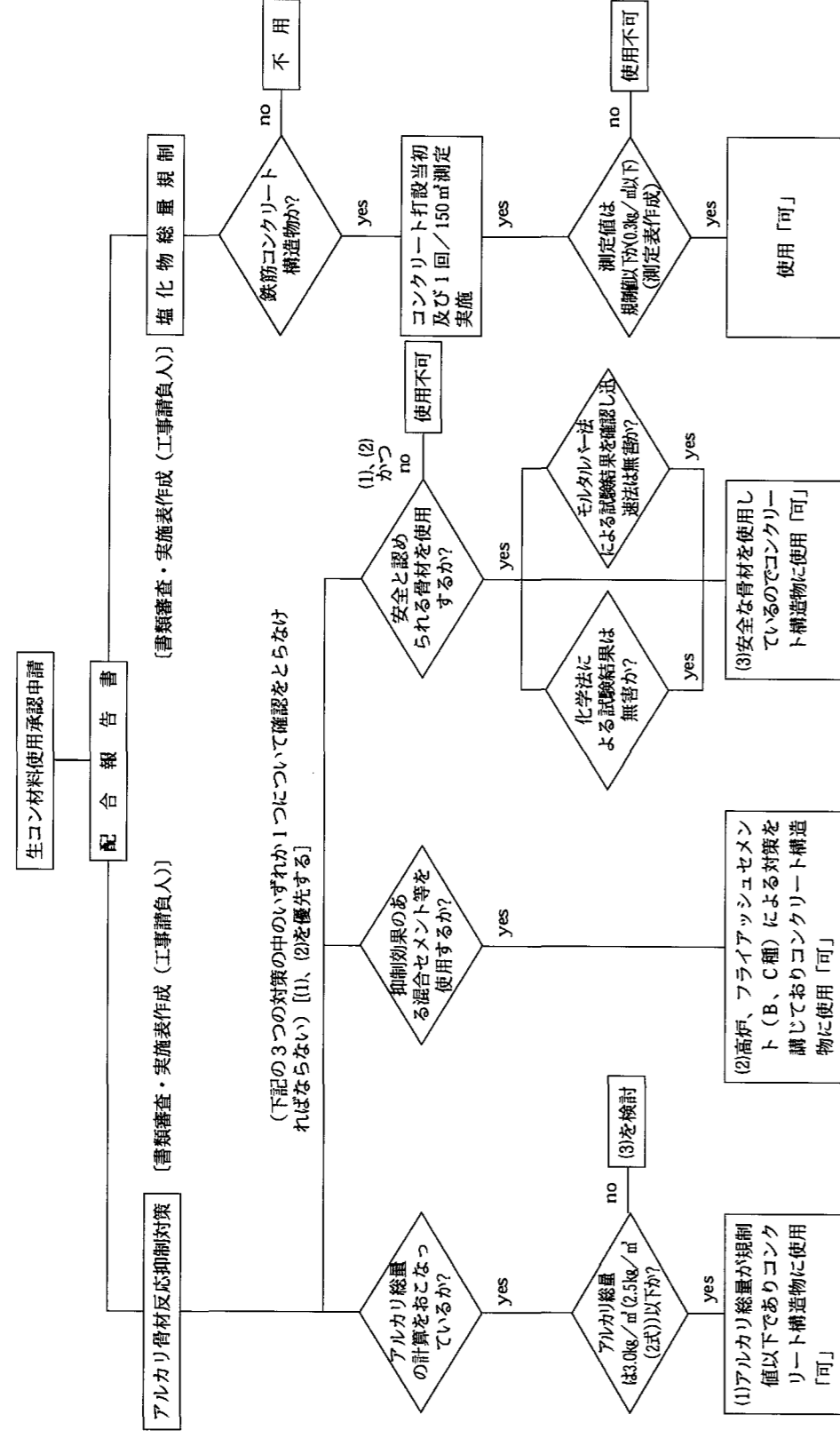
$$G = 9.80665 \times 10^{-2}$$

水平 (+0°) $F = G \times (-184 + 13.0R)$

下向 (-45°) $F = G \times (-146 + 12.7R)$

下向 (-90°) $F = G \times (-130 + 12.5R)$

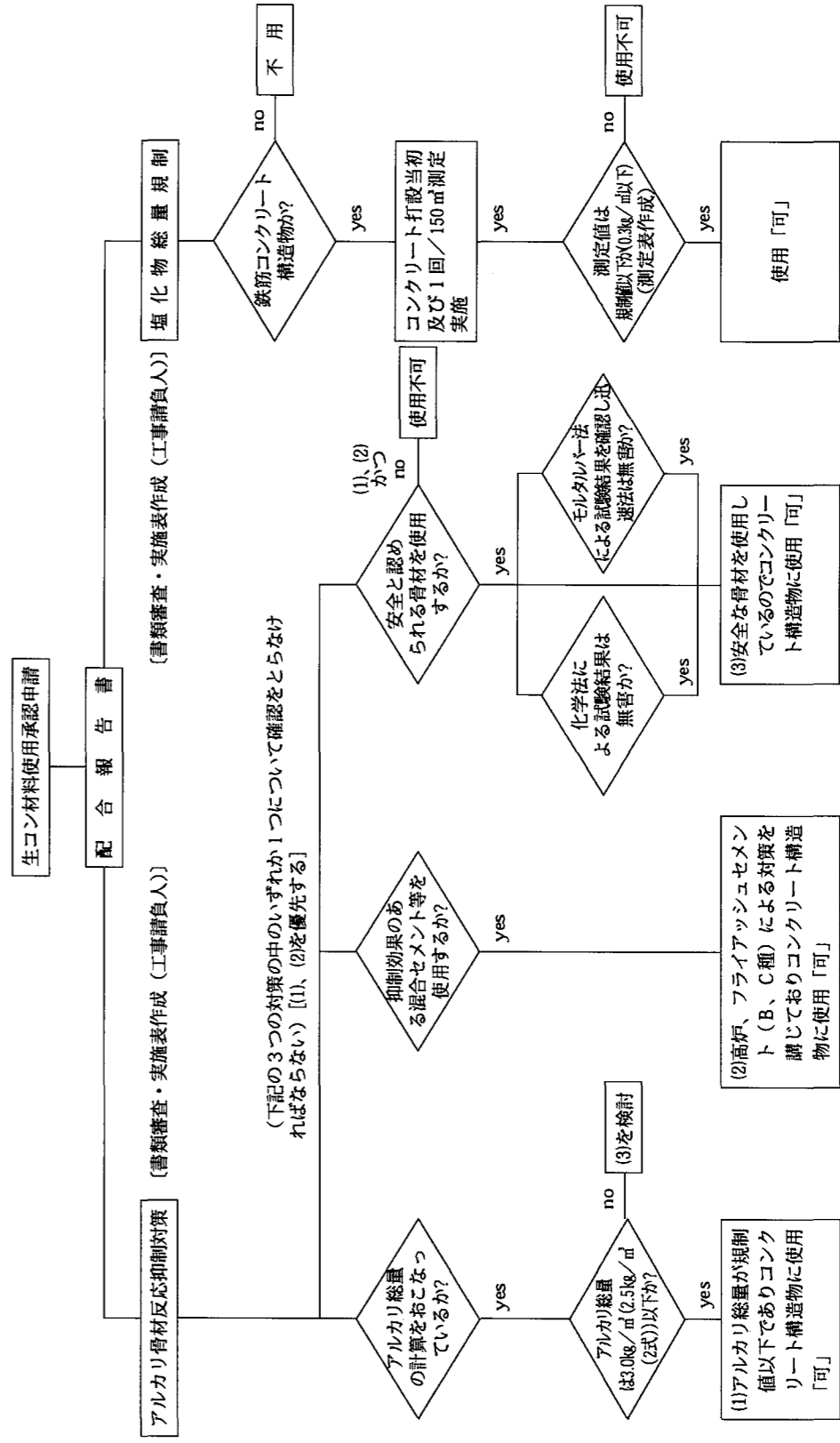
「生コンクリート耐久性向上（レディーミクスコンクリート）」



※1. 海水または潮風の影響を著しく受ける海岸付近及び外部から浸透する塩化物の影響を受ける箇所において、アルカリ骨材反応による損傷が構造物の安全性に重大な影響を及ぼすと考えられる場合 (③の対策をとったものは除く) には、塩分の浸透を防止するための塗装等の処置方法について事業室と協議しなければならぬ。

※2. ③を選択した場合、骨材の採取には請負者が立ち会うものとする。

「生コンクリート耐久性向上（レディーミクスコンクリート）」



※1. 海水または潮風の影響を著しく受ける海岸付近及び外部から浸透する塩化物の影響を受ける箇所において、アルカリ骨材反応による損傷が構造物の安全性に重大な影響を及ぼすと考えられる場合 (③の対策をとったものは除く) には、塩分の浸透を防止するための塗装等の処置方法について事業室と協議しなければならぬ。

※2. ③を選択した場合、骨材の採取には請負者が立ち会うものとする。

様式-1

レディーミクストコンクリート配合報告書										No.	
殿										平成 年 月 日	
製造会社名・工場名										配合計画者名	
工事名称											
所在地											
納入予定時期											
本配合の運用期間											
コンクリートの打込み箇所											
配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量		%					
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		(kg/m ³)					
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度		最高・最低 ℃					
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ^{a)}			水セメント比の上限値		%					
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の上限値		kg/m ³					
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の下限值又は上限値		kg/m ³					
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランプ増大量		cm					
	塩化物含有量			kg/m ³ 以下							
	呼び強度を保証する材齢			日							
使用材料 ^{b)}											
セメント	生産者名		密度 (g/cm ³)		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
混和材	製品名		種類		密度 (g/cm ³)		Na ₂ Oeq ^{c)} %				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ^{d)}	粒の大きさの範囲 ^{e)}	粗粒率又は実積率 ^{f)}	密度 (g/cm ³)				
							絶 乾 表 乾				
							①	②	③	①	②
粗骨材	①										
粗骨材	②										
粗骨材	③										
混和材①	製品名		種類		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
混和材②	製品名		種類		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
細骨材の塩化物量 ^{g)}				%		水の区分					
配合表 (kg/m ³) ^{h)}											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和材①	混和材②	
セメント比		%		水結合材比 ⁱ⁾		%		細骨材率		%	
備考											

様式-1

レディーミクストコンクリート配合報告書										No.	
殿										平成 年 月 日	
製造会社名・工場名										配合計画者名	
工事名称											
所在地											
納入予定時期											
本配合の運用期間											
コンクリートの打込み箇所											
配合の設計条件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量		%					
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		(kg/m ³)					
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度		最高・最低 ℃					
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ^{a)}			水セメント比の上限値		%					
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の上限値		kg/m ³					
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の下限值又は上限値		kg/m ³					
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランプ増大量		cm					
	塩化物含有量			kg/m ³ 以下							
	呼び強度を保証する材齢			日							
使用材料 ^{b)}											
セメント	生産者名		密度 (g/cm ³)		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
混和材	製品名		種類		密度 (g/cm ³)		Na ₂ Oeq ^{c)} %				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ^{d)}	粒の大きさの範囲 ^{e)}	粗粒率又は実積率 ^{f)}	密度 (g/cm ³)				
							絶 乾 表 乾				
							①	②	③	①	②
粗骨材	①										
粗骨材	②										
粗骨材	③										
混和材①	製品名		種類		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
混和材②	製品名		種類		Na ₂ Oeq ^{c)} %						
細骨材の塩化物量 ^{g)}				%		水の区分					
配合表 (kg/m ³) ^{h)}											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和材①	混和材②	
セメント比		%		水結合材比 ⁱ⁾		%		細骨材率		%	
備考											

レディーミクストコンクリート取扱基準

(別表)

アルカリ総量の計算表 ^㉞			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rc Rc=(単位セメント量 kg/m ³)×(セメント中の全アルカリ量Na ₂ Oeq: %/100)	①=Rc		
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Ra Ra=(単位混和材量 kg/m ³)×(混和材中の全アルカリ量: %/100)	②=Ra		
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rs Rs=(単位骨材量 kg/m ³)×(骨材中の全アルカリ量: %/100)	③=Rs		
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rm Rm=(単位混和剤量 kg/m ³)×(混和剤中の全アルカリ量: %/100)	④=Rm		
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rp Rp=(単位流動化剤量 kg/m ³)×(流動化剤中の全アルカリ量: %/100)	⑤=Rp		
コンクリート中のアルカリ総量 (kg/m ³) Rt Rt=①+②+③+④+⑤	Rt	3.0kg/m ³ 以下	適・否

- 注07 付属書2表1の記号欄の記載事項をそのまま記入する。
 08 配合設計に用いた材料について記入する。
 09 ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に示されている全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
 20 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。
 21 アルカリシリカ反応性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。
 22 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材及び人工軽量骨材では粒の大きさの範囲を、砂では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、碎石、スラグ骨材及び人工軽量骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
 23 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗粒率の値を記入する。
 24 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
 25 最新版の骨材試験成績表の値を記入する。
 26 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。
 27 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。
 28 コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ(別表)に記入する。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番(210mm×297mm)とする。

レディーミクストコンクリート取扱基準

(別表)

アルカリ総量の計算表 ^㉞			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rc Rc=(単位セメント量 kg/m ³)×(セメント中の全アルカリ量Na ₂ Oeq: %/100)	①=Rc		
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Ra Ra=(単位混和材量 kg/m ³)×(混和材中の全アルカリ量: %/100)	②=Ra		
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rs Rs=(単位骨材量 kg/m ³)×(骨材中の全アルカリ量: %/100)	③=Rs		
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rm Rm=(単位混和剤量 kg/m ³)×(混和剤中の全アルカリ量: %/100)	④=Rm		
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量 (kg/m ³) Rp Rp=(単位流動化剤量 kg/m ³)×(流動化剤中の全アルカリ量: %/100)	⑤=Rp		
コンクリート中のアルカリ総量 (kg/m ³) Rt Rt=①+②+③+④+⑤	Rt	3.0kg/m ³ 以下	適・否

- 注07 付属書2表1の記号欄の記載事項をそのまま記入する。
 08 配合設計に用いた材料について記入する。
 09 ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に示されている全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。
 20 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。
 21 アルカリシリカ反応性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。
 22 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材及び人工軽量骨材では粒の大きさの範囲を、砂では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、碎石、スラグ骨材及び人工軽量骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。
 23 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗粒率の値を記入する。
 24 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。
 25 最新版の骨材試験成績表の値を記入する。
 26 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。
 27 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。
 28 コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ(別表)に記入する。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番(210mm×297mm)とする。

様式-2

配合計算書

計算条件	記号名	計算方法																																								
(1) 配合強度 (m) を求める $m \geq SL + 2.5\sigma$	SL = 呼び強度 *σ = 標準偏差 (N/mm ²) *当工場の実績による	$+2.5 \times \quad = \quad N/mm^2$																																								
(2) 水セメント比 (w/c) を求める当工場実験式 $m = \quad + \quad c/w$	m = 配合強度 c/w = セメント水比 $w/c = \frac{1}{c/w}$	$w/c = \frac{1}{\quad} \times 100 \quad \%$ 故に w/c = \quad % とする																																								
(3) 単位水量 (W) 及び粗骨材の絶対容積 (GV) を求める 当工場の実績による 水セメント比 (w/c) % スランプ cm 粗骨材の最大寸法 mm		W = \quad kg/m ³ GV = \quad l/m ³																																								
(4) 単位セメント量 (C) を求める $C = \frac{w}{w/c \times 1/100}$	W = 単位水量 w/c = 水セメント比	$C = \frac{\quad}{\quad} = \quad$ kg/m ³																																								
(5) 細骨材の絶対容積 (SV) を求める $SV = 1000 - (W + c/c\rho + GV + \frac{A}{100} \times 1000)$	cp = セメントの比重 A = 空気量	$SV = 1000 - (\quad + \quad + \quad + \frac{\quad}{100} \times 1000) = \quad$ l/m ³																																								
(6) 単位骨材量 (G) (S) を求める $GV \times G\rho$ $SV \times S\rho$	G = 単位粗骨材料 S = 単位細骨材料 Gρ = 粗骨材の比重 Sρ = 細骨材の比重	G = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³ S = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(7) 細骨材率 (s/a) を求める $s/a = \frac{SV}{SV + GV} \times 100$		$s/a = \frac{\quad}{\quad + \quad} \times 100 \quad \%$																																								
(8) 単位混和剤量を求める 混入割合は単位セメント量に対して % とする	使用混和剤名 A E 剤 A E 減水剤	混和剤 = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(9) 単位混和材量を求める 混入割合は単位セメント量に対して % とする	使用混和材名	混和材 = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(10) 配合表	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び強度 (SL)</th> <th rowspan="2">スランプ (cm)</th> <th rowspan="2">粗骨材の最大粒径 (mm)</th> <th rowspan="2">空気量 (%)</th> <th rowspan="2">水セメント比 (%)</th> <th rowspan="2">細骨材率 (%)</th> <th colspan="6">単 位 量 (kg/m³)</th> </tr> <tr> <th>セメント (C)</th> <th>水 (W)</th> <th>細骨材 (S)</th> <th>粗骨材 (G)</th> <th>混和剤 ()</th> <th>混和材 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>											呼び強度 (SL)	スランプ (cm)	粗骨材の最大粒径 (mm)	空気量 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)						セメント (C)	水 (W)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)	混和剤 ()	混和材 ()													
呼び強度 (SL)	スランプ (cm)	粗骨材の最大粒径 (mm)	空気量 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)																																				
						セメント (C)	水 (W)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)	混和剤 ()	混和材 ()																															

様式-2

配合計算書

計算条件	記号名	計算方法																																								
(1) 配合強度 (m) を求める $m \geq SL + 2.5\sigma$	SL = 呼び強度 *σ = 標準偏差 (N/mm ²) *当工場の実績による	$+2.5 \times \quad = \quad N/mm^2$																																								
(2) 水セメント比 (w/c) を求める当工場実験式 $m = \quad + \quad c/w$	m = 配合強度 c/w = セメント水比 $w/c = \frac{1}{c/w}$	$w/c = \frac{1}{\quad} \times 100 \quad \%$ 故に w/c = \quad % とする																																								
(3) 単位水量 (W) 及び粗骨材の絶対容積 (GV) を求める 当工場の実績による 水セメント比 (w/c) % スランプ cm 粗骨材の最大寸法 mm		W = \quad kg/m ³ GV = \quad l/m ³																																								
(4) 単位セメント量 (C) を求める $C = \frac{w}{w/c \times 1/100}$	W = 単位水量 w/c = 水セメント比	$C = \frac{\quad}{\quad} = \quad$ kg/m ³																																								
(5) 細骨材の絶対容積 (SV) を求める $SV = 1000 - (W + c/c\rho + GV + \frac{A}{100} \times 1000)$	cp = セメントの比重 A = 空気量	$SV = 1000 - (\quad + \quad + \quad + \frac{\quad}{100} \times 1000) = \quad$ l/m ³																																								
(6) 単位骨材量 (G) (S) を求める $GV \times G\rho$ $SV \times S\rho$	G = 単位粗骨材料 S = 単位細骨材料 Gρ = 粗骨材の比重 Sρ = 細骨材の比重	G = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³ S = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(7) 細骨材率 (s/a) を求める $s/a = \frac{SV}{SV + GV} \times 100$		$s/a = \frac{\quad}{\quad + \quad} \times 100 \quad \%$																																								
(8) 単位混和剤量を求める 混入割合は単位セメント量に対して % とする	使用混和剤名 A E 剤 A E 減水剤	混和剤 = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(9) 単位混和材量を求める 混入割合は単位セメント量に対して % とする	使用混和材名	混和材 = $\quad \times \quad = \quad$ kg/m ³																																								
(10) 配合表	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び強度 (SL)</th> <th rowspan="2">スランプ (cm)</th> <th rowspan="2">粗骨材の最大粒径 (mm)</th> <th rowspan="2">空気量 (%)</th> <th rowspan="2">水セメント比 (%)</th> <th rowspan="2">細骨材率 (%)</th> <th colspan="6">単 位 量 (kg/m³)</th> </tr> <tr> <th>セメント (C)</th> <th>水 (W)</th> <th>細骨材 (S)</th> <th>粗骨材 (G)</th> <th>混和剤 ()</th> <th>混和材 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>											呼び強度 (SL)	スランプ (cm)	粗骨材の最大粒径 (mm)	空気量 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)						セメント (C)	水 (W)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)	混和剤 ()	混和材 ()													
呼び強度 (SL)	スランプ (cm)	粗骨材の最大粒径 (mm)	空気量 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)																																				
						セメント (C)	水 (W)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)	混和剤 ()	混和材 ()																															

様式-3

骨材試験成績表

平成 年 月 日

項目	種類			ふるい分試験 (通過率%)			
	細骨材	粗骨材	粗骨材	ふるい分試験 (通過率%)			
品 種 産 地				品 種	細骨材	粗骨材 (25)	粗骨材 (40)
最 大 寸 法 (mm)	5	25	40	ふるい(mm)			
比 重	絶 乾			50	-	-	
	表 乾			40	-	-	
吸 水 率 (%)				30	-		
単 位 容 積 質 量 (kg/l)				25	-		
実 績 率 (%)				20	-		
洗 試 験 で 失 わ れ る 量 (%)				15	-		
有 機 不 純 物		-	-	10			
粘 土 塊 (%)				5			
塩 分 含 有 量 (%)		-	-	2.5			
軟 かい 石 片 (%)	-			1.2			
比 重 1.95 の 液 体 に 浮 く も の (%)				0.6			
安 定 性 (%)				0.3			
す り へ り (%)	-			0.15			
				粗粒率 (F・M)			

粒 度 曲 線

ふるい目の寸法 (mm)

注 ふるいの呼び寸法は、それぞれJIS Z 8801に規定する網ふるい53mm、37.5mm、31.5mm、26.5mm、19mm、16mm、9.5mm、4.75mm、2.36mm、1.18mm、600μm、300μm、及び150μmである。

	試験担当者 氏名印
--	--------------

様式-3

骨材試験成績表

平成 年 月 日

項目	種類			ふるい分試験 (通過率%)			
	細骨材	粗骨材	粗骨材	ふるい分試験 (通過率%)			
品 種 産 地				品 種	細骨材	粗骨材 (25)	粗骨材 (40)
最 大 寸 法 (mm)	5	25	40	ふるい(mm)			
比 重	絶 乾			50	-	-	
	表 乾			40	-	-	
吸 水 率 (%)				30	-		
単 位 容 積 質 量 (kg/l)				25	-		
実 績 率 (%)				20	-		
洗 試 験 で 失 わ れ る 量 (%)				15	-		
有 機 不 純 物		-	-	10			
粘 土 塊 (%)				5			
塩 分 含 有 量 (%)		-	-	2.5			
安 定 性 (%)				1.2			
す り へ り (%)	-			0.6			
				0.3			
				0.15			
				粗粒率 (F・M)			

粒 度 曲 線

ふるい目の寸法 (mm)

注 ふるいの呼び寸法は、それぞれJIS Z 8801に規定する網ふるい53mm、37.5mm、31.5mm、26.5mm、19mm、16mm、9.5mm、4.75mm、2.36mm、1.18mm、600μm、300μm、及び150μmである。

	試験担当者 氏名印
--	--------------

様式-4

レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書

殿

工事名称

工場名

指定事項

呼び強度	スランブ	空気量	粗骨材の最大寸法		
	cm	%	mm		

試験成績

供試体番号	採取月日	試験月日	材令(日)	スランブ(cm)	空気量(%)	供試体寸法(cm)	最大荷重(N/mm ²)	強度(N/mm ²)	平均強度(N/mm ²)	養生方法

記事 打設箇所

試験担当者
氏名印

注：試験方法は JIS A 1108 による。

様式-4

レディーミクストコンクリート強度試験成績報告書

殿

工事名称

工場名

指定事項

呼び強度	スランブ	空気量	粗骨材の最大寸法		
	cm	%	mm		

試験成績

供試体番号	採取月日	試験月日	材令(日)	スランブ(cm)	空気量(%)	供試体寸法(cm)	最大荷重(N/mm ²)	強度(N/mm ²)	平均強度(N/mm ²)	養生方法

記事 打設箇所

試験担当者
氏名印

注：試験方法は JIS A 1108 による。

様式-5

コンクリート強度検査報告書 平成 年 月 日 殿 工場名								
工 事 名								
呼 び 方	JIS品・JIS 外品の区分	骨材の種類 による区分	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法 による区分	セメント種類 による区分		
		普通 軽量種						
指 定 事 項								
検 査 ロ ッ ト								
採取 月日	試験 月日	材令 (日)	供試体 番 号	スランプ (cm)	空 気 量 (%)	強 度 (N/mm ²)	平均強度 (N/mm ²)	摘 要
/	/							
/	/							
/	/							
								試験担当者 氏 名 印

様式-5-1

コンクリート品質管理報告書 平成 年 月 日 殿 受注者名						
工 事 名						
呼 び 方	JIS品・JIS 外品の区分	骨材の種類 による区分	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法 による区分	セメント種類 による区分
		普通 軽量種				
指 定 事 項						
採取 月日	スランプ (cm)		空 気 量 (%)		摘 要	
/						
/						
/						
					試験担当者 氏 名	

様式-5-2

コンクリート強度検査報告書						
						平成 年 月 日
_____ 殿 工場名						
呼び方	JIS品・JIS 外品の区分		骨材の種類による区分	呼び強度	粗骨材の最大寸法による区分	セメント種類による区分
			普通 軽量種			
指 定 事 項						
検 査 ロ ッ ト						
採取月日	試験月日	材 令 (日)	供 試 体 番 号	強 度 (N/mm ²)	平均強度 (N/mm ²)	摘 要
/	/					
/	/					
/	/					
						試験担当者 氏 名

コンクリート強度管理表

建設工事名 町字 請負者
市 村
施工箇所

Table with columns for No, 部測点又は位置, 打設年月日, 材令 O1, O2, O3, O4, O5, O6, O7, O8, O9, O10, O11, O12, O13, O14, O15, O16, O17, O18, O19, O20, O21, O22, O23, O24, O25, O26, O27, O28, O29, O30, O31, O32, O33, O34, O35, O36, O37, O38, O39, O40, O41, O42, O43, O44, O45, O46, O47, O48, O49, O50, O51, O52, O53, O54, O55, O56, O57, O58, O59, O60, O61, O62, O63, O64, O65, O66, O67, O68, O69, O70, O71, O72, O73, O74, O75, O76, O77, O78, O79, O80, O81, O82, O83, O84, O85, O86, O87, O88, O89, O90, O91, O92, O93, O94, O95, O96, O97, O98, O99, O100. Each cell contains fields for material type, average strength, and maturity.

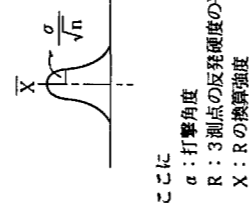
1. 配合強度

m = SL + 2.5σ, σ =
a =
SL = m - 2.5σ, SU = m + 2.5σ
ここに m: 配合強度
σ: 配合強度を定めるための標準偏差
SL: 下限規格値 (呼び強度)
SU: 上限規格値

2. 熟成強度

m' = m × %
SL' = SL × % | SU' = SU × %
ここに: %: 熟成度

3. テストハンマー強度



4. 養生

材令 O_i の強度は O₁₀ の強度の 60% を目標に初期養生を行う。
1) コンクリートの露出面を保護したか。ハイ イイエ
ハイと答えた時は養生方法及び日数を記入する。
2) コンクリートの硬化中に保温したか。ハイ イイエ
ハイと答えたときは保温温度を記入する。
3) コンクリートの硬化中に湿気を与えたか。ハイ イイエ
ハイと答えたときは日数及び回数記入する。
ハイ イイエ
日数 回/日

コンクリート強度管理表

建設工事名 町字 請負者
市 村
施工箇所

Table with columns for No, 部測点又は位置, 打設年月日, 材令 O1, O2, O3, O4, O5, O6, O7, O8, O9, O10, O11, O12, O13, O14, O15, O16, O17, O18, O19, O20, O21, O22, O23, O24, O25, O26, O27, O28, O29, O30, O31, O32, O33, O34, O35, O36, O37, O38, O39, O40, O41, O42, O43, O44, O45, O46, O47, O48, O49, O50, O51, O52, O53, O54, O55, O56, O57, O58, O59, O60, O61, O62, O63, O64, O65, O66, O67, O68, O69, O70, O71, O72, O73, O74, O75, O76, O77, O78, O79, O80, O81, O82, O83, O84, O85, O86, O87, O88, O89, O90, O91, O92, O93, O94, O95, O96, O97, O98, O99, O100. Each cell contains fields for material type, average strength, and maturity.

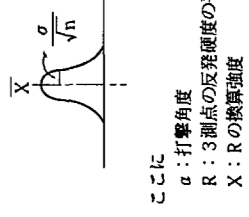
1. 配合強度

m = SL + 2.5σ, σ =
a =
SL = m - 2.5σ, SU = m + 2.5σ
ここに m: 配合強度
σ: 配合強度を定めるための標準偏差
SL: 下限規格値 (呼び強度)
SU: 上限規格値

2. 熟成強度

m' = m × %
SL' = SL × % | SU' = SU × %
ここに: %: 熟成度

3. テストハンマー強度



4. 養生

材令 O_i の強度は O₁₀ の強度の 60% を目標に初期養生を行う。
1) コンクリートの露出面を保護したか。ハイ イイエ
ハイと答えた時は養生方法及び日数を記入する。
2) コンクリートの硬化中に保温したか。ハイ イイエ
ハイと答えたときは保温温度を記入する。
3) コンクリートの硬化中に湿気を与えたか。ハイ イイエ
ハイと答えたときは日数及び回数記入する。
ハイ イイエ
日数 回/日

気温及びコンクリート打設記録表

項目	日	(年 月分)																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
温 測 定	最高																																			
	最低																																			
	平均																																			
コ ン ク リ ー ト 打 設 記 録	1																																			
	2																																			
	3																																			
	4																																			
	5																																			
	6																																			
	7																																			
温 測 定	最高																																			
	最低																																			
	平均																																			
コ ン ク リ ー ト 打 設 記 録	1																																			
	2																																			
	3																																			
	4																																			
	5																																			
	6																																			
	7																																			
温 測 定	最高																																			
	最低																																			
	平均																																			
コ ン ク リ ー ト 打 設 記 録	1																																			
	2																																			
	3																																			
	4																																			
	5																																			
	6																																			
	7																																			

注：打設日が連続して多くなるような場合で本表により難しい場合は、本表に準じて作成すること。

気温及びコンクリート打設記録表

項目	日	(年 月分)																																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
温 測 定	最高																																				
	最低																																				
	平均																																				
コ ン ク リ ー ト 打 設 記 録	1																																				
	2																																				
	3																																				
	4																																				
	5																																				
	6																																				
	7																																				
温 測 定	最高																																				
	最低																																				
	平均																																				
コ ン ク リ ー ト 打 設 記 録	1																																				
	2																																				
	3																																				
	4																																				
	5																																				
	6																																				
	7																																				

注：打設日が連続して多くなるような場合で本表により難しい場合は、本表に準じて作成すること。

コンクリートテスタハンマーによる強度試験結果表

建設工事名	工事番号	測定年月日	測定者	テストハンマーNo.	検定年月日	検定値	天候			工場の種類		工場名												
							晴	曇	雨	JIS	非JIS													
													強度											
部材名・測点等	下限規格値 SL	配強 m	合度	上限規格値 SU	令材 (日)	熟成度 (%)	SL・%	m・%	SU・%	反発値														
							0°	度																
								発 値																
	反												0°	-45°	-90°									
								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R				
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								

注1. 測定にあたっては、コンクリートテスタハンマーによる測定方法による。記入にあたっては天候、工場の種類、構造物の状況は当該箇所を○で囲むこと。

コンクリートテスタハンマーによる強度試験結果表

建設工事名	工事番号	測定年月日	測定者	テストハンマーNo.	検定年月日	検定値	天候			工場の種類		工場名												
							晴	曇	雨	JIS	非JIS													
													強度											
部材名・測点等	下限規格値 SL	配強 m	合度	上限規格値 SU	令材 (日)	熟成度 (%)	SL・%	m・%	SU・%	反発値														
							0°	度																
								発 値																
	反												0°	-45°	-90°									
								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R				
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								
								日	当	日	影	乾	燥	湿	潤	R=								

注1. 測定にあたっては、コンクリートテスタハンマーによる測定方法による。記入にあたっては天候、工場の種類、構造物の状況は当該箇所を○で囲むこと。

様式-9

コンクリート中の塩化物含有量測定表

No.

工 事 名			
請 負 業 者 名			
現 場 代 理 人		主 任 技 術 者	
測 定 者 氏 名			
立 会 者 氏 名 (監督員)			
測 定 年 月 日		時 刻	
工 種			
コンクリートの種類			
コンクリート製造会社			
納 入 書 番 号			
混 和 剤 の 種 類		m ³ 当り使用量	
セメントの種類		同	
細骨材の生産地		同	
測 定 機 器 名			
測 定 番 号	測 定 値 (%)	塩化物含有量(kg/m ³)	備 考
①			
②			
③			
計			
平 均 値			
記 事			

注) 塩化物含有濃度を(%)で測定した場合は、次式で塩化物含有量を求める。

$$\text{塩化物含有量 (kg/m}^3\text{ : Cl}^- \text{重量換算)} = \text{補正係数} \times \text{単位水量 (kg/m}^3\text{)} / 100$$

様式-9

コンクリート中の塩化物含有量測定表

No.

工 事 名			
請 負 業 者 名			
現 場 代 理 人		主 任 技 術 者	
測 定 者 氏 名			
立 会 者 氏 名 (監督員)			
測 定 年 月 日		時 刻	
工 種			
コンクリートの種類			
コンクリート製造会社			
納 入 書 番 号			
混 和 剤 の 種 類		m ³ 当り使用量	
セメントの種類		同	
細骨材の生産地		同	
測 定 機 器 名			
測 定 番 号	測 定 値 (%)	塩化物含有量(kg/m ³)	備 考
①			
②			
③			
計			
平 均 値			
記 事			

注) 塩化物含有濃度を(%)で測定した場合は、次式で塩化物含有量を求める。

$$\text{塩化物含有量 (kg/m}^3\text{ : Cl}^- \text{重量換算)} = \text{補正係数} \times \text{単位水量 (kg/m}^3\text{)} / 100$$

セメントコンクリート製品取扱基準

1. 適用範囲

この基準は土木共通仕様書第2編第2章第7節セメントコンクリート製品に掲げるJIS製品の他、JIS製品以外のセメントコンクリート製品に適用する。

2. セメントコンクリート

JIS規格製品及びJIS規格外製品それぞれの品質規定の他、「コンクリート耐久性向上」として、次による対策を講じた製品でなければならない。

(1) コンクリート中の塩化物総量規制

ア 鉄筋コンクリート製品（鉄網を含む）に適用する。

イ 塩化物総量規制値

全塩化物イオンは、 $0.30\text{kg}/\text{m}^3$ （Cl重量）

ウ 塩化物総量測定

製造工場が定期的に行う社内測定による。

エ 測定記録の審査

監督員の材料承認及び材料検査における製造管理データの審査において測定結果を確認する。

オ 測定器具及び測定方法

(ア) 器具は「(財) 国土開発技術研究センター」の評価をうけたものとする。

(イ) 測定方法は「まだ固まらないコンクリートの資料採取方法（JIS A 1115）」により採取し、資料を充分攪拌し、測定の必要量を採分して3回測定した平均値を求める。

(ウ) 含有量の計算

使用器具の仕様による含有量を求める。

(エ) 測定結果の記録

測定結果の記録は材料承認及び材料検査資料に添付しなければならない。

(2) アルカリ骨材反応抑制対策

ア コンクリート製品全般に適用する。

イ 抑制対策は次のいずれか1つの方法による対策を講じなければならない。

(ア) コンクリート中のアルカリ総量を抑制する場合

a 試験成績表に示されたセメントの全アルカリ量の最大値のうち直近6ヶ月の最大の値（ Na_2O 換算値%） $\div 100 \times$ 単位セメント量（配合表に示された値 kg/m^3 ） $+ 0.53 \times$ （骨材中の NaCl %） $\div 100 \times$ （当該単位骨材量 kg/m^3 ） $+ 混和剤中のアルカリ総量が$ $3.0\text{kg}/\text{m}^3$ 以下であることを計算で確かめる。

（防錆剤等多い混和剤を用いる場合も同じ）

b A E剤、A E減水剤等のように、使用量の少ない混和剤を用いる場合には、簡易的にセメントのアルカリ量だけを考慮して、セメントのアルカリ量 \times 単位セメント量が $2.5\text{kg}/\text{m}^3$ 以下であることを確かめればよいものとする。

(イ) 抑制効果のある混合セメントを使用する場合

a JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメントB種（スラグ混合比40%以上）又はC種、も

セメントコンクリート製品取扱基準

1. 適用範囲

この基準は土木共通仕様書第2編第2章第7節セメントコンクリート製品に掲げるJIS製品の他、JIS製品以外のセメントコンクリート製品に適用する。

2. セメントコンクリート

JIS規格製品及びJIS規格外製品それぞれの品質規定の他、「コンクリート耐久性向上」として、次による対策を講じた製品でなければならない。

(1) コンクリート中の塩化物総量規制

ア 鉄筋コンクリート製品（鉄網を含む）に適用する。

イ 塩化物総量規制値

全塩化物イオンは、 $0.30\text{kg}/\text{m}^3$ （Cl重量）

ウ 塩化物総量測定

製造工場が定期的に行う社内測定による。

エ 測定記録の審査

監督員の材料承認及び材料検査における製造管理データの審査において測定結果を確認する。

オ 測定器具及び測定方法

(ア) 器具は「(財) 国土開発技術研究センター」の評価をうけたものとする。

(イ) 測定方法は「まだ固まらないコンクリートの資料採取方法（JIS A 1115）」により採取し、資料を充分攪拌し、測定の必要量を採分して3回測定した平均値を求める。

(ウ) 含有量の計算

使用器具の仕様による含有量を求める。

(エ) 測定結果の記録

測定結果の記録は材料承認及び材料検査資料に添付しなければならない。

(2) アルカリ骨材反応抑制対策

ア コンクリート製品全般に適用する。

イ 抑制対策は次のいずれか1つの方法による対策を講じなければならない。

(ア) コンクリート中のアルカリ総量を抑制する場合

a 試験成績表に示されたセメントの全アルカリ量の最大値のうち直近6ヶ月の最大の値（ Na_2O 換算値%） $\div 100 \times$ 単位セメント量（配合表に示された値 kg/m^3 ） $+ 0.53 \times$ （骨材中の NaCl %） $\div 100 \times$ （当該単位骨材量 kg/m^3 ） $+ 混和剤中のアルカリ総量が$ $3.0\text{kg}/\text{m}^3$ 以下であることを計算で確かめる。

（防錆剤等多い混和剤を用いる場合も同じ）

b A E剤、A E減水剤等のように、使用量の少ない混和剤を用いる場合には、簡易的にセメントのアルカリ量だけを考慮して、セメントのアルカリ量 \times 単位セメント量が $2.5\text{kg}/\text{m}^3$ 以下であることを確かめればよいものとする。

(イ) 抑制効果のある混合セメントを使用する場合

a JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメントB種（スラグ混合比40%以上）又はC種、も

セメントコンクリート製品取扱基準

しくはJIS R 5213フライアッシュセメントB種（フライアッシュ混合比15%以上）又はC種であることを「セメント試験成績表」で確認する。

b 混和材をポルトランドセメントに混入して対策する場合には、試験等によってアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたもの。

(ウ) 安全と認められる骨材を使用する場合

a 試験の頻度は、JIS A 1145（化学法）・JIS A 5308（付属書7：化学法）による場合は、工事開始前、工事中1回／6ヶ月かつ産地がかわった場合に信頼できる試験機関[㊦]で行い、試験に用いる骨材の採取には請負者が立ち会うことを原則とする。

b JIS A 1146（モルタルバー法）・JIS A 5308（付属書8：モルタルバー法）による骨材試験の結果を用いる場合には、試験成績表により確認するとともに、信頼できる試験機関[㊦]においてJIS A 1804「コンクリート生産工程管理用試験方法—アルカリシリカ反応試験方法（迅速法）」で骨材が無害であることを確認する。この場合試験に用いる骨材の採取には、請負者が立ち会うことを原則とする。

c フェロニッケル骨材、銅スラグ骨材等の人工骨材および石灰石については、試験成績表による確認を行う。

㊦公的機関またはこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、その他信頼に値する民間試験機関、人工骨材については製造工場の試験成績表）

(3) 対策の確認

請負者及び監督員は、抑制対策について資料により確認を行い、確認困難なものは使用してはならない。

3. 製品検査等手続（申請～承認）

(1) 検査対象

ア プレキャスト無筋コンクリート製品 積みブロック

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5371—付属書5の規格品を除く）

イ U型側溝用溝蓋

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5345の規格品を除く）

ウ I型コンクリートブロック

エ プレキャスト無筋コンクリート製品 道路用境界ブロック

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5371—付属書4の規格品を除く）

オ インターロッキングブロック

(2) 検査申請

ア 各土木事務所管内に製造工場をもつ事業所より年度当初に所轄土木事務所宛申請するものとする。なお、年度途中において新規に製造する製品の検査申請もこれに準じ申請するものとする。

イ 申請書は「セメントコンクリート製品使用承認申請書」（様式—1）による。

(3) 検査結果

ア 検査測定の結果、各検査項目が規格値及び合格判定値に適合する場合は、「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」（様式—2）および「検査資料」並びに「製品検査立会記録」（様式—3）を申請者に送付する。

合格したセメントコンクリート製品の有効期限は1年間とし通年とする。ただし、新規等で年度途

セメントコンクリート製品取扱基準

しくはJIS R 5213フライアッシュセメントB種（フライアッシュ混合比15%以上）又はC種であることを「セメント試験成績表」で確認する。

b 混和材をポルトランドセメントに混入して対策する場合には、試験等によってアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたもの。

(ウ) 安全と認められる骨材を使用する場合

a 試験の頻度は、JIS A 1145（化学法）・JIS A 5308（付属書7：化学法）による場合は、工事開始前、工事中1回／6ヶ月かつ産地がかわった場合に信頼できる試験機関[㊦]で行い、試験に用いる骨材の採取には請負者が立ち会うことを原則とする。

b JIS A 1146（モルタルバー法）・JIS A 5308（付属書8：モルタルバー法）による骨材試験の結果を用いる場合には、試験成績表により確認するとともに、信頼できる試験機関[㊦]においてJIS A 1804「コンクリート生産工程管理用試験方法—アルカリシリカ反応試験方法（迅速法）」で骨材が無害であることを確認する。この場合試験に用いる骨材の採取には、請負者が立ち会うことを原則とする。

c フェロニッケル骨材、銅スラグ骨材等の人工骨材および石灰石については、試験成績表による確認を行う。

㊦公的機関またはこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、その他信頼に値する民間試験機関、人工骨材については製造工場の試験成績表）

(3) 対策の確認

請負者及び監督員は、抑制対策について資料により確認を行い、確認困難なものは使用してはならない。

3. 製品検査等手続（申請～承認）

(1) 検査対象

ア プレキャスト無筋コンクリート製品 積みブロック

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5371—付属書5の規格品を除く）

イ U型側溝用溝蓋

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5345の規格品を除く）

ウ I型コンクリートブロック

エ プレキャスト無筋コンクリート製品 道路用境界ブロック

（JIS表示認定工場の製造するJIS A 5371—付属書4の規格品を除く）

オ インターロッキングブロック

(2) 検査申請

ア 各土木事務所管内に製造工場をもつ事業所より年度当初に所轄土木事務所宛申請するものとする。なお、年度途中において新規に製造する製品の検査申請もこれに準じ申請するものとする。

イ 申請書は「セメントコンクリート製品使用承認申請書」（様式—1）による。

(3) 検査結果

ア 検査測定の結果、各検査項目が規格値及び合格判定値に適合する場合は、「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」（様式—2）および「検査資料」並びに「製品検査立会記録」（様式—3）を申請者に送付する。

合格したセメントコンクリート製品の有効期限は1年間とし通年とする。ただし、新規等で年度途

中に合格した場合の有効期限は翌年度当初検査時までとする。

- イ 土木事務所職員には、材料承認審査用の資料として「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「製品検査立会記録」を配布する。
- ウ 管内市町村には参考資料として「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「検査資料」並びに「製品検査立会記録」を送付する。
- エ 申請者は、土木事務所管内特設事務所長及び隣接土木事務所長に対しては、「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「検査資料」並びに「製品検査立会記録」を提出して材料使用承認を得るものとする。

(4) 請負契約に係る材料承認書添付

発注者が工事請負者に材料使用承認書として提出を求める「資料」は次による。

- ア プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック及びI型ブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックの品質規格について
様式-4
〔製品検査表（ ）月度〕 様式-4-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- イ U型側溝用溝蓋
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② 鉄筋コンクリート溝蓋の品質規格について
様式-10
〔製品検査表〕 様式-10-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- ウ プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格について
様式-15
〔製品検査表〕 様式-16
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- エ インターロッキングブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② インターロッキングブロック
〔製品検査表〕 様式-17
様式-17-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3

中に合格した場合の有効期限は翌年度当初検査時までとする。

- イ 土木事務所職員には、材料承認審査用の資料として「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「製品検査立会記録」を配布する。
- ウ 管内市町村には参考資料として「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「検査資料」並びに「製品検査立会記録」を送付する。
- エ 申請者は、土木事務所管内特設事務所長及び隣接土木事務所長に対しては、「セメントコンクリート製品検査結果について（通知）」及び「検査資料」並びに「製品検査立会記録」を提出して材料使用承認を得るものとする。

(4) 請負契約に係る材料承認書添付

発注者が工事請負者に材料使用承認書として提出を求める「資料」は次による。

- ア プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック及びI型ブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックの品質規格について
様式-4
〔製品検査表（ ）月度〕 様式-4-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- イ U型側溝用溝蓋
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② 鉄筋コンクリート溝蓋の品質規格について
様式-10
〔製品検査表〕 様式-10-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- ウ プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格について
様式-15
〔製品検査表〕 様式-16
- ③ 製品検査立会記録 様式-3
- エ インターロッキングブロック
- ① セメントコンクリート製品検査結果について（通知） 様式-2
- ② インターロッキングブロック
〔製品検査表〕 様式-17
様式-17-2
- ③ 製品検査立会記録 様式-3

様式-1

平成 年 月 日

事務所（局）長様

住所
申請者 事業所名 印
代表者

セメントコンクリート製品使用承認申請書

下記工事用材料について、平成 年度において使用していただきたく、関係書類を添えて申請します。

1. 品名
- イ) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック
(除・JIS A 5371-附属書 5)
 - ロ) U型側溝溝蓋 (除・JIS A 5345)
 - ハ) I型コンクリートブロック
 - ニ) プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック
(除・JIS A 5371-附属書 4)
 - ホ) インターロッキングブロック
2. 製作場所
- 所在地
工場名
3. 資料
- 1) 製品使用承認申請書 (申請書、測定記録表等)
 - 2) 製品規格図
 - 3) 製造工程図
 - 4) 材料試験表 (セメント、骨材、混和材)
 - 5) 示方配合表
 - 6) 製品体積計算書 (含胴込量算出基礎)
 - 7) 積みブロック製造管理士認定書 (写・代表1名)

☆ 該当項目記号を○印でかこむこと。

様式-1

平成 年 月 日

事務所（局）長様

住所
申請者 事業所名 印
代表者

セメントコンクリート製品使用承認申請書

下記工事用材料について、平成 年度において使用していただきたく、関係書類を添えて申請します。

1. 品名
- イ) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック
(除・JIS A 5371-附属書 5)
 - ロ) U型側溝溝蓋 (除・JIS A 5345)
 - ハ) I型コンクリートブロック
 - ニ) プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック
(除・JIS A 5371-附属書 4)
 - ホ) インターロッキングブロック
2. 製作場所
- 所在地
工場名
3. 資料
- 1) 製品使用承認申請書 (申請書、測定記録表等)
 - 2) 製品規格図
 - 3) 製造工程図
 - 4) 材料試験表 (セメント、骨材、混和材)
 - 5) 示方配合表
 - 6) 製品体積計算書 (含胴込量算出基礎)
 - 7) 積みブロック製造管理士認定書 (写・代表1名)

☆ 該当項目記号を○印でかこむこと。

旧

セメントコンクリート製品取扱基準

様式-2

〇〇第 号
平成 年 月 日

様

〇〇土木事務所長

セメントコンクリート製品検査結果について（通知）

平成 年 月 日付け提出のあったセメントコンクリート製品については、静岡県が定める「セメントコンクリート製品取扱基準」の品質規格等に適合するので通知します。

新

セメントコンクリート製品取扱基準

様式-2

〇〇第 号
平成 年 月 日

様

〇〇土木事務所長

セメントコンクリート製品検査結果について（通知）

平成 年 月 日付け提出のあったセメントコンクリート製品については、静岡県が定める「セメントコンクリート製品取扱基準」の品質規格等に適合するので通知します。

様式-3

製品検査立会記録

製 品 名	規 格	立 会 年 月 日

様式-3

製品検査立会記録

製 品 名	規 格	立 会 年 月 日

4. 品目別製品検査

(1) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック

ア) 適用範囲

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック（以下「積みブロック」という）を使用する場合には、この取扱基準によるほかJIS A 5371-附属書5積みブロックによるものとする。

イ) 積みブロックの形状寸法及び品質

積みブロックの形状は、長方形とし、その寸法及び品質は表-1に示すものとする。

表-1

ブロックの 控 長	1 m ² 当り 表 乾 重 量	1 m ² 当り個数	JIS A 1107による 圧 縮 強 度	寸法の許容差	
				面	控
350mm	350kg以上	11個以内	18N/mm ² 以上	±3	±5

ウ) 積みブロックの製品検査

- (1) JIS規格品で、JIS指定工場の検査に合格した製品にあっては、積みブロックの使用にあたり品質規格証明書（様式-4）を提出して検査に代えるものとする。
- (2) JIS規格品にあっても、JIS指定工場以外の工場の製品にあっては、年度当初に次に掲げる資料を提出させ、土木事務所検査員立会の上、JIS A 5371-附属書5積みブロックに規定する検査を行い形状、寸法、品質を確認するものとする。

- イ、製造工程図 ロ、製品規格図 ハ、材料試験表（セメント・骨材・混和材）
- ニ、製品検査成績表 ホ、コンクリート配合設計書
- ヘ、胴込コンクリート量の算定基礎

エ) 検査方法

1. 検査立会い日までに申請者が準備し、測定するもの。

- (1) 出荷材令に達している製品1,000個（在庫製品1,000個未満の場合は在庫全数を対象）より5個抽出する。
- (2) (1)による5個のうち2個について、形状寸法、外観、質量、シュミットハンマー反発強度の検査を申請者が行う。残り3個は検査立会い日まで室内に保管する。

イ. 形状寸法及び外観検査
形状寸法測定結果及び外観目視結果を「検査記録（様式-6及び8）」に記入する。

ロ. 気乾状態シュミットハンマー反発強度測定
合端4面を6cm間隔で20点測定し「反発強度測定記録（様式-7）」の気乾欄に記入する。

ハ. 質量検査
表乾状態でブロック1個当り重量を測定し「検査記録（様式-6及び8）」に記入する。
※ 表乾状態：20°±2℃の水中に24時間浸水し吸水性の布で水膜をぬぐいさる。

ニ. 表乾状態シュミットハンマー反発強度測定
気乾状態シュミット測定位置と異なる中間点20点を測定し「反発強度測定記録（様式-7）」の表乾欄に記入する。

4. 品目別製品検査

(1) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック

ア) 適用範囲

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック（以下「積みブロック」という）を使用する場合には、この取扱基準によるほかJIS A 5371-附属書5積みブロックによるものとする。

イ) 積みブロックの形状寸法及び品質

積みブロックの形状は、長方形とし、その寸法及び品質は表-1に示すものとする。

表-1

ブロックの 控 長	1 m ² 当り 表 乾 重 量	1 m ² 当り個数	JIS A 1107による 圧 縮 強 度	寸法の許容差	
				面	控
350mm	350kg以上	11個以内	18N/mm ² 以上	±3	±5

ウ) 積みブロックの製品検査

- (1) JIS規格品で、JIS指定工場の検査に合格した製品にあっては、積みブロックの使用にあたり品質規格証明書（様式-4）を提出して検査に代えるものとする。
- (2) JIS規格品にあっても、JIS指定工場以外の工場の製品にあっては、年度当初に次に掲げる資料を提出させ、土木事務所検査員立会の上、JIS A 5371-附属書5積みブロックに規定する検査を行い形状、寸法、品質を確認するものとする。

- イ、製造工程図 ロ、製品規格図 ハ、材料試験表（セメント・骨材・混和材）
- ニ、製品検査成績表 ホ、コンクリート配合設計書
- ヘ、胴込コンクリート量の算定基礎

エ) 検査方法

1. 検査立会い日までに申請者が準備し、測定するもの。

- (1) 出荷材令に達している製品1,000個（在庫製品1,000個未満の場合は在庫全数を対象）より5個抽出する。
- (2) (1)による5個のうち2個について、形状寸法、外観、質量、シュミットハンマー反発強度の検査を申請者が行う。残り3個は検査立会い日まで室内に保管する。

イ. 形状寸法及び外観検査
形状寸法測定結果及び外観目視結果を「検査記録（様式-6及び8）」に記入する。

ロ. 気乾状態シュミットハンマー反発強度測定
合端4面を6cm間隔で20点測定し「反発強度測定記録（様式-7）」の気乾欄に記入する。

ハ. 質量検査
表乾状態でブロック1個当り重量を測定し「検査記録（様式-6及び8）」に記入する。
※ 表乾状態：20°±2℃の水中に24時間浸水し吸水性の布で水膜をぬぐいさる。

ニ. 表乾状態シュミットハンマー反発強度測定
気乾状態シュミット測定位置と異なる中間点20点を測定し「反発強度測定記録（様式-7）」の表乾欄に記入する。

ホ. 圧縮強度試験用コア採取

気乾状態シュミット測定後、検査立会日までにJIS 1107 によりコアを採取し、キャッピング又は、端面を研磨し立会検査に備える。

2. 検査立会い日に測定検査を行うもの

(1) 1. (2)により室内に保管してある3個について、形状寸法、外観検査を行う。

イ. 形状寸法測定結果及び、外観目視結果を「検査記録(様式-6及び8)」に記入する。

※ 申請者が予め測定した2個と立会検査の3個の計5個により合格判定を行う。

a. 5個全部が規格値の範囲内の場合、合格とする。

b. 1個でも規格値を越えた場合は不合格とする。

(2) 圧縮強度測定

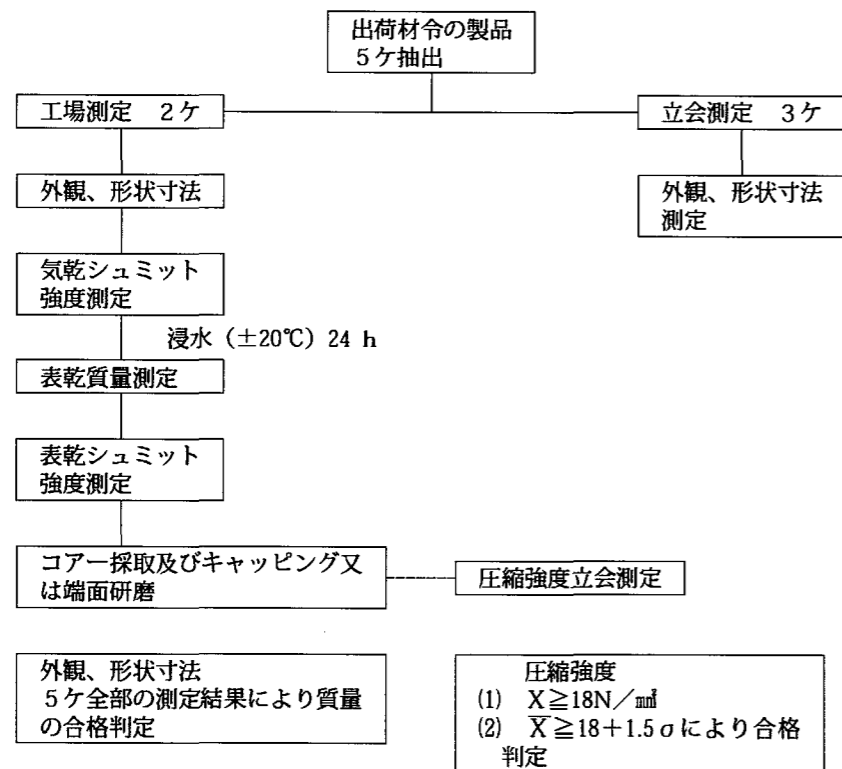
1. (2)ホにより採取されたコアによる圧縮強度試験を行う。

※ 合格判定値は次式により行う。

1. $X \geq 18N/mm^2$ (規格値)

2. $\bar{X} \geq 18 + 1.5\sigma$ (2個の平均、合格判定値) σ : ロットの標準偏差

3. 積みブロックの検査手順



オ) 使用材料の承認

請負者は、積みブロックを使用する場合には、当該工場の品質規格証明書(様式-4)を提出し承認を得なければならない。

ホ. 圧縮強度試験用コア採取

気乾状態シュミット測定後、検査立会日までにJIS 1107 によりコアを採取し、キャッピング又は、端面を研磨し立会検査に備える。

2. 検査立会い日に測定検査を行うもの

(1) 1. (2)により室内に保管してある3個について、形状寸法、外観検査を行う。

イ. 形状寸法測定結果及び、外観目視結果を「検査記録(様式-6及び8)」に記入する。

※ 申請者が予め測定した2個と立会検査の3個の計5個により合格判定を行う。

a. 5個全部が規格値の範囲内の場合、合格とする。

b. 1個でも規格値を越えた場合は不合格とする。

(2) 圧縮強度測定

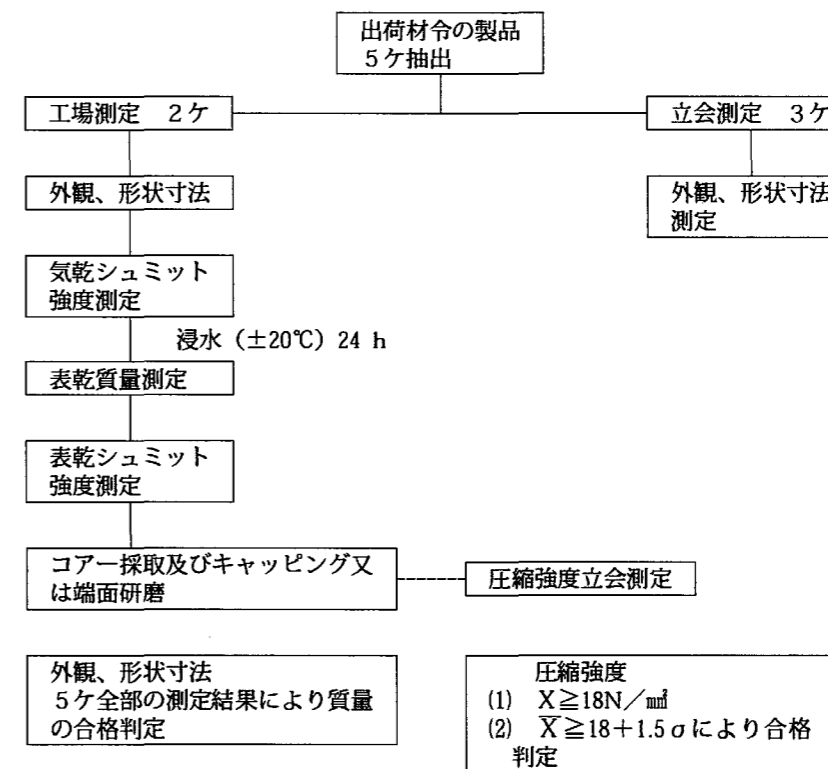
1. (2)ホにより採取されたコアによる圧縮強度試験を行う。

※ 合格判定値は次式により行う。

1. $X \geq 18N/mm^2$ (規格値)

2. $\bar{X} \geq 18 + 1.5\sigma$ (2個の平均、合格判定値) σ : ロットの標準偏差

3. 積みブロックの検査手順



オ) 使用材料の承認

請負者は、積みブロックを使用する場合には、当該工場の品質規格証明書(様式-4)を提出し承認を得なければならない。

カ) 現場受入れ試験

請負者は、現場に搬入された積みブロックの1000個又はその端数を1ロットとして、形状寸法及びコンクリートテストハンマーによる圧縮強度（気乾状態）を測定し、コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表（レディーミクストコンクリート取扱基準様式8）により監督員に報告するものとする。

（注） 寸法の許容値は部材名欄に記入する。

キ) 試験方法及合格判定値

(1) 形状寸法

1ロットから無作為に抽出した2個を測定し、2個とも表-1の許容量を満足しなければならない。

(2) 圧縮強度

イ) コンクリートテストハンマーによる圧縮強度の測定は、形状寸法を測定したブロックで行い、ブロックの合端を1面5点ずつ垂直下向（-90°）で20点打撃し、その平均値を、コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表の反発硬度の平均値（R）として圧縮強度に換算して判定する。

ロ) 1ロット任意の2個の個々の測定値は、18N/mm²とし、かつその2個の平均値が次の式を満足しなければならない。

$$\bar{X} \geq S L + 1.5\sigma \quad \text{ここに } \bar{X} : 2 \text{ 個の測定値の平均値 (N/mm}^2\text{)}$$

$$S L : \text{規格値の下限 (18N/mm}^2\text{)}$$

$$\sigma : \text{品質規格証明書に記載されているロットの標準偏差 (N/mm}^2\text{)}$$

上記に適合しない場合には、その試料をJIS A 1107「コンクリートからのコア及びはりの切取り方法及び強度試験方法」の試験を行い、ロ)を満足しなければならない。

カ) 現場受入れ試験

請負者は、現場に搬入された積みブロックの1000個又はその端数を1ロットとして、形状寸法及びコンクリートテストハンマーによる圧縮強度（気乾状態）を測定し、コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表（レディーミクストコンクリート取扱基準様式8）により監督員に報告するものとする。

（注） 寸法の許容値は部材名欄に記入する。

キ) 試験方法及合格判定値

(1) 形状寸法

1ロットから無作為に抽出した2個を測定し、2個とも表-1の許容量を満足しなければならない。

(2) 圧縮強度

イ) コンクリートテストハンマーによる圧縮強度の測定は、形状寸法を測定したブロックで行い、ブロックの合端を1面5点ずつ垂直下向（-90°）で20点打撃し、その平均値を、コンクリートテストハンマーによる強度試験結果表の反発硬度の平均値（R）として圧縮強度に換算して判定する。

ロ) 1ロット任意の2個の個々の測定値は、18N/mm²とし、かつその2個の平均値が次の式を満足しなければならない。

$$\bar{X} \geq S L + 1.5\sigma \quad \text{ここに } \bar{X} : 2 \text{ 個の測定値の平均値 (N/mm}^2\text{)}$$

$$S L : \text{規格値の下限 (18N/mm}^2\text{)}$$

$$\sigma : \text{品質規格証明書に記載されているロットの標準偏差 (N/mm}^2\text{)}$$

上記に適合しない場合には、その試料をJIS A 1107「コンクリートからのコア及びはりの切取り方法及び強度試験方法」の試験を行い、ロ)を満足しなければならない。

様式-4

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックの品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5371-附属書5積みブロックの品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製造工場住所

JIS表示許可番号

品質管理担当者

電話番号

様式-4

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックの品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5371-附属書5積みブロックの品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製造工場住所

JIS表示許可番号

品質管理担当者

電話番号

様式4-2

製品検査表 (月 度)											検査担当者
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)											
Gmax (mm)	SL (cm)	Air (%)	W/C (%)	S/a (%)	単位量 (kg/m ³)						
					W	C	S	G	混		
2. 原材料の品質											
項目 材料	種 類	密 度	項目 材料	産 地	F・M	密 度	吸水量 (%)	単・質 (kg/l)	微粒分量 (%)	有機物	
セメント			細骨材								
混和剤			粗骨材							-	
アルカリ骨材反応抑制方法及び算定結果											
3. 製品検査 (製造日:平成 年 月 日) (検査日:平成 年 月 日)											
項 目 No	外 観	寸 法 (mm)			製品略図						
		面 幅 (a)	高 (b)	控 (r)							
1											
2											
3											
4											
5											
X											
判定値	良	±3	±5								
項 目 No	強さ (材令 日)			合 ・ 否	平米当り個数	(ヶ/m ²)					
	供試体 φ × h (mm)	荷 重 (N)	強 度 (N/mm ²)		1ヶ当り体積	(m ³ /ヶ)					
1					1ヶ当り質量	(kg/ヶ)					
2					胴込コンクリート量	(m ³ /m ²)					
X					出 荷 材 令	(日)					
判定値	-		X ≥ 18 X̄ ≥ 18 + 1.5σ =	-	ロットの標準偏差(σ)	(N/mm ²)					
体積、質量、胴込量は理論上の数値です。											

様式4-2

製品検査表 (月 度)											検査担当者
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)											
Gmax (mm)	SL (cm)	Air (%)	W/C (%)	S/a (%)	単位量 (kg/m ³)						
					W	C	S	G	混		
2. 原材料の品質											
項目 材料	種 類	密 度	項目 材料	産 地	F・M	密 度	吸水量 (%)	単・質 (kg/l)	微粒分量 (%)	有機物	
セメント			細骨材								
混和剤			粗骨材							-	
アルカリ骨材反応抑制方法及び算定結果											
3. 製品検査 (製造日:平成 年 月 日) (検査日:平成 年 月 日)											
項 目 No	外 観	寸 法 (mm)			製品略図						
		面 幅 (a)	高 (b)	控 (r)							
1											
2											
3											
4											
5											
X											
判定値	良	±3	±5								
項 目 No	強さ (材令 日)			合 ・ 否	平米当り個数	(ヶ/m ²)					
	供試体 φ × h (mm)	荷 重 (N)	強 度 (N/mm ²)		1ヶ当り体積	(m ³ /ヶ)					
1					1ヶ当り質量	(kg/ヶ)					
2					胴込コンクリート量	(m ³ /m ²)					
X					出 荷 材 令	(日)					
判定値	-		X ≥ 18 X̄ ≥ 18 + 1.5σ =	-	ロットの標準偏差(σ)	(N/mm ²)					
体積、質量、胴込量は理論上の数値です。											

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック規格検査一覧表 (非JIS工場のみ)

事業所名称 工場所在地	製法	寸法		ブロック1個 当り表乾重量 kg	シュミット 番号	シュミットハンマーによる測定			JIS A 1107 による圧縮強度	摘 要	
		面				反発強度 測定値	反発強度 規格値				
		高	幅								
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		

・調査方法

1. セメントコンクリート製品取扱基準のプレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックによる。

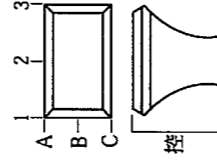
2. 作業手順、測定位置、方法、単位等は、下記要領および図面参照のこと。

・作業手順

- 積みブロック3個抽出 (出荷材令1日前の製品) (要写真) 製造日が判定できるもの
- 寸法 (高・幅) mm単位 (要写真)
- 気乾質量kg単位で単位1位 (要写真) 気乾・表乾・水中・密度をまとめたもの
- 気乾シュミット (所定箇所 各面5点) (要写真) "
- 水中24時間 (要写真) 気乾・表乾それぞれの平均値 (1位迄) をまとめたもの
- 水中質量kg単位で単位以下3位 (要写真) 切り取った状態が判明できるもの
- 表乾シュミット (気乾測定時と同方法) (要写真)
- コア一切取り (要写真)
- 強度試験 (10×20-3本のコア一寸法・質量キャッピング前に測定) (N/mm²) (要写真)

・寸法・圧縮強度測定位置参考図

1. 形状・寸法



高：3ヶ所 (1, 2, 3) の平均
幅：3ヶ所 (A, B, C) の平均
控：1ヶ所

2. シュミットハンマー打撃位置



気乾：各面5点
表乾：各面5点
各点とも3cm以上離して、マジックで位置を表示する。

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック規格検査一覧表 (非JIS工場のみ)

事業所名称 工場所在地	製法	寸法		ブロック1個 当り表乾重量 kg	シュミット 番号	シュミットハンマーによる測定			JIS A 1107 による圧縮強度	摘 要	
		面				反発強度 測定値	反発強度 規格値				
		高	幅								
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		
		設計値	測定値	設計値	測定値	測定値	測定値	測定値	測定値		

・調査方法

1. セメントコンクリート製品取扱基準のプレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックによる。

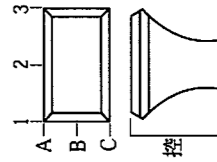
2. 作業手順、測定位置、方法、単位等は、下記要領および図面参照のこと。

・作業手順

- 積みブロック3個抽出 (出荷材令1日前の製品) (要写真) 製造日が判定できるもの
- 寸法 (高・幅) mm単位 (要写真)
- 気乾質量kg単位で単位1位 (要写真) 気乾・表乾・水中・密度をまとめたもの
- 気乾シュミット (所定箇所 各面5点) (要写真) "
- 水中24時間 (要写真) 気乾・表乾それぞれの平均値 (1位迄) をまとめたもの
- 水中質量kg単位で単位以下3位 (要写真) 切り取った状態が判明できるもの
- 表乾シュミット (気乾測定時と同方法) (要写真)
- コア一切取り (要写真)
- 強度試験 (10×20-3本のコア一寸法・質量キャッピング前に測定) (N/mm²) (要写真)

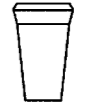
・寸法・圧縮強度測定位置参考図

1. 形状・寸法



高：3ヶ所 (1, 2, 3) の平均
幅：3ヶ所 (A, B, C) の平均
控：1ヶ所

2. シュミットハンマー打撃位置



気乾：各面5点
表乾：各面5点
各点とも3cm以上離して、マジックで位置を表示する。

様式-6

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック検査記録

事業所名					
工場名					
所在地	都道府県		郡市		町村
検査年月日	平成		年	月	日
製法・寸法					
締固め方法					
養生方法及び出荷材令	初期養生	湿潤養生		出荷材令	
製品品質	ロット区分	外観	寸法	質量	強度
管理状況		ケ	ケ	ケ	ケ
製品検査用設備状況					
製造設備状況					
型枠保有状況					
生産能力	日産		個		・月産
備考					

様式-6

プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロック検査記録

事業所名					
工場名					
所在地	都道府県		郡市		町村
検査年月日	平成		年	月	日
製法・寸法					
締固め方法					
養生方法及び出荷材令	初期養生	湿潤養生		出荷材令	
製品品質	ロット区分	外観	寸法	質量	強度
管理状況		ケ	ケ	ケ	ケ
製品検査用設備状況					
製造設備状況					
型枠保有状況					
生産能力	日産		個		・月産
備考					

様式-7

反発強度測定記録

1. 事業所名称・工場名						
2. シュミットハンマー機種番号						
3. 測定者名						
4. 反発強度測定						
基準ブロックNo	1		2		3	
打撃位置	気乾	表乾	気乾	表乾	気乾	表乾
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
計						
平均値						
総平均 気乾 (R1) = () ・表乾 (R1) = ()						
5. 規格値						
a. 試験強度 JIS A 1108 に相応する反発強度 R2 = ()						
b. 圧縮強度 18N/mm ² に相応する反発強度 Rs = (25.1)						
c. 規格値となる反発強度						
気乾 (RL) = RS (25.1) × [R1 () ÷ R2 ()] = ()						
表乾 (RL) = RS (25.1) × [R1 () ÷ R2 ()] = ()						
6. 備考						

様式-7

反発強度測定記録

1. 事業所名称・工場名						
2. シュミットハンマー機種番号						
3. 測定者名						
4. 反発強度測定						
基準ブロックNo	1		2		3	
打撃位置	気乾	表乾	気乾	表乾	気乾	表乾
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
計						
平均値						
総平均 気乾 (R1) = () ・表乾 (R1) = ()						
5. 規格値						
a. 試験強度 JIS A 1108 に相応する反発強度 R2 = ()						
b. 圧縮強度 18N/mm ² に相応する反発強度 Rs = (25.1)						
c. 規格値となる反発強度						
気乾 (RL) = RS (25.1) × [R1 () ÷ R2 ()] = ()						
表乾 (RL) = RS (25.1) × [R1 () ÷ R2 ()] = ()						
6. 備考						

製品検査記録

(1) 形状寸法検査 単位mm				
No	面		控	合 否
	高	幅		
1	
	
	平均	平均	平均	
2	
	
	平均	平均	平均	
3	
	
	平均	平均	平均	
X				
判定値 面…±3 11ヶ以内/m ² 控…±5				

(2) 質量・比重検査								
No	気乾 kg	表乾 kg	水中 kg	表一水kg	密 度	ヶ / m ³	表乾 1 m ³ 当 kg	合 否
1								
2								
3								
X								
判定値 密度…2.30以上 ヶ/m ³ …11ヶ以内/m ³ 表乾 1 m ³ …350kg以上								

(3) 圧縮強度試験								
No	高 H cm	直 径 D cm	面 積 A cm	質 量 kg	荷 重 N	強 度 N / mm ²		合 否
1								
2								
3								
X	=	=	=	=	=			
判定値 強度…18N/mm ²								

製品検査記録

(1) 形状寸法検査 単位mm				
No	面		控	合 否
	高	幅		
1	
	
	平均	平均	平均	
2	
	
	平均	平均	平均	
3	
	
	平均	平均	平均	
X				
判定値 面…±3 11ヶ以内/m ² 控…±5				

(2) 質量・比重検査								
No	気乾 kg	表乾 kg	水中 kg	表一水kg	密 度	ヶ / m ³	表乾 1 m ³ 当 kg	合 否
1								
2								
3								
X								
判定値 密度…2.30以上 ヶ/m ³ …11ヶ以内/m ³ 表乾 1 m ³ …350kg以上								

(3) 圧縮強度試験								
No	高 H cm	直 径 D cm	面 積 A cm	質 量 kg	荷 重 N	強 度 N / mm ²		合 否
1								
2								
3								
X	=	=	=	=	=			
判定値 強度…18N/mm ²								

様式-9

製品検査表										検査担当者
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										
Gmax (mm)	SL (cm)	Air (%)	W/C (%)	S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					
					W	C	S	G	混	
2. 原材料の品質										
項目 材料	種類	密度	項目 材料	産地	F・M	密度	吸水量 (%)	単・質 (kg/l)	微粒分量 (%)	有機物
セメント			細骨材							
混和剤			粗骨材							-
アルカリ骨材反応抑制方法及び算定結果										
3. 製品検査 (製造日:平成 年 月 日) (検査日:平成 年 月 日)										
項目 No	外観	寸法 (mm)			製品略図					
		幅 (a)	高 (b)	控 (r)						
1										
2										
3										
4										
5										
X										
判定値	良	±3	±5							
項目 No	強さ (材令 日)			合 ・ 否	平米当り個数	(ヶ/m ²)				
	供試体 φ × h (mm)	荷重 (N)	強度 (N/mm ²)		1ヶ当り体積	(m ³ /ヶ)				
1					1ヶ当り質量	(kg/ヶ)				
2					胴込コンクリート量	(m ³ /m ²)				
X					出荷材令	(日)				
判定値	-	X ≥ 18 X ≥ 18 + 1.5σ =	-	-	ロットの標準偏差(σ)	(N/mm ²)				
体積、質量、胴込量は理論上の数値です。										

様式-9

製品検査表										検査担当者
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										
Gmax (mm)	SL (cm)	Air (%)	W/C (%)	S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					
					W	C	S	G	混	
2. 原材料の品質										
項目 材料	種類	密度	項目 材料	産地	F・M	密度	吸水量 (%)	単・質 (kg/l)	微粒分量 (%)	有機物
セメント			細骨材							
混和剤			粗骨材							-
アルカリ骨材反応抑制方法及び算定結果										
3. 製品検査 (製造日:平成 年 月 日) (検査日:平成 年 月 日)										
項目 No	外観	寸法 (mm)			製品略図					
		幅 (a)	高 (b)	控 (r)						
1										
2										
3										
4										
5										
X										
判定値	良	±3	±5							
項目 No	強さ (材令 日)			合 ・ 否	平米当り個数	(ヶ/m ²)				
	供試体 φ × h (mm)	荷重 (N)	強度 (N/mm ²)		1ヶ当り体積	(m ³ /ヶ)				
1					1ヶ当り質量	(kg/ヶ)				
2					胴込コンクリート量	(m ³ /m ²)				
X					出荷材令	(日)				
判定値	-	X ≥ 18 X ≥ 18 + 1.5σ =	-	-	ロットの標準偏差(σ)	(N/mm ²)				
体積、質量、胴込量は理論上の数値です。										

(2) I型ブロック

(1) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックに準じる。

(3) U型側溝用溝蓋

ア) 適用範囲

鉄筋コンクリート溝蓋を使用する場合には、この取扱基準によるほかJIS A 5345 「道路用鉄筋コンクリート側溝」によるものとする。

イ) 種類及び形状寸法

建設省制定 土木構造物標準設計1 (1-8、1-9) による。(別紙参照)

ウ) 品質

(1) コンクリートの強度

コンクリートの設計基準強度は、 $\delta_{ck}=24\text{N}/\text{mm}^2$ とし、標準養生による供試体の圧縮強度試験結果は、これを下回ってはならない。

(2) 曲げ強度

溝蓋は、JIS A 5345 に規定する曲げ試験を行った場合、表-1 に示す規格値を下回ってはならない。

表-1

名称	スパンL (mm)	曲げ強さ荷重 (kN)		
		C1型	C2型	
U型側溝用 溝蓋	B 300	365	51.0	60.8
	B 400	465	40.2	56.9
	B 500	565	32.4	53.0
	B 600	665	27.5	—
	B 700	765	24.5	—

(3) 寸法の許容差

溝蓋の寸法の許容差は表-2のとおりとする。

表-2 単位：mm

許容差	長さ、幅	厚さ
	±3	±3

エ) 溝蓋の製品検査

年度当初に製造工場に対し、JIS A 5345 「道路用鉄筋コンクリート側溝」の⑤、⑥に規定する材料及び製造に関する試料を提出させ、土木事務所検査員立会の上、同⑧による外観、形状、寸法、曲げ、強さ及び配筋について検査を行い、形状、寸法、品質を確認するものとする。

(2) I型ブロック

(1) プレキャスト無筋コンクリート製品積みブロックに準じる。

(3) U型側溝用溝蓋

ア) 適用範囲

鉄筋コンクリート溝蓋を使用する場合には、この取扱基準によるほかJIS A 5345 「道路用鉄筋コンクリート側溝」によるものとする。

イ) 種類及び形状寸法

建設省制定 土木構造物標準設計1 (1-8、1-9) による。(別紙参照)

ウ) 品質

(1) コンクリートの強度

コンクリートの設計基準強度は、 $\delta_{ck}=24\text{N}/\text{mm}^2$ とし、標準養生による供試体の圧縮強度試験結果は、これを下回ってはならない。

(2) 曲げ強度

溝蓋は、JIS A 5345 に規定する曲げ試験を行った場合、表-1 に示す規格値を下回ってはならない。

表-1

名称	スパンL (mm)	曲げ強さ荷重 (kN)		
		C1型	C2型	
U型側溝用 溝蓋	B 300	365	51.0	60.8
	B 400	465	40.2	56.9
	B 500	565	32.4	53.0
	B 600	665	27.5	—
	B 700	765	24.5	—

(3) 寸法の許容差

溝蓋の寸法の許容差は表-2のとおりとする。

表-2 単位：mm

許容差	長さ、幅	厚さ
	±3	±3

エ) 溝蓋の製品検査

年度当初に製造工場に対し、JIS A 5345 「道路用鉄筋コンクリート側溝」の⑤、⑥に規定する材料及び製造に関する試料を提出させ、土木事務所検査員立会の上、同⑧による外観、形状、寸法、曲げ、強さ及び配筋について検査を行い、形状、寸法、品質を確認するものとする。

オ) 検査方法

U型側溝用溝蓋の検査は、出荷材令に達している製品1,000枚（在庫製品1,000枚未満の場合は在庫全数を対象）より5枚を抽出し、JIS A 5345 に準じて、外観、形状、寸法、曲げ強さ及び配筋について行う。

1. 外観検査

外観検査は抽出した全数を目視にて行い、結果を「鉄筋コンクリート溝蓋検査記録（様式-11）」に記入

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法検査は、抽出された5枚の内から2枚について行い、「鉄筋コンクリート溝蓋検査記録（様式-11）」に記入

3. 圧縮強度試験

圧縮強度試験は、抽出された5枚の内から2枚について行い、「反発強度測定記録（様式-12）」に記入

※圧縮強度 車道用 24N/mm²
歩道用 24N/mm²

上記を満足しない場合は、JIS A 5345、8.4に規定する試験を行い可否を判定する。

4. 曲げ強さ（3の試験が満足されない場合行う。）

曲げ強さは、抽出された5枚の内から2枚について行い、「鉄筋コンクリート溝蓋検査一覧表（様式-13）」に記入

5. 配筋

配筋の検査は、検査したものの内から2枚について、コンクリート部分を壊し、鉄筋を露出させて行う。「製品検査表（様式-14）」に記入

カ) 使用材料の承諾

請負者は、溝蓋を使用する場合には、当該工場の品質規格証明書（様式-10）を提出し、承諾を得なければならない。

キ) 現場の受け入れ試験

請負者は、現場に搬入された溝蓋の1,000枚またはその端数を2枚1組みとして、形状寸法及びコンクリートテストハンマーによる圧縮強度を測定し、その結果を監督員に報告しなければならない。

ク) 可否の判定

強度等に疑義のある場合には、請負者、生産者及び監督員が協議し、JIS A 5345 に規定する検査を実施しその可否を判定するものとする。

ケ) この基準によりがたい場合（在来の側溝等）は厚さで調節する。この場合下面のカブリを増すこととし、配筋は、この基準によるものとする。

コ) 表示

溝蓋には次の事項を表示しなければならない。

- (1) 種類及び呼び名
- (2) 製造業者名又はその略号
- (3) 製造工場名又はその略号

オ) 検査方法

U型側溝用溝蓋の検査は、出荷材令に達している製品1,000枚（在庫製品1,000枚未満の場合は在庫全数を対象）より5枚を抽出し、JIS A 5345 に準じて、外観、形状、寸法、曲げ強さ及び配筋について行う。

1. 外観検査

外観検査は抽出した全数を目視にて行い、結果を「鉄筋コンクリート溝蓋検査記録（様式-11）」に記入

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法検査は、抽出された5枚の内から2枚について行い、「鉄筋コンクリート溝蓋検査記録（様式-11）」に記入

3. 圧縮強度試験

圧縮強度試験は、抽出された5枚の内から2枚について行い、「反発強度測定記録（様式-12）」に記入

※圧縮強度 車道用 24N/mm²
歩道用 24N/mm²

上記を満足しない場合は、JIS A 5345、8.4に規定する試験を行い可否を判定する。

4. 曲げ強さ（3の試験が満足されない場合行う。）

曲げ強さは、抽出された5枚の内から2枚について行い、「鉄筋コンクリート溝蓋検査一覧表（様式-13）」に記入

5. 配筋

配筋の検査は、検査したものの内から2枚について、コンクリート部分を壊し、鉄筋を露出させて行う。「製品検査表（様式-14）」に記入

カ) 使用材料の承諾

請負者は、溝蓋を使用する場合には、当該工場の品質規格証明書（様式-10）を提出し、承諾を得なければならない。

キ) 現場の受け入れ試験

請負者は、現場に搬入された溝蓋の1,000枚またはその端数を2枚1組みとして、形状寸法及びコンクリートテストハンマーによる圧縮強度を測定し、その結果を監督員に報告しなければならない。

ク) 可否の判定

強度等に疑義のある場合には、請負者、生産者及び監督員が協議し、JIS A 5345 に規定する検査を実施しその可否を判定するものとする。

ケ) この基準によりがたい場合（在来の側溝等）は厚さで調節する。この場合下面のカブリを増すこととし、配筋は、この基準によるものとする。

コ) 表示

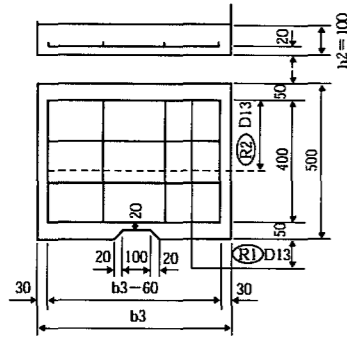
溝蓋には次の事項を表示しなければならない。

- (1) 種類及び呼び名
- (2) 製造業者名又はその略号
- (3) 製造工場名又はその略号

(4) 製造年月日又はその略号

(別紙)

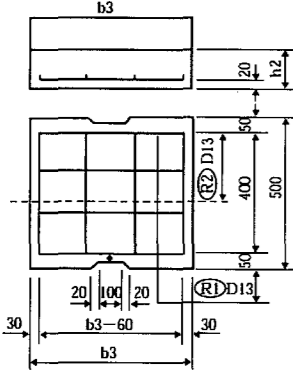
1-8 C1型



C1型（場所打ちU型側こうぶた）寸法および材料表

記号	寸法表 (mm)		材 料 表 (1枚当り)								摘要
	b3	h2	コンクリート (m³)	型枠 (m²)	(R1) 鉄筋D13		(R2) 鉄筋D13		鉄筋重量 (kg)	重量 (kg)	
					長さ	本数	長さ	本数			
C1-B300	430	100	0.021	0.186	4	400	4	430	3.303	53	
C1-B400	530	100	0.026	0.206	4	500	4	430	3.701	66	
C1-B500	630	100	0.031	0.226	4	600	4	430	4.099	78	
C1-B600	730	100	0.036	0.246	4	700	4	430	4.497	91	
C1-B700	830	100	0.041	0.266	4	800	4	430	4.895	103	

1-9 C2型



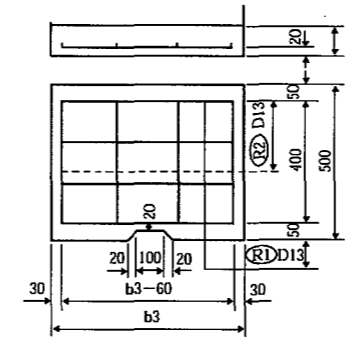
C2型（場所打ちU型側こうぶた）寸法および材料表

記号	寸法表 (mm)		材 料 表 (1枚当り)								摘要
	b3	h2	コンクリート (m³)	型枠 (m²)	(R1) 鉄筋D13		(R2) 鉄筋D13		鉄筋重量 (kg)	重量 (kg)	
					長さ	本数	長さ	本数			
C2-B300	430	110	0.023	0.205	4	400	4	430	3.303	58	
C2-B400	530	120	0.031	0.247	4	500	4	430	3.701	78	
C2-B500	630	130	0.040	0.294	4	600	4	430	4.099	101	

(4) 製造年月日又はその略号

(別紙)

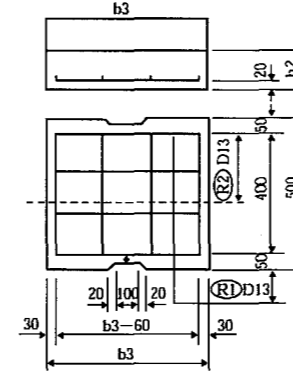
1-8 C1型



C1型（場所打ちU型側こうぶた）寸法および材料表

記号	寸法表 (mm)		材 料 表 (1枚当り)								摘要
	b3	h2	コンクリート (m³)	型枠 (m²)	(R1) 鉄筋D13		(R2) 鉄筋D13		鉄筋重量 (kg)	重量 (kg)	
					長さ	本数	長さ	本数			
C1-B300	430	100	0.021	0.186	4	400	4	430	3.303	53	
C1-B400	530	100	0.026	0.206	4	500	4	430	3.701	66	
C1-B500	630	100	0.031	0.226	4	600	4	430	4.099	78	
C1-B600	730	100	0.036	0.246	4	700	4	430	4.497	91	
C1-B700	830	100	0.041	0.266	4	800	4	430	4.895	103	

1-9 C2型



C2型（場所打ちU型側こうぶた）寸法および材料表

記号	寸法表 (mm)		材 料 表 (1枚当り)								摘要
	b3	h2	コンクリート (m³)	型枠 (m²)	(R1) 鉄筋D13		(R2) 鉄筋D13		鉄筋重量 (kg)	重量 (kg)	
					長さ	本数	長さ	本数			
C2-B300	430	110	0.023	0.205	4	400	4	430	3.303	58	
C2-B400	530	120	0.031	0.247	4	500	4	430	3.701	78	
C2-B500	630	130	0.040	0.294	4	600	4	430	4.099	101	

様式-10

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

鉄筋コンクリート溝蓋の品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5345 道路用鉄筋コンクリート側溝の品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製品工場住所

製造工場住所

品質管理担当者

電話番号

様式-10

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

鉄筋コンクリート溝蓋の品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5345 道路用鉄筋コンクリート側溝の品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製品工場住所

製造工場住所

品質管理担当者

電話番号

様式 10-2

製品検査表										検査担当者	
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										④	
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 W/C (%)	細骨材率 S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					混和剤	
					水 (W)	セメント (C)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)			
アルカリ骨材反応抑制方法		コンクリートに含まれる塩化物量 (塩化物イオンとして) kg/m ³									
2. 製品略図											
R ₂ (配力鉄筋)											
R ₁ (主鉄筋)											
3. 製品検査											
検査日:平成 年 月 日 製造年月日:平成 年 月 日 (材令 日)											
規格値	寸法 (mm)			鉄筋						手掛寸法 (mm)	
	b	L	h	R1			R2			140/100 × 20	
規格値				径	本数	長さ (cm)	径	本数	長さ (cm)		
試料No.1				D	4		D	4			
試料No.2				D			D				
許容差	±3	±3	±3	-	-	-	-	-	-		
規格値	ひび割荷重 (kN)	質量 (kg)	圧縮強度 (N/mm ²)	鉄筋のかぶり							
				A		B					
規格値				1	2	3	4				
試料No.1											
試料No.2											
許容差											

様式 10-2

製品検査表										検査担当者	
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										④	
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 W/C (%)	細骨材率 S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					混和剤	
					水 (W)	セメント (C)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)			
アルカリ骨材反応抑制方法		コンクリートに含まれる塩化物量 (塩化物イオンとして) kg/m ³									
2. 製品略図											
R ₂ (配力鉄筋)											
R ₁ (主鉄筋)											
3. 製品検査											
検査日:平成 年 月 日 製造年月日:平成 年 月 日 (材令 日)											
規格値	寸法 (mm)			鉄筋						手掛寸法 (mm)	
	b	L	h	R1			R2			140/100 × 20	
規格値				径	本数	長さ (cm)	径	本数	長さ (cm)		
試料No.1				D	4		D	4			
試料No.2				D			D				
許容差	±3	±3	±3	-	-	-	-	-	-		
規格値	ひび割荷重 (kN)	質量 (kg)	圧縮強度 (N/mm ²)	鉄筋のかぶり							
				A		B					
規格値				1	2	3	4				
試料No.1											
試料No.2											
許容差											

鉄筋コンクリート溝蓋検査記録

事業所名称										
工場名										
所在地 県 郡市 町村										
検査年月日 平成 年 月 日										
養生方法										
製品管理試験状況										
所有試験機械										
生産能力 日産 個・月産 個										
製造年月日 平成 年 月 日 (材令 日)										
目視結果										
形状寸法										
種類	記号	番号	寸法			手掛寸法 140/100×20 (mm)	1枚当重量 (kg)	備考		
			B (mm)	L (mm)	H (mm)					
鉄筋										
記号	番号	鉄筋 (R1)			鉄筋 (R2)			各部のカブリ mm	配置	備考
		径mm	本数	長mm	径mm	本数	長mm			

鉄筋コンクリート溝蓋検査記録

事業所名称										
工場名										
所在地 県 郡市 町村										
検査年月日 平成 年 月 日										
養生方法										
製品管理試験状況										
所有試験機械										
生産能力 日産 個・月産 個										
製造年月日 平成 年 月 日 (材令 日)										
目視結果										
形状寸法										
種類	記号	番号	寸法			手掛寸法 140/100×20 (mm)	1枚当重量 (kg)	備考		
			B (mm)	L (mm)	H (mm)					
鉄筋										
記号	番号	鉄筋 (R1)			鉄筋 (R2)			各部のカブリ mm	配置	備考
		径mm	本数	長mm	径mm	本数	長mm			

様式-12

反発強度測定記録			
1. 事業所名、工場名			
2. 機種番号			
3. 測定者名			
4. 反発強度測定値			
打撃位置	1	2	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
計			
平均値			
5. 規格値			
a. 試験強度 R =			
b. 圧縮強度 24N/mm ² に相応する反発強度			

様式-12

反発強度測定記録			
1. 事業所名、工場名			
2. 機種番号			
3. 測定者名			
4. 反発強度測定値			
打撃位置	1	2	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
計			
平均値			
5. 規格値			
a. 試験強度 R =			
b. 圧縮強度 24N/mm ² に相応する反発強度			

鉄筋コンクリート溝蓋検査一覧表

事業所名	工場名、所在地	種類	記号	型枠形式	番号	ひび割れ荷重	備考

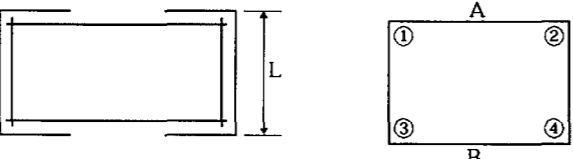
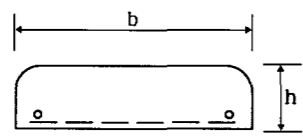
- 注 1. 本検査は、日本工業規格道路用コンクリート側溝JIS A 5345 による。
2. 作業順序（工場製作の中から2個抽出する。）
- (1) 重量
 - (2) 形状・寸法
 - (3) ひび割れ荷重
 - (4) 鉄筋検査

鉄筋コンクリート溝蓋検査一覧表

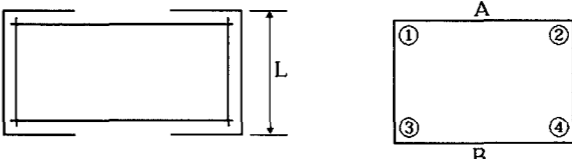
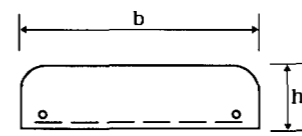
事業所名	工場名、所在地	種類	記号	型枠形式	番号	ひび割れ荷重	備考

- 注 1. 本検査は、日本工業規格道路用コンクリート側溝JIS A 5345 による。
2. 作業順序（工場製作の中から2個抽出する。）
- (1) 重量
 - (2) 形状・寸法
 - (3) ひび割れ荷重
 - (4) 鉄筋検査

様式-14

製品検査表										検査担当者	
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										Ⓜ	
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 W/C (%)	細骨材率 S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					混和剤	
					水 (W)	セメント (C)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)			
アルカリ骨材反応抑制方法		コンクリートに含まれる塩化物量 (塩化物イオンとして) kg/m ³									
2. 製品略図											
R ₂ (配力鉄筋)											
R ₁ (主鉄筋)											
3. 製品検査											
検査日: 平成 年 月 日 製造年月日: 平成 年 月 日 (材令 日)											
規格値	寸法 (mm)			鉄筋						手掛寸法 (mm)	
	b	L	h	R1			R2			140/100 × 20	
規格値				径	本数	長さ (cm)	径	本数	長さ (cm)		
試料No.1				D	4		D	4			
試料No.2				D			D				
許容差	±3	±3	±3	-	-	-	-	-	-		
	ひび割荷重 (kN)		質量 (kg)			圧縮強度 (N/mm ²)		鉄筋のかぶり			
規格値								A		B	
試料No.1								1	2	3	4
試料No.2											
許容差											

様式-14

製品検査表										検査担当者	
1. 示方配合 (設計基準強度 N/mm ²) (配合強度 N/mm ²)										Ⓜ	
粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 W/C (%)	細骨材率 S/a (%)	単位量 (kg/m ³)					混和剤	
					水 (W)	セメント (C)	細骨材 (S)	粗骨材 (G)			
アルカリ骨材反応抑制方法		コンクリートに含まれる塩化物量 (塩化物イオンとして) kg/m ³									
2. 製品略図											
R ₂ (配力鉄筋)											
R ₁ (主鉄筋)											
3. 製品検査											
検査日: 平成 年 月 日 製造年月日: 平成 年 月 日 (材令 日)											
規格値	寸法 (mm)			鉄筋						手掛寸法 (mm)	
	b	L	h	R1			R2			140/100 × 20	
規格値				径	本数	長さ (cm)	径	本数	長さ (cm)		
試料No.1				D	4		D	4			
試料No.2				D			D				
許容差	±3	±3	±3	-	-	-	-	-	-		
	ひび割荷重 (kN)		質量 (kg)			圧縮強度 (N/mm ²)		鉄筋のかぶり			
規格値								A		B	
試料No.1								1	2	3	4
試料No.2											
許容差											

(4) プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック

検査方法

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの検査は、出荷材令に達している製品1,000個（在庫製品1,000個未満の場合は、在庫全数を対象）より5個を抽出し、JIS A 5371-附属書4に準じて、外観、形状寸法、及び曲げ強度について行う。

1. 外観検査

外観検査は、抽出した全数を目視にて行い、結果を「製品検査表（様式-16）」に記入。

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法の検査は、抽出された5個のうちから2個について行い、「製品検査表（様式-16）」に記入。

許容値は下記の通り

単位：mm

道路用境界ブロック	a	b及びh	ℓ
	±2	±3	±3

※ブロックの寸法ℓが1,000mmの場合のℓの許容値は±5mmとする。

3. 曲げ強度

曲げ強度は、抽出された5個のうちから2個について行い「製品検査表（様式-16）」に記入。

曲げ強度荷重は下記の通り

呼 び 名	曲げ強さ荷重 (kN)
道路用境界ブロック	A 23
	B 40
	C 60

4. 表 示

ブロックには、次の事項を明記しなければならない。

- (1) 製造業社名又はその略号
- (2) 製造工場名又はその略号
- (3) 製造年月日

(4) プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック

検査方法

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの検査は、出荷材令に達している製品1,000個（在庫製品1,000個未満の場合は、在庫全数を対象）より5個を抽出し、JIS A 5371-附属書4に準じて、外観、形状寸法、及び曲げ強度について行う。

1. 外観検査

外観検査は、抽出した全数を目視にて行い、結果を「製品検査表（様式-16）」に記入。

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法の検査は、抽出された5個のうちから2個について行い、「製品検査表（様式-16）」に記入。

許容値は下記の通り

単位：mm

道路用境界ブロック	a	b及びh	ℓ
	±2	±3	±3

※ブロックの寸法ℓが1,000mmの場合のℓの許容値は±5mmとする。

3. 曲げ強度

曲げ強度は、抽出された5個のうちから2個について行い「製品検査表（様式-16）」に記入。

曲げ強度荷重は下記の通り

呼 び 名	曲げ強さ荷重 (kN)
道路用境界ブロック	A 23
	B 40
	C 60

4. 表 示

ブロックには、次の事項を明記しなければならない。

- (1) 製造業社名又はその略号
- (2) 製造工場名又はその略号
- (3) 製造年月日

旧

セメントコンクリート製品取扱基準

様式-15

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5371-附属書4プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製品工場住所

製造工場住所

品質管理担当者

電話番号

新

セメントコンクリート製品取扱基準

様式-15

平成 年 月 日

請負者 _____ 様

会社名 _____

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格について（報告）

下記工事用として納入する当社製品の品質規格は、社内検査の結果、別紙「製品検査表」のとおり、セメントコンクリート製品取扱基準及びJIS A 5371-附属書4プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロックの品質規格に適合しています。

記

1. 工事名称

2. 工事箇所

3. 製品名称

規格寸法

納入数量

製品工場住所

製造工場住所

品質管理担当者

電話番号

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック製品検査表

事業所名称								
工場名								
所在地	都道府県		都市		町村			
検査年月日	平成 年 月 日							
養生方法								
製品管理試験状況								
所有試験機械								
生産能力	日産		個・月産		個			
製造年月日	平成 年 月 日 (材令 日)							
形 状 寸 法								
呼び名	記号	種別	寸 法					破壊強度 N/mm ²
			A mm	B mm	H1 mm	H2 mm	L mm	
目視結果								

注 1. 本検査の製品は、JIS A 5371-附属書4以外のものとする。
 2. 検査の方法は、JIS A 5371-附属書4により行うものとする。

プレキャスト無筋コンクリート製品道路用境界ブロック製品検査表

事業所名称								
工場名								
所在地	都道府県		都市		町村			
検査年月日	平成 年 月 日							
養生方法								
製品管理試験状況								
所有試験機械								
生産能力	日産		個・月産		個			
製造年月日	平成 年 月 日 (材令 日)							
形 状 寸 法								
呼び名	記号	種別	寸 法					破壊強度 N/mm ²
			A mm	B mm	H1 mm	H2 mm	L mm	
目視結果								

注 1. 本検査の製品は、JIS A 5371-附属書4以外のものとする。
 2. 検査の方法は、JIS A 5371-附属書4により行うものとする。

(5) インターロッキングブロック
検査方法

インターロッキングブロックの検査は、出荷材令に達している製品1,000㎡分を1ロットとして（在庫製品1,000㎡分未満の場合は、在庫全数を対象）より10個を抽出し、外観、形状寸法、及び曲げ強度について行う。

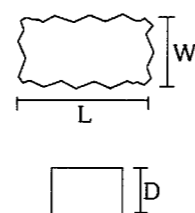
1. 外観検査

外観検査は、抽出した全数を目視にて行い、結果を「製品検査表（様式17、様式17-2）」の備考欄に記入する。

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法検査は、抽出された10個のうちから3個について行い「製品検査表（様式17、様式17-2）」に記入する。その許容値は下記の通りとする。

種	類	L	W	D
普通インターロッキングブロック				±3
透水性インターロッキングブロック		±3	±3	+5 -1
植生用インターロッキングブロック				±3



※厚さは普通および透水性インターロッキングブロックの場合60mmおよび80mmとし、植生用インターロッキングブロックの場合100mmおよび120mmとする。

3. 品質

曲げ強度、透水係数について抽出された10個のうちから3個について行い「製品検査表（様式17、様式17-2）」に記入する。

その品質は下記の通りとする。

種	類	記号	曲げ強度 ^{注)}	透水係数
普通インターロッキングブロック		N-1 ^①	4.9N/㎡	-
		N-2 ^②		
透水性インターロッキングブロック		P-1 ^①	2.9N/㎡	1×10 ⁻² cm/sec
		P-2 ^②		
植生用インターロッキングブロック		G-1 ^①	3.9N/㎡	-
		G-2 ^②		

- 注(1) 全層をコンクリートとした一層型インターロッキングブロック。
 (2) 表面を着色したり、平滑に仕上げるために表層部分をモルタル層とし、残りをコンクリート層とした二層型インターロッキングブロック。
 (3) インターロッキングブロックの形状その他により曲げ強度試験ができない場合はコアによる圧縮強度試験を行い、圧縮強度が普通インターロッキングブロックにおいては32N/㎡以上、透水性インターロッキングブロックにおいては17N/㎡以上でなければならない。

(5) インターロッキングブロック
検査方法

インターロッキングブロックの検査は、出荷材令に達している製品1,000㎡分を1ロットとして（在庫製品1,000㎡分未満の場合は、在庫全数を対象）より10個を抽出し、外観、形状寸法、及び曲げ強度について行う。

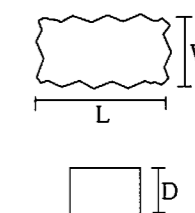
1. 外観検査

外観検査は、抽出した全数を目視にて行い、結果を「製品検査表（様式17、様式17-2）」の備考欄に記入する。

2. 形状及び寸法検査

形状及び寸法検査は、抽出された10個のうちから3個について行い「製品検査表（様式17、様式17-2）」に記入する。その許容値は下記の通りとする。

種	類	L	W	D
普通インターロッキングブロック				±3
透水性インターロッキングブロック		±3	±3	+5 -1
植生用インターロッキングブロック				±3



※厚さは普通および透水性インターロッキングブロックの場合60mmおよび80mmとし、植生用インターロッキングブロックの場合100mmおよび120mmとする。

3. 品質

曲げ強度、透水係数について抽出された10個のうちから3個について行い「製品検査表（様式17、様式17-2）」に記入する。

その品質は下記の通りとする。

種	類	記号	曲げ強度 ^{注)}	透水係数
普通インターロッキングブロック		N-1 ^①	4.9N/㎡	-
		N-2 ^②		
透水性インターロッキングブロック		P-1 ^①	2.9N/㎡	1×10 ⁻² cm/sec
		P-2 ^②		
植生用インターロッキングブロック		G-1 ^①	3.9N/㎡	-
		G-2 ^②		

- 注(1) 全層をコンクリートとした一層型インターロッキングブロック。
 (2) 表面を着色したり、平滑に仕上げるために表層部分をモルタル層とし、残りをコンクリート層とした二層型インターロッキングブロック。
 (3) インターロッキングブロックの形状その他により曲げ強度試験ができない場合はコアによる圧縮強度試験を行い、圧縮強度が普通インターロッキングブロックにおいては32N/㎡以上、透水性インターロッキングブロックにおいては17N/㎡以上でなければならない。

別記

試験

1. 曲げ強度試験

曲げ強度試験はスパン (ℓ) を表 1 のようにとり、インターロッキングブロックを据付けたとき露出する面を上にして、図 1 のように据え、スパンの中央に荷重を加えて行う。荷重は衝撃を与えないように一様に加え、載荷速度はふち応力度の増加が標準として毎分 8-10kgf/cm² になるようにする。

なお、曲げ試験を行うときは、インターロッキングブロックの加圧面および支持面には硬さ 60~70 度、厚さ 5mm、幅 50mm 程度のゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるよう配慮しなければならない。

寸法については、あらかじめ載荷点の上・下の幅を 2箇所、また、厚さを幅方向の両端からそれぞれ幅の 1/4 内側の 2箇所それぞれ 0.1mm まで測定し、その平均値を有効数字 4 けたまで求める。

(注) 最大荷重の約 50% までは比較的早い速度で荷重を加えてもよい。

表 1. 載筒スパン (ℓ)

種類	スパン (mm)
普通および透水性 インターロッキングブロック	160
植生用インターロッキングブロック	厚さの 2倍以上

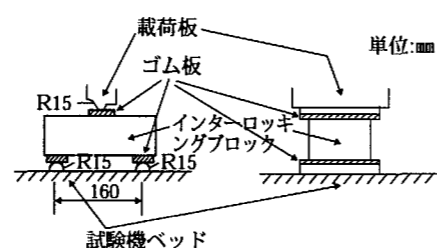


図 1. 強度試験

2. 圧縮強度試験

圧縮強度試験は、コアをインターロッキングブロックから切り取り、両端面をセメントペーストによるキャッピングまたはこれと同等の方法で供試体の軸にできるだけ垂直な平面に仕上げ、高さの直径に対する比が 1~2 の範囲の円柱形供試体を作製し、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) によって行う。ただし、強度は高さの直径に対する比が 1 の供試体の強度で示すものとし、高さが直径よりも大きい場合は、試験で得られた圧縮強度に表 2 の補正係数をかけて、直径と高さが等しい供試体の強度に換算する。

表 2. 補正係数

高さの直径に対する比	補正係数	備考
2.00	1.12	高さの直径に対する比がこの表に示す値の中間にある場合は、補正係数は直線補間して求める。
1.75	1.10	
1.50	1.08	
1.25	1.04	
1.00	1.00	

別記

試験

1. 曲げ強度試験

曲げ強度試験はスパン (ℓ) を表 1 のようにとり、インターロッキングブロックを据付けたとき露出する面を上にして、図 1 のように据え、スパンの中央に荷重を加えて行う。荷重は衝撃を与えないように一様に加え、載荷速度はふち応力度の増加が標準として毎分 8-10kgf/cm² になるようにする。

なお、曲げ試験を行うときは、インターロッキングブロックの加圧面および支持面には硬さ 60~70 度、厚さ 5mm、幅 50mm 程度のゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるよう配慮しなければならない。

寸法については、あらかじめ載荷点の上・下の幅を 2箇所、また、厚さを幅方向の両端からそれぞれ幅の 1/4 内側の 2箇所それぞれ 0.1mm まで測定し、その平均値を有効数字 4 けたまで求める。

(注) 最大荷重の約 50% までは比較的早い速度で荷重を加えてもよい。

表 1. 載筒スパン (ℓ)

種類	スパン (mm)
普通および透水性 インターロッキングブロック	160
植生用インターロッキングブロック	厚さの 2倍以上

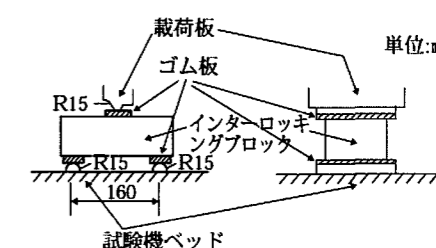


図 1. 強度試験

2. 圧縮強度試験

圧縮強度試験は、コアをインターロッキングブロックから切り取り、両端面をセメントペーストによるキャッピングまたはこれと同等の方法で供試体の軸にできるだけ垂直な平面に仕上げ、高さの直径に対する比が 1~2 の範囲の円柱形供試体を作製し、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) によって行う。ただし、強度は高さの直径に対する比が 1 の供試体の強度で示すものとし、高さが直径よりも大きい場合は、試験で得られた圧縮強度に表 2 の補正係数をかけて、直径と高さが等しい供試体の強度に換算する。

表 2. 補正係数

高さの直径に対する比	補正係数	備考
2.00	1.12	高さの直径に対する比がこの表に示す値の中間にある場合は、補正係数は直線補間して求める。
1.75	1.10	
1.50	1.08	
1.25	1.04	
1.00	1.00	

3. 透水性試験

透水性試験はインターロッキングブロックの厚さと面積を測定し、水漏れ防止のため必要に応じ側面をブラフィンなどで処理したのち、それを図2に示すような型枠にセットし、これを型枠ごと図3のように排水口を閉じた水槽の中に静置し水槽に注水して飽和させる。次に上端から静かに注水して型枠の上部の越流口から越流させ、一定の水位を保たせながら排水口を開く。

越流量がほぼ一定となるのをまって30秒間に越流する水量 Q (cm³) をメスシリンダーで計る。この透水量から次式を用いて透水係数を求める。

$$\text{透水係数 (cm/s)} = \frac{\text{インターロッキングブロックの厚さ (cm)}}{\text{水頭差 (cm)}} \times \frac{Q \text{ (cm}^3\text{)}}{\text{インターロッキングブロックの面積 (cm}^2\text{)} \times 30 \text{ 秒}}$$

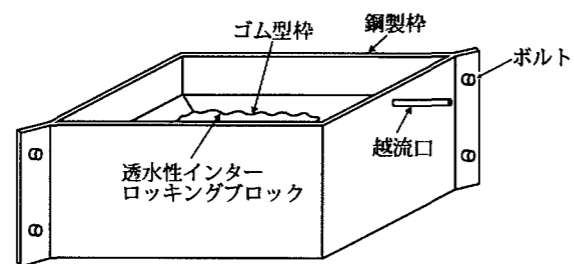


図2 透水試験用型枠の一例

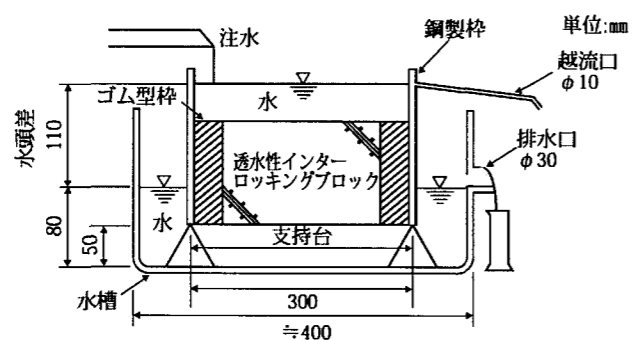


図3 透水試験装置の概略図

3. 透水性試験

透水性試験はインターロッキングブロックの厚さと面積を測定し、水漏れ防止のため必要に応じ側面をブラフィンなどで処理したのち、それを図2に示すような型枠にセットし、これを型枠ごと図3のように排水口を閉じた水槽の中に静置し水槽に注水して飽和させる。次に上端から静かに注水して型枠の上部の越流口から越流させ、一定の水位を保たせながら排水口を開く。

越流量がほぼ一定となるのをまって30秒間に越流する水量 Q (cm³) をメスシリンダーで計る。この透水量から次式を用いて透水係数を求める。

$$\text{透水係数 (cm/s)} = \frac{\text{インターロッキングブロックの厚さ (cm)}}{\text{水頭差 (cm)}} \times \frac{Q \text{ (cm}^3\text{)}}{\text{インターロッキングブロックの面積 (cm}^2\text{)} \times 30 \text{ 秒}}$$

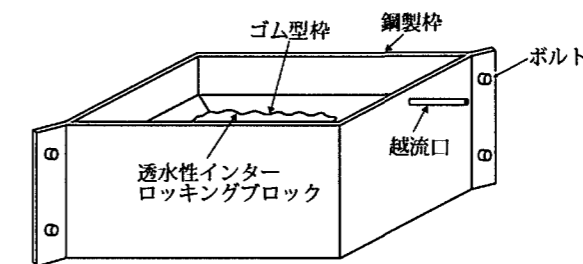


図2 透水試験用型枠の一例

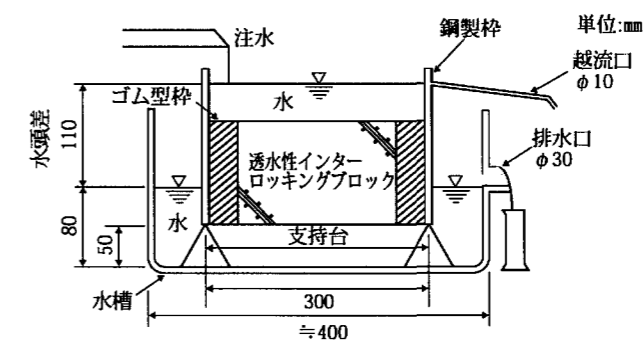


図3 透水試験装置の概略図

様式-17

製品検査表 (曲げ強度)

供試体 No	製造 年月日	検査 年月日	材 令 (日)	製品寸法 mm			透水係数 cm/sec	曲げ強度 N/mm ²	備 考
				L	W	D			
No 1									
No 2									
No 3									
平均									
規格値				±3	±3		1×10 ⁻² cm/sec 以上	40以上	

様式-17

製品検査表 (曲げ強度)

供試体 No	製造 年月日	検査 年月日	材 令 (日)	製品寸法 mm			透水係数 cm/sec	曲げ強度 N/mm ²	備 考
				L	W	D			
No 1									
No 2									
No 3									
平均									
規格値				±3	±3		1×10 ⁻² cm/sec 以上	40以上	

様式-17-2

製品検査表 (圧縮強度)

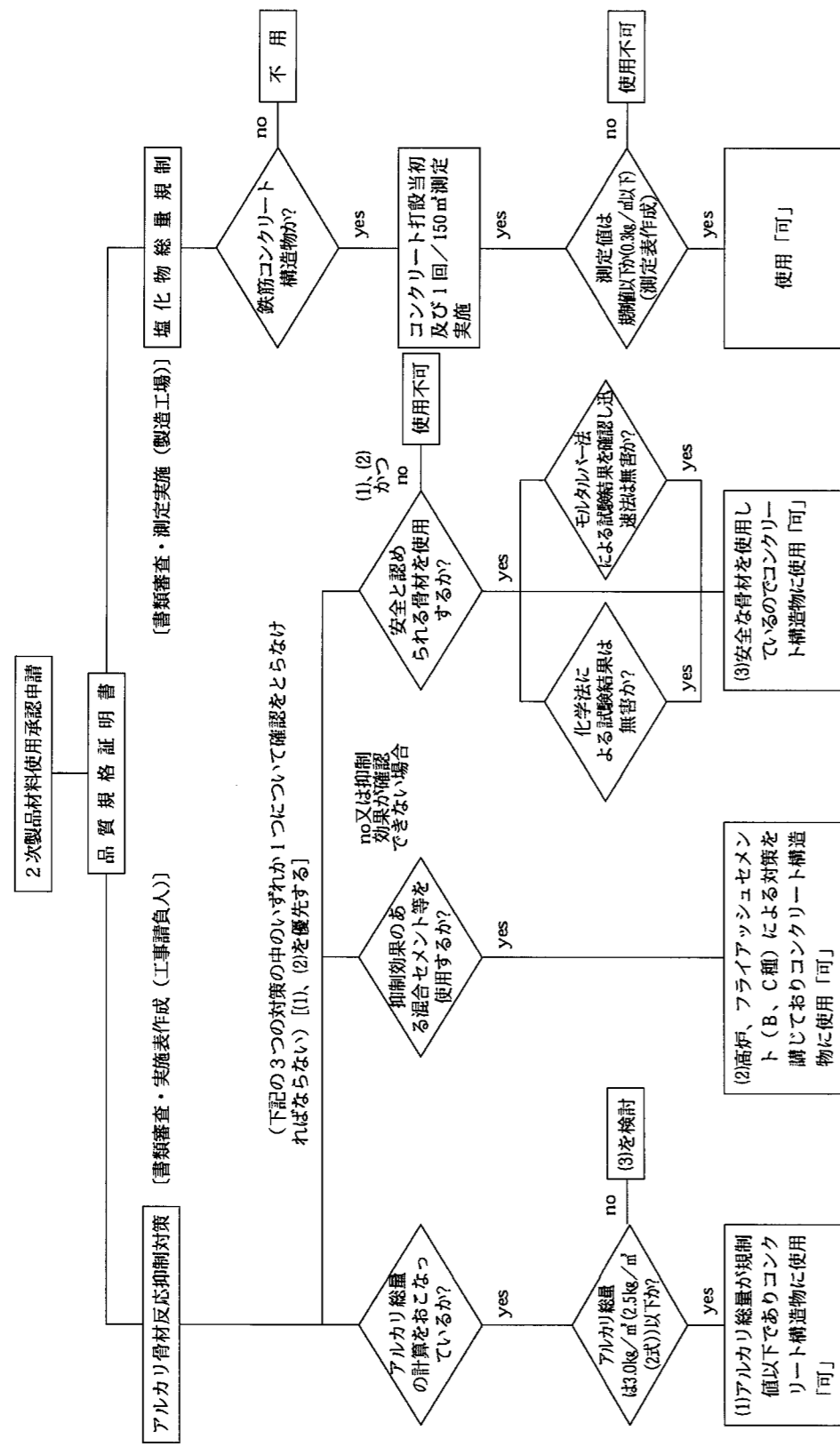
供試体 No	製造 年月日	検査 年月日	材 令 (日)	製品寸法 mm			透水係数 cm/sec	圧縮強度 N/mm ²	備 考
				L	W	D			
No. 1									
No. 2									
No. 3									
平均									
規格値				±3	±3		1×10 ⁻² cm/sec 以上		

様式-17-2

製品検査表 (圧縮強度)

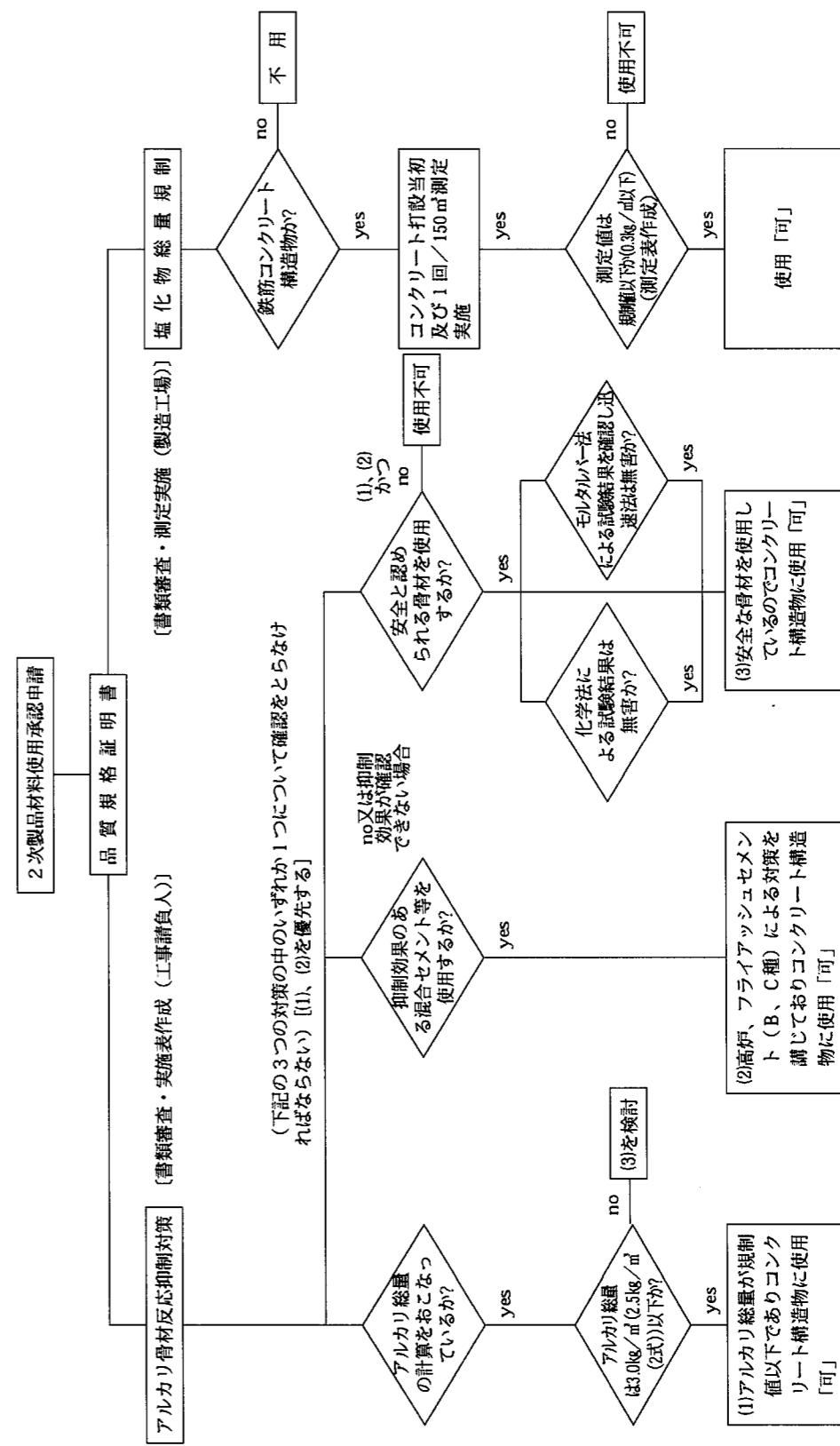
供試体 No	製造 年月日	検査 年月日	材 令 (日)	製品寸法 mm			透水係数 cm/sec	圧縮強度 N/mm ²	備 考
				L	W	D			
No. 1									
No. 2									
No. 3									
平均									
規格値				±3	±3		1×10 ⁻² cm/sec 以上		

コンクリート耐久性向上「セメントコンクリート製品」



※1. (3)を選択した場合、骨材の採取には請負者が立ち会うものとする。

コンクリート耐久性向上「セメントコンクリート製品」



※1. (3)を選択した場合、骨材の採取には請負者が立ち会うものとする。

施工管理基準に基づく様式一覧表

様式番号	品名
(出来形管理)	
1	出来形管理表 (表紙)
2-1	出来形管理表・測定結果一覧表
2-2	測定結果一覧表
3	出来形管理表 (図表)
4	度数表
(品質管理)	
5	品質管理表 (表紙)
6	調査結果総括表
7-1	現場密度測定試験 (置換法)
7-2	" (突砂法)
8	道路の平板載荷試験
9	ブルーフローリング試験
10-1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10-2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10-3	上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図
11-1	アスファルト合材の管理試験
11-2	基準密度測定表
11-3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験 (ソックレー法)
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
(品質管理データシート)	
15-1	x-R 管理データシート(1)
15-2	" (1)の2
15-3	x-R 管理図(1)
15-4	x-Rs-Rm 管理データシート
15-5	" の2
15-6	x-Rs-Rm 管理図

施工管理基準に基づく様式一覧表

様式番号	品名
(出来形管理)	
1	出来形管理表 (表紙)
2-1	出来形管理表・測定結果一覧表
2-2	測定結果一覧表
3	出来形管理表 (図表)
4	度数表
(品質管理)	
5	品質管理表 (表紙)
6	調査結果総括表
7-1	現場密度測定試験 (置換法)
7-2	" (突砂法)
8	道路の平板載荷試験
9	ブルーフローリング試験
10-1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10-2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10-3	上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図
11-1	アスファルト合材の管理試験
11-2	基準密度測定表
11-3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験 (ソックレー法)
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
(品質管理データシート)	
15-1	x-R 管理データシート(1)
15-2	" (1)の2
15-3	x-R 管理図(1)
15-4	x-Rs-Rm 管理データシート
15-5	" の2
15-6	x-Rs-Rm 管理図

様式 1

建設工事名

工出来形管理表

種目

請負者名

様式 1

建設工事名

工出来形管理表

種目

受注者名

様式 2-1

建設工事名

工出来形管理表

測定項目	記号	摘要	測点箇所図		

請負者名

測定者

印

工測定結果一覧表

測定項目	測点	(A) 設計値	(B) 実測値	(C)= $(B)-(A)$ 差	規格値	(D) 検査測定値	(E)= $(D)-(A)$

様式 2-1

建設工事名

工出来形管理表

測定項目	記号	摘要	測点箇所図		

受注者名

測定者

印

工測定結果一覧表

測定項目	測点	(A) 設計値	(B) 実測値	(C)= $(B)-(A)$ 差	規格値	(D) 検査測定値	(E)= $(D)-(A)$

建設工事名

工出来形管理図表

請負者名

測定者

④

測点番号	月	日	設計値との差 (mm)	記事

建設工事名

工出来形管理図表

受注者名

測定者

④

測点番号	月	日	設計値との差 (mm)	記事

請負者名

測定者

㊟

受注者名

測定者

㊟

様式 5

建設工事名

工 品 質 管 理 表

種 目

請負者名

様式 5

建設工事名

工 品 質 管 理 表

種 目

要注者名

様式 6

調査結果総括表

調査名

調査場所

試験名		調査No	
採取深度		cm	
統一分類記号			
名称			
粒 度 分 析	礫分	%	
	砂分	%	
	細粒分	%	
	60%径	mm	
	30%径	mm	
	10%径	mm	
	フルイ通過率%	4.75 mm	
		2.36 mm	
		0.425 mm	
		0.075 mm	
均等係数 Cu			
曲率係数 Cc			
物理試験	含水比 %		
	液性限界 LL %		
	塑性限界 PL %		
	塑性指数 PI		
変状土 CBR	突固め回数 67回	1	
		2	
		平均	
CBR %			
修正 CBR 試験	最適含水比 %		
	最大乾燥密度 g/cm ³		
	最大乾燥密度の95%		
	突固め回数	17回	
		42回	
92回			
修正CBR %			

様式 6

調査結果総括表

調査名

調査場所

試験名		調査No	
採取深度		cm	
統一分類記号			
名称			
粒 度 分 析	礫分	%	
	砂分	%	
	細粒分	%	
	60%径	mm	
	30%径	mm	
	10%径	mm	
	フルイ通過率%	4.75 mm	
		2.36 mm	
		0.425 mm	
		0.075 mm	
均等係数 Cu			
曲率係数 Cc			
物理試験	含水比 %		
	液性限界 LL %		
	塑性限界 PL %		
	塑性指数 PI		
変状土 CBR	突固め回数 67回	1	
		2	
		平均	
CBR %			
修正 CBR 試験	最適含水比 %		
	最大乾燥密度 g/cm ³		
	最大乾燥密度の95%		
	突固め回数	17回	
		42回	
92回			
修正CBR %			

様式 7-1

現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的	試験日程	年	月	日		
測定箇所および測点番号	試験者					
土の最大粒径 mm	測定器番号					
測定器の体積 cm ³	測定器の重量 g					
I 試験用砂の単位体積重量の検定						
測定番号	1	2	3	4	5	試験用砂の平均単位体積重量 r _{st} = g/cm ³
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{js} g						
測定器全体の重量 W _j g						
満たした砂の重量 (W _{js} -W _j) g						
ジャーとピクノメータートップとの体積 V _j cm ³						
試験用砂の単位体積重量 r _{st} g/cm ³						= g/cm ³
II ロト (ベースプレートを含む) を満たすに要する砂の重量検定						
測定番号	1	2	3	4	5	ロトを満たすに要する砂の平均重量 W _{jf} = g
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{js} g						
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量 W _{j2} g						
ロトを満たした砂の重量 (W _{j3} -W _{j2}) = W _{jf} g						
III 試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定						
試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定			含水比の測定		
~1	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
~2	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
~3	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
試験孔番号	~1	~2	~3	(予備欄)		
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{j3} g						
ジャーに残った砂の重量 W _{j3} g						
試験孔およびロトに入った砂の重量 (W _{j2} -W _{j3}) g						
試験孔に入った砂の重量 (W _{j2} -W _{j3}) - W _{jf} g						
試験孔の体積 V cm ³						
試験孔番号	~1	~2	~3	平均した砂の単位体積重量		
土の湿潤単位体積重量 r _t g/cm ³				r _t =	g/cm ³	
土の乾燥単位体積重量 r _d g/cm ³				r _d =	g/cm ³	
(備考)						
I 砂の単位体積重量: r _{st} = $\frac{W_{j3}-W_j}{V}$		III 乾燥土重量: W _v = $\frac{W_{wA} \times 100}{100+w}$				
IV 試験孔の体積: V = $\frac{(W_{j2}-W_{j3}) - W_{jf}}{r_{st}}$		V 土の湿潤単位体積重量: r _t = $\frac{W_{wA}}{V}$				
土の乾燥単位体積重量: r _d = $\frac{W_v}{V}$						

様式 7-1

現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的	試験日程	年	月	日		
測定箇所および測点番号	試験者					
土の最大粒径 mm	測定器番号					
測定器の体積 cm ³	測定器の重量 g					
I 試験用砂の単位体積重量の検定						
測定番号	1	2	3	4	5	試験用砂の平均単位体積重量 r _{st} = g/cm ³
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{js} g						
測定器全体の重量 W _j g						
満たした砂の重量 (W _{js} -W _j) g						
ジャーとピクノメータートップとの体積 V _j cm ³						
試験用砂の単位体積重量 r _{st} g/cm ³						= g/cm ³
II ロト (ベースプレートを含む) を満たすに要する砂の重量検定						
測定番号	1	2	3	4	5	ロトを満たすに要する砂の平均重量 W _{jf} = g
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{js} g						
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量 W _{j2} g						
ロトを満たした砂の重量 (W _{j3} -W _{j2}) = W _{jf} g						
III 試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定						
試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定			含水比の測定		
~1	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
~2	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
~3	容器 (バケツ) の番号	試料箱No.	No.	No.	No.	
	(湿土+バケツ) の重量 g	WW	DW	WW	DW	
	容器 (バケツ) の重量 g	DW	TW	DW	TW	
	湿潤土の重量 W _{wA} g	Ww	Ws	Ww	Ws	
	乾燥土の重量 W _v g	w = %	w = %	平均含水比 w = %		
試験孔番号	~1	~2	~3	(予備欄)		
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量 W _{j3} g						
ジャーに残った砂の重量 W _{j3} g						
試験孔およびロトに入った砂の重量 (W _{j2} -W _{j3}) g						
試験孔に入った砂の重量 (W _{j2} -W _{j3}) - W _{jf} g						
試験孔の体積 V cm ³						
試験孔番号	~1	~2	~3	平均した砂の単位体積重量		
土の湿潤単位体積重量 r _t g/cm ³				r _t =	g/cm ³	
土の乾燥単位体積重量 r _d g/cm ³				r _d =	g/cm ³	
(備考)						
I 砂の単位体積重量: r _{st} = $\frac{W_{j3}-W_j}{V}$		III 乾燥土重量: W _v = $\frac{W_{wA} \times 100}{100+w}$				
IV 試験孔の体積: V = $\frac{(W_{j2}-W_{j3}) - W_{jf}}{r_{st}}$		V 土の湿潤単位体積重量: r _t = $\frac{W_{wA}}{V}$				
土の乾燥単位体積重量: r _d = $\frac{W_v}{V}$						

様式 7-2

現場密度測定試験 (突砂法)		報告用紙	
建設工事名		試験日 年 月 日	
建設工事場所		天 候	
工 種		試 験 者	
使用材料名			
① 砂の単位体積重量 g/cm ³		測 定 番 号	
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量 (g)		
	③ 試験後の砂の重量 (g)		
	④ ベースプレスト中の砂の重量 (g)		
	⑤ 穴につめた砂の重量 (②-③-④) (g)		
	⑥ 掘り取った穴の容積 (⑤/①) (cm ³)		
	湿潤密度	⑦ (湿潤試料+容器)重量 (g)	
⑧ 容器の重量 (g)			
⑨ 湿潤試料重量 (⑦-⑧) (g)			
⑩ 湿潤密度 (⑨/⑥) (g/cm ³)			
含水比及び乾燥密度	⑪ (乾燥試料+容器)重量 (g)		
	⑫ 容器の重量 (g)		
	⑬ 乾燥試料重量 (⑪-⑫) (g)		
	⑭ 全体含水量 (⑨-⑬) (g)		
	⑮ 全体含水比 (⑭/⑨×100) (%)		
	⑯ 乾燥密度 r _d (g/cm ³)		
⑰ 最大乾燥密度 r _d (g/cm ³)			
⑱ 締固め度 (⑯/⑰×100) (%)			
⑲ 締固め度平均 (%)			
備 考			

様式 7-2

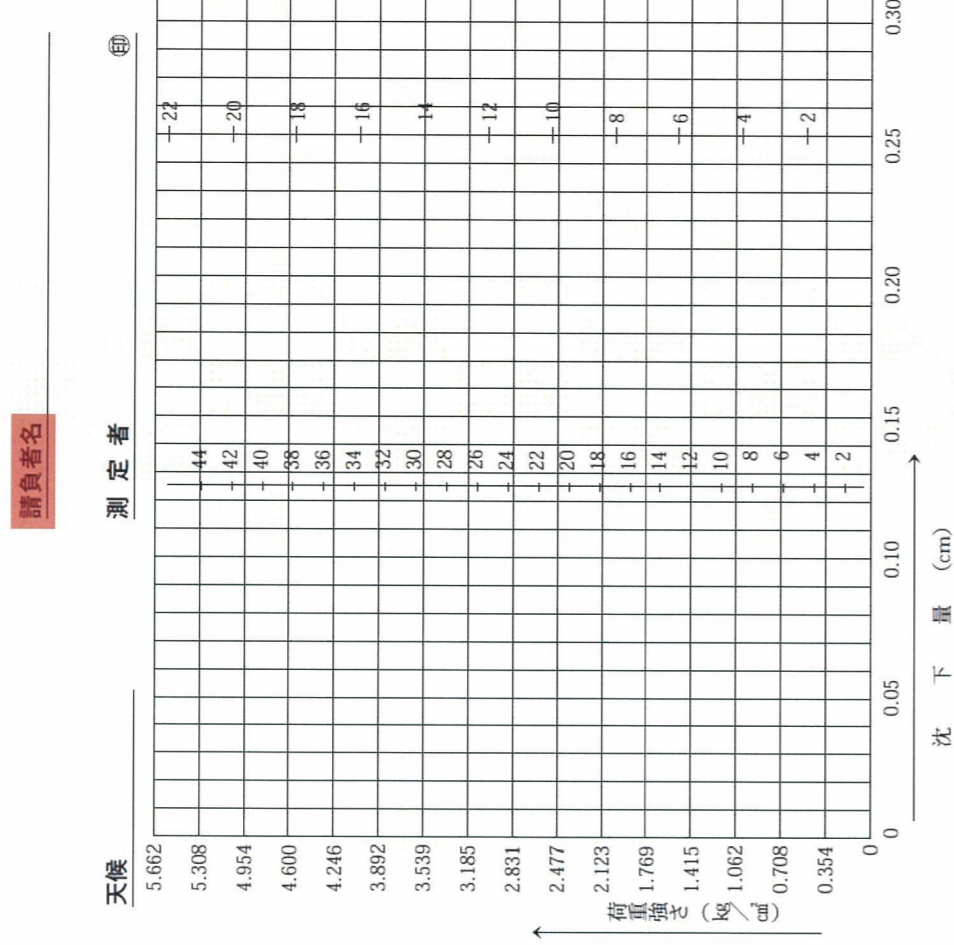
現場密度測定試験 (突砂法)		報告用紙	
建設工事名		試験日 年 月 日	
建設工事場所		天 候	
工 種		試 験 者	
使用材料名			
① 砂の単位体積重量 g/cm ³		測 定 番 号	
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量 (g)		
	③ 試験後の砂の重量 (g)		
	④ ベースプレスト中の砂の重量 (g)		
	⑤ 穴につめた砂の重量 (②-③-④) (g)		
	⑥ 掘り取った穴の容積 (⑤/①) (cm ³)		
	湿潤密度	⑦ (湿潤試料+容器)重量 (g)	
⑧ 容器の重量 (g)			
⑨ 湿潤試料重量 (⑦-⑧) (g)			
⑩ 湿潤密度 (⑨/⑥) (g/cm ³)			
含水比及び乾燥密度	⑪ (乾燥試料+容器)重量 (g)		
	⑫ 容器の重量 (g)		
	⑬ 乾燥試料重量 (⑪-⑫) (g)		
	⑭ 全体含水量 (⑨-⑬) (g)		
	⑮ 全体含水比 (⑭/⑨×100) (%)		
	⑯ 乾燥密度 r _d (g/cm ³)		
⑰ 最大乾燥密度 r _d (g/cm ³)			
⑱ 締固め度 (⑯/⑰×100) (%)			
⑲ 締固め度平均 (%)			
備 考			

道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)

建設工事名 _____
 工種名 _____
 測定番号 _____
 測定箇所 _____
 試験期日 年 月 日

路面の状態		載荷盤面積				
荷重	沈下量	ダイヤルゲージの読み	左	中	右	平均値
全荷重 (t)	kg/cm ²	1/100mm				
0.250	0.354					
0.500	0.708					
0.750	1.062					
1.000	1.415					
1.250	1.769					
1.500	2.123					
1.750	2.477					
2.000	2.831					
2.250	3.185					
2.500	3.539					
2.750	3.892					
3.000	4.246					

$$K_{30} = \frac{\text{荷重 (kg/cm}^2\text{)}}{\text{沈下量 (cm)}} = \frac{K_{15}}{2.2} \text{ kg/cm}^2$$

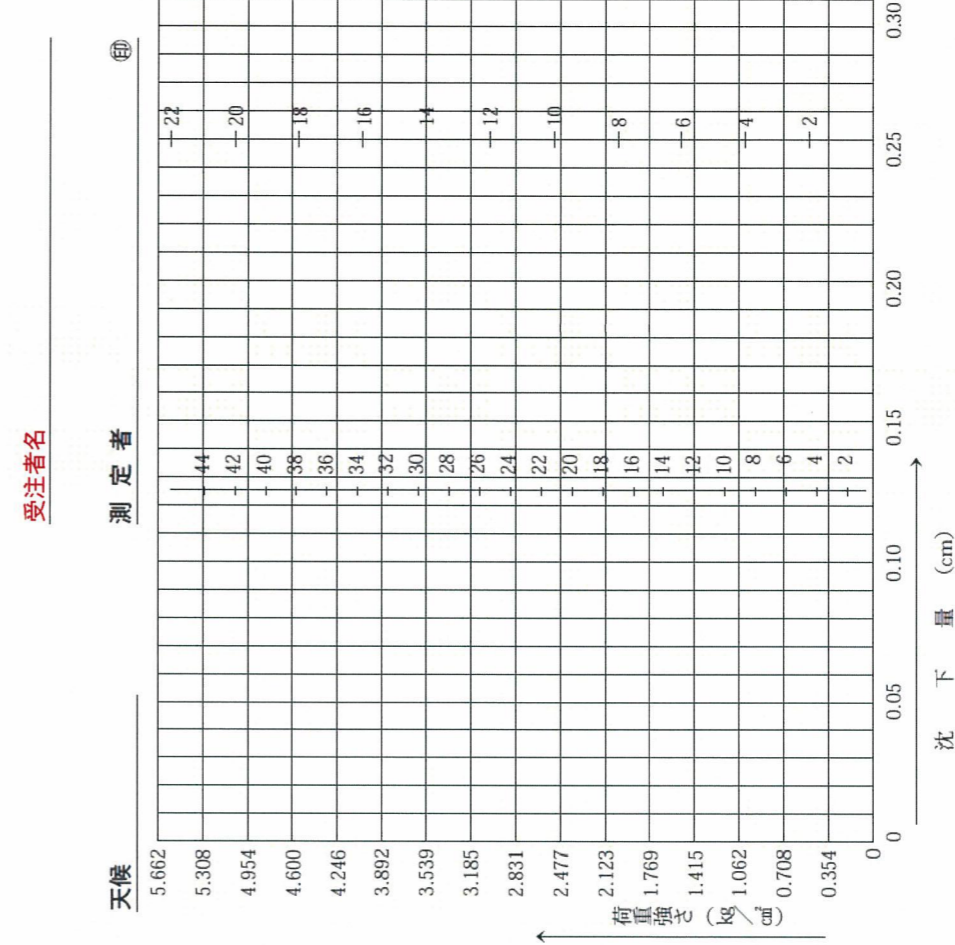


道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)

建設工事名 _____
 工種名 _____
 測定番号 _____
 測定箇所 _____
 試験期日 年 月 日

路面の状態		載荷盤面積				
荷重	沈下量	ダイヤルゲージの読み	左	中	右	平均値
全荷重 (t)	kg/cm ²	1/100mm				
0.250	0.354					
0.500	0.708					
0.750	1.062					
1.000	1.415					
1.250	1.769					
1.500	2.123					
1.750	2.477					
2.000	2.831					
2.250	3.185					
2.500	3.539					
2.750	3.892					
3.000	4.246					

$$K_{30} = \frac{\text{荷重 (kg/cm}^2\text{)}}{\text{沈下量 (cm)}} = \frac{K_{15}}{2.2} \text{ kg/cm}^2$$



様式 9

ブルーフローリング試験

建設工事名 _____ 請負者名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

項目	事 項		備 考
試験条件	天 候	測定面の含水状況	
試験区間	No. _____	~No. _____	
載荷車	型 式	接 地 圧	
載荷状況	予備載荷回数	回 本載荷速度	km/h

試 験 結 果	
視 察 展 開 図	
視 察 記 事	
異 状 箇 所 の 処 置	

様式 9

ブルーフローリング試験

建設工事名 _____ 受注者名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

項目	事 項		備 考
試験条件	天 候	測定面の含水状況	
試験区間	No. _____	~No. _____	
載荷車	型 式	接 地 圧	
載荷状況	予備載荷回数	回 本載荷速度	km/h

試 験 結 果	
視 察 展 開 図	
視 察 記 事	
異 状 箇 所 の 処 置	

様式 10-1

		現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙	記録用紙			
測定者		測定日	年	月	日	
調査名・目的		使用材料名		産		
施工場所						
測定場所	工種区分					
	測定番号					
	転圧作業日					
砂の単位体積重量	① キャリブレーション容器の重量 (g)					
	② キャリブレーション容器に砂を満たしたときの重量 (g)					
	③ 砂の単位体積重量 $\frac{②-①}{\text{キャリブレーション容器}}$ (g/cm ³)					
掘り取った穴の容積	④ 試験前(砂+キャリブレーション容器)重量 (g)					
	⑤ 試験後("+ ") " (g)					
	⑥ ベースプレート中の砂の重量 (g)					
	⑦ 穴につめた砂の重量 (④-⑤-⑥) (g)					
	⑧ 掘り取った穴の容積 $\frac{⑦}{③}$ (cm ³)					
湿潤密度	⑨ (湿潤試料+容器)重量 (g)					
	⑩ 容器の重量 (g)					
	⑪ 湿潤試料の重量 ⑨-⑩ (g)					
	⑫ 湿潤密度 $\frac{⑪}{⑧}$ yt (g/cm ³)					
含水比及乾燥密度	⑬ (乾燥試料+容器)重量 (g)					
	⑭ 容器の重量 (g)					
	⑮ 乾燥試料重量 ⑬-⑭ (g)					
	⑯ 全体含水量 ⑮-⑮ (g)					
	⑰ 全体含水比 $\frac{⑯}{⑮} \times 100$ (%)					
	⑱ 乾燥密度 $\frac{⑮}{⑧}$ (g/cm ³)					
	⑲ 最大乾燥密度 yd (g/cm ³)					
	⑳ 締固め度 $\frac{⑱}{⑲}$ (%)					
平均値						

様式 10-1

		現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙	記録用紙			
測定者		測定日	年	月	日	
調査名・目的		使用材料名		産		
施工場所						
測定場所	工種区分					
	測定番号					
	転圧作業日					
砂の単位体積重量	① キャリブレーション容器の重量 (g)					
	② キャリブレーション容器に砂を満たしたときの重量 (g)					
	③ 砂の単位体積重量 $\frac{②-①}{\text{キャリブレーション容器}}$ (g/cm ³)					
掘り取った穴の容積	④ 試験前(砂+キャリブレーション容器)重量 (g)					
	⑤ 試験後("+ ") " (g)					
	⑥ ベースプレート中の砂の重量 (g)					
	⑦ 穴につめた砂の重量 (④-⑤-⑥) (g)					
	⑧ 掘り取った穴の容積 $\frac{⑦}{③}$ (cm ³)					
湿潤密度	⑨ (湿潤試料+容器)重量 (g)					
	⑩ 容器の重量 (g)					
	⑪ 湿潤試料の重量 ⑨-⑩ (g)					
	⑫ 湿潤密度 $\frac{⑪}{⑧}$ yt (g/cm ³)					
含水比及乾燥密度	⑬ (乾燥試料+容器)重量 (g)					
	⑭ 容器の重量 (g)					
	⑮ 乾燥試料重量 ⑬-⑭ (g)					
	⑯ 全体含水量 ⑮-⑮ (g)					
	⑰ 全体含水比 $\frac{⑯}{⑮} \times 100$ (%)					
	⑱ 乾燥密度 $\frac{⑮}{⑧}$ (g/cm ³)					
	⑲ 最大乾燥密度 yd (g/cm ³)					
	⑳ 締固め度 $\frac{⑱}{⑲}$ (%)					
平均値						

下層路盤用クラッシュシャーランの粒径加積曲線図		試験 報告 用紙
試験番号	クラッシュシャーランの産地	試験年月日 年 月 日
調査名・目的	クラッシュシャーランの規格	作成者
試験採取場所	ふるい分け試験番号データシート No. <u> </u>	※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。

100	80	60	40	20	0	0.075	1.18	2.36	4.75	9.5	13.2	19.0	26.5	31.5	37.5	0.075
通過重量百分率 (%)																
フルイ目の開き																

JISA 1203 土の含水量試験 報告用紙

試験料は1.5kgとする

W.W. - D.W. × 100 = $\frac{W.W.}{W.S.} \times 100 =$ 含水比 (%)

D.W. - T.W.

WW測定日時	含水比の測定	含水比
試験番号	No.	%
月日時	WW DW Ww	
試験番号	TW Ws	

フルイ目の呼び寸法 mm	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
37.5		100
31.5		※ 95~100
26.5		
19.0		※ 55~85
13.2		
9.5		15~45
4.75		※ 5~30
2.36		
1.18		0~18
0.425		
0.075		※ 0~10

下層路盤用クラッシュシャーランの粒径加積曲線図		試験 報告 用紙
試験番号	クラッシュシャーランの産地	試験年月日 年 月 日
調査名・目的	クラッシュシャーランの規格	作成者
試験採取場所	ふるい分け試験番号データシート No. <u> </u>	※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。

100	80	60	40	20	0	0.075	1.18	2.36	4.75	9.5	13.2	19.0	26.5	31.5	37.5	0.075
通過重量百分率 (%)																
フルイ目の開き																

JISA 1203 土の含水量試験 報告用紙

試験料は1.5kgとする

W.W. - D.W. × 100 = $\frac{W.W.}{W.S.} \times 100 =$ 含水比 (%)

D.W. - T.W.

WW測定日時	含水比の測定	含水比
試験番号	No.	%
月日時	WW DW Ww	
試験番号	TW Ws	

フルイ目の呼び寸法 mm	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
37.5		100
31.5		※ 95~100
26.5		
19.0		※ 55~85
13.2		
9.5		15~45
4.75		※ 5~30
2.36		
1.18		0~18
0.425		
0.075		※ 0~10

様式 10-3

上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図		試験 報告 用紙
試料番号	粒調碎石の産地	試験年月日
調査名・目的	粒調碎石の規格	作成者
試料採取場所	ふるい分け試験番号データシート No.	※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。

JISA 1203 土の含水量試験 報告用紙

試験料は1.5kgとする

$$\frac{W.W. - D.W.}{D.W. - T.W.} \times 100 = \frac{W.W.}{W.S.} \times 100 = \text{含水比} (\%)$$

測定日時	含水比の測定	含水比
試料番号	No.	%
月日時	WW DW Ww	
試料番号	TW Ws	

フルイ目の呼び寸法 (mm)	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
37.5		100
31.5		※ 95~100
26.5		※
19.0		※ 60~90
4.75		30~65
2.36		※ 20~50
1.18		
0.425		10~30
0.075		※ 2~10

様式 10-3

上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図		試験 報告 用紙
試料番号	粒調碎石の産地	試験年月日
調査名・目的	粒調碎石の規格	作成者
試料採取場所	ふるい分け試験番号データシート No.	※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。

JISA 1203 土の含水量試験 報告用紙

試験料は1.5kgとする

$$\frac{W.W. - D.W.}{D.W. - T.W.} \times 100 = \frac{W.W.}{W.S.} \times 100 = \text{含水比} (\%)$$

測定日時	含水比の測定	含水比
試料番号	No.	%
月日時	WW DW Ww	
試料番号	TW Ws	

フルイ目の呼び寸法 (mm)	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
37.5		100
31.5		※ 95~100
26.5		※
19.0		※ 60~90
4.75		30~65
2.36		※ 20~50
1.18		
0.425		10~30
0.075		※ 2~10

様式 11-1

アスファルト合材の管理試験					
路線名	工事施工個所			試験者	
年 月 日	アスファルトケッ トル中の温度℃	骨 材 温 度	出 荷 時 温 度	転圧前合材温度℃	備 考

様式 11-1

アスファルト合材の管理試験					
路線名	工事施工個所			試験者	
年 月 日	アスファルトケッ トル中の温度℃	骨 材 温 度	出 荷 時 温 度	転圧前合材温度℃	備 考

様式 11-2

基準密度測定表										
路線名		工事施工箇所				試験者				
供試体番号	混合率 %	成型月日	試験月日	厚さの測定		基準密度の測定				備考
				厚さ cm	平均 cm	A gr	B gr	C gr	$\frac{A}{B-C}$	
										6 個の平均値

- A : 供試体の乾燥重量 (gr)
- B : 水中測定後供試体表面の水分をぬぐいとしたときの空中重量 (gr)
- C : 供試体の水中重量 (gr)

様式 11-2

基準密度測定表										
路線名		工事施工箇所				試験者				
供試体番号	混合率 %	成型月日	試験月日	厚さの測定		基準密度の測定				備考
				厚さ cm	平均 cm	A gr	B gr	C gr	$\frac{A}{B-C}$	
										6 個の平均値

- A : 供試体の乾燥重量 (gr)
- B : 水中測定後供試体表面の水分をぬぐいとしたときの空中重量 (gr)
- C : 供試体の水中重量 (gr)

様式 11-3

配合設計決定表

建設工事名： _____

建設工事場所： _____

合材種別： _____

安	定	度	kg
フ	ロ	一	値
			1/100cm
空	隙	率	%
飽	和	度	%
基	準	ア	ス
		フ	ァ
		ル	ト
		量	%
基	準	密	度
			g/cm ³
粒	度	26.5 ^m	%
		19.0''	%
		13.2''	%
		4.75''	%
		2.36''	%
		0.6''	%
		0.3''	%
		0.15''	%
		0.075''	%

様式 11-3

配合設計決定表

建設工事名： _____

建設工事場所： _____

合材種別： _____

安	定	度	kg
フ	ロ	一	値
			1/100cm
空	隙	率	%
飽	和	度	%
基	準	ア	ス
		フ	ァ
		ル	ト
		量	%
基	準	密	度
			g/cm ³
粒	度	26.5 ^m	%
		19.0''	%
		13.2''	%
		4.75''	%
		2.36''	%
		0.6''	%
		0.3''	%
		0.15''	%
		0.075''	%

様式 12

アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)		試験報告用紙		
建設工事名	_____	試験年月日	_____年 月 日	
工事施工箇所	_____	測定者	_____	
混合物の種類	_____	ろ過装置の種類	_____	
請負者名	_____	溶剤の種類	_____	
試験測定番号		1	2	3
① 容器の重量 (g)				
② (容器 + 試料) 重量 (g)				
③ 試料重量 (g)	②-①			
④ 円筒ろ紙の乾燥重量 (g)				
⑤ (抽出後の乾燥骨材 + 容器) 重量 (g)				
⑥ 容器重量 (g)				
⑦ 抽出後の骨材重量 (g)	⑤-⑥			
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量 (g)				
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィラーの重量 (g)	⑧-④			
⑩ 全抽出骨材重量 (g)	⑦+⑨			
⑪ アスファルト重量 (g)	③-⑩			
⑫ アスファルト含有率 (%)	⑪/③×100			
⑬ 平均値	基準値			
抽出骨材のフルイ分け試験 (2.36mm及び0.075mmフルイ通過骨材重量百分率)				
⑭ 容器または0.075 mmフルイの重量 (g)				
⑮ 水洗い前(骨材+容器または0.075mmフルイ)重量 (g)	⑦+⑭			
⑯ 水洗い後 (") 乾燥重量 (g)				
⑰ 0.075 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑮-⑯+⑨			
⑱ 0.075 mmフルイ通過重量百分率 (%)	⑰/⑩×100			
⑲ 平均値	基準値			
⑳ 2.36 mmフルイ残留骨材重量 (g)				
㉑ 2.36 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑩-㉑			
㉒ 2.36 mmフルイ通過骨材重量百分率 (%)	㉑/⑩×100			
㉓ 平均値	基準値			

様式 12

アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)		試験報告用紙		
建設工事名	_____	試験年月日	_____年 月 日	
工事施工箇所	_____	測定者	_____	
混合物の種類	_____	ろ過装置の種類	_____	
受注者名	_____	溶剤の種類	_____	
試験測定番号		1	2	3
① 容器の重量 (g)				
② (容器 + 試料) 重量 (g)				
③ 試料重量 (g)	②-①			
④ 円筒ろ紙の乾燥重量 (g)				
⑤ (抽出後の乾燥骨材 + 容器) 重量 (g)				
⑥ 容器重量 (g)				
⑦ 抽出後の骨材重量 (g)	⑤-⑥			
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量 (g)				
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィラーの重量 (g)	⑧-④			
⑩ 全抽出骨材重量 (g)	⑦+⑨			
⑪ アスファルト重量 (g)	③-⑩			
⑫ アスファルト含有率 (%)	⑪/③×100			
⑬ 平均値	基準値			
抽出骨材のフルイ分け試験 (2.36mm及び0.075mmフルイ通過骨材重量百分率)				
⑭ 容器または0.075 mmフルイの重量 (g)				
⑮ 水洗い前(骨材+容器または0.075mmフルイ)重量 (g)	⑦+⑭			
⑯ 水洗い後 (") 乾燥重量 (g)				
⑰ 0.075 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑮-⑯+⑨			
⑱ 0.075 mmフルイ通過重量百分率 (%)	⑰/⑩×100			
⑲ 平均値	基準値			
⑳ 2.36 mmフルイ残留骨材重量 (g)				
㉑ 2.36 mmフルイ通過骨材重量 (g)	⑩-㉑			
㉒ 2.36 mmフルイ通過骨材重量百分率 (%)	㉑/⑩×100			
㉓ 平均値	基準値			

様式 13

密度及び厚さの測定表												
建設工事名		工事施工箇所				測定者						
請負者名		混合物種類				標準締固め密度						
供測 試 体点	混 合 率 %	舗 月 日 時	設 月 日 時	試 月 日 時	験 月 日 時	厚さ、密度の測定				締固め度	備 考	
						厚さ cm	平均 cm	A	B			C

A：供試体の乾燥空中重量 (gr)
 B：水中測定後供試体表面の水分ぬぐい取ったときの空中重量 (gr)
 C：供試体を常温の水中に約1分間浸した後の水中重量 (gr)
 注 標準締固め密度欄内の()書は、標準密度の94%密度

様式 13

密度及び厚さの測定表												
建設工事名		工事施工箇所				測定者						
受注者名		混合物種類				標準締固め密度						
供測 試 体点	混 合 率 %	舗 月 日 時	設 月 日 時	試 月 日 時	験 月 日 時	厚さ、密度の測定				締固め度	備 考	
						厚さ cm	平均 cm	A	B			C

A：供試体の乾燥空中重量 (gr)
 B：水中測定後供試体表面の水分ぬぐい取ったときの空中重量 (gr)
 C：供試体を常温の水中に約1分間浸した後の水中重量 (gr)
 注 標準締固め密度欄内の()書は、標準密度の94%密度

様式 14

JIS A 1112
まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名 _____ 請負者名 _____

工 種 名 _____ 測 定 者 _____ ㊞

項目		測定番号	
試料の空中重量 (g)			
試料の水中重量 (g)			
試料の総体積 (g)			
砂の水中重量 (g)			
砂利の水中重量 (g)			
砂 の 比 重 (g)			
砂 利 の 比 重 (g)			
試料含有量	セメント (g)		
	砂 (g)		
	砂 利 (g)		
	水 (g)		
単位置換算 (kg/m ³)	セメント量		
	細骨材量		
	粗骨材量		
	単 位 水 量		
	水セメント比 (%)		

[注] 砂：4.75mmフルイを通過し、0.15mmフルイに止まるもの
 砂利：4.75mmフルイに止まるもの

様式 14

JIS A 1112
まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名 _____ 受注者名 _____

工 種 名 _____ 測 定 者 _____ ㊞

項目		測定番号	
試料の空中重量 (g)			
試料の水中重量 (g)			
試料の総体積 (g)			
砂の水中重量 (g)			
砂利の水中重量 (g)			
砂 の 比 重 (g)			
砂 利 の 比 重 (g)			
試料含有量	セメント (g)		
	砂 (g)		
	砂 利 (g)		
	水 (g)		
単位置換算 (kg/m ³)	セメント量		
	細骨材量		
	粗骨材量		
	単 位 水 量		
	水セメント比 (%)		

[注] 砂：4.75mmフルイを通過し、0.15mmフルイに止まるもの
 砂利：4.75mmフルイに止まるもの

様式 15-1

\bar{X} -R管理データシート(1)

名称		建設工事名		期間	自	
品質・特性		出張所名			至	
測定単位		日標準量		請負者		
規格	上限値	試	大きさ	現場代理人		
限界	下限値	料	間隔	測定者		㊟
設計基準値		作業機械名		測定者		㊟

月日	組の番号	測定値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R	$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$	
		X_1	X_2	X_3	X_4	X_5				$D_4 \cdot \bar{R} =$	
	1										
	2										
	3										
	4								平均 $\bar{x} =$	R =	
	5								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		
	6								$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	7								$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	8										
	9								平均 $\bar{x} =$	R =	
	10								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		
	11								$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	12										
	13										
	14								$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	15										
	16										
	17										
	18										
	19								平均 $\bar{x} =$	R =	
	20								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		

記事	n	d_2	A_2	D_4
	2	1.13	1.88	3.27
	3	1.69	1.02	2.57
	4	2.06	0.73	2.28
	5	2.33	0.58	2.11

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20方式による。

.....

(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

3. 21組~40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

様式 15-1

\bar{X} -R管理データシート(1)

名称		建設工事名		期間	自	
品質・特性					至	
測定単位		日標準量		受注者		
規格	上限値	試	大きさ	現場代理人		
限界	下限値	料	間隔	測定者		㊟
設計基準値		作業機械名		測定者		㊟

月日	組の番号	測定値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R	$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$	
		X_1	X_2	X_3	X_4	X_5				$D_4 \cdot \bar{R} =$	
	1										
	2										
	3										
	4								平均 $\bar{x} =$	R =	
	5								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		
	6								$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	7								$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	8										
	9								平均 $\bar{x} =$	R =	
	10								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		
	11								$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$		
	12										
	13										
	14								$D_4 \cdot \bar{R} =$		
	15										
	16										
	17										
	18										
	19								平均 $\bar{x} =$	R =	
	20								累計 $\bar{x} =$		
	小計								小計		

記事	n	d_2	A_2	D_4
	2	1.13	1.88	3.27
	3	1.69	1.02	2.57
	4	2.06	0.73	2.28
	5	2.33	0.58	2.11

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20方式による。

.....

(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

3. 21組~40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

様式 15-2

$\bar{X}-R$ 管理データシート(1)の2

月日	組の 番号	測 定 値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R
		X ₁	X ₂	X ₃	X ₄	X ₅			
									$\bar{x} \pm A_2 \cdot R =$
									$D_4 \cdot R =$
小計									
小計					平 均	$\bar{x} =$			R =
小計					累 計				
小計					小 計				
小計					平 均	$\bar{x} =$			R =
小計					累 計				
小計					小 計				
記 事						n	d ₂	A ₂	D ₄
						2	1.13	1.88	3.27
						3	1.69	1.02	2.57
						4	2.06	0.73	2.28
						5	2.33	0.58	2.11

(注) 1. 管理限界線の引き直しは 5-5-10-20-20方式による。

.....
.....
.....

- (備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。
 2. 以下、最近の20組 (平均値 \bar{x} を1箇とする) のデータを用い、次の20箇に対する管理限界とする。

様式 15-2

$\bar{X}-R$ 管理データシート(1)の2

月日	組の 番号	測 定 値					計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R
		X ₁	X ₂	X ₃	X ₄	X ₅			
									$\bar{x} \pm A_2 \cdot R =$
									$D_4 \cdot R =$
小計									
小計					平 均	$\bar{x} =$			R =
小計					累 計				
小計					小 計				
小計					平 均	$\bar{x} =$			R =
小計					累 計				
小計					小 計				
記 事						n	d ₂	A ₂	D ₄
						2	1.13	1.88	3.27
						3	1.69	1.02	2.57
						4	2.06	0.73	2.28
						5	2.33	0.58	2.11

(注) 1. 管理限界線の引き直しは 5-5-10-20-20方式による。

.....
.....
.....

- (備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。
 2. 以下、最近の20組 (平均値 \bar{x} を1箇とする) のデータを用い、次の20箇に対する管理限界とする。

X-R 管理図 (1)

設計基準値	建設工事名	工事
名称	日標準量	
品質特性	規格限界	上限値
測定単位		下限値
測定方法	試料	大きさ
作業機械名	間隔	

測定者 ㊦

\bar{x}		
R		
組の番号		
記及び主任 監督員、主任 監督員承認印		

(注) 1. 管理図は、別紙 X-R 管理、データシート(1)から記入する。
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-R 管理図 (1)

設計基準値	建設工事名	工事
名称	日標準量	
品質特性	規格限界	上限値
測定単位		下限値
測定方法	試料	大きさ
作業機械名	間隔	

測定者 ㊦

\bar{x}		
R		
組の番号		
記及び主任 監督員、主任 監督員承認印		

(注) 1. 管理図は、別紙 X-R 管理、データシート(1)から記入する。
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式 15-4

x-Rs-Rm管理データシート

名称	建設工事名				請負者名															
品質・特性	所属名				測定者															
測定単位	日標準量				測定者															
規格 上限値	試 大 小 さい				測定者															
限界 下限値	料 間 隔				測定者															
設計基準値	作業機械名				測定者															
月日	試験番号	測定値				計Σ	平均値 \bar{x}	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$										
		a	b	c	d					$D_1 \cdot \bar{R}_s =$	$D_1 \cdot \bar{R}_m =$									
	1																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	小計																			
	6																			
	7																			
	8																			
	小計																			
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	小計																			
	14																			
	15																			
	16																			
	17																			
	18																			
	19																			
	20																			
	小計																			
記事										n	d_2	D_1	E_2							
										2	1.13	3.27	2.66							
										3	1.69	2.57	1.77							
										4	2.06	2.28	1.46							
										5	2.33	2.11	1.29							

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

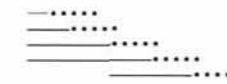
3. 以下、最近の20組(平均値 \bar{x} を1箇とする)のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式 15-4

x-Rs-Rm管理データシート

名称	建設工事名				受注者名															
品質・特性	所属名				測定者															
測定単位	日標準量				測定者															
規格 上限値	試 大 小 さい				測定者															
限界 下限値	料 間 隔				測定者															
設計基準値	作業機械名				測定者															
月日	試験番号	測定値				計Σ	平均値 \bar{x}	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$										
		a	b	c	d					$D_1 \cdot \bar{R}_s =$	$D_1 \cdot \bar{R}_m =$									
	1																			
	2																			
	3																			
	4																			
	5																			
	小計																			
	6																			
	7																			
	8																			
	小計																			
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	小計																			
	14																			
	15																			
	16																			
	17																			
	18																			
	19																			
	20																			
	小計																			
記事										n	d_2	D_1	E_2							
										2	1.13	3.27	2.66							
										3	1.69	2.57	1.77							
										4	2.06	2.28	1.46							
										5	2.33	2.11	1.29							

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

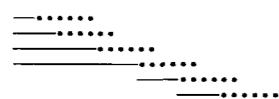
3. 以下、最近の20組(平均値 \bar{x} を1箇とする)のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式 15-5

x-Rs-Rm管理データシート(2)

Table with columns for date, test number, measurement values (a, b, c, d, Σ), average (x̄), range (Rs), and range within range (Rm). Includes calculation formulas for control limits and a table for control limit constants (n, d2, D4, E2).

(注) 1. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間を示す。
... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

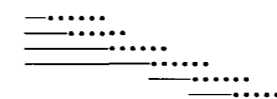
2. 以下、最近の20組(平均値χを1箇とする)のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式 15-5

x-Rs-Rm管理データシート(2)

Table with columns for date, test number, measurement values (a, b, c, d, Σ), average (x̄), range (Rs), and range within range (Rm). Includes calculation formulas for control limits and a table for control limit constants (n, d2, D4, E2).

(注) 1. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) - 管理限界の計算のための予備データの区間を示す。
... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

2. 以下、最近の20組(平均値χを1箇とする)のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	建設工事名	工事
名称	日標準量	
品質特性	規格限界	上限値
測定単位		下限値
測定方法	試料	大きさ
作業機械名		間隔

測定者

x		
Rs		
Rm		
組の番号		
記及び主任監督員承認印		

(注) 1. 管理図は、別紙 x-Rs-Rm 管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	建設工事名	工事
名称	日標準量	
品質特性	規格限界	上限値
測定単位		下限値
測定方法	試料	大きさ
作業機械名		間隔

測定者

x		
Rs		
Rm		
組の番号		
記及び主任監督員承認印		

(注) 1. 管理図は、別紙 x-Rs-Rm 管理データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

旧

旧

新

新

使用する主な基準等

NO	項目	発行元
1	情報化施工技術の使用原則化について	国土交通省大臣官房技術調査課、総合政策局公共事業企画調整課H25.3
2	TSを用いた出来形管理要領(土工編)	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課H24.3
3	レディーミクストコンクリートの品質確保について	国土交通省大臣官房技術調査課H15.10
4	レディーミクストコンクリートの品質確保についての運用について	国土交通省大臣官房技術調査課H15.10
5	非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びひかぶり測定要領	国土交通省大臣官房技術調査課H24.3
6	非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びひかぶり測定要領(解説)	国土交通省大臣官房技術調査課H24.3
7	RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)	建設省H8.8
8	TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課H24.3